

2013 年度・2014 年度
「FD 研究会」
「FD 関連研修会 参加支援」
報告書

佛教大学 教育推進部 教育推進課

目次

2013年度FD研究会

第1回FD研究会<2013年6月6日(木)実施>	3
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
第2回FD研究会<2013年11月8日(金)実施>	21
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
第3回FD研究会<2013年12月4日(水)実施>	77
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	

2013年度FD関連研修 参加支援	97
-------------------------	----

2014年度FD研究会

第1回FD研究会<2014年7月24日(木)実施>	109
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
第2回FD研究会<2014年9月10日(水)実施>	119
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
第3回FD研究会<2014年10月8日(水)実施>	139
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	

第4回 FD 研究会<2014年11月25日(火)実施>	161
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
第5回 FD 研究会<2014年11月27日(水)実施>	193
・ 広報用A4ポスター	
・ 発表概要	
・ 当日配付資料	
2014年度学外 FD 関連研修 参加報告書	209

2013 年度
「FD 研究会」
「FD 関連研修会 参加支援」
報告書

2013 年度

第 1 回佛教大学 FD 研究会

「～2012 年度授業アンケート結果をふまえて～」

開催日：2013 年 6 月 6 日（木）16：10～

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-309 教室

発表者：岡崎 祐司（教育推進機構長）

近藤 敏夫（社会学部教育推進担当主任）

参加者数：27 名

平成25年度 第1回FD研究会

～平成24年授業アンケート 結果をふまえて～

日時

平成25年6月6日(木)
16:10～17:40

場所

紫野キャンパス 1-309教室(1号館3階)
二条キャンパス N1-741教室(1号館7階)

※当日はテレビ会議システムを使用します。

対象者


本学教職員

開催目的

平成24年度の授業アンケート結果を通して、今後の授業アンケートの効果的な活用法やあり方を検討する機会といたく開催します。

報告者

岡崎 祐司 教育推進機構長
近藤 敏夫 社会学部教育推進担当主任



主催:教育推進部 教育推進課
(1号館2階 内線:2331・2335)

2013年度 第1回FD研究会

1. 開催概要

開催日：2013年6月6日（木）16：10～

テーマ：「～平成24年度授業アンケート結果をふまえて～」

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-309 教室

発表者：岡崎 祐司（社会福祉学部教授・教育推進機構長）

近藤 敏夫（社会学部教授・社会学部教育推進担当主任）

司会進行：徳森 京子（教育推進部長）

参加者数：27名

2. 発表①<岡崎 祐司（教育推進機構長）>

(1) はじめに

今回の発表では、授業アンケートから見た学生の履修姿勢や授業運営への感想、更には、学びの成長感を総合的な分析から見える傾向をご報告するとともに、先生方からよくきかれる「授業アンケート結果をいかに授業改善に結びつけるか」という問いへのひとつの答えとして、岡崎先生ご自身の取り組みを紹介していただいた。

(2) 授業アンケート結果について

本学の授業アンケートは、一部の科目を除き、10名程度の小規模クラスから、300名近い大規模クラスのものまで様々な規模の講義を対象としている。その結果は、教員個人にフィードバックされるだけでなく、毎年「授業アンケート結果報告集」にとりまとめ全学にフィードバックされている。

「授業アンケート結果報告集」は、全体集計、学科別集計、開講科目種別集計（共通科目・外国語科目・専門基礎科目）、クラス規模別集計、回生別集計での分析に留まっており、まだまだ詳細なクロス集計等まで至っておらず、より詳細な分析設計が今後の課題と言える。

授業アンケートの目的は、単なる学生の授業満足度調査とならないよう、学生の自己点検を促す「学生の授業に対する姿勢」や「教員の授業運営に関すること」、「授業から得たもの」の3つのカテゴリに分けられている。

さて、その2012年度授業アンケート結果を基にその傾向を見てみると全体集計における「シラバスを読んで受講に備えた」については、肯定的意見が50%となっており、多くの学生がシラバスを読んでいることがうかがえる。

また「これまでの授業の出席率がよい」の設問については、肯定的意見が80%を超えているが、このアンケート自体がテスト直前に実施していることもあり、出席率が

一時的に上昇していることも考えられるので、この結果については更に詳細な調査が必要である。

次に学科別集計における「1回の授業につき予習・復習をした」の設問の「大いに思う」「そう思う」の回答率を見てみると、全体集計の平均値である37.6%を超えているのは、仏教学科、中国学科、英米学科、歴史学科、公共政策学科、理学療法学科、作業療法学科、看護学科となっている。

その肯定的意見の回答率が平均を上回っている学科を更に詳細に見ていくと、例えば学科別にみると、看護学科では予習・復習について「あまりそう思わない」と回答している層が秋学期には半減していることが見て取れる。

また、「1回の授業につき予習・復習をした」の設問について開講科目種別集計で見ると、外国語科目が突出して高いことが伺える、他方で同じ設問をクラス規模別集計で見ると50人未満のクラス規模の場合が非常に高い割合となっている。

このように、授業アンケートの結果を例えば学科別やクラス規模で見ていくことで、単なる全体集計からは見えてこなかった傾向が掴むことができる。

今後は、更に詳細な分析を重ね、その結果を本学のFDに繋げていくことが重要だと思われる。

(3) 授業アンケート結果の活用方法

本学の授業アンケートは、前述のようにその結果冊子に取りまとめ全学に配布する一方で、各担当者にも科目毎に「授業アンケート集計結果表(シート)」を作成しフィードバックをおこなっている。

その「授業アンケート集計結果表(シート)」は、各設問の数値的集計と自由記述欄に記入されたコメントをまとめたもので、教員自身が学生の学修状況や成長感、または授業運営への感想を確認し、授業改善につなげてもらうツールである。

しかしながら、学内からは「授業アンケート集計結果表」が授業改善に役立っていないとの声も聞かれる事から、今回、岡崎機構長が「授業アンケート集計結果表」を使った授業改善の取り組みについて報告いただいた。

岡崎教育推進機構長が担当している「社会福祉原論1」「社会福祉原論2」は学部の必修科目であり「社会福祉原論1」は1回生の秋学期(第2 Semester)に開講している。そして「社会福祉原論2」は、ほぼ同じ学生が2回生の春学期(第3 Semester)で受講する科目となっている。

その同じ学生が連続して受講する特徴を活かし、1回生の秋学期(第2 Semester)に実施した授業アンケート結果を2回生の春学期(第3 Semester)に開講する「社会福祉原論2」の授業内で公開し学生から意見や感想を集める取り組みをしている。

その学生とのやり取りの中で、学生から出された意見は以下の通りである。

①「シラバスを読んで受講に備えた」に対する学生からの意見

今回の授業アンケート結果を見てみると、「どちらともいえない」が40%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を含めると50%を超える学生が読んでいない事になる。

この結果について学生からの意見は、シラバスは科目選択のツールという意識が高く、この「社会福祉原論」については必須科目なのでシラバスを読む必要がないと考えている学生が多くいることがうかがえた。また、授業の予習復習に使うようなことは殆どないとの意見も多数聞かれた。

学生からのこのような意見を踏まえ、岡崎教育推進機構長は授業初回にシラバスを配付し15週の流れを把握させ、予習復習を意識させるような取り組みをしていることが報告された。

②「1回の授業につき予習・復習をした」に対する学生からの意見

この設問に関しては、「“復習”というのが具体的にどのような行動なのかかわからない」との意見が多く聞かれた。また、復習の必要性についても疑問視している声も多く聞かれ、復習自体についての意識が希薄であることがうかがえた。

他方、岡崎教育推進機構長は学生の意識が希薄なことの要因として、教員自身が良質な復習課題を課すことができないスキルの低さを挙げ、本学のFDが抱える課題のひとつと指摘した。

③「熱心に授業に取り組んだ」に対する学生からの意見

この設問に対する学生からの意見をアンケート結果の数値で見ると「そう思う」「大いにそう思う」の肯定的意見が70%を超える結果となっているが、その判断基準を学生に聞いてみると、予習復習を含めこの科目全体について熱心に学んだという基準では無く、授業の90分間頑張って熱心に取り組んだか、という設問と捉え判断しているようである。

この設問については、出題者である大学と回答者である学生の設問の理解にズレがあることから、次回、設問のあり方について検討を行ないたい。

④「わかりやすい授業であった」に対する学生からの意見

学生から見たわかりやすい授業であるか否かの判断には2つの判断基準があり、ひとつは「話法」、もうひとつは「1回1回の授業の狙い(目標)が明確かどうか」との意見が多く、この二つが充実させることが「わかりやすい授業」へ大きく関係していることが判った。

FDの視点からすると、授業冒頭に毎回の目標や狙いを話すなどといった、ちょっとした工夫が学生の理解度を高めることに繋がると考えられる。

⑤「授業はシラバス通りに進行していた」に対する学生からの意見

前述の通り、この講義は必須科目であることから、シラバスに目を通さず受講している学生が多数いる。そのような学生は、シラバスを理解していないことからシラバス通りに進行していたか否かのこの設問には的確に回答できない事が予想される。

この設問についても、教員が積極的にシラバスの理解、熟読を促すこととあわせて、この設問のありかたについても検討が必要である。

⑥「教員の熱意が伝わってきた」に対する学生からの意見

教員は熱意があればある程、学生は好印象を持つと思いがちだが、実際に学生の声に耳を傾けると、90 分間の熱弁は必要なく、適度に熱意を見せることが重要との回答が多かった。

⑦「板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった」に対する学生からの意見

この設問に関して学生からの意見は、単純に文字の上手下手、そして文字のサイズが判断基準としているとのことであった。

岡崎教育推進機構長が実践されている、黒板を三分割して 1 つ目のエリアは学生に板書して欲しい項目、2 つ目はあまり重要ではないが書き写しておくことが望ましい項目、3 つ目は乱雑でもいいので講義のキーワードを書く項目、とすることも改善方法のひとつであろう。

また、配付資料については、他の先生のものを参考にするのも効果的だと考える。

⑧「学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた」に対する学生からの意見

今回、岡崎教育推進機構長が例に挙げた「必修」「社会福祉原論」という位置づけの場合、授業形態の工夫は難しいのではないかという意見が多く見受けられた。

⑨「教員や学生同士のコミュニケーションに工夫がみられた」に対する学生からの意見

コミュニケーションについては様々な形があるが、岡崎教育推進機構長が取り組んでいるコメントペーパーを題材に授業内でディスカッションやワークをおこなうことは、学生にとっても有意義に感じている意見が多かった。

⑩「自分で調べ、考える姿勢がもてた」に対する学生からの意見

2 割近い学生が否定的意見である現状は、恐らく「発問のしかた」や「課題の出し方」といった教員のスキルの問題だと考える。

主体的にいかに学ばせる仕掛けを作るテクニックが今後のFDの大きな課題となるのではないか。

3. 発表②<近藤 敏夫 (社会学部教育推進担当主任) >

(1) はじめに

岡崎教育推進機構長の発表の後、近藤先生(社会学部教育推進担当主任)には、データの読み方や活用法について講演をいただいた。

(2) 授業アンケートについて

本学では、十数年前から授業アンケートが始まり、さまざまな検討を重ねながら現在の形式に至っている。現行のアンケートは「学生の学修態度」「授業運営」「学生の学修成果」を問う内容となっている。

授業アンケートの結果は、各教員にフィードバックされるが岡崎教育推進機構長のように効果的な授業改善に活用されていることは稀で、多くの場合は昨年度のスコアとの経年比較に留まっている。

このデータを活用するには大きく分けて3つの視点から見ていく必要があり、まずは「大学・学部・学科として活用できる集計・分析」という視点。そして次は「教員に返却する集計・分析」。そして最後は「学生に返却する集計・分析」である。

「大学・学部・学科として活用できる集計・分析」は、学部学科で開講している科目を対象に大きな単位での分析が必要になる。授業の方法、規模、カリキュラム上の系列等をすべて包括した大規模な分析では、特徴的な結果はまず見込めない事から、講義や演習と言った授業方法、開講学科、受講者の学年、カリキュラム上の位置づけ等、細分化した分類からのクロス集計が必要となるだろう。

「教員に返却する集計・分析」については、同じ講義のアンケート結果を経年で比較しながら数値の推移等から分析するのが一般的だと思われる。

この場合、岡崎教育推進機構長のように、その数値の本来の意味を学生と共に分析すれば、その数値の増減が示す意味を理解し授業改善に活用することが可能だが、単なる経年比較であればその理解にも限界があると思われる。

最後に「学生に返却する集計・分析」については、全国的にその結果を公開する取り組みが広がってきているところであるが、学生の学修姿勢の変化までには至っていない。ただ、岡崎教育推進機構長のような取り組みの中で、学生に対して教員の熱意や授業の狙い、学修目標を明確にしていくことは十分に成果が期待できるであろう。

いずれにせよ、データを詳細に分析するには専門的なスキルを備えた人材と膨大な時間が必要となることは間違いなく、現状から考えるといかに業者とタイアップして分析していくかを考えた方が効率的だと考える。

次に、アンケートデータの分析方法について、どのような分析方法が効果的なのかを、

配付資料の「2012年度 通学課程授業アンケート結果報告書」（以下、報告書）を使いながら紹介したいと思う。

例えば「学部学科で教育環境の改善」に向けた分析を行うこととする。

その場合、まず大切なことは、それが導き出されるデータを見つけ、様々な視点から総合的に分析することである。

まず、第一段階として、教室の環境と学生の学修態度にどのような相関があるのかを分析する。

アンケート項目の第一群にある「シラバスを読んで受講に備えた」「これまでの授業の出席率は良い」「授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった」「1回の授業につき予習・復習をした」「熱心に取り組んだ」の結果を、クラス規模別にクロス集計をおこなうのである。

クラス規模は30人未満、30人以上50人未満、50人以上100人未満、100人以上150人未満、150人以上と5段階でおこなっており、その分析結果が52頁からの結果となる。

まずこの分析では、クラス規模と学生の学修態度はあまり相関せず、影響が無いことが理解できる。

次に第二段階として、アンケートの第二群にある「わかりやすい授業であった」「授業はシラバス通りに進行していた」「教員の熱意が伝わった」「聴きやすい話し方だった」「板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった」「印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材が効果的だった」「学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫が見られた」「教員や学生同士のコミュニケーションに工夫が見られた」「授業は十分な静粛性が保たれていた」「授業時間が守られていた」「授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた」の11項目とクラス規模をクロス集計したものが報告書の54頁からと112頁からのデータになります。

授業運営については、クラス規模が大きく相関していることが見て取れます。総じて小規模クラスの方が授業運営をしやすいことが見て取れます。

この分析では、学生の学修態度はクラス規模に関係しないが、授業運営の視点からすれば小規模の方がより良い授業を提供できるといった結論が導き出せる。

では二つ目に、「学生の受講態度と学修成長の関係」を調べたいという場合であれば、参考にする資料は137頁と161頁からのデータとなる。

161頁からのデータの見方は、まず2012年度の秋学期授業アンケートでの第三群にある以下4つの設問、（1）授業で扱った分野に関する専門知識・技能が身についた、（2）自分にとって有益な考え方・発想が身についた、（3）自分で調べ、考える姿勢がもてた、（4）総合的にみてこの授業に満足を与えた、と第一群にある（1）シラバスを読んで受講に備えた、（2）これまでの授業の出席率は良い、（3）授業を妨げる行

為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった、（4）1回の授業につき予習・復習をした、（5）熱心に授業に取り組んだ、の5つの設問を重回帰分析しその相関を見たものである。

一般的に、授業に熱心に取り組んだ係数が上昇すれば、授業から得たものについても肯定的回答率が高くなることが仮説として挙げられるが、予習復習について見てみると、「授業で扱った分野に関する専門的知識・技能が身についた」「自分にとって有益な考え方・発想が身についた」「総合的にみて授業に満足を得た」への相関は低くなっている。

「自分で調べ考える姿勢を持てた」ということに関しては予習復習の中で、自分で調べることが多く、その作業の中で「自分で調べ考える姿勢」が素養されたのではないかと考えられる。

また、予習復習の取り組みと授業満足度を見てみると、その相関が低くなっている。つまり、授業満足度について90分間の授業時間内のみで判断しているという事が言える。

しかし次に、159頁の設問1－（4）「1回の授業につき予習・復習をした」の設問と、（1）わかりやすい授業であった、（2）授業はシラバス通りに進行していた、（3）教員の熱意が伝わってきた、（4）聴きやすい話し方だった、（5）板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった、（6）印刷教材（レジュメ・補助教材等）視聴覚教材等が効果的だった、（7）学習形態（グループ学習・発表・フィールドワーク等）に工夫が見られた、（8）教員や学生同士のコミュニケーションに工夫が見られた、（9）授業は十分な静粛性が保たれていた、（10）授業時間が守られていた、（11）授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた、の設問2群の相関を見てみる。

すると、多くの項目において、学生の予習復習の取り組みと、授業運営の評価が相関しており、予習復習をしっかりさせる授業は学生の満足度も高いということが言える。

岡崎推進機構長の先ほどの話でも有ったが、予習復習を上手く取りませ講義と講義の教育的接続を担保する事が、学生の満足度を高めると言えるだろう。

更に159頁の下表で、その相関係数が高いものから順に追ってみると、（7）学習形態（グループ学習・発表・フィールドワーク等）に工夫が見られた、（2）授業はシラバス通りに進行していた、（8）教員や学生同士のコミュニケーションに工夫が見られた、（9）授業は十分な静粛性が保たれていた、（1）わかりやすい授業であった、（11）授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた、となる。

つまり、学習形態やシラバス、コミュニケーションの組み立て方が予習復習という行動に大きく影響をしていることは見て取れる。

これだけのデータでも、丁寧に分析することで新たなFDの課題が見えてくるのである。

平成25(2013)年度 第1回 FD研究会 授業アンケートをどう活かすか ～私のアンケート活用法～



教育推進機構長
社会福祉学部
岡崎 祐司



集計結果をどう活かすか

- 自分の授業の数値をどうみたらよいのか？
- 可でもなく、不可でもなく...
- 「板書が見づらい」など部分的改善点はわかるが、どこをどう変えればよいのか、つかみきれない...



学生にアンケート結果を「分析」してもらおう！

受講生にアンケート結果を返す

- 秋学期2セメスター→春学期3セメスターで、ほぼ同じ受講生
- 「社会福祉原論」(必修)
- 春学期に、秋学期の授業アンケート結果を返し、数値の意味を聞いてみる。



1. 学生自身の取り組み(その1)

1- (1) シラバスを読んで備えた
学生→授業選択には活用。必修なので...

初回にシラバスを配付、説明

1- (4) 予習・復習

学生→どう復習したらよいのか？

反省: 復習させる課題がうまく出せない、
次回との「つながり」が不十分

1. 学生自身の取り組み(その2)

1-(5) 熱心に取り組んだ

学生→授業を集中して聴いた。
「どちらともいえない」居眠りした! ?



**私語はないが(許さない)が、寝る学生はゼロに
はできない。**

ただし、150名を超えると私語対策は大変!

2. 授業運営(その2)

2-(2) 熱意

「大いにそう思う」の数値をもっと上げたい!
学生→このくらいで、ちょうど良い。

これ以上、熱くならなくてもよい。
授業には冷静さも大事。

熱意を感じる授業は、「いい授業」。



2. 授業運営(その1)

2-(1) わかりやすい授業

学生→話し方かな...何をつかませたいと思っ
ているのか、わかる。でも、いつもわかりやすいわ
けではない。あくまでトータルな評価。

「わかりやすい授業」というより、学生が「わかる」レベルにしている。

**授業の初めに、今日のテーマ、なにを理解してほしいのかを明示。
しかし、社会福祉理論と十分に切り結んでは展開できていない。
内容が単純化されていないか、心配している。**

2. 授業運営(その3)

2-(5) 板書

学生→字が下手。後方からは、見えにくい。
(前に来いよ!)

黒板を三面に割る方法はよいと思う。

2-(6) 印刷教材

**自分のスタイルからは、抜け出られない。
学生が良いと思う印刷教材をみせてもらう。**

2. 授業運営(その4)

2- (7) 学習形態

2- (8) コミュニケーション

学生→学生に質問し、意見を求めるのは良い。

学生のコメント教材に使う方法もよい。

研究室、不在が多い(汗)。

先生と話せる時間をつくってほしい。

他の受講生が何を考えているのか、学生の刺激になる。
学生のコメント材料に理論に引き付ける努力。

3. 学生が授業から得たもの(その1)

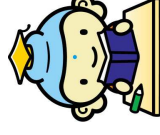
3- (1) 専門知識・技能

3- (2) 有益な考え方・発想

この数値でよいのか？

「どちらともいえない」「そう思わない」12%

FA「内容のバランス、表現がちぐはぐ」



授業と教科書との連動がうまくいっていない。
教科書開発を急ぎたいが...

3. 学生が授業から得たもの(その2)

3- (3) 自分で調べ、考える

学生→授業中には考える。

授業以外の時間で、何かを調べることは

あまりない。

そうしなければならぬ状況にはない。



主体的な学習に、どう誘うか、その有効な方
法は模索中！

「課題」の出し方が、下手...

学生にアンケート結果を公表すると...

1. 学生の授業への「関心」が高まる。担当者の
姿勢を理解してもらええる。

2. 数値の背景や改善点、課題が確認できる。

3. 学生が「よい」と感じている授業方法、教材、
教員の姿勢がわかる。

「よい授業」の情報がわかる。

☆「よい授業」→教員の「熱意」、「話し方」など共通
項もあるが、授業規模、性格によって違いがある。

2012年度秋学期 授業アンケート集計結果表(科目別)

佛教大学
6370

親講座コード	L00011603
教員コード	898524

科目名	社会福祉原論1Ac
教員名	岡崎 祐司

曜日	木
講時	4

受講者数	105
回答者数	78

No.	設問文	当科目 平均点	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率					【今回】 上段:有効 下段:無効 回答数	上段:3.(4) 下段:1.(5) 相関係数		
				1. 全く そう 思わない	2. あまり そう 思わない	3. どちら とも いえない	4. そう 思う	5. 大いに そう思う				
1.あなた自身の取り組みについて												
1.(1)	シラバスを読んで受講に備えた	3.45	3.50	3	4	32	31	7	77	0.244	当科目 全体	
				3.9%	5.2%	41.6%	40.3%	9.1%	1	0.511		
1.(2)	これまでの授業の出席率は良い	4.53	4.18	0	1	3	27	46	77	0.336	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	3.9%	35.1%	59.7%	1	0.340		
1.(3)	授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった	4.26	4.11	0	0	12	33	32	77	0.436	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	15.6%	42.9%	41.6%	1	0.510		
1.(4)	1回の授業につき予習・復習をした	3.29	3.27	2	7	40	23	5	77	0.271	当科目 全体	
				2.6%	9.1%	51.9%	29.9%	6.5%	1	0.396		
1.(5)	熱心に授業に取り組んだ	3.97	3.86	0	0	18	43	16	77	0.533	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	23.4%	55.8%	20.8%	1			
2.この授業の運営について												
2.(1)	わかりやすい授業であった	4.30	3.98	1	0	5	40	31	77	0.498	当科目 全体	
				1.3%	0.0%	6.5%	51.9%	40.3%	1	0.517		
2.(2)	授業はシラバス通りに進行していた	3.88	3.83	0	2	22	36	17	77	0.583	当科目 全体	
				0.0%	2.6%	28.6%	46.8%	22.1%	1	0.652		
2.(3)	教員の熱意が伝わってきた	4.44	4.11	0	0	5	33	39	77	0.754	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	6.5%	42.9%	50.6%	1	0.443		
2.(4)	聴きやすい話し方だった	4.40	4.03	0	1	4	35	37	77	0.720	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	5.2%	45.5%	48.1%	1	0.536		
2.(5)	板書(OHP、パワーポイント含む)は見やすかった	4.03	3.81	0	2	16	37	22	77	0.528	当科目 全体	
				0.0%	2.6%	20.8%	48.1%	28.6%	1	0.508		
2.(6)	印刷教材(レジュメ・補助教材等)、視聴覚教材等が効果的だった	4.16	3.89	0	2	12	35	28	77	0.582	当科目 全体	
				0.0%	2.6%	15.6%	45.5%	36.4%	1	0.412		
2.(7)	学習形態(グループ学習・発表、フィールドワーク等)に工夫がみられた	3.69	3.64	0	2	34	27	14	77	0.475	当科目 全体	
				0.0%	2.6%	44.2%	35.1%	18.2%	1	0.502		
2.(8)	教員や学生同士のコミュニケーションに工夫がみられた	3.91	3.72	0	1	24	33	19	77	0.515	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	31.2%	42.9%	24.7%	1	0.374		
2.(9)	授業は十分な静粛性が保たれていた	4.16	3.88	0	0	12	41	24	77	0.474	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	15.6%	53.2%	31.2%	1	0.391		
2.(10)	授業時間が守られていた	4.31	4.19	0	0	6	41	30	77	0.473	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	7.8%	53.2%	39.0%	1	0.406		
2.(11)	授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた	4.09	3.91	0	0	15	40	22	77	0.499	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	19.5%	51.9%	28.6%	1	0.489		
3.この授業からあなたが得たものについて												
3.(1)	授業で扱った分野に関する専門知識・技能が身についた	4.18	3.99	0	0	9	44	23	76	0.678	当科目 全体	
				0.0%	0.0%	11.8%	57.9%	30.3%	2	0.584		
3.(2)	自分にとって有益な考え方・発想が身についた	4.22	3.94	0	1	9	38	28	76	0.744	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	11.8%	50.0%	36.8%	2	0.549		
3.(3)	自分で調べ、考える姿勢をもてた	4.04	3.87	0	1	15	40	20	76	0.648	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	19.7%	52.6%	26.3%	2	0.643		
3.(4)	総合的にみてこの授業に満足を与えた	4.29	4.00	0	1	7	37	31	76	0.533	当科目 全体	
				0.0%	1.3%	9.2%	48.7%	40.8%	2			

2012年度秋学期 授業アンケート集計結果表(科目別)

佛教大学

6370

親講座コード	L00011603	科目名	社会福祉原論1Ac	曜日	木	受講者数	105
教員コード	898524	教員名	岡崎 祐司	時限	4	回答者数	11

(1) この授業を受けて、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中で良かったと感じた点を記入してください。

- ・ 決まった考えだけや自分で考えて学習するだけでなくクラスの他の人の意見や考えを聞ける時間はとても良くて嬉しかったです。
- ・ 先生のプレゼン力がとても高かったので、説得力がとてもあった。「ひとりじゃないよ」のプリントは具体的事例をみつかり、イメージが具体化された。
- ・ 話が分かりやすかった。
- ・ イイね!
- ・ 福祉を多方面から見て、色々、考える機会が多くあってよかった。
- ・ 良い授業 イイネ! ⑩
- ・ 教科書に偏った授業ではなく、具体例を使いながらの考え方を育める授業だったので良かったです。
- ・ 福祉の仕事をしていく上で基礎となる考えが身についた。
- ・ 社会福祉の入口は理解できた
- ・ 先生の発言はとても説得力ががあり、とても楽しい講義でした。
- ・ コメントの利用などで講義を進めて下さったので分かりやすかったです。

(2) この授業を受けて、工夫してほしい点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください。

- ・ 関連するビデオを見たりしたい。
- ・ 返すといっていたプリント（以前に書いたプリント）がかえってこなかった。フィールドバックをする時間もないと思うので仕方ないと思うが・・・。
- ・ 特になし
- ・ 時間があればいいのですが、グループワークを希望します。
- ・ 言いたいことは何となく分かるが、言っている内容のバランスというかつながり、表現なんかがちぐはぐなときがある。
- ・ 次年度もプリントがあるとありがたいです。また、生徒の意見発表も

親講座コード	L00011603
教員コード	898524

科目名	社会福祉原論1Ac
教員名	岡崎 祐司

曜日	木
時限	4

受講者数	105
回答者数	6

(2) この授業を受けて、工夫してほしい点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください。

- ・ 関連するビデオを見たりしたい。
- ・ 返すと言っていたプリント（以前に書いたプリント）がなくなってしまった。フィードバックをする時間もないと思うので仕方ないと思うが・・・。
- ・ 特になし
- ・ 時間があればいいのですが、グループワークを希望します。
- ・ 言いたいことは何となく分かるが、言っている内容のバランスというかつながら、表現なんかがちぐはぐなときがある。
- ・ 次年度もプリントがあるとありがたいです。また、生徒の意見発表も

平成 24 年度授業アンケート結果をふまえて

授業アンケート活用の課題

社会学部教育推進担当主任：近藤敏夫

従来

調査結果に基づいた有意味な分析があまりない。

また、分析に基づいた提案がなされても実現に向けて対策が取られることが少なかった。

「教授法開発室だより」や『FD Review』に掲載されるだけに終わる。

現状

業者に統計数値を集計してもらっているが、意味のある分析がなされない。

教員による分析もなされなくなった（教授法開発室がなくなる）。

課題

(a) 大学・学部・学科として活用できる集計・分析

教育環境の改善や科目群の特徴を知るための分析（入門ゼミ）

(b) 教員に返却する集計・分析：

文章でのコメントが必要か？ 数値やグラフの意味をどう理解するか

(c) 学生に返却する集計・分析：

「基礎学力調査（学生の学習態度に関する調査）」と連動させると有意義か

分析を業者に任せるのが効率的。ただし、指示や連絡が大変、問題あり

以前のように教員に依頼し、職員がサポートする。業務が多すぎて問題あり

まず、分析目的を明確に具体化しないと、集計結果の分析ができないままになる。

FD の動向に詳しく、分析方法を知っている教職員が担当するのが望ましい。

配布資料『2012 年度 通学課程授業アンケート結果報告書』を読むための具体例

(その 1) 分析目的：クラス規模（受講人数）の影響を調べ、教育環境の改善を図る。

参考にする資料をさがす。→ 配布資料 pp. 52-61, pp. 110-119

データからの予想

学生の受講態度（あなた自身の取組み）については影響が少ないが
教員の授業運営や学生の獲得内容・満足度については
受講生が増加するにつれ、評価が低くなる傾向がある。

アンケート評価は科目の特性や担当教員の特性にもよるだろうが、
少人数クラスが望ましいといえるだろう。



この予想を仮説として設定し、集計結果の分析および検証をする必要がある。

(実はここから分析がはじまる)

仮説が検証されれば、それに基づくクラス定員上限設定変更の提案をする。

(その2) 分析目的：学生の受講態度と学生の獲得内容・満足度との関係

参考にする資料をさがす → 配布資料 pp. 161-162, pp. 180-182

データからの予想

「熱心に授業に取り組んだ」ことが学習成果をもたらすようだ。

「予習・復習」は影響が少ない。

予習・復習を前提とするような授業をどのように運営すればよいか？

さらに参考になる資料をさがす → 配布資料 pp. 159

教員の授業運営が学生の予習・復習に影響を与えているようだ。

「シラバス通りか」、「学習形態の工夫」、「コミュニケーション」など

とくに目立って影響を与えている項目はない。

仮説の検証はできそうにないが、「シラバス」、「学習形態の工夫」、「コミュニケーション」の授業運営の改善を図り、経年変化で「予習・復習」との関連を検証する。

以上、配付資料の報告書からは問題点が見つけ出しにくいいため、具体的課題を見つけ出し、報告書の統計数値に基づいた分析をしていく必要がある。

旧教授法開発室室員の K.K 先生が集計結果の分析と検証にもとづき、具体的な提案をしていたが、提案は実現していない（「教授法開発室たより」vol.6、vol.7 参照）。

提案が実現するという筋道がないと、教員、学科、学部での対応は進まないだろう。

2013 年度

第 2 回佛教大学 FD 研究会

「大学生の学ぶ意欲を引き出す
ジェネリックスキルの育成と評価」

開催日：2013 年 11 月 8 日（金）16：10～

会場：佛教大学紫野キャンパス

常照ホール（成徳常照館 5 階）

発表者：山本 啓一 氏（九州国際大学 法学部教授）

参加者数：59 名



大学生の学ぶ意欲を引き出す ジェネリックスキルの育成と評価

11月8日 [金]

16:10 ~ 17:40 (受付開始 15:30~)

参加費無料(事前申込制) 定員:100名(先着順)

講演

「大学生の学ぶ意欲を引き出す
ジェネリックスキルの育成と評価」
～リテラシー育成を主眼に置いた
初年次教育の取り組み～

講師

やまもと けいいち

山本 啓一 先生

(九州国際大学 法学部教授)

ジェネリックスキルとは社会の中で生きて行くために必要な知識活用能力や学士力と表現されるものです。

今回は「ジェネリックスキルの育成と評価」をテーマに掲げ、リテラシー育成を主眼に置いた初年次教育の取り組みについてご講演していただきます。

会場

佛教大学 紫野キャンパス
成徳常照館5階 常照ホール

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

参加対象

大学・短期大学の教職員
(学内・学外からのご参加をお待ちしております)

参加申込方法

参加ご希望の方は下記E-mailアドレス宛にお名前(ふりがな)、ご所属、ご連絡先(E-mailアドレス・電話番号)をお送りください。

E-mail: kyosui@bukkyo-u.ac.jp

アクセス ※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

【京都市バス「千本北大路」または「佛教大学前」下車】

【JR京都駅から】 タクシーで約20分・市バスで約40分

【地下鉄北大路駅から】 市バスで約10分

【JR・地下鉄 二条駅から】 市バスで約15分

【阪急 大宮駅から】 市バスで約20分

【京阪 出町柳駅から】 市バスで約20分



FD研究会に関するお問い合わせ

佛教大学 教育推進部 教育推進課
TEL : 075-491-2141(代)
E-mail: kyosui@bukkyo-u.ac.jp

主催 : 佛教大学 教育推進機構

2013 年度 第 2 回 FD 研究会

1. 開催概要

開催日：2013 年 11 月 8 日（金）16：10～

テーマ：「大学生の学ぶ意欲を引き出すジェネリックスキルの育成と評価」

会場：佛教大学紫野キャンパス 常照ホール（成徳常照館 5 階）

発表者：山本 啓一 氏（九州国際大学 法学部教授）

司会進行：岡崎 祐司（社会福祉学部教授・教育推進機構長）

参加者数：59 名

2. 発表＜山本 啓一 氏（九州国際大学 法学部教授）＞

（1）はじめに

本学では、平成 28 年開講に向け、大幅なカリキュラム改革を予定しており、その中の課題の一つに初年次教育が挙げられる。

今回講師としてお招きした九州国際大学教授、山本啓一先生は、一橋大学大学院／法学研究科博士後期課程／法学・国際関係専攻で法学博士を取得し 2001 年より九州国際大学法学部に奉職され 2008 年より法学部の教授に着任された。

また、2008 年から 2012 年まで法学部長に就任され、法学部を中心に初年次教育改革やカリキュラム改革に携わられてこられた。

今回の FD 研究会では、九州国際大学で実践されている初年次教育の先進的な取り組みをご紹介いただき、本学の新たな参考モデルとしたい。

（2）九州国際大学の取り組みについて

周知のとおり、19 世紀末から始まった 18 歳人口の減少は、大学入学のユニバーサル化を加速させ大学進学率をあげる一方で、入学者の学力や学力姿勢を大きく変化させた。

また、社会からも「即戦力」となる人材の育成を期待されている大学にとっては「社会人基礎力」という言葉が示す通り大学卒業にふさわしい知識技能を備えた社会で活躍できる人材を育成する事が喫緊の課題であった。もちろん、この大学における人材育成の課題は日本のみならず全世界的なレベルで議論に拡大することとなり、2003 年 OECD（「Organisation for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構」の略で、本部はフランスパリに置かれている）が各国の「社会人としての基礎力」についての概念を整理し 3 つの力を示している。

まず、一つ目は「知識を使って考え抜く力」、二つ目は「異質な人たちの集団の中で

解を見つけられる力」、そして最後に「自立的に行動できる力」としている。

山本啓一先生が所属される九州国際大学は、新日鉄の職工さんたちに夜学を提供する八幡大学がその前身となっており、平成元年に「九州国際大学」に校名変更をおこない現在の名称となっている。

しかし、前述の18歳人口の減少に加えて、校名変更による知名度の低下が追い風となり2001年から定員割れが始まり、この頃から入学者の多様化への対応が学内で大きな問題となった。

そこで、九州国際大学ではこのOECDが言うコンピテンシーを身につけさせるべく初年次教育改革に踏み切ることとなり、まずは河合塾が提供しているPROGテストを導入し学生の知識活用力や課題解決力を測定する事とした。

このテストは、コンピテンシーの中でも「情報分析力」、「課題発見力」、「構想力」、「表現力」などをペーパー試験でその能力について測定するのだが、山本先生はこの要素は大学での学びに必要な力であり、この要素をひとつのサイクルとして回す力をつけさせることが今の大学に必要なだと強調した。

しかし、一昔前であれば、卒業論文を書くにせよレポートを作成するにせよ「課題発見」→「情報収集」→「課題解決への道筋の設定」→「解決策の提案（表現）」のサイクルを学生自身がどうにか回して論理的に物事を考察する事ができたが、今は意識的に教員が教えなくては身につかなくなっている。

そこで、初年次の段階からこのサイクルを回す力をつけさせるためのプログラムを構築する事となった。

その具体的な取組み事例として、今回は二例ほどご紹介いただいた。

(1) 入門演習

まず大学教育で必要となるリテラシーをつけさせるために、1回生時に履修する入門演習においてアメリカのプロジェクトアドベンチャーを参考にしながらゲームやワークを通した授業設計をおこない、仲間づくりを目的とした授業に変更した。

数年続けたこの取組は、九州の数大学と連携しながら進められたもので受講生やファシリテートする上回生からも評判は良かったが、退学率が一向に下がる事は無く成果に繋がらなかった。

そこで、このプログラムを抜本的に見直し、まず開講形態を一泊二日のオフキャンパス型に、そして授業内容も、各グループに課題を与え「課題発見」→「情報収集」→「課題解決への道筋の設定」→「解決策の提案（表現）」のサイクルを二日間で集中的に取り組むように変更した。

例えば「少子化問題の原因を探り、解消方法を考える」というテーマを与えた場合、5人のメンバーには違う資料を渡し、自らの資料と他者の資料の関連を考えながら「課題発見」→「情報収集」→「課題解決への道筋の設定」→「解決策の提案（表現）」のサイクルを回すように考察させ、最終的にはプレゼンテーションを行う。

この取組では、他者の意見を聴き情報共有すること、情報に関連付けながら課題を見いだす事、メンバーの知を集結して多様な視点から「解」を行現する事など、この一泊二日の活動自体が「大学教育で必要となるリテラシー」であり、学生にとっては今後の学びの手法を知ることになる。

そして教員は、このサイクルを15週の入門演習に落とし込み、授業改善を行なった。

(2) 文章表現科目

紹介した入門演習とは別に、九州国際大学では「文章表現科目」を開設している。この科目の目的は、単に文章が書けるようになることが目的ではなく、「与えられた資料を分析して、課題を発見・設定し、論理的な文章を構想でき、適切な日本語で自分の意見を主張できる」といった日本語リテラシーの育成を目的としている。

基本的な授業の回し方は、前述の入門演習と同様に「課題発見」→「情報収集」→「課題解決への道筋の設定」→「解決策の提案（表現）」のサイクルを3コマで回し4ユニット行うこととした。

学生にとっては3週で1つのレポートを作成する事になり、学期では4～5個のレポートを、論理的思考の中で適切な日本語を用いながら文章作成を重ねるので相当のトレーニングとなる。

しかし近年、文字が書けない、句読点の打ち方がわからない等の基本的知識を備えていない学生が散見されるが、学士課程教育において学習到達目標は同じ高さに設定しておくことにその意義があると考ええる。

このように九州国際大学では、大学教育で必要となるリテラシーをつけさせる取り組みを初年次において実践している。

しかし、この力は学士課程教育に一貫して必要な力であり、またその取組みは、初年次教育という限定的な扱いではなく初年次から四年次まで継続しておこないかに専門教育の中で活用して行くかが重要であると山本先生は強調されていた。

佛教大学FD研究会 大学生の学ぶ意欲を引き出す ジェネリック・スキルの 育成と評価

～リテラシー育成を主眼においた初年次教育の取組

九州国際大学法学部
教授 山本 啓一

Mai: k-yamamoto@law.kiu.ac.jp

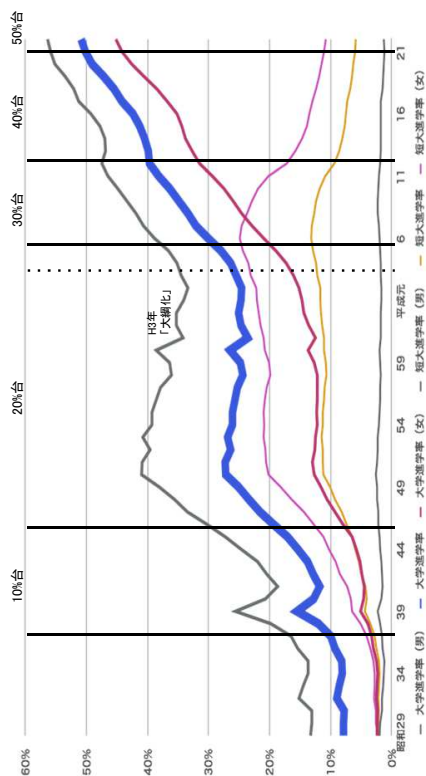
近著:「学力に課題を抱える大学における就業力の育成と課題—九州国際大学法学部の事例から」
『日本労働研究雑誌』第629号、平成24年12月。

(独立行政法人 労働政策研究・研修機構のサイトよりダウンロード可能)

1. 現在の大学と学生の現状／大学の目標人材／ジェネリック・スキル、リテラシー

- ユニバーサル時代の大学は、基礎的な汎用的技能(ジェネリック・スキル)を欠いた学生が入学する状況になっている。他方、ジェネリック・スキルは知識基盤社会において必要なスキルであり、産業界が大学生に求める能力でもある。
- ジェネリック・スキル、特に「リテラシー(知識活用力、課題解決力)」の育成については、(授業を通じて育成できる能力として)社会人基礎力・学士力の重要な要素の一つである。

ユニバーサル化の進展と大学の役割変化



- 冷戦後のグローバル化の流れの中で、文科省の規制緩和(本綱化)による大学数の増加と日本の経済構造の変化による高卒求人数の減少に伴い、大学進学率が急上昇。
- 四半世紀続いた進学率20%時代の「大学」のイメージから転換が必要。90年代の偏差値50層は現在では上位25%。

現在の学生の特徴

- ① 学生の多様化(低学力学生の増加)
 - 「漢字を知らない」「分数の割り算ができない」?…大学進学以外の選択肢がなく、受験勉強を怠っていたため、基本的な知識のストックや基礎的なリテラシーを欠いた学生が入学している。そのため、大学教育の結果として「自然に」育成される能力(汎用的技能・つぶしの効く能力)が4年間で育成されない。
 - 「受験勉強をしていない」→「模試を受けたことがない」(=自分の偏差値を知らない)…自分が全国ランクの中で「できない学生」であることを知らない。
- ② 低モチベーション学生の増加
 - 「役に立つ」勉強でなければやる気が起きない…教養教育の崩壊、資格への幻想
 - 「自律性の高い強い学生像」に依存した制度が崩壊…自由履修制度の機能不全
- ③ 「就職氷河期」の問題
 - 「就職できない学生」よりも「就職活動をしない学生」が多数→「非就業者」15.5%(2012年)
 - 成績上位層(高GPA)でも、社会的に評価される能力を持っていないとは限らない。～GPA最上位層の就職率や就職の質は他の層より高いか?

社会で必要な力とは～＜新しい能力＞論

- ・「1990年代以降(日本では特に2000年代以降)、さまざまな形で提唱されるようになった能力の総称」(松下佳代)
 - ・日本…ジェネリック・スキル、就職基礎力、社会人基礎力、学力、人間力、エンパワーメント、等々
 - ・他の先進諸国…Basis skills(米)、Core skills(英)、Transferable skills(仏)、Key qualifications(独)、Key competencies, Generic skills(豪)、Trans-disciplinary goals(スイス)
 - ・(欧)チューニング・プロジェクト…ポローニャ・プロセスの実施(欧州高等教育圏の建設)に向けて、各国の大学がカリキュラムを調整(チューニング)、コンピテンスの目標化。
- 全世界で、小学生から社会人まで、認知的側面、情意的側面、社会的側面を含めた「できること」の指標提示が進行。
- 日本の場合、「実社会・産業界から求められている能力」「近年の学生に欠けている能力」と理解されることが多い。

OECDのキーコンピテンシー～「社会人基礎力」「ジェネリック・スキル」論の源流～

- ・ OECD DeSeCo (Definition and Selection of Competencies: Theoretical and Conceptual Foundations)(1997-2003)
 - ①コンピテンスの再定義…「ある特定の文脈における複雑な要求に対し、認知的・非認知的側面を含む心理-社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力」
 - ②「キー・コンピテンシー」とは…単なる知識や技能の習得を越え、共に生きるための学力を身に付けて、人生の成功と、良好な社会を形成するための鍵となる能力概念
- **1) 道具を相互作用的に用いる**
 - A)言語リテラシー B)情報リテラシー C)技術リテラシー

※PISAやAHELO、PIAAC等はこのうちペーパーテストで測定可能な領域を扱う。
- **2) 異質な人々の集団で相互に関わりあう**
 - A)他人と良い関係を作る能力 B)協力・チームで働く能力 C)争いを処理し、解決する能力
- **3) 自律的に行動する**
 - A)大きな展望の中で活動する能力 B)人生計画や個人プロジェクトを設計し実行する能力 C)自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力

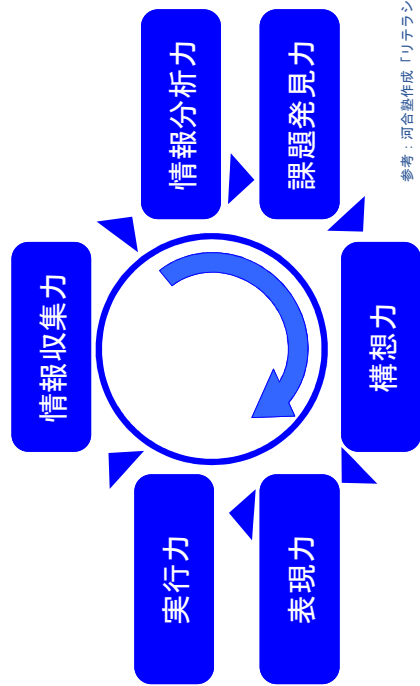
「コンピテンシー」の構成概念 九州・沖縄地区産業界GPメタ・ルーブリック【資料1】

- 教室での学習を越えた広い意味の概念。「経験」と「ふりかえり(メタ認知)」が最大のポイント。講義できる内容ではない。
- (担任制のない)大学教員にとって、評価が極めて難しい→ポートフォリオ(自己評価)が中心となる



知識活用力・課題解決力(リテラシー)のプロセス

- リテラシー「問題を解決するために知識を使いこなせる力」とは、ジェネリック・スキルでもあり、アカデミック・スキルの要素でもある。
- たとえば、「卒論」を書けるようになるために、入学時からこのサイクルを何回も回すのが初年次教育の目的の一つ。



参考：河合塾作成「リテラシーマップ」

学士力とジェネリック・スキル

中教審学士力答申(2008年12月24日)

①知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解
②汎用的技能	コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報リテラシー・論理的思考力・問題解決力
③態度・志向性	自己管理能力・チームワーク・リーダーシップ・倫理観・市民としての社会的責任・生涯学習力
④統合的な学習経験と創造的思考力	自らが立てた新たな課題を解決する能力

- ②～④はジェネリックスキル(キー・コンピテンシー)を初等・中等教育の学習指導要領との連動性を意識して表現している。
- 「入りの質保証」論…進学率20%時代においては、受験勉強と大学教育・大学生活を通じて、「副産物」として育成されたもの→学歴(偏差値)によってジェネリック・スキルがある程度予測可能。
- 「出口の質保証」論…現在の(特にユニバーサル)大学では、ジェネリック・スキルを持たない学生が入学し、そのまま卒業する可能性がある→正課教育を通じてジェネリック・スキルを「**意識的に**」育成することが必要。

九国大法学部の目標人材＝「警察官」とは何か？

警察官採用試験は、なぜ、長年「①教養試験」「②小論文」「③面接」「④体力試験」で構成されているのか？

- ① 警察組織の「幅の広い仕事(例:交番→捜査→防犯→総務→市町村へ出向→etc.)」に対応できるためには、「**幅広い知識**」を**獲得し続けるための汎用的技能・学習能力(フレキシビリティ・訓練可能性)**が不可欠
 - ② 警察官にとって「**書類作成能力(日本語リテラシー)**」は必須
 - ③ 警察官としての「**適性**」…「やる気」「倫理観」「自己管理能力」「チームワーク」(対人基礎力/対自己基礎力)
 - ④ 身体能力は警察官にとって必須の条件
- + α 新たな課題(検挙から防犯へ)…**課題解決力**等
- 問われているのは今も昔も「ジェネリック・スキル」
- 大学・学部目標人材に必要な能力・キャリアパスから、科目の達成目標の「有用性」と「重要性」を説明することが「キャリア教育」

「大卒人材」とは何か？

	ジェネラリスト (汎用的人材)	エキスパート (専門職人材)	即戦力
雇用形態	メンバーシップ型 (公務員・大企業総合職)	高度ジョブ型 (専門職・開業)	ジョブ型 現場人材・非正規雇 (用)
職業像の特徴	つぶしが効く/ 転職困難	つぶしがきかない/ 転職容易	つぶしがきかない/ 定着困難
必要な知識・スキル	教養・専門知識 +汎用的スキル	職業的専門知識+資 格(+汎用的スキル)	対人能力+ 作業遂行力
人材育成の方法	大学教育→ OJT(職場)	高度職業教育	アルバイト

➢ どの大学でも、目標人材は、対人能力さえあればなんとかなる「即戦力」ではなく、知識を活用する汎用的人材(メンバーシップ型「正社員」)または専門職人材にこだわるべき。

警察官小論文試験が問う日本語リテラシー

福岡県警小論文試験より

平成20年度《第1回》…【時間】60分【字数】1050字以内

「現在の福岡県内の治安情勢を踏まえ、県民が福岡県警察に期待していることは何か、警察官となった場合、県民の期待にどのように応えていくかについて、あなたの考えを具体的に述べなさい。」

【出題のポイント】…「対課題型」治安情勢や県警の課題等の情報を知っているか
(「**情報収集力**」)

- ① それらの情報を理解・分析できているかどうか(「**情報分析力**」)
- ② そうした情報をふまえた上で、当事者意識を持った課題解決策を提案できるかどうか(「**課題発見力**」「**構想力**」)
- ③ 自分の考えを1000字程度で論理的に表現できるかどうか(「**表現力**」)
(参考)類似…奈良、和歌山。警視庁、大阪は対自己型。京都は大喜利型(「個性」「懂れ」「達成」、「矛盾」「試練」「転機」)

2. ジェネリック・スキルを育成する取組紹介 ～授業の設計と授業方法・評価

- ▶ ジェネリック・スキルという「見えにくい力」を育成する授業を行うためには、授業の達成目標に到達するプロセスを明確にしたうえで、コマの計画をたてる「授業デザイン」が重要である。「考える」課題を与え、考えるプロセスを明確にするためには、達成目標と評価基準を明示化することが重要となる。
- ▶ ジェネリック・スキル育成は評価が曖昧になりがちである。リーブリックを用いた評価方法を考えることは重要である。

事例② オフキャンパス研修プログラム【資料2】

- ▶ 本学部ではオフキャンパス研修は4年間にわたり実施。
- ▶ 9/11～9/12 九州・沖縄産業界GP学修評価グループ主催。10大学から教職員26名と学生40名が参加。プレゼンまでのプロセスをすべてグループワークで行う。
- ▶ テーマ：様々なバックグラウンドを持つ学生にとって共通の身近な問題（初年次を想定）→「少子化問題の原因を探り、解消方法を考える」

	テーマ	ねらい	方法
1stセッション (50min)	【アイスブレイク】	「少子化の原因について自由に考えてみる」	ブレインストーミング、KJ法
2ndセッション (130min)	【情報分析】	「与えられた資料を読解・分析し、少子化の原因を探る」	ジグソー学習法
3rdセッション (90min)	【課題発見】・【構想】	「めざすべき社会のビジョンを構想し、その方向性を実現するためのアイデアを出す」	ブレインストーミング、KJ法
4thセッション (120min)	【構想】	プレゼン準備「課題を解決するための具体的な方法を構想しまとめる」	プレゼン準備
5thセッション (120min)	【表現】 【評価①】	プレゼン「問題を解決するための方法を提案する」	プレゼンテーション／投票
6thセッション (70min)	【評価②】	ふりかえり	自己評価、相互評価

事例①山口徳地青少年自然の家PA研修

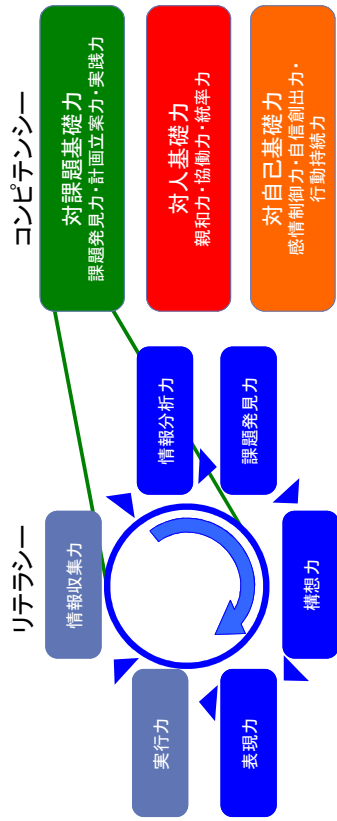
- ▶ PA(Project Adventure)は、米国で生まれた体験教育プログラム的一种。チームづくり研修として多くの学校・企業で活用。
- ▶ 本学部では早く、新入生研修プログラムとして活用してきた。6月29日～30日に九州・沖縄産業界GP学修評価グループ参加校で共同実施。



- ▶ コンピテンシー評価を間接評価(「自己評価」相互評価)中心で行う。
- ▶ 対人コミュニケーション能力を育成するプログラムは、その後の学習のために重要…対人基礎力の発達→対自己・対課題基礎力の発達(ただし目標の運動性が不可欠)

事例② オフキャンパス研修プログラムの評価項目

- ねらい
【リテラシー】社会的な問題に対して、課題解決型の思考をもとに取り組み姿勢を身につける。
【コンピテンシー】お互いに話し合い、協力しながら成果物を作成する能力を身につける。
- 評価方法
【リテラシー】グループのプレゼンを投票(教職員・学生)で評価(直接評価)
【コンピテンシー】グループ内個人の行動を「評価者」が評価するとともに、グループ内の相互評価と自己評価によって評価(間接評価)



※リーブリックによる評価は、本来は「目標に準拠した評価」であるべきで、すなわち「絶対評価」となる。

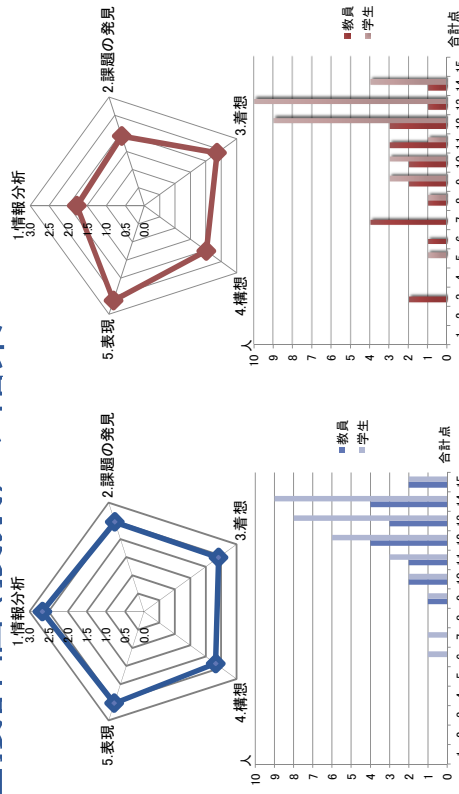
事例② オフキャンパス研修9/10～9/11 @ 日本文理大由布院研修所



オフキャンパス研修のポイント

- ▶ 【シラバス】教育プログラムの意義と目的、到達目標と評価基準が明示され、直接評価・間接評価の手法が明確であることが必要。
- ▶ 【授業設計】アクティブ・ラーニングを効果的に組み込み、授業進行案が作り込まれていることが必要。
- ▶ 【評価】グループ評価に終わらず個人評価に落としこむことが不可欠。教員の評価だけでなく、相互評価、自己評価も重要。ルーブリックによる自己評価を継続的に行うことで、自己評価スキルの向上(メタ認知)がもたらされる。
- ▶ ルーブリックは、到達目標を教員と学習者が共有し、学習者に「何を学ぶのか」という見通しを与えられとともに、個人の成長を導くツールとして活用できる。→ “Assessment as Learning”

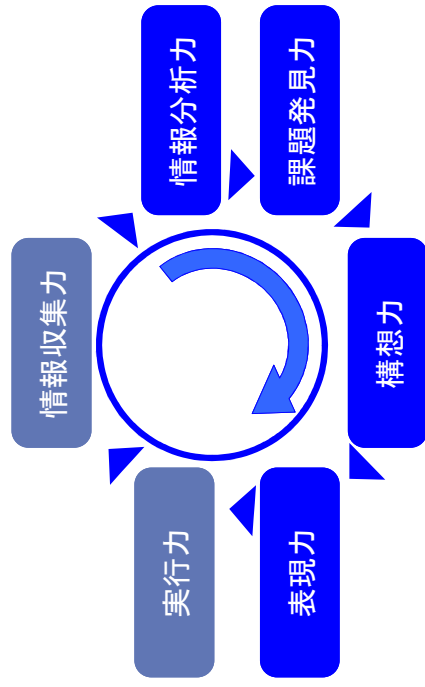
直接評価(投票)の結果



▶ 最も高評価で最も分散が少ないグループ
(コメント例)情報分析から問題設定及び解決策のターゲット設定が明確であった。

▶ 最も評価が分散したグループ
(コメント例)情報分析がなされていない、解決策への論理的プロセスが不明確である。大変おもしろいプレゼンではあった。

事例③ 課題解決に向かう思考プロセスを育成する文章表現科目【資料3】



- ▶ 意見を述べるための知識、意見を述べるための考え方を育成する。
- ▶ 「教えこむ」授業から「気づかせる」授業へ。グループワークを要素所で組み込む。

文章表現科目(教養特殊講義5・6)の授業設計

- 4名の教員(すべて文章表現の非専門家)で担当。
- ねらい…「与えられた資料を分析し、課題を発見・設定し、論理的な文章を構想でき、適切な日本語で自分の意見を主張できる、という日本語リテラシー(知識活用力/課題解決力)の習得をめざす」
- 授業方法…**3コマを1ユニット化し、「情報分析→課題発見→構想→表現」のライティング・プロセス**を段階を追って習得させる。
- 授業方法…**グループワーク**を取り入れ、主体的・能動的な学習スタイルを育成し、深い知識理解や知識定着をめざす。
- 学生の文章を複数の教員がバラつきなしに評価するために、**共通のルーブリック**を作成して評価。

→近刊「大学生のための日本語リテラシー(仮題)」(ひつじ書房)において事例紹介予定。

文章表現科目…コマのユニット化とプロセス・ライティング

- 【授業計画例…2012年度秋学期】…4名の担当教員が1ユニットずつ教材を作成
- ☆第1ユニット(コーティング)～様々な資料をもとに課題に対して自分なりの解決策を提示できる。
 - 第1回 資料分析1 コーティングに関する理論的・歴史的背景を知る。
 - 第2回 資料分析2 コーティングに関する課題を知る。
 - 第3回 構想&表現 コーティングに関して、自分の意見を構想し、文章を作成する。
 - ☆第2ユニット(日本のエネルギー政策)～グラフ等のデータを読み取り自分の意見を構築できる
 - 第1回 資料分析1 日本のエネルギー政策の現状と環境と経済成長の矛盾を理解する。
 - 第2回 資料分析2 各国のエネルギー政策について理解する。
 - 第3回 構想&表現 日本の今後のエネルギー政策について自分の意見をまとめめる。
 - ☆第3ユニット(新卒一括採用)～反対側の主張を意識しながら自分の意見を構築できる。
 - 第1回 資料分析1 新卒一括採用に関するグラフ等を読み取る。
 - 第2回 資料分析2 新卒一括採用の是非に関する資料を読み取る。
 - 第3回 構想&表現 新卒一括採用の是非について、自分の意見をまとめ、文章を作成する。
 - ☆第4ユニット(商店街の現代的意義)～社会的な問題について自分なりの意見を主張する。
 - 第1回 資料分析1 商店街衰退の背景を理解する。
 - 第2回 資料分析2 活性化に成功している商店街の事例を知る。
 - 第3回 構想&表現 現代社会における商店街の意義について自分の意見を述べる。

事例④ 専門科目を通じたリテラシーの育成

専門教育を通じて育成されるスキル(“ジエネリック・スキルは専門分野から脱文脈化して習得されるわけではない”)

- 例えば「法律学」の答案を作成するプロセスとは…」
- ① 条文、判例、学説の**収集**(従来の法学教育では「暗記すること」)
 - ② 課題(事例)に対する**事実関係の認定(分析)**
 - ③ 法的**論点(法的问题点)の明確化**
 - ④ 判例・学説の**批判的検討**
 - ⑤ 反対の立場への反論も含めた説得力ある**論理構成**

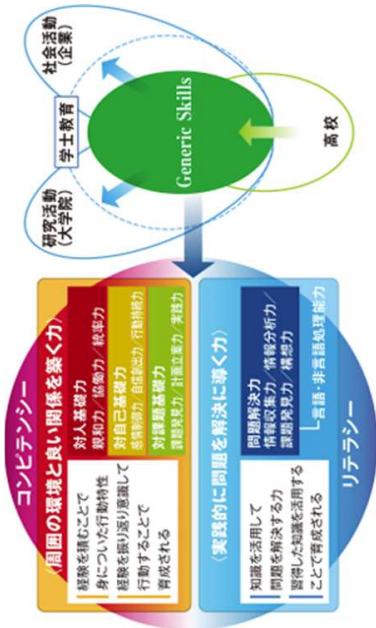
「基礎セミナー」(2015年開講予定…2年次配当必修科目)

- ・4～5名の教員で担当、1クラス40名前後。
- ・法律問題につながる新聞記事や文献等の資料を使って、対立する2つの主張を理解し、それらの根拠を法的概念と結びつけつつ論ずる。(例:情報公開と知る権利、幸福追求権と公共の福祉等)

3. ジエネリック・スキルの外部評価～PROGテスト

- 九州国際大学法学部では、過去3年間にわたり、河合塾とリアセックが開発したPROGテストを受験し、学生のジエネリックスキル(特にリテラシー)の客観評価を実施している。
- リテラシーテストの結果および評価指標をもとに教育改革を行った結果、学生のリテラシーは、学年が上昇するにつれ向上している。また、PROGテストと授業の相関性も出てきている。

PROGテストの導入～外部テスト



- ・ ジェネリック・スキル…「言語、数、情報に関する基本的なスキルを用いて、論理的に物事を考え、自ら問題を発見し、仲間と協力して課題を解決する力」
- ・ ジェネリック・スキルを「リテラシー」(知識活用力:「知識をを活用し、他者と協力して、問題を解決する力」)と「コンピテンシー」(経験によって身につく行動特性)の2つの観点から測定。

リテラシーの構成概念

問題解決のプロセスに沿って整理 質問紙法に適した4つの領域を測定



PROGテスト・リテラシーランク

リテラシーの育成レベル

レベル	問題解決力のCan-Do-Chart
1	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な手段を用いて情報収集することができる。 ●目の前で起きている問題を理解できる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●目の前で起きている問題について、解決の大きな方向性やあるべき姿が理解できる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的な出来事について前後関係が理解できる。 ●適切な手順でレポートを書くことができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●クイズから読み取れる情報を言語化できる。 ●文献や資料を客観的に読み取ることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的な出来事について、それらを整理分類し、またそれらの因果関係を想定できる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ●与えられた情報を基に、周辺状況を想像できる。 ●隠れた原因を見抜くことができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ●文章を構造化し、図示することができる。 ●レイヤーを揃えて議論を構築することができる。

初年次到達レベル

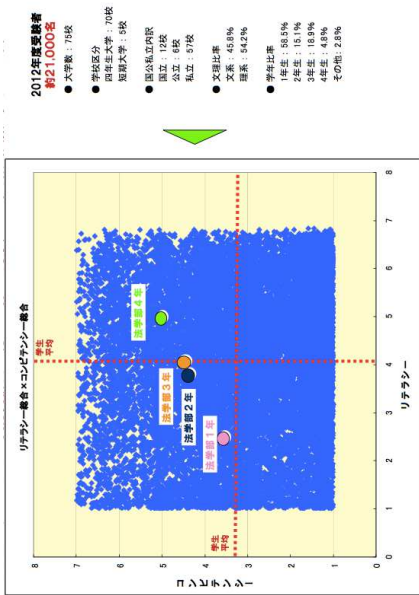
学士課程修了レベル

コンピテンシーの構成概念

周囲の環境に効果的に対処する力を「対課題」「対人」「對自己」の領域に分けて測定

PROGのコンピテンシー (リクルートと共通定義した基礎力)	内容	構成要素	社会人基礎力 (経済産業省)	学術力 (文部科学省)
対課題基礎力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う 問題解決のための効果的な計画を立てる 効果的な計画に沿った実践行動をとる	情報収集・本質理解・原因分析など 目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析など 実践行動・修正・調整・検証・改善など	課題発見力 計画力 創造力	問題解決力 論理的思考力 情報リテラシー
対人基礎力	円滑な人間関係を築く 協力的に仕事を進める 場をよみ、目標に向かつて組織を動かす	話し言葉・聞き取り・非言語的・多様な理解・人形形成 など 役割理解・連帯行動・相互支援・相談・指導・他者の動機付け など 意見を主張する・前向きな対話・意見の調整・交渉・説得 など	発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 SNSコンロール	数量的スキル コミュニケーションスキル チームワーク リーダーシップ
対自己基礎力	気持ちの持ち方をコントロールする ホスピタリティを兼ね備える 主体的に動き、良い行動を習慣づける (学習行動を含む)	セルフケア・エネジー・レジリエンス・ストレスマネジメントなど 知性理解・自己効力・モチベーション・レジリエンス・成長心による自己変革 など 主体的行動・発達・良い行動の習慣化 (学習行動を含む) など	前に踏み出す力 (アクション)	市民としての社会的責任 倫理観 自己管理能力 生涯学習力

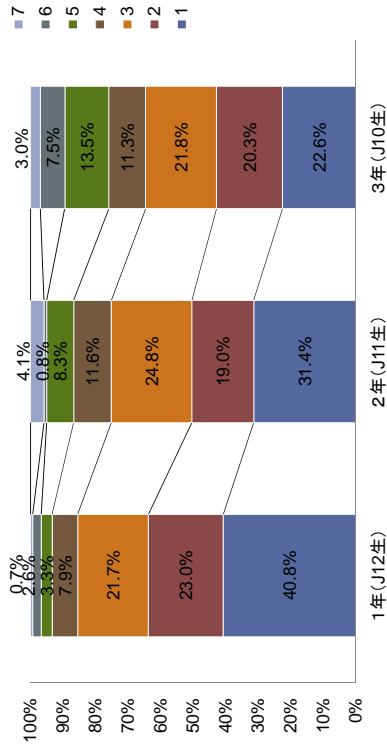
2013年度PROGテスト結果



- > 他大学と比べてリテラシーの平均点は大幅に低い。ただし学年が上昇するにつれて、リテラシーランクも上昇している。3年生で全国平均に達している。
- > コンピテンシーは全国平均よりかなり高い(ただし2年以上は一部受験)

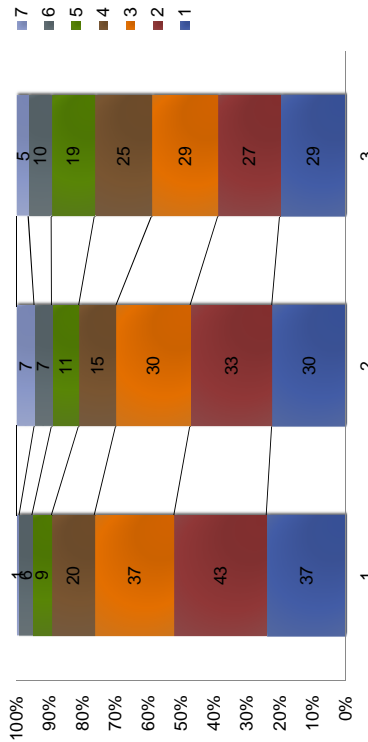
2012年リテラシーテスト結果

※学年名称は2012年当時



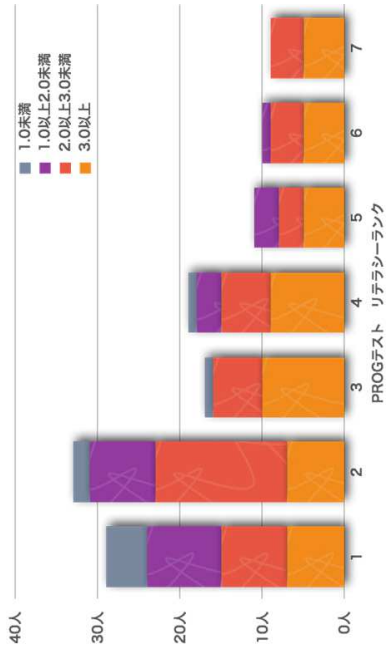
- > リテラシーの向上という課題から、2012年までリテラシーテストのみを受験。
- > 2012年度は421名(1年153名、2年134名、133名)が受験。
- > 学年が上昇するにつれ、低いランクの学生が減少している。

2013年リテラシーテスト結果



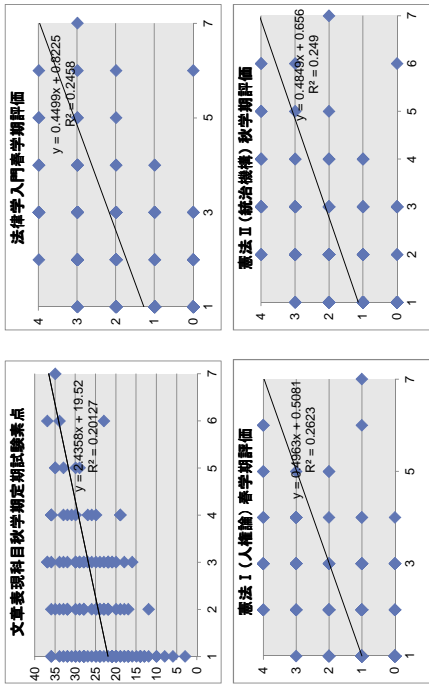
- > 2013年度は、法学部は1年生153名、2年生133名、3年生144名が受験。
- > 昨年同様、学年が進行することに、下位層が減少し、中位層が上昇。→他学部と比較して「隔年現象」が生じていない。→「学生のリテラシーを教育によって向上させている」

2011年度実施結果から内部評価(GPA)とのギャップ



- > GPA上位層(3.0以上)が、リテラシーテストでは全ランクに分散→GPAとPROGテストが全く相関せず。
- > GPAは学生のリテラシーを正しく評価できていない→GPAが評価指標として役に立っていないことに気づいたことから、リテラシー育成を科目の教育目標に理め込む改革がスタート。

2012年度1年生(J12生)対象科目 v.s. PROGリテ

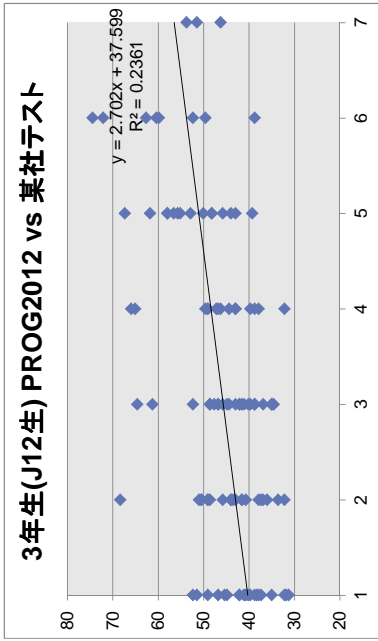


➢ PROGリテラシースコアと相関がみられる科目が年々増加…初年次科目担当教員を中心に、PROGの「リテラシー」の概念に対する理解が広がっている。

まとめ

- ユニバーサル時代の大学は、ジェネリック・スキル・スキル、特にリテラシーの育成を意識的に行うべきである。
- 目標人材の能力やキャリアパスと、ジェネリック・スキルやリテラシーの関連性を説明することが、大学教育の「有用性・重要性」の説得力を高める。
- リテラシー育成においては、初年次の段階からリテラシーサイクルを繰り返す授業(ブレゼン、文章表現)の導入が重要になる。その際、授業の達成目標と目標到達までのプロセスを明確にしたうえで、15コマ全体の流れを組み立てる「授業デザイン」が重要である。
- ジェネリック・スキルの育成においては、評価が不可欠となる。評価手法としては、ルーブリックを活用した評価や自己評価・相互評価が「育成のための評価」として重要である。

外部評価同士の関連性について



- 某社テストの内容…一般常識・社会科学・人文科学・自然科学・時事 基礎学力・英語運用・日本語理解・判断推理 …「就職試験問題として出題される一般常識や能力・性格の適性検査問題などに本番と同様の形式で…」
- PROGテストは「就業力評価」として、現実的に活用できる可能性がある。

参考文献

- 現代の大学生の課題
- ・ 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか?—生き抜くために知っておくべきこと』日本図書センター、2011年。
 - ・ 同上『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書、2013年。
 - ・ 芦田宏直『努力する人間になっはいけない—学校と仕事と社会の新人論』ロゼッタストーン、2013年。
 - ・ 濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書、2009年。
 - ・ 同上『若者と労働—「入社」の仕組みから働きほぐす』中公新書ラクレ、2013年。
- ジェネリック・スキルとアクティブラーニング
- ・ 成田秀夫『学びと仕事をつなぐ8つの日本語スキル』丸善ブライネット、2012年。
 - ・ 大島弥生(編著)『日本語表現能力を育む授業のアイデア—大学の授業をデザインする』ひつじ書房、2008年。
 - ・ 同上『ピアで学ぶ—大学生の日本語表現、プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。
 - ・ 同上『ピアで学ぶ—大学生・留学生の日本語コミュニケーション・プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房、2012年。
- 評価
- ・ OECD, The definition and selection of key competencies: Executive summary, OECD, 2005.
 - ・ 松下佳代『新しい能力』は教育を変えるか?学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年。
 - ・ 松下佳代『バノーマン』評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもといて—『京都大学高等教育研究』第19号、2012年。
 - ・ 田中耕司『教育評価』岩波書店、2008年。

九州・沖縄地区産業界GP ジェネリックスキル(汎用的技能)に関するメタ・ルーブリック

このルーブリックの考え方・活用方法
① このルーブリックは、産業界ニーズの高い「ジェネリックスキル(汎用的技能)」に関して、長期的な視点から共通の評価基準を設定するために、「学修評価グループ」が開発したものである(例:ベンチマークは1年生終了時、キャブストーンは卒業時を意図している)。なお、評価のカテゴリや項目は、九州・沖縄産業界GPにおいて人材ニーズ調査を担当した株式会社リアセックが提示する「大学生が身に付けるべきコンピテンシー(行動特性)」をベースに、OECDのキー・コンピテンシーや経済産業省の社会人基礎力等を参照している。
② このルーブリックは、各大学・個別科目の「メタ・ルーブリック」として機能することを念頭にしている。今後、各大学は、このルーブリックをもとにインターンシップやキャリア教育を含めた個別科目や活動の学修成果を評価する具体的なルーブリックを作成し、運用を通して得られた成果や課題をこのルーブリックにフィードバックすることで、このルーブリックの妥当性や信頼性、実行可能性を高めることとする。

Table with 7 columns: カテゴリ, 九州・沖縄のニーズ, 評価項目, 他の評価指標との関連性, キャブストーン(Capstone)最終的に獲得すべき達成目標, マイルストーン(Milestones)途中の目印となる過程標, ベンチマーク(Benchmark)最低の基準, 発揮される場面(例). Rows include A-1情報収集, A-2情報分析, A-3課題発見, A-4目標設定, A-5計画たてる, A-6アイデア・計画の表現, A-7アイデア・計画の実践.

Table with 7 columns: カテゴリ, 九州・沖縄のニーズ, 評価項目, 他の評価指標との関連性, キャブストーン(Capstone)最終的に獲得すべき達成目標, マイルストーン(Milestones)途中の目印となる過程標, ベンチマーク(Benchmark)最低の基準, 発揮される場面(例). Rows include B-1規律・組織への参加, B-2他者とのコミュニケーション, B-3組織の中での意思疎通と連携行動, B-4異なる意見の受容, B-5建設的な議論の牽引.

Table with 7 columns: カテゴリ, 九州・沖縄のニーズ, 評価項目, 他の評価指標との関連性, キャブストーン(Capstone)最終的に獲得すべき達成目標, マイルストーン(Milestones)途中の目印となる過程標, ベンチマーク(Benchmark)最低の基準, 発揮される場面(例). Rows include C-1広い視野をもつ, C-2感情のコントロール, C-3ストレスマネジメント, C-4自己肯定感, C-5自主性・積極性, C-6良い行動の習慣化.

(参考)九州・沖縄地区の人材ニーズ(株式会社リアセックによる企業アンケート調査)
九州・沖縄地域の産業界においては、特に中小企業に焦点を絞った場合、以下のような人材ニーズが存在することがアンケート調査より明らかになった。
・学力面では、特定の専門知識よりも、「論理的思考力・課題解決力」という汎用的技能(対課題基礎力/リテラシー)を持つ人材が求められている。特に、企業規模が大きくなるほど、こうした汎用的技能は相対的に要求度が高い。
・コンピテンシー面では、企業規模に関係なく、「対人基礎力」への要求が特に高い。なかでも、「組織中での情報共有」「気配り」「集団の規範やルールの遵守」という、「真面目で」「協働力」のある人材が重視されているのが九州・沖縄地区の特徴である。また、「自主性・積極性」が高く、「学び続ける姿勢」を持つ人材(「対自己基礎力」の高い人材)は、企業規模に関係なく、ニーズが高い。
以上を踏まえて、特に高いニーズの項目に関しては、「○」や「◎」を記している。

(補足)3つの基礎力と人材ニーズとの関連性は、次のように位置づけることも可能であろう。
A. 対課題基礎力…(採用時点での)「必要条件」
B. 対人基礎力…(採用時点での)「十分条件」
C. 対自己基礎力…「成長可能性、将来性」

【備考】
① このルーブリックは、3つのカテゴリが同列に並んでいるが、カテゴリによって評価手法が異なる。
A「対課題基礎力」は、「リテラシー(知識活用力)」分野に関わるものである。したがって、正課科目の多くにおいて、学士力の「汎用的技能」の達成目標として参照できる。この分野は教員による直接評価が可能である。
B「対人基礎力」については、「プロセスを十分に観察すれば教員等が直接評価することも可能である。また、学生の(振り返りを通じた)自己評価・相互評価(間接評価)の指標として活用することも有効であろう。
C「対自己基礎力」については、個人の内面にも関わるものが多いため、一時的観察による直接評価は慎重にすべきである。例えば、教員と学生信頼関係をベースとした1年間を通じた評価であれば意味はあると思われるが、実際には、(振り返りを通じた)学生の自己評価の指標として活用することが適当であろう。
② このメタ・ルーブリックの効果的・効率的な活用方法(実行可能性)については、今後の様々な具体的な場面での活用を通して、ノウハウを蓄積していく必要がある。また、このルーブリックの信頼性に関しては、大學生基礎力テストといった標準テストなどとの関連性を検討する等、多面的な角度から検証していきたい。

2013 年度 9 月 10 日・11 日 産業界 GP 学修評価グループオブキャンパス研修

ジェネリック・スキル育成・評価ワークショップ

(1) ねらい…ジェネリック・スキルを育成するプログラムの実施と評価

- ① 【リテラシーの育成】社会的な問題に対して、課題解決型の思考方法を使って取り組む姿勢を身につける。
- ② 【コンピテンシーの育成】お互いに話し合い、協力しながら成果物を作成する能力を身につける。
- ③ ①と②に関して、ルーブリックを活用することによって、成果物（プレゼン）を直接評価するとともに、ふりかえりによって自己評価と相互評価を行う。

(2) スケジュール

9 月 10 日（火）ワークショップ 1 日目

会場：14 号館 2 階研修室

時刻	内容	備考
12:00	グループ分け，昼食（グループごとに着席）	
13:00	オリエンテーション ・ 研修の趣旨について…GS 育成とその評価 ・ オブザーバー（成田さん）ご紹介 ・ テーマ発表（テーマ：「少子化を解消する方法を考える」）	担当：吉村 & 成瀬 & 山本
13:30-14:20 1st セッション (50min)	「 <u>少子化の原因について自由に考えてみる</u> 」 ① BS についての説明 (5min) ② BS (15min) ③ KJ についての説明 (5min) ④ KJ (15min) ⑤ 発表 (10min) ※1min スピーチ	ブレインストーミング，KJ 法 担当：藤野
14:20-16:30 2nd セッション (130min)	「 <u>与えられた資料を読解・分析し，少子化の原因を探る</u> 」 ① 概要説明 (10min) ② 個人ワーク…資料読解 (20min) ③ 専門家グループ会議…(30min) ④ 休憩(10min) ⑤ グループでのまとめ作業 (40min) ⑥ 発表（学生全チーム）& 質疑応答 (20min) ※2min スピーチ	ジグソー学習法 担当：山本
16:30-16:40	休憩	
16:40-18:10 3rd セッション (90min)	「 <u>めざすべき社会のビジョンを構想し，その方向性を実現するためのアイデアを出す</u> 」 ① 説明 (15min) ② ブレスト&KJ を自由に組み合わせて構想とアイデア出しを行う (50min) ③ 発表（全チーム）& コメント (25min) ※2min スピーチ	担当：成瀬
18:15-19:25	夕食 & 休憩	
19:30-21:30	プレゼン準備「 <u>課題を解決するための具体的な方法を構想しまとめる</u> 」	担当：吉村

4th セッション (120min)	① 2 nd ・3 rd セッションの内容を踏まえてプレゼンの骨子を固める ② プレゼン内容を作成する。 ※プレゼンテーションには必ずパワーポイントを使用する。ただし、これに加えて模造紙等他の表現手段を用いることは可能。	
21:30-23:00	自由時間・交流・入浴	8号館
23:00	就寝	

9月11日(水) ワークショップ2日目

会場：14号館2階研修室

時刻	内容	備考
7:30-8:30	朝食・部屋の片付け	
9:00-9:30	プレゼン準備	
9:30-11:30 5th セッション (120min)	プレゼン「問題を解決するための方法を提案する」 ※ 学生グループ&教員グループそれぞれ発表。 ※ 発表時間は8分以内。 ※ 聞き手は、評価シートにもとづき、評価する。 ※ 適時休憩をはさむ。	担当：成瀬
11:30-12:00	成果物の評価（パフォーマンス評価）…投票・集計・発表	
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:10 6th セッション (70min)	「ふりかえり」 説明（5min） テーマ「この研修を通して身についた力について」 コンピテンシーの項目を一つずつグループで意見交換。お互いの行動についてコメントする。評価者もコメントを述べる。その内容をメモ。その後、時間があればグループ外のメンバーとふりかえり。	担当：藤野
14:10-14:20	休憩	
14:20-14:50 7th セッション (30min)	コンピテンシーについての自己評価 (学生) ディスカッションを踏まえながら、自己評価シートに記入 (教員) アンケート記入	担当：藤野
14:50-15:10 (20min)	・自己評価をグループごとにシェア&グループごとに簡単な報告 ・グループのメンバーに対して評価者からのコメント	
15:10-15:30	まとめ→自己評価シートスキャン→記念撮影→自己評価シート返却→ 片付け→解散	

※各グループに、プロセス評価者がつく。評価者は、プロセスの中でグループ内個々人のコンピテンシーに関する参与観察を行う（ルーブリックにもとづき、個々人の行動を記録・評価する）

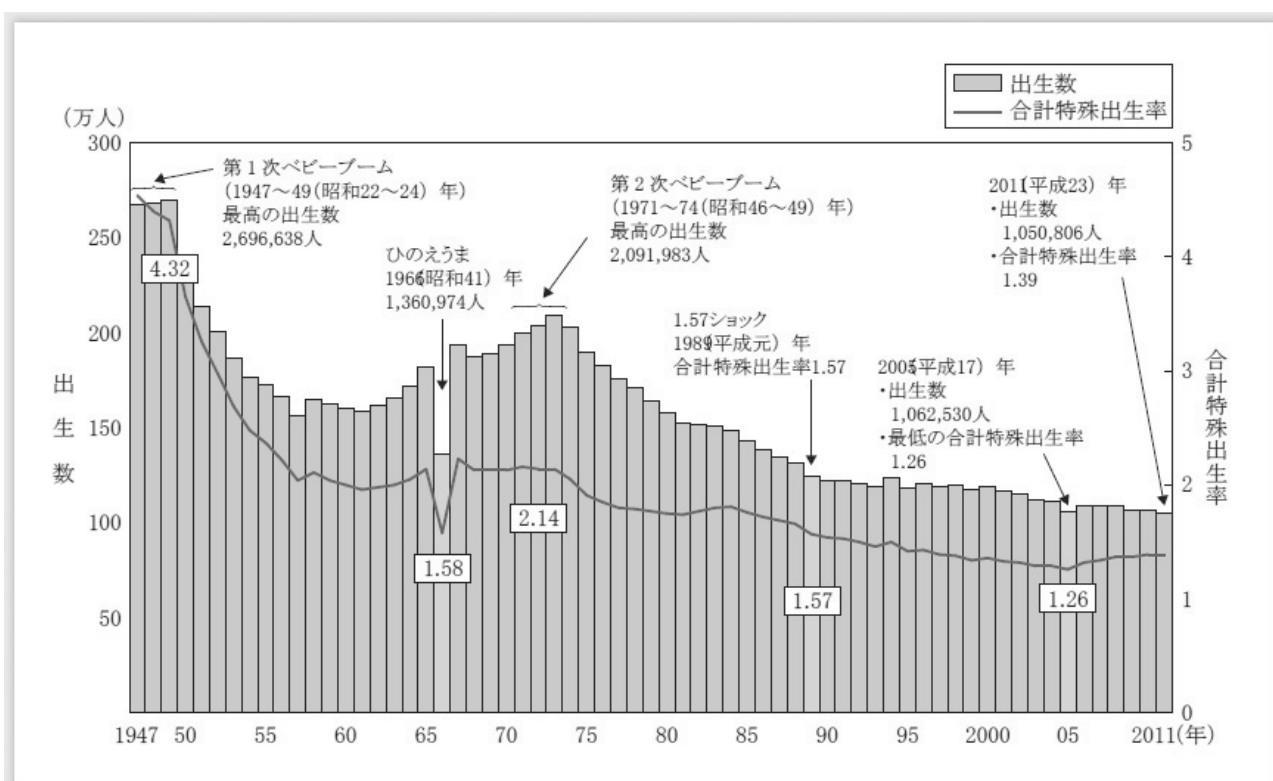
(3) 研修の課題 テーマ「少子化の解消」

我が国の年間の出生数は、下図のとおり、第1次ベビーブーム期には約270万人、第2次ベビーブーム期には約200万人であったが、1975(昭和50)年に200万人を割り込み、それ以降、毎年減少し続けた。1984(昭和59)年には150万人を割り込み、1991(平成3)年以降は増加と減少を繰り返しながら、緩やかな減少傾向となっている。

なお、2011(平成23)年の出生数は、105万806人と前年の107万1,304人より2万498人減少した。

次に、合計特殊出生率をみると、第1次ベビーブーム期には4.3を超えていたが、1950(昭和25)年以降急激に低下した。その後、第2次ベビーブーム期を含め、ほぼ2.1台で推移していたが、1975年に2.0を下回ってから再び低下傾向となった。1989(平成元)年にはそれまで最低であった1966(昭和41)年(丙午：ひのえうま)の数値を下回る1.57を記録し、さらに、2005(平成17)年には過去最低である1.26まで落ち込んだ。

なお、2011年は、1.39(前年同)となっており微増傾向ではあるものの、欧米諸国と比較するとなお低い水準にとどまっている。



出典:厚生労働省「人口動態統計」

(平成25年版 少子化社会対策白書 より)

※ 合計特殊出生率とは、その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを生むと仮定したときの子ども数に相当する。要するに、1人の女性が一生の間に生むと推計される子どもの数のこと。ちなみに、「合計結婚出生率」という用語もあり、こちらは、1組の夫婦が一生の間に産むと推計される子どもの数のことを指す。必然的に、合計結婚出生率よりも合計特殊出生率のほうが、数値が高くなる。

【課題】

「このような状況と、配布する資料をもとに少子化の原因を探るとともに、日本がどのような社会になれば少子化の問題が解決される方向に向かうのかというビジョンをグループで構想し、そのビジョンのもとで、課題を解決するためのアイデア（方策等）を具体的に提案してください。そのうえで、これらの内容を8分間にまとめてプレゼンしてください。」

（４）課題のポイント&評価基準

- ①（情報理解&分析）少子化について、資料をふまえてその原因がきちんと考えられていること（仮説が立てられているかどうか）。ビジョンとアイデアが、資料で示される現実の状況をきちんと踏まえていること。
- ②（課題発見）日本が目指すべき社会の方向性（＝ビジョン）が、「少子化の解消」という観点から見て整合性があり、わかりやすいこと。
- ③（構想）少子化を解消するための目の付け所の良いユニークなアイデア（解決策）を考えること。解決策に関して、現実性や実行可能性を考慮する必要はありません。
- ④（構想）アイデア（解決策）が現実_に成立する際に必要となる条件を様々な角度から考えること。例えば、どういった層をターゲットに、誰（政府、企業、地域、教育機関、個人等）が何をすればよいのか、また、それらが組み合わさった結果、どういう効果が生まれるか、等を考えること。
- ⑤（表現）全体のストーリーが論理的なこと。その内容を明快にプレゼンできること
- ⑥（対自己基礎力・対人基礎力）チームメンバー一人ひとりがチームに貢献し、チーム全体で協力しながら、最終案を作成できること

※詳細な評価基準は、ルーブリックを参照のこと

[ちなみに…]

ビジョンとは何か、具体的なアイデアとはどういうものか。別の分野で例を挙げると、

- ・ 「ビジョン（目的）」…日本一、安全・安心を実感できるまちの実現
- ・ 「具体的なアイデア」
 - （行政レベルだと…）公園や道路の再整備
 - （企業レベルだと…）駐車場・駐輪場の整備、万引きをさせない店舗作り
 - （地域レベルだと…）地域住民が仲良くできる防犯パトロール体制の構想、地域の課題を発見する
 - （個人レベルだと…）犯罪の機会を与えない住宅環境の整備。自転車の施錠、自動車のキーロック

（５）資料概要

資料は5点（1グループ1人ずつ）を当日提示します。

(6) 評価基準

- ・ プレゼンテーションに対しては、教職員および学生の投票によって評価を行う。
- ・ 評価基準は以下のとおりである。

○プレゼンを通して評価する能力①…知識活用力（リテラシー）

	3	2	1	0
1 情報分析	与えられた情報の内容を正確に理解し、現状の原因について、様々な角度から分析を行なっている。	与えられた情報の内容を正確に理解できているが、現状の原因について、様々な角度からの分析が不十分である。	与えられた情報の内容をある程度理解した上で、現状の原因について分析を行なっているが、一面的・表面的である。	与えられた情報の内容の理解が十分ではない。
2 課題の発見	隠れた真の問題や解決すべき真の課題を発見し、それらを解決するための社会的ビジョンを明確に打ち出している。	社会的ビジョンは明確に打ち出せているものの、隠れた真の問題や解決すべき真の課題との関連性が薄い。	社会的ビジョンは打ち出せているが、問題を広い観点から洗い出したり、分析することが不十分であり、説得力が弱い。	社会的ビジョンを打ち出そうとしているが、問題を広い観点から洗い出したり、分析できていないため、不明瞭である。
3 着想	目の付け所の良いユニークな解決策が提案されており、社会的ビジョンと結びついて説得力に富んでいる。	目の付け所の良いユニークな解決策が提案されているが、社会的ビジョンとの結びつきが不十分であり、説得力が弱い。	具体的な解決策が提案されているが、ありふれている。	具体的な解決策が提示されていない。
4 構想	具体的で明確な解決策が立てられているうえ、解決策の必要条件等が様々な角度から考えられており、それらが整理されている。	具体的で明確な解決策が立てられている。解決策の必要条件等も様々な角度から考えられているが、それらの整理が十分ではない。	具体的な解決策は立てられている。ただし、解決策が一面的であったり、条件の整理が十分でなかったりする。	解決策が具体的でなく、曖昧である。
5 表現	ビジョンや解決策をわかりやすく論理的に説明できている。また、積極的に説得的な話し方によって聞き手を納得させられている。	ビジョンや解決策を論理的に説明できている。ただし、説明の方法や話し方の工夫が不十分であり、わかりにくい部分がある。	ビジョンや解決策は説明できているものの、論理的でない部分がある。また、話し方にも工夫が必要である。	ビジョンや解決策に関する説明がわかりにくいという、話し方に説得力もない。

※ この研修を通して、身につけてほしい力の一つは、「課題解決力」（リテラシー）である。リテラシーとは、「知識を使って課題を解決する力」のことであり、仕事をする上であらゆる場面で必要とされる力である。リテラシーは、大学の通常の授業（＝勉強）を通して身につけていくことができる。

○この研修を通じて、相互評価・自己評価によって確認する能力②…コンピテンシー

(A) 課題を解決する力(対課題基礎力)…相互評価・自己評価には含めません

	3	2	1	0
①課題解決・知識活用力	最終的な解決策が、情報分析→課題発見→構想の各プロセスを通じて、議論を積み上げて提示できているだけでなく、多様な角度からも検討できている	最終的な解決策が、情報分析→課題発見→構想の各プロセスを通じて、議論を積み上げて提示できているが、多様な角度からの検討が不十分である。	最終的な解決策が、情報分析→課題発見→構想→表現の各プロセスを積み上げて提示しようとしているが、一部、不十分な点がある。	最終的な解決策が、情報分析→課題発見→構想→表現の各プロセスを積み上げた内容になっていない。

(B) 他者と良い関係を築き、チームで協働できる力(対人基礎力)

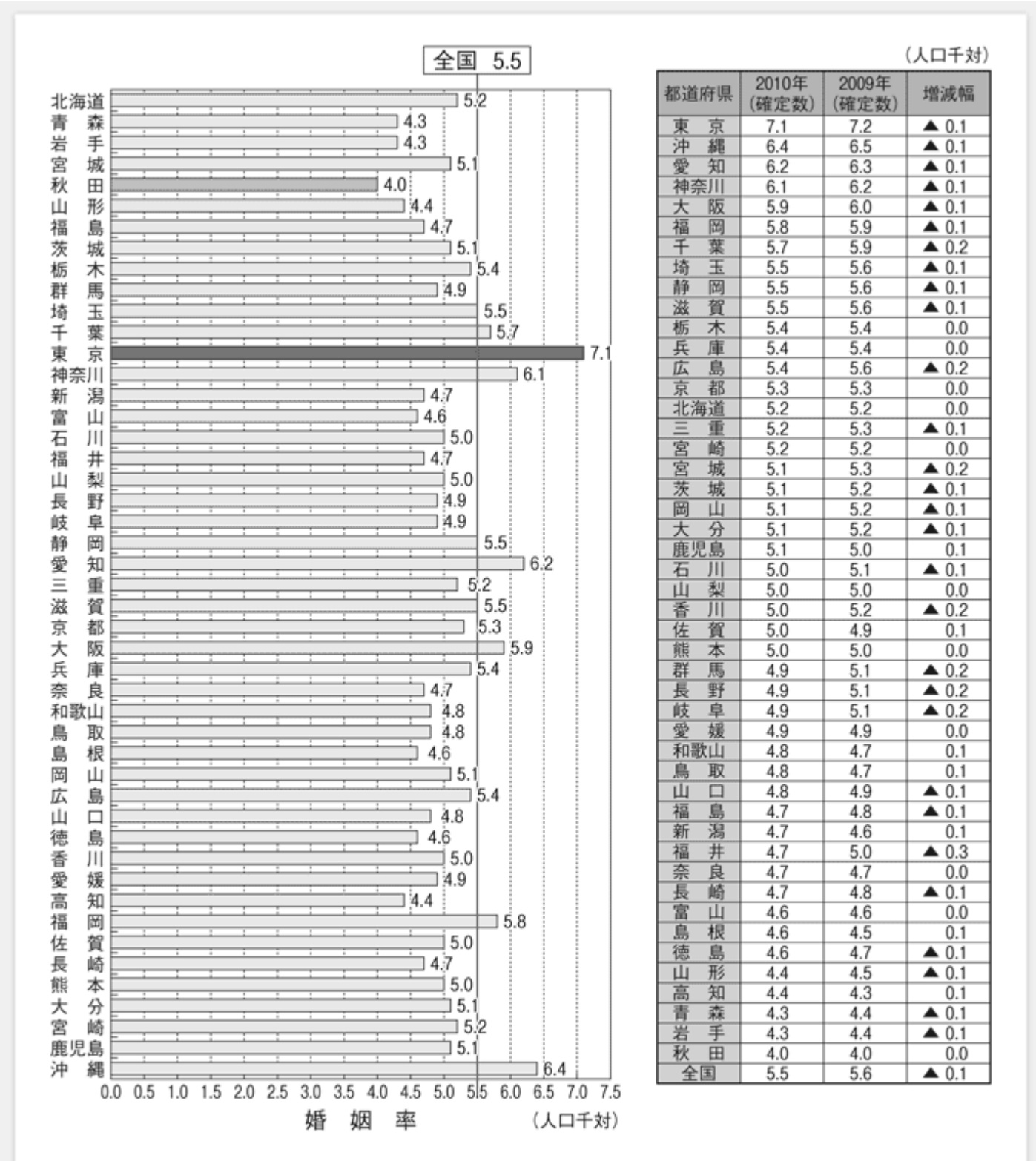
	3	2	1	0
①チーム内の意思疎通と連携行動	チームの中で自分の役割を自分から設定し、他のメンバーと協力しながら行動ができる。また、チームのコミュニケーションを円滑にできる。	チームの中で自分の役割を自分から設定し、他のメンバーと協力しながら、行動ができる。	チームの中で他のメンバーから振られた役割を果たし、他のメンバーと協力しながら、行動がとれる。	チームの中で役割を果たせず、傍観者になってしまう。
②異なる意見の受容	異なる意見を広い視点から理解して受け入れ、それをチームの解決策につなげられる。	異なる意見を広い視点から理解して受け入れ、チームの考え方の変化につなげようとする。	異なる意見に対して、おおむね、相手に耳を傾け、受け入れようとする。	異なる意見に対して、否定的であることが多い。
③建設的な議論の牽引	議論の中で、新たな提案を行い、議論を前進させられる。また、他者と意見が衝突したとき、相手に配慮した調整案や解決策を提示し、妥協点を見つけることができる	議論の中で、新たな提案を行い、議論を前進させようとする。また他者と意見が衝突したとき、相手に配慮した調整案や解決策を提示しようとする。	議論の中で、目標に結びついた提案をしようとする。また、他者と意見が衝突したとき、調整案・解決策を提示しようとする。	ともすれば否定的な意見を言いがちであり、他者と意見が衝突した際に、自分で解決できない。

(C) 自分から積極的に動く力(対自己基礎力)

	3	2	1	0
①モチベーションやストレスの自己調整	ストレスやモチベーションを自分自身でコントロールし、常に前向きな気持で研修にのぞむことができる。	ストレスやモチベーションを自分自身でコントロールし、概ね前向きな気持で研修にのぞむことができる。	自分自身で、モチベーションを上げることが大切だと気づいており、おおむね前向きな気持で研修にのぞむことができる。	ストレスやモチベーションをコントロールできず、前向きな参加ができない。
②自主性・積極性	自分が何をすべきかを、常に素早く判断し、それを積極的に実行することができる。	自分が何をすべきかを自分自身で考えて、それを大体は実行できる。	自分が何をすべきかを自分自身で考えて実行しようとし、一部は実行できる。	自分が何をすべきかを考えることなく、ほぼ、自分から動くことがない。

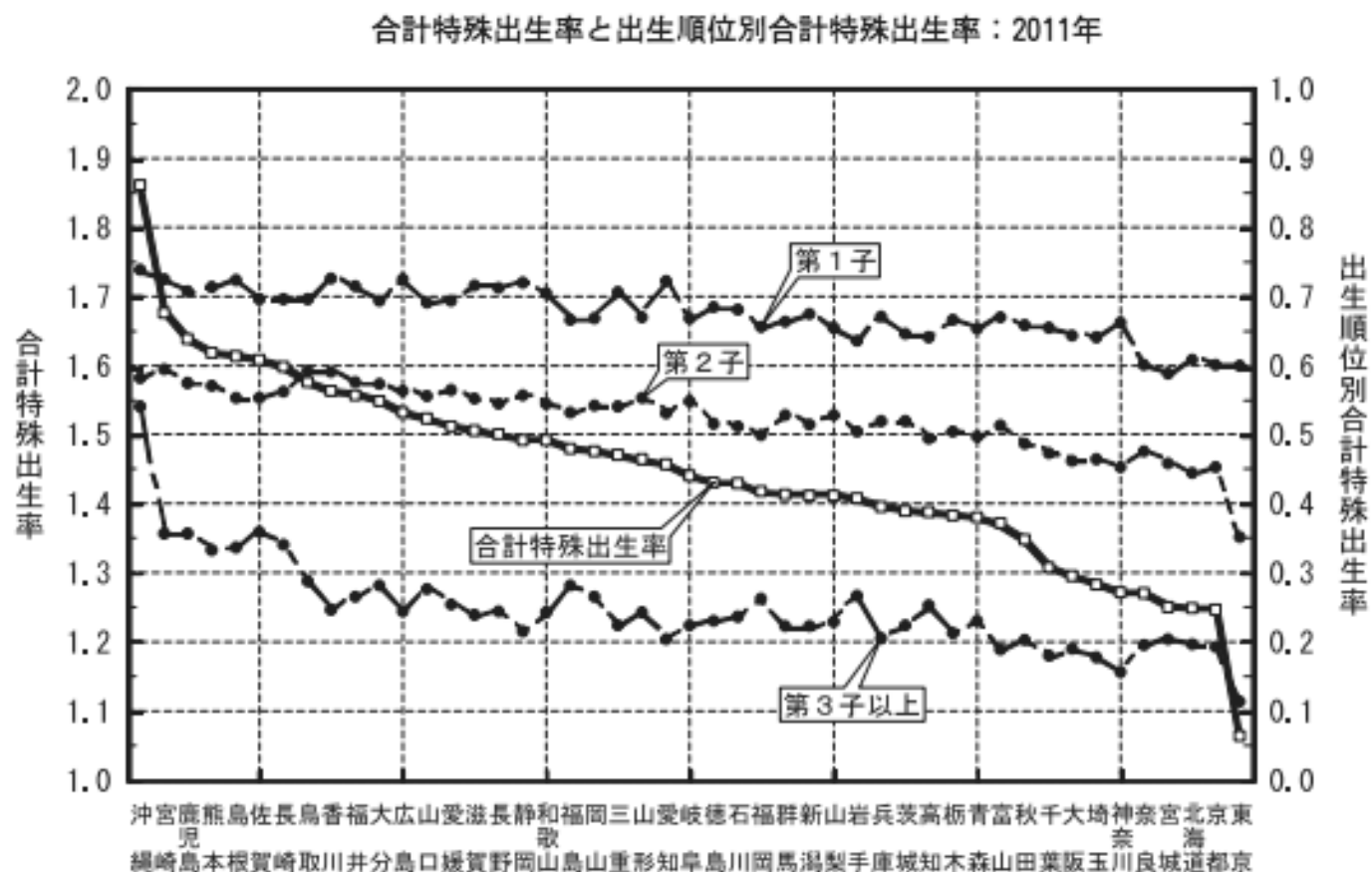
ここまでを事前に参加者全員(学生を含む)に配布

図表 1 - 1 : 都道府県別結婚率



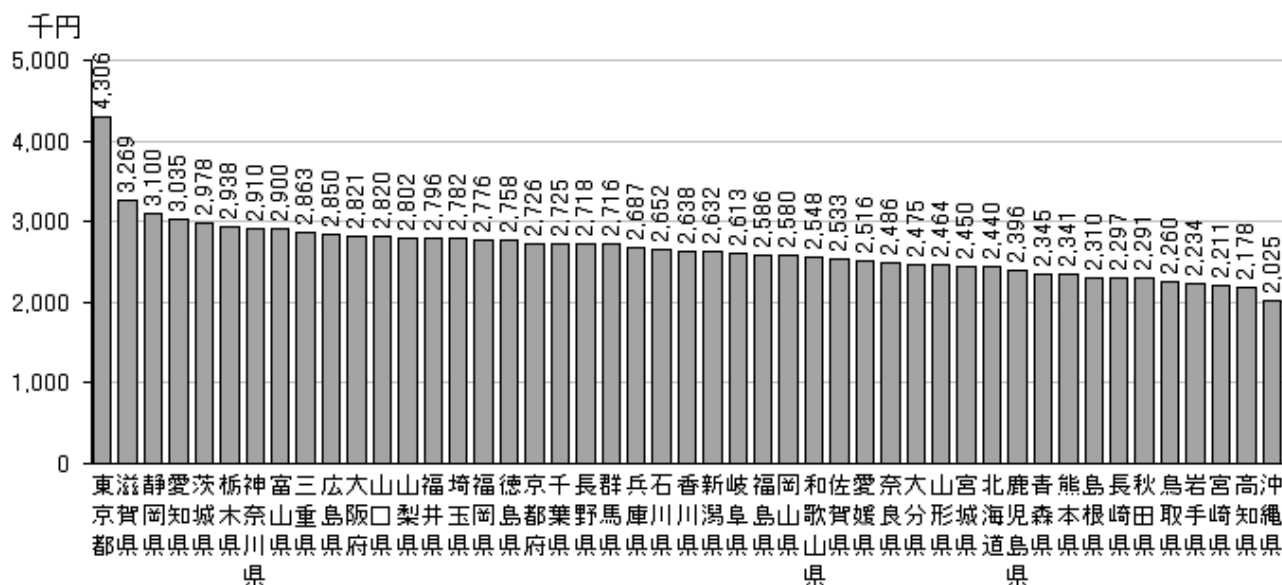
資料：厚生労働省「人口動態統計」(2010年)

図表 1 - 2 : 都道府県別出生率



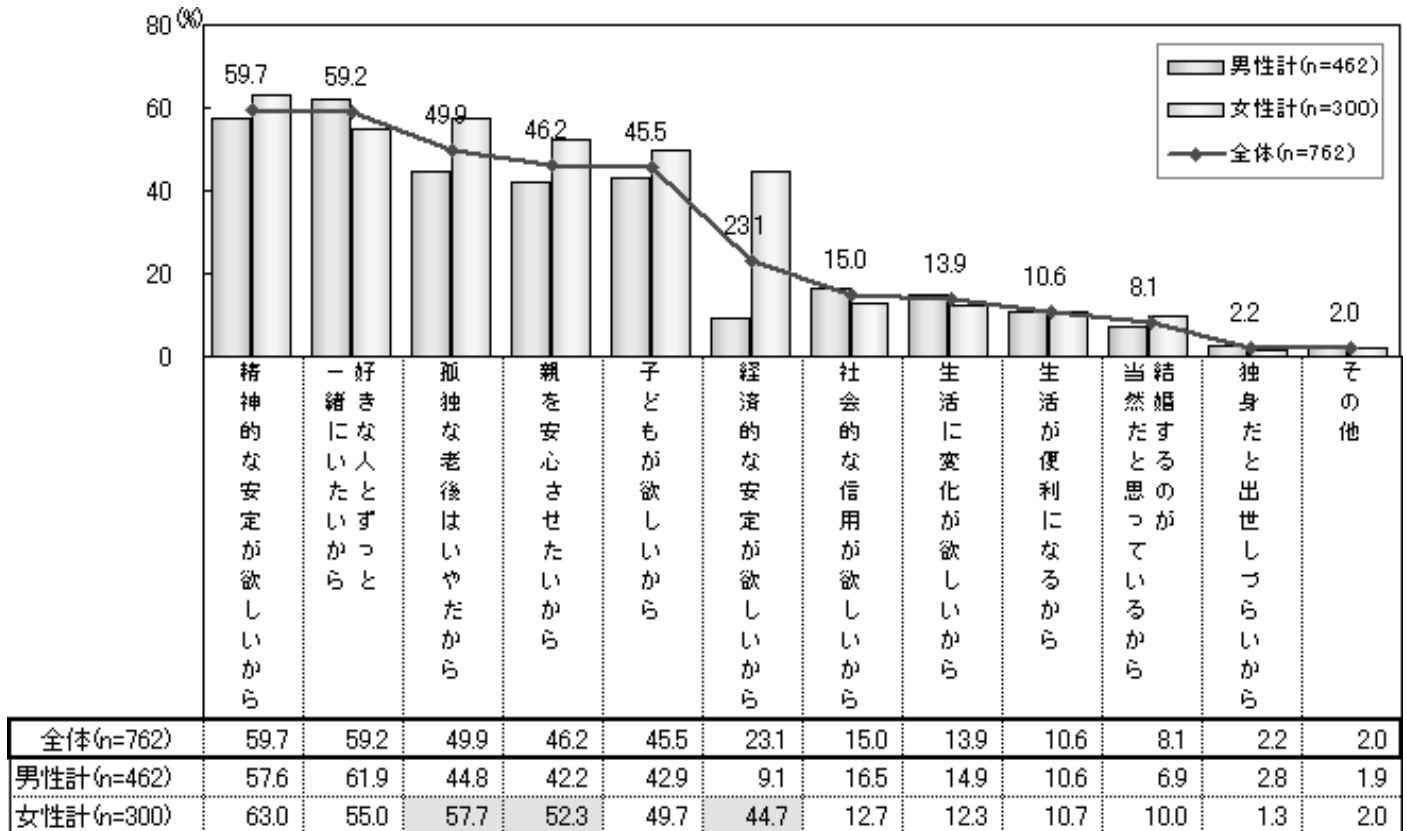
図表 1 - 3 : 都道府県別平均所得

1人当たり県民所得ランキング(2010年度)



(資料)内閣府「平成22年度県民経済計算」

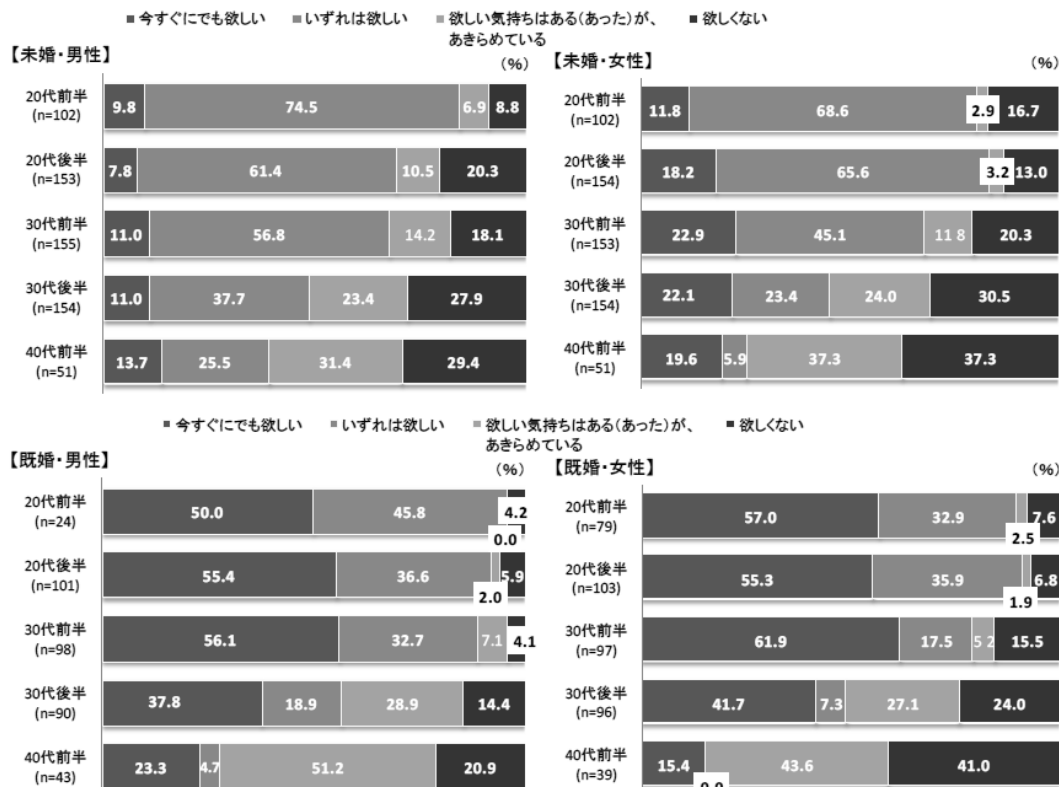
図表 2-1：独身男女に聞いた結婚したいと思う理由について



マクロミル「～独身男女 1000 人調査～結婚意識と婚活に関する調査」より

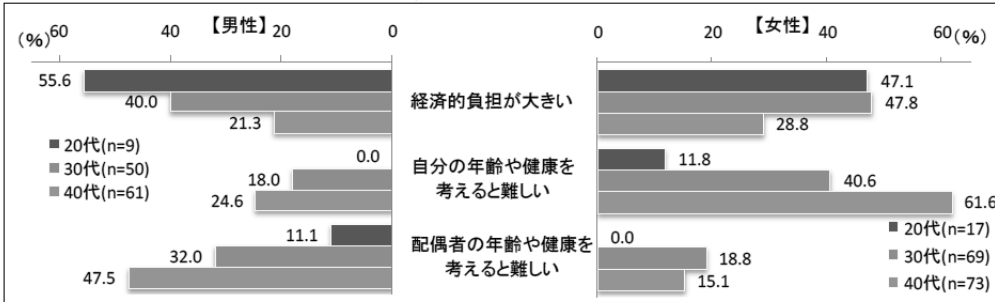
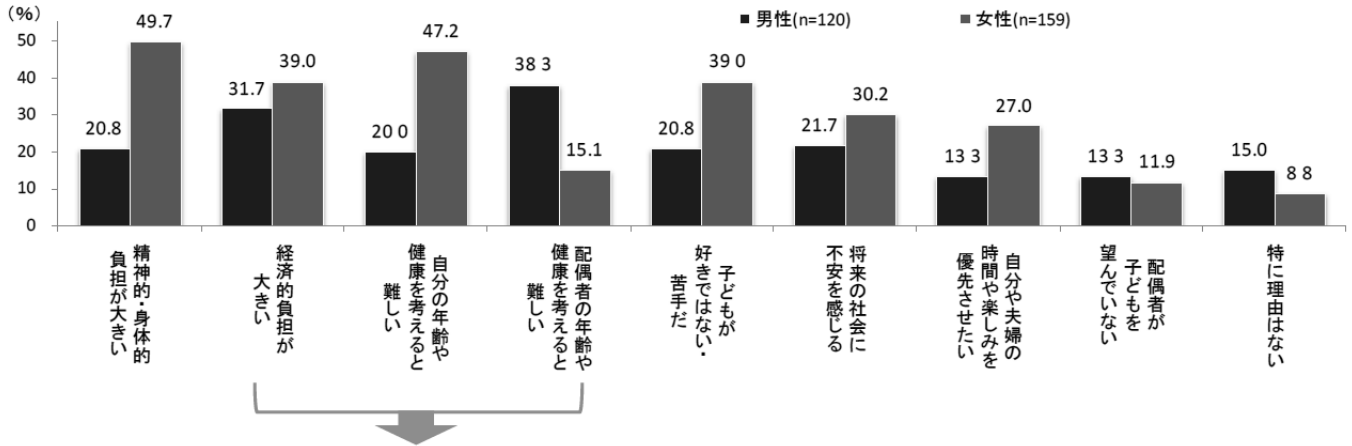
図表 2-2

子どもが欲しいと思うか（子どもがいない人。男女別、配偶者の有無別）



図表 2-3

既婚者の子どもが欲しくない・あきらめている理由（複数回答）

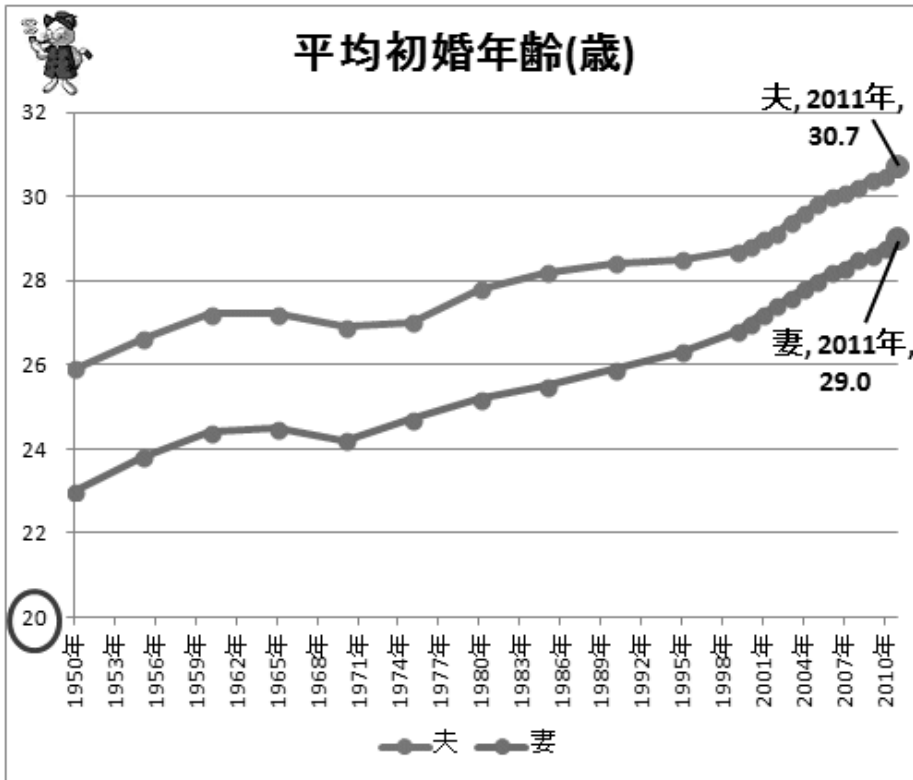


出典、同上

【備考】

35歳以上での出産のことを一般的に「高齢出産」という。高齢出産には、1：妊娠率が下がる（40代では不妊が60%を超えるといわれる）、2：妊娠高血圧症候群などにかかりやすくなる（35歳以上だと14～18%、45歳以降では約29%）、3：ダウン症候群などの染色体異常児が生まれやすい（20代だと0.1%、35歳だと0.3%、40歳だと1%）、4：流産が起こりやすい、といったリスクがあると言われている。

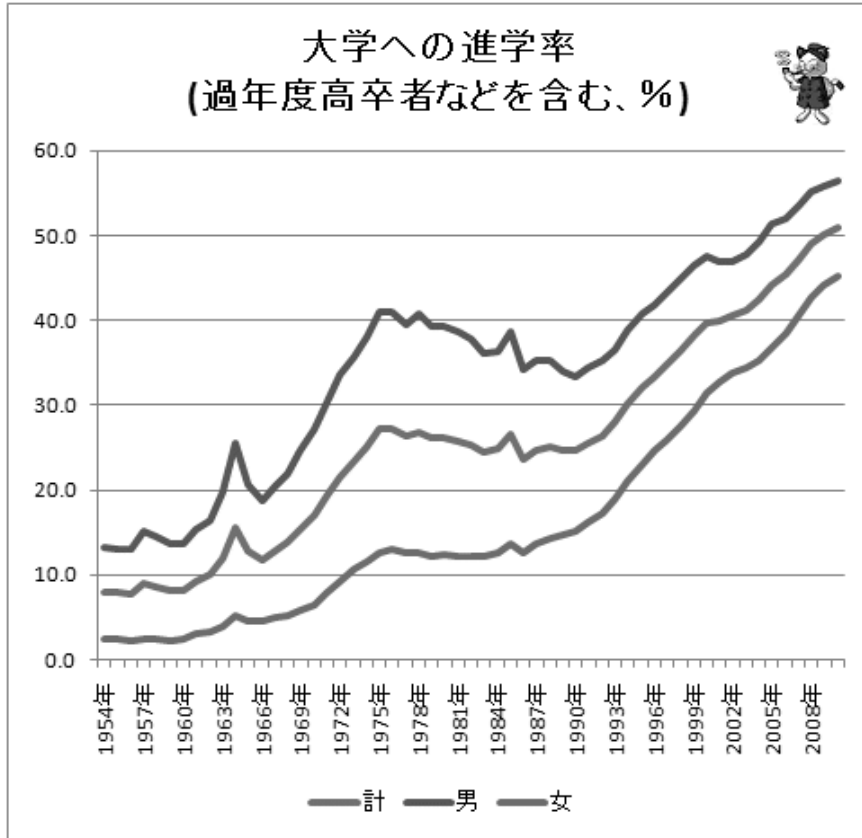
図表3-1



図表3-2 (1000人あたりでその年に結婚・離婚した人数の率。「0.1%」なら、その年は人口1000人につき1人が結婚した計算となる。)



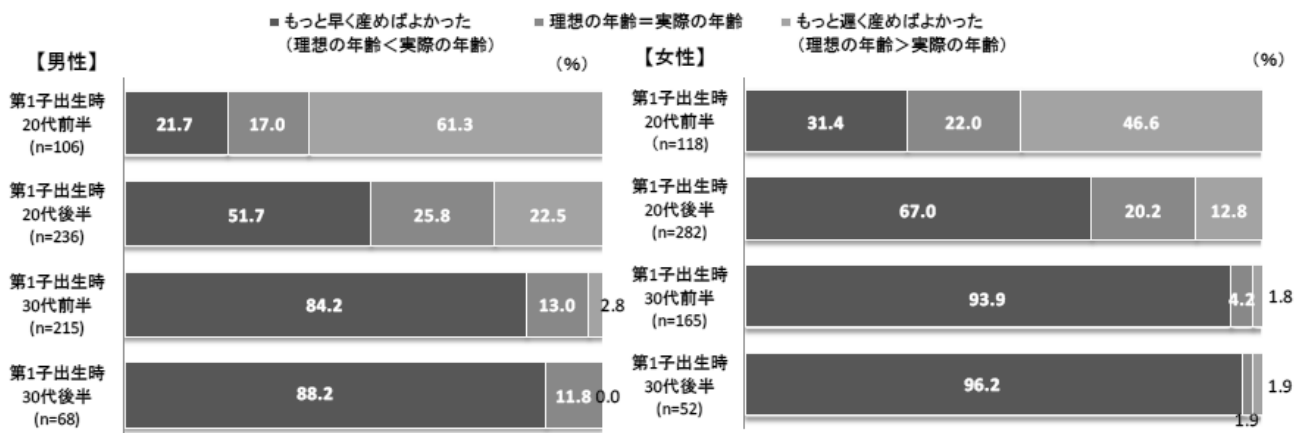
図表 3-3



Garbage NEWS.com 「婚姻率・離婚率変移をグラフ化してみる(1899年以降版)(2013年)」
 (<http://www.garbagenews.net/archives/1892492.html>) より

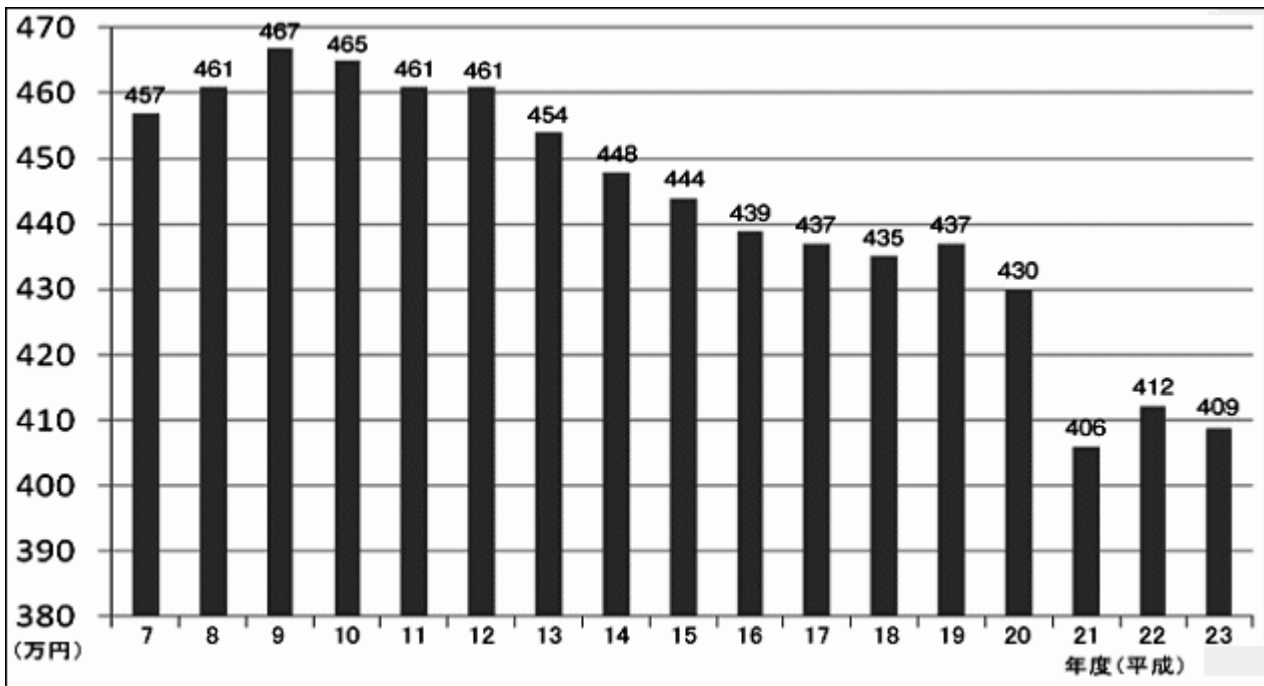
図表 3-4

第1子が実際に生まれた時の年齢と、第1子を産むのに望ましいと思う年齢の関係(男女別、第1子出生時の年齢別)



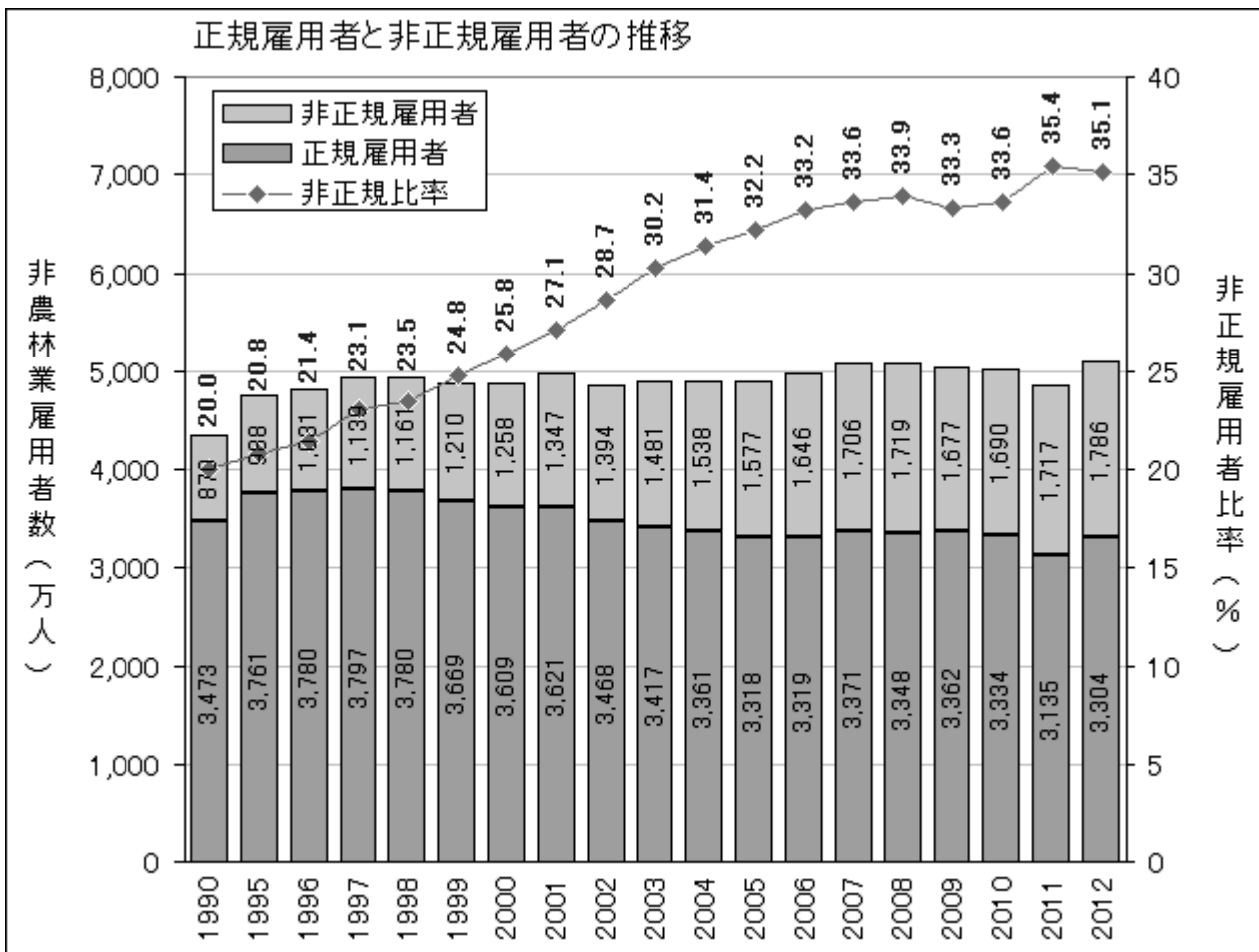
明治安田生命生活福祉研究所「第7回 結婚・出産に関する調査」2013年、より

図表 4-1 平均給与の推移



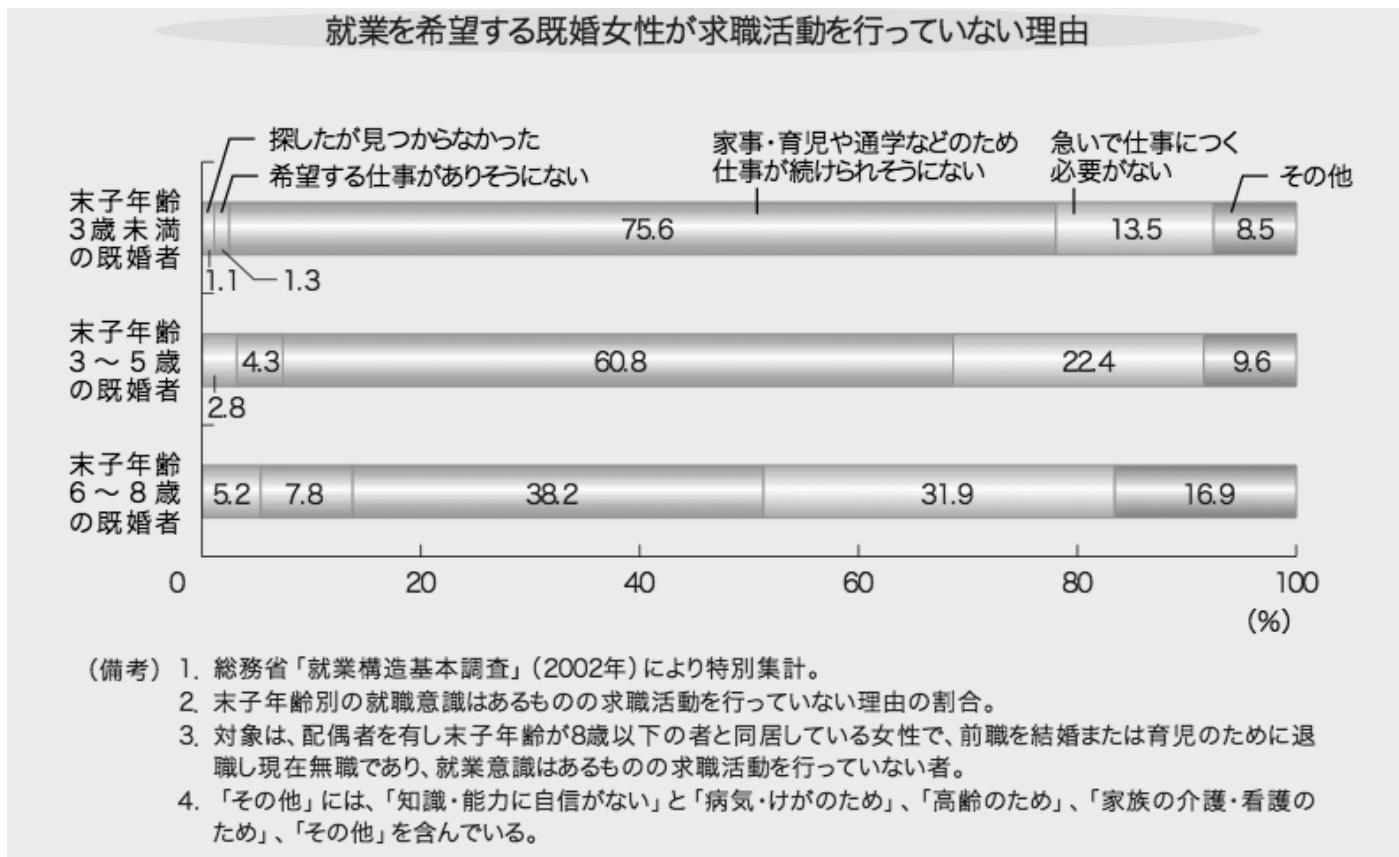
国税庁 平成 24 年 民間給与実態統計調査結果より

図表 4-2



社会実情データ図録 (<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/3240.html>) より

図表 4-3



内閣府『国民生活白書』平成18年より

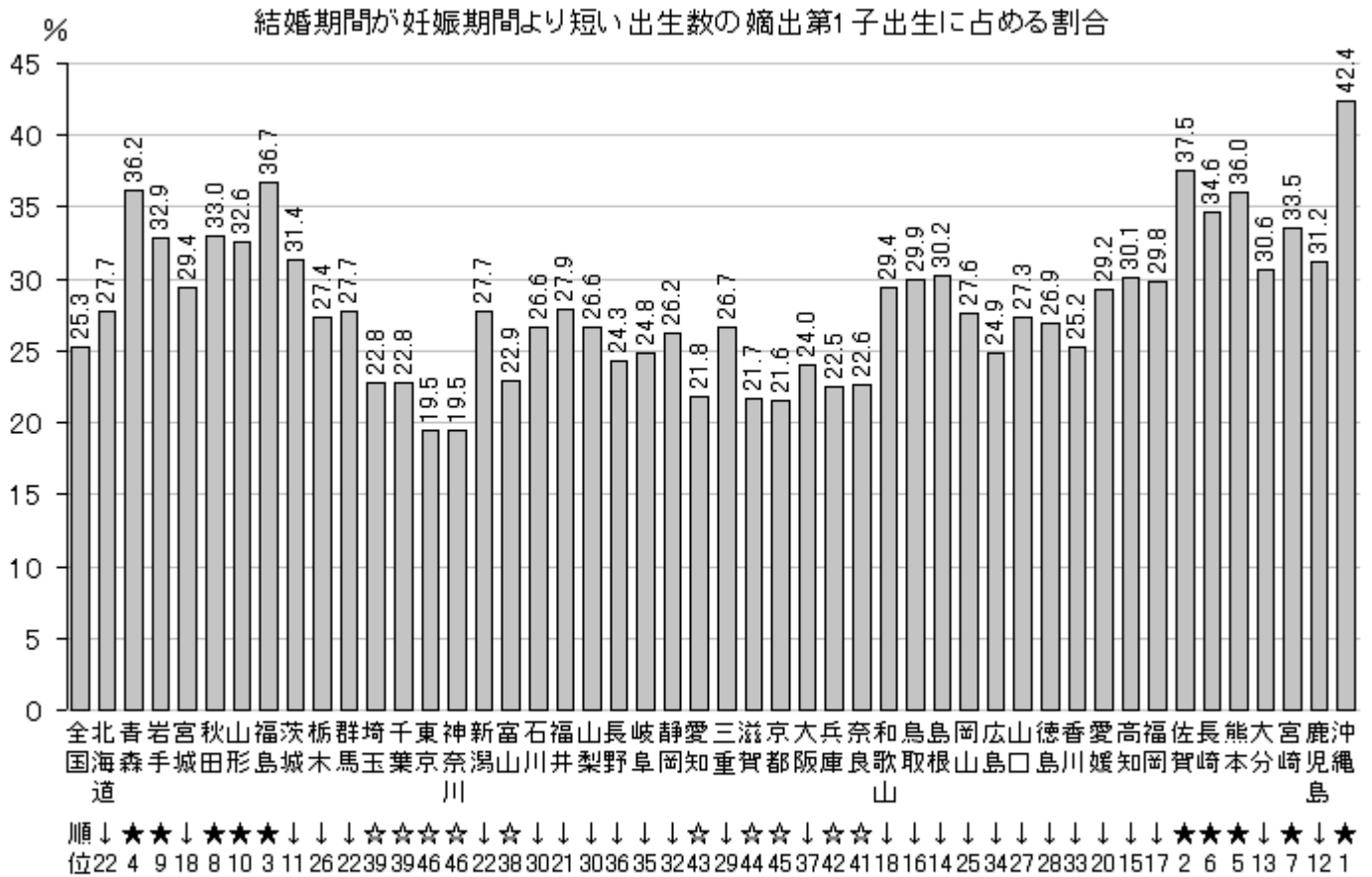
4-4: 男女別育児休業取得率

	出産した女性労働者に占める育児休業取得者の割合 (%)	配偶者が出産した男性労働者に占める育児休業取得者の割合 (%)
2004年度	70.6	0.56
2005年度	72.3	0.50
2006年度	88.5	0.57
2007年度	89.7	1.56
2008年度	90.6	1.23
2009年度	85.6	1.72

厚生労働省雇用均等・児童家庭局「女性雇用管理基本調査」より

図表 5 - 1

都道府県別のできちゃった婚比率(2009年)



ランキング ★: 上位10位 ☆: 下位10位

(資料) 厚生労働省「出生に関する統計(平成22年度人口動態統計特殊報告)」

<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/7270.html>

図表5-1：都道府県別離婚率（2010年）

順位	都道府県	離婚件数	
		総数	人口1000人あたり
1	沖縄県	3,580件	2.57件
2	大阪府	20,752件	2.34件
3	北海道	12,596件	2.29件
4	福岡県	10,952件	2.16件
5	宮崎県	2,415件	2.13件
6	和歌山県	2,077件	2.07件
7	東京都	26,335件	2.00件
8	熊本県	3,623件	1.99件
9	千葉県	12,391件	1.99件
10	埼玉県	14,325件	1.99件
11	宮城県	4,667件	1.99件
12	神奈川県	17,830件	1.97件
13	愛媛県	2,811件	1.96件
14	山梨県	1,693件	1.96件
15	福島県	3,965件	1.95件
16	青森県	2,679件	1.95件
17	鹿児島県	3,328件	1.95件
18	栃木県	3,898件	1.94件
19	鳥取県	1,141件	1.94件
20	香川県	1,928件	1.94件
21	大分県	2,314件	1.93件
22	群馬県	3,865件	1.92件
23	静岡県	7,241件	1.92件
24	愛知県	14,253件	1.92件
25	兵庫県	10,738件	1.92件
26	茨城県	5,693件	1.92件
27	高知県	1,463件	1.91件
28	広島県	5,472件	1.91件
29	京都府	4,964件	1.88件
30	三重県	3,461件	1.87件
31	岡山県	3,626件	1.86件
32	奈良県	2,602件	1.86件
33	徳島県	1,445件	1.84件
34	佐賀県	1,536件	1.81件
35	長崎県	2,515件	1.76件

36	岩手県	2,327件	1.75件
37	滋賀県	2,466件	1.75件
38	山口県	2,531件	1.74件
39	長野県	3,636件	1.69件
40	秋田県	1,795件	1.65件
41	岐阜県	3,395件	1.63件
42	山形県	1,887件	1.61件
43	石川県	1,817件	1.55件
44	島根県	1,110件	1.55件
45	福井県	1,233件	1.53件
46	新潟県	3,438件	1.45件
47	富山県	1,569件	1.44件
	全国	251,378件	1.96件

「都道府県別統計とランキングで見る県民特性」より <http://todo-ran.com/t/kiji/14268>

2013 年度春学期 教養特殊講義 5 (文章表現科目) 第 5 ユニット教材

(第 1 回配布レジュメ)

■ 第 5 ユニットの達成目標

・与えられた課題を適切に読み取り、以下の観点からみて論理的な文章が書けるようになる。

- ①【読解】設問のポイントを正しく読み取れる。
- ②【構想】与えられた課題から書く材料を見つけられる。自分の意見が主張できる。
- ③【論理】根拠をつけて自分の主張を述べられる。

■ 第 5 ユニットの全体の課題 (3 週目に実際に原稿用紙に書く課題)

あなたが大学に進学しようとするのを聞いた叔父さんが次のように言いました。

「どうせ大学に行っても勉強なんかしやしない。それに、大学で学ぶ知識なんて社会で役に立たない。なんで大学に行くんだ？」

この発言に対して根拠を示しつつ 600 字前後で自分の意見を書きなさい。

→この課題に答えるために何をすればよいか？

- ① 情報収集…本やインターネットなどで大学生の勉強時間や大学の勉強の有用性などについて書かれたものを調べる (←この授業では資料を提供します)
- ② 情報分析…集めた情報の内容を分析する
 - ☆ 与えられたグラフ・資料を読み取れる。
 - ☆ 今まで培ってきた読解力が試される！
- ③ 課題発見…資料をもとに、何がポイントなのかについて考える。
 - ☆ 大学生は勉強しないものなのか？ もしそうならそれはなぜなのか？
 - ☆ 大学での勉強は社会で役に立つのか、立たないのか？
- ④ 構想…どのように答えれば、叔父さんを納得させられるかを考える。
 - ☆ 「あなた」が大学で勉強するつもりだとしたら、それはどうしてなのか？
 - ☆ 叔父さんは「あなた」にどうなってもらいたいのだろうか？
 - ☆ 論理的に (=根拠をつけて) 自分の主張 (「なぜ大学に行くのか?」) を述べられる
- ⑤ 表現…自分自身が伝えたいことを的確に伝える文章を書く。
 - ☆ 導入、段落構成等に気を配って、わかりやすい文章を目指す。

→これらの総合力 (日本語リテラシー、知識活用力) が問われる課題！

教養特殊講義 5 第 5 ユニット (第 1 回) (授業案) →担当教員が共有

13:00-13:10 先週の課題の返却

13:10-13:25 課題の説明

- ・ 達成目標…今までの春学期で勉強したことの総仕上げ (学んだことを使って、最後の課題に挑戦する) であることを伝える。
- ・ 課題の内容の説明
- ・ この課題について、どのように考えていけばよいかをレクチャー
「大学生だったら、こういう質問に対して、授業以外でも、リテラシープロセスに沿って調べて考えて答えることを繰り返さなければいけない。それを積み重ねていくと、就職活動の時でも、自分が持っている知識を使って、いろんな質問に対して的確に答えることができるようになるはずだ」

13:25-13:40 グラフ 1・2

- ・ これはわりとすぐにできるはず??
- ・ 折れ線グラフである必要はない。棒グラフでも同じ事は分かることも伝えて良い。

13:40-13:50 グラフ 3

- ・ 日本の大学生は、7 割近く (66.8%) が、1 週間で 5 時間以下しか勉強してない。10 時間以下しか勉強していないのは、85.2%。他方、アメリカだと 5 時間以下は 15.6%、10 時間以下は 41.6% と少ないことを比較できるかどうか、がポイント。
- ・ このように数字を 0% の割合から足していくと、数字の意味がもっと分かることを理解させる。

13:50-14:00 問 3

- ・ グループワークを使うのが一番良いかもしれません。
- ・ ここはあんまり深くやらなくていいと思います。

14:00-14:30 資料 2

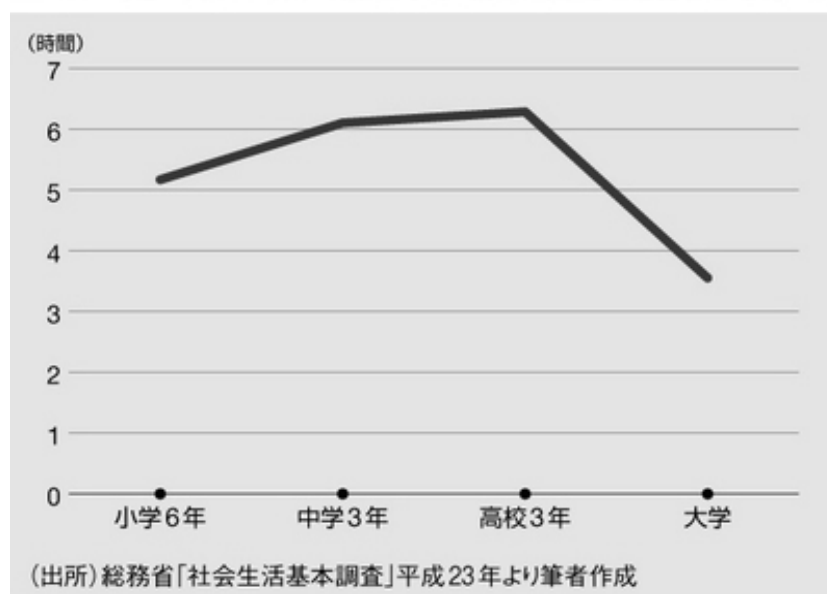
- ・ 日本の学生が勉強しないのは、企業がそれを求めているからだ (=それが筆者の言う構造的な問題) という筆者の主張が理解出来ればよいと思います。
- ・ 賛成か反対かについては、グループワークでディスカッションしてもよいでしょう。

(第 1 回目ワークシート & 資料 : 解答例入り)

学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

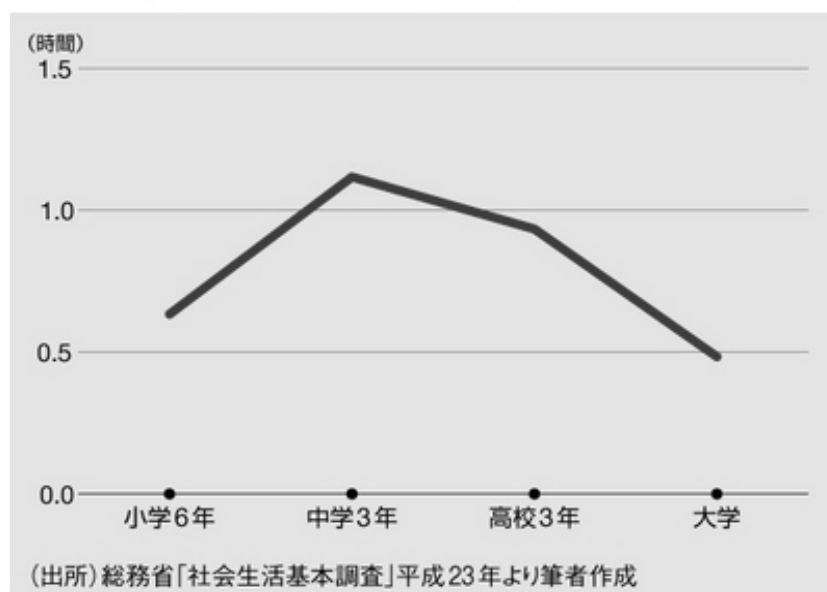
【図表 1】

■ 1日のうち、学業(学校での授業、予習・復習、宿題などを含む)に使う時間



【図表 2】

■ 1日のうち、学業以外の学習に使う時間



出典：辻太一郎「なぜ日本の大学生は、世界で一番勉強しないのか？」(東洋経済 ONLINE)

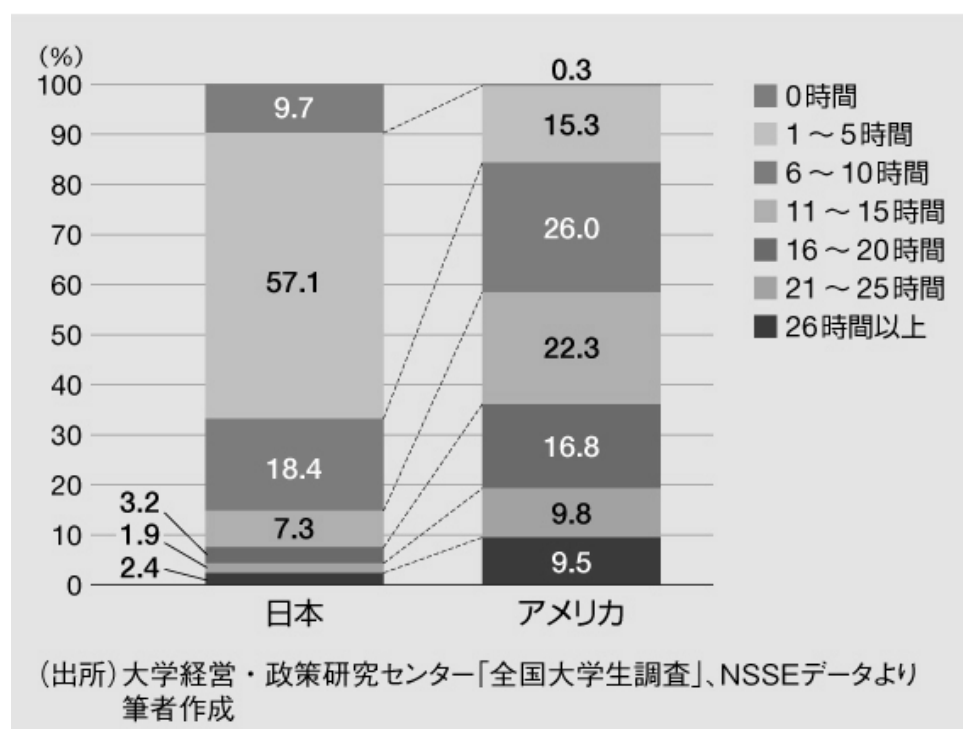
【問 1】この2つのグラフから、大学生の勉強時間についてわかることを述べなさい。

大学生は1日のうち、学業に使う時間も学業以外の学習も、小学6年生、中学3年生、高校3年生よりも短い。

→細かい数字はよりも比較できることが大切です。学業以外とは「学習・自己啓発・訓練」という分類になってます。資格の勉強、読書等のことですね。

【図表 3】

■ 大学生の学習の時間(1週間あたり)



【問 2】 このグラフから、日米の大学生の勉強時間についてわかることを述べなさい。

日本の大学生は全体の 85%が 1 週間に 10 時間以下の勉強時間である。いちばん多いのが「1~5 時間」で、次が「6~10 時間」。まったく勉強しない「0 時間」の人も 10%程度いる。

他方、アメリカの大学生は、まったく勉強しない人はほぼいない。10 時間以下しか勉強していない人は約 4 割。全体から見ると少数派です。逆に、6 割近くの学生が週に 11 時間以上「授業に関連した」勉強をしている。

【問 3】 なぜ大学生の勉強時間はこのようなのか、「仮説」を考えなさい。

- ・ 宿題が出ないから
- ・ アルバイトが忙しいから
- ・ 勉強が面白いと思えないから / 大学の勉強が役に立つと思えないから
- ・ 勉強の習慣がないから
- ・ 学歴社会だから etc.etc..

※時間があればグループワークで議論してもいいでしょう。面白さ、有用性などがでてくれればうまく次の週につながられます。

資料 2 辻太一朗「なぜ日本の大学生は、世界で一番勉強しないのか？」(東洋経済 ONLINE)

日本の大学生は昔から勉強しなかった

実は日本の大学生は、大学へ行くのが一部のエリートだけだった時代はいざしらず、大学が大衆化してから今日まで、ずーっと勉強していませんでした。たとえば、私自身は 28 年前に大学を卒業しています。自慢ではありませんが、大学生時代はまったく勉強した記憶がありません。周りの友人たちも似たりよったりだったので、大学生活とはこんなものかと、当時は特に疑問に思うこともありませんでした。

なぜ「勉強しない大学生」が再生産されつづけるのか

問題なのは、「なぜ大学生が勉強しない状況が、20 年以上も放置されたまま続いてきたのか」です。これがここ数年の新しい現象であるならば、問題の根っこはそれほど深くない可能性もあります。ですが、20 年以上も続いているとなると、どうも構造的な問題が潜んでいる可能性が濃厚です。問題の根っこは、どこにあるのでしょうか？

マジメに勉強しても「得」がない日本の大学生

アメリカ・中国の大学を卒業した方々への聞き取り調査によると、多くの人が異口同音に、次のようなことを言っていました。

「よい成績をとらないと就職で困りますから、みな真剣に授業に臨んでいます」

実は海外の企業は、ごくあたりまえに採用選考で大学の成績を参考にしています。その際に使われるのが、GPA (Grade Point Average : 成績の平均点) で、その名のとおり、各人の成績を点数化したものの平均点です。

海外ではこの GPA を、面接希望者の事前選抜に使っています。以前、中国の学生が教えてくれた例では、ある大学の経済学部の場合、コンサルティング会社 A を受けるには GPA で 〇〇 点以上が必要、メーカーの B を受ける場合 〇〇 点以上が必要というように、企業の採用試験を受ける際の、一種の受験資格のように考えられています。このように GPA を事前選抜に使っているのは、アメリカでも同じです。

そう、海外では、大学の勉強を頑張って成績を上げることに、現実的なメリットがあるのです。GPA が 0.5 点足りなかったがために、行きたい会社の採用試験を受けることすらできない——そうなる可能性があれば、勉強を頑張ろうという気になります。

一方、日本の大学生はどうでしょうか？ 就活で、企業は大学の成績を見ません。面接で聞かれることといえば、「学生時代、特に頑張ったこと」。サークルやバイトに力を入れるようにはなりますが、「勉強を頑張りました」では、話が膨らみませんよね。

こんな状況で、海外の大学生並みに勉強を頑張れと言っても、それは学生に酷というものです。

学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

【問 4】資料 2 の文章の主張とその理由や背景をまとめなさい。また、この資料に書かれている内容について、あなたはどのように考えますか？ まとめなさい

主張

日本の大学生が、今も昔も勉強しないのは、構造的な問題があるからだ。

その理由や背景

- ・ 筆者は大学時代にまったく勉強していないが、それが問題になったことがない。
- ・ アメリカは企業が GPA を参考にしているが、日本の企業は、就活の時に大学の成績をみない。

資料 2 に対する自分の意見

例えば。。

- ・ 賛成論①…大学で勉強した内容が会社では役に立たないから、企業は大学の成績のことを聞かないんだと思う。
- ・ 賛成論②…アルバイトやサークルなどでコミュニケーション能力などを磨いたほうが、会社で役に立つと思う。だから大学の成績を聞かないんだと思う。
- ・ 反対論①…会社によっては筆記試験や小論文がある。勉強したかどうかは結構問われている。
- ・ 反対論②…勉強のことで話がふくらませられないことはない。ゼミの活動などは自分の成長に大きく役だっていくだろうから、そういう話をすればよいはずだ。

教養特殊講義 5 第 5 ユニット (第 2 回レジュメ)

■ 第 5 ユニットの達成目標

- ・ 与えられた課題を適切に読み取り、以下の観点からみて論理的な文章が書けるようになる。
 - ①【読解】 設問のポイントを正しく読み取れる。
 - ②【構想】 与えられた課題から書く材料を見つけられる。自分の意見が主張できる。
 - ③【論理】 根拠をつけて自分の主張を述べられる。

■ 第 5 ユニットの全体の課題 (3 週目に実際に原稿用紙に書く課題)

あなたが大学に進学しようとすることを聞いた叔父さんが次のように言いました。

「どうせ大学に行っても勉強なんかしやしない。それに、大学で学ぶ知識なんて社会で役に立たない。なんで大学に行くんだ？」

この発言に対して根拠を示しつつ 600 字前後で自分の意見を書きなさい。

※この課題に、次の点から考えています。

○先週の課題は？

「大学生は本当に勉強していないのか、またその理由はなぜか」を考える。

- ・ 客観的データから…日本の大学生はアメリカの大学生よりも、そして日本の小・中・高生よりも勉強していない。
- ・ 資料 1 の「仮説」…「日本の企業が就職活動の時に、GPA を評価せず、勉強のことを聞かないから、日本の大学生は、今も昔も勉強しないのではないか？」
- ・ 自分の意見…「」

○今週の課題は？

「大学の勉強は社会に出て役に立つのか、立たないのか？」を考える。

教養特殊講義 5 第 5 ユニット (第 2 回) (授業案)

13:00-13:10 先週の課題の復習

13:10-13:30 資料 1 読解

13:30-13:50 資料 2 読解

13:50-14:10 資料 3 読解

14:10 ワークシート作成

- ・ 今回の授業の狙いは、様々なスタイルの文章を読むことで、色んな角度から、大学の勉強の有用性を考えるヒントになることを狙っています。それぞれの文章を丁寧に読解するというよりも、内容を押さえて、自分の考えを引き出す方を重視したいと思います。
- ・ そこで、読解時間は各文章、それぞれ 20 分程度としました。少し伸びても問題ないと思いますが、最後のワークシートをグループで話し合ったり、BS 形式を取り入れたりしながら、多少アイデアをふくらませた上で、書き込んでもらえるといいかと思います。

よろしくお祈いします！

(第 2 回目資料)

【資料 2】以下の文章は東都大学名誉教授で数学者の林毅のインタビューの一部である。

大学で学ぶ知識が社会で役に立つかどうか、ってそんな質問、ボクからしてみたらアホやなあと思うね。役に立たないにきまつてるやないの (笑)

ボクがやってた数学っていう学問分野はね、問題が解けるか解けないかが分かることが大事でね。解けるって分かった瞬間に、数学者は興味を失うわけですよ。高校までの数学は問題を解いて答えを出すことが数学だと思ってるでしょ。でも学問としての数学は、この問題はホンマに解けるのか、ということが問題になるわけでね。学問としての数学分野の最先端でやってることは、ほとんど実社会の役になんかつたへん。物理学だっておなじ。量子力学なんて 20 世紀前半に確立した分野だけど、じゃあ、量子コンピュータが実現したかということ、100 年近くたってもまだ実現してない。科学者が考えたことが実社会で役に立つのは、100 年後かもしれないし、もしかしたら永遠にわからへんかもしれない。そんな、源氏物語の研究でもなんでも、多かれ少なかれ同じやで。

そもそもね、「役に立つ」ってどういう意味で使ってるのかなあ。それって、「今の社会にとって」って意味やないのかな？ 社会はどんどん移り変わっていくからね。今役に立つと思ってる知識が役に立たなくなる時代もすぐくるよ。そのスピードは結構早いよ。むしろ、今はムダだと思ってるものの中に、将来役に立つ知識になるものがあるかもしれへん。だからね、ボクは若い人には、いっぱいムダなことを勉強せいというの。人生何があるかわからんからね。大学では、むしろオモロイと思うことを勉強して、自分の世界を広げていくほうがずっといいよ。

それにね、一番大事なことを言おうか。そもそも、いろんな物事を「役に立つかどうか」で判断するやつって、絶対人から好かれんよ。「あいつは役に立ちそうだから友だちにしとこ」なんて考えてるやつの周りには、おなじような打算的な人間しか集まらんよね。異業種交流会とかなんとかセミナーとかに集まるやつらって、そんなのばっかりじゃない。逆に、「あいつはオモロイところがあるから友だちになる」って友だちをどんどん作るやつの周りには、オモロいやつが集まるようになってんのや。で、そういう友だちは結局のところ、ほんとうの意味で「役に立つ」友だちになるんですよ。

知識もまったく同じ。要は「これは世の中では役に立たない知識かもしれないけれど、オモロイからもっと知りたい」と自分が心から思えるものを探す姿勢が大事でね、その姿勢こそが、「役に立つ」人間になる第一歩なんですよ。

(出典) 林毅 (注意: 実在しません) 『林センセイは本日休講』 音羽出版

【資料 3】 以下の文章は作家郡ようこの自伝的小説の一部である。

私は、新橋にあるちいさな出版社で編集の仕事をしている。出版社というとなんだか華やかそうなイメージがあるけれど、作っているものは企業のチラシやパンフレットだし、会社の事務所が入っているビルもとても古い。会社には、ガハハとよく笑う太った社長と、細くて背が高いのに腰の低い専務と、社員が5名いる。あとは経理のおばちゃんもいる。社長はいつも景気が悪いとグチをこぼしている。

私は大学では近代文学を専攻した。自分で言うのもなんだが、大学ではわりとまじめに勉強したと思う。卒論は太宰治のことを書いた。でも、友人たちが就職活動をやっていたのに、私はぼおっとしていて、いつの間にか卒業する時期になってしまった。それを見かねた親が、知り合いのつてをたどって、今の会社を探してくれたのだ。

私は特に出版社で働こうなんて考えてなかった。編集の仕事がなんなのかも全然知らないまま、社長から「日本文学をやったんだったら、文章は書けるだろう、ガハハ」といった感じの簡単な面接だけで採用されたのだった。提示された給料はすごく安かった。でも、他に行くところがないから仕方がない。しばらく働いてみようと思った。

仕事はわからないことばかりだった。ある会社の新卒採用のパンフレットをはじめてまかされた時には、途方にくれた。相手先との打ち合わせは先輩が手助けしてくれたけれど、先輩は忙しいみたいで、あとは一人ですすめてくれ、とほうりだされたのだった。

しかたがないので、他のパンフレットを見たり、図書館に行ってデザインの本を調べたりした。あるデザインの本には、「広告とは、目指す相手に届けるメッセージだ」と書いてあった。私はそれまで、パンフレットはきれいな写真と図が入っていたらそれでいいのかと思っていた。だからこの一文を読んでもうむむとうなったのだった。

そこでもう一度、相手の会社の担当者に話を聞いてみた。すると、「ウチは地味だけど作ってる製品もいいし、雰囲気も良くていい会社なんだ」と言われた。ほかにも、「どんどんアイデアを出して自分から動く人に来てもらいたいんだよなあ。ウチみたいな会社が生き残るためには、みんながそんな風に仕事をしないとね」とも言っていた。

最初に渡された資料は、会社の業績とか、その会社が作ってる製品の細かい説明ばかりだったので、私はあれっと思った。

私はその会社で製品を開発している人に話を聞くことにした。メガネをかけた地味な年配のおじさんだった。でも、話を聞くと面白かった。会社のみんなでお酒を飲んでる時に、突如アイデアを思いついたのだそうだ。そこから飲み会を切り上げてみんなで会社に戻って、一気に設計図までつくったらしい。社員はみんな仲が良さそうだった。

こういう会社は小さいけれど楽しそうだなあと思った。だから、パンフレットのタイトルは、「こんな小さな会社だけど未来がある——みんなのアイデアを活かす職場」とした。中身はそこから自然に決まっていた。写真も図も少ないけれど、みんなが何のために仕事をしていて、どんな風に協力しあっているのかを具体的に書いた。開発者のおじさんと若い社員の対談も載せた。大学の友人に見せてダメ出しをしてもらって、直したりもした。

できた案を持って行くと、相手先の担当者は「こういうことを伝えたかったんだよ」と言ってくれた。うちのガハハ社長も喜んでくれた。「やっぱり大学でちゃんと勉強した人は強いね、仕事のやり方がわかってるなあ、ガハハ」と言ってくれた。私は大学でそんな勉強したことないのと思ったけれど、でもちょっとうれしかったのだった。

(出典) 郡ようこ (注意：実在しません)『別人「郡ようこ」のできるまで』紀尾井出版

【資料 4】以下の文章は京都大学准教授溝上新一氏の著作の一部である。

学生が大学での勉強に意欲がわかないというときの理由は、「大学での勉強が将来にどう役立つかわからない」である。しかし、こちらが役立つ理由をいろいろあげても、学生が必ずしも勉強するとは限らないという実践報告はいくつもある。

たとえば、「おつりの計算ができればそれでいいから、方程式や関数といった小難しい数学など勉強する気がしない」と主張する高校生に対して、「知識は実社会のなかでこんなに役立っているのだ」と示したりすることもある。しかし、生徒は結局勉強しない。というのも、勉強しようという気持ちもともとないからである。勉強しない言い訳をしているだけだからである。大学での勉強が役に立つかどうかの議論も、この現象と限りなく似ているのではないか。

とはいえ、もう少し違う角度から検討を続けてみたいと思う。つまり、問いの立て方が悪いのではないかと考えてみたいのである。「役に立つのか？」と聞かれて役に立つ理由をいろいろあげても勉強しないだろうが、大学での勉強が将来に「どうつながるのか」あるいは「どうつなげるのか」という問いにおきかえてみると、話はどうなるだろうか。

(中略)

社会人となって働いている人の多くが、「大学の時もっと勉強しておけばよかった」「大学でもう一度勉強したい」とつぶやいている。それは大学時代に勉強しなかったことの反省でもあるだろうが、それよりもむしろ、社会で働くようになって自分が知りたいこと、知らないことに深く気づいていったからだろうと思う。大事だといわれることだけを勉強すればよかった学生時代と違って、自分の頭でものを考え世界を見ることが求められるのが社会人である。そういうモードに入ると、もっと知りたい、勉強したい、もっと勉強しておけばよかったと思うのは当然のことである。

(中略)

大学や社会で求められるのは、答えがあることを基礎としながらも答えのない勉強である。大学時代に遊びほうけて、社会人になって答えのない勉強をすることができるようになると思うのは幻想である。多くの社会人はなかなか答えのない勉強をすることができていない。それはそういう頭や習慣をつくってきていないからだ。結局のところ、答えのない勉強のしかたは、大学時代から、あるいはそれ以前から、あらゆる機会を通じて、年月をかけて、少しずつかたちをつくっていくしかしようがないものである。

(出典) 溝上新一 (注意：実在します)『大学生の学び・入門』(有斐閣) pp.37-40 をもとに改変。

第5ユニット第2週

【資料2】 ワークシート（教員用）

【問1】 筆者が、大学の勉強が役に立たないと言っている理由は何か？

- ・ 学問の最先端でやっていることは、実社会で活用されるまでに長い時間がかかるため、今の社会では直接役に立たない。
- ・ 役に立つと思っている知識も、社会が変化するスピードが早いため、すぐに役に立たなくなる可能性がある。

【問2】 筆者は、大学の勉強は役に立たないから、勉強する必要があると言っているのか？ またその理由はなぜか？

勉強する必要がある / 勉強する必要がある

その理由

- ・ 役に立つと思われる知識を身につけても、社会が変化したらその知識が役に立たなくなってしまう（例えば、）。しかし、役に立たない、ムダだと思われるものであっても、自分がオモロイ（面白い）と思えることを勉強して自分の世界を広げるべきだと言っている。また、面白いことを探す姿勢が、「役に立つ」人間になる第一歩だと言っている。

第5ユニット第2週

【資料3】 ワークシート設問

【問1】主人公が企業のパンフレットを作成する際に、行った仕事を、次のカテゴリごとに簡単にまとめてみましょう。

(情報収集)

- ・ 他のパンフレットを見たり、図書館に行ってデザインの本を調べたりした
- ・ もう一度、相手の会社の担当者に話を聞いてみた

(情報分析)

- ・ 「広告とは、目指す相手に届けるメッセージだ」という言葉の重要性に気づいた
- ・ 目指す相手に届けるメッセージを考えるうえで、最初に会社から渡された資料では、不十分であると判断した。
- ・

(課題発見)

- ・ 製品を開発している人に再度ヒアリングを行ったところ、その会社で働いている人の思いに気づいた。
- ・ どんどんアイデアを出して自分から働く人に来てもらいたい、というのが会社のメッセージであることがわかった。

(構想)

- ・ 小さいけれど、みんながアイデアを出しあって製品を作るなど、楽しそうな会社の雰囲気や、就職生に伝えるためにはどうすればよいかを考えた。
- ・ 会社で働いている人の思いと、協力関係に焦点を当てることにした
- ・

(表現)

- ・ タイトルを決めた。
- ・ 写真も図も少ないけれど、みんなが何のために仕事をしていて、どんな風に協力しあってるのかを具体的に書いた
- ・ 推敲…大学の友人に見せてダメ出しをしてもらって、直したりもした
- ・

【問2】 ガハハ社長は、「やっぱり大学でちゃんと勉強した人は強いね、仕事のやり方がわかってるなあ」ほめてくれたが、それはなぜか？ 社長は、大学の勉強と仕事のやり方がどうつながっていると考えているのだろうか？

- ・ 主人公は、自分自身で行動して、自分自身で課題を発見し、最終的にお客さんが求めているものをつくり上げる、ということができている。この「仕事のやり方」とは、情報収集→情報分析→課題発見→構想→表現、というサイクルを自分で回すことである（それはこの教養特講の授業で目指していることでもある）。社長は、主人公が大学で勉強をすることで、そうした考え方や行動の仕方を身につけたと考えている。

第5ユニット第2週

【資料4】 ワークシート設問

【問1】 なぜ多くの人は、社会人となって「大学時代にもっと勉強しておけばよかった」と言うのだろうか？ また、大学時代にはどういう勉強をすべきなのか？ 筆者の考え方にそってまとめなさい。

- ・
- ・ 多くの人は社会人になって仕事をしてみて、自分の頭でものを考え世界を見ることが求められることになってはじめて、自分が知りたいことや知らないことに深く気づくから。
- ・ 筆者は、社会で必要とされるのは、答えのない課題に対して自分の頭でものを考え、世界を見ることであると言っている。だから、大学時代に、少しずつ答えのない勉強をして、そういう頭や習慣を作ることが大切だと述べている。

教養特殊講義 5 第 5 ユニット (第 3 回)

■ 第 5 ユニットの達成目標

- ・ 与えられた課題を適切に読み取り、以下の観点からみて論理的な文章が書けるようになる。
- ①【読解】 設問のポイントを正しく読み取れる。
- ②【構想】 与えられた課題から書く材料を見つけられる。自分の意見が主張できる。
- ③【論理】 根拠をつけて自分の主張を述べられる。

■ 第 5 ユニットの全体の課題

あなたが大学に進学しようとするのを聞いた叔父さんが次のように言いました。

「どうせ大学に行っても勉強なんかしやしない。それに、大学で学ぶ知識なんて社会で役に立たない。なんで大学に行くんだ？」

この発言に対して根拠を示しつつ 600 字前後で自分の意見を書きなさい。

※この課題に、次の点から考えています。

○ 第 1 週の課題は？

「大学生は本当に勉強していないのか、またその理由はなぜか」を考える。

- ・ 客観的データから…日本の大学生はアメリカの大学生よりも、そして日本の小・中・高生よりも勉強していない。
- ・ 資料 1 の「仮説」…「日本の企業が就職活動の時に、GPA を評価せず、勉強のことを聞かないから、日本の大学生は、今も昔も勉強しないのではないか？」
- ・ 自分の意見…「」

○ 第 2 週の課題は？

「大学の勉強は社会に出て役に立つのか、立たないのか？」を考える。

- ・ 資料 2 …「役に立つ」知識しか勉強しないのは良くない。むしろ面白いと思うことを勉強して、自分の世界を広げるほうが良い。
- ・ 資料 3 …大学で知識を活用する方法や考え方を身につけると、仕事をする時にも役に立つ。
- ・ 資料 4 …社会では答えのない課題に対して、自分の頭でものを考え、世界を見ることが求められる。大学時代からそういう頭や習慣を作らないと、後で後悔する。
- ・ 自分の意見…「」

○ 今週の課題は？

「大学で勉強する意味」や、「大学の勉強がどのように社会で役立つか」を考え、叔父さんを説得できるような文章を書く。

教養特殊講義 5 第 5 ユニット (第 3 回) (授業案)

13:00-13:10 これまでの課題の復習、レジュメ説明

- ・ 課題文をもう一度説明する
- ・ これまでの資料をレジュメにそってざっと解説する。

13:10-13:30 資料読解、ワークシート作成

13:30-13:40 ワークシート共有・解説

- ・ 資料 4 と内容が重複する部分もあるので、資料 4 を読解した場合には、簡単にすませてもよい。
- ・ ただし、「大学でまじめに勉強すれば将来必ず出世するというわけではないが、勉強しなかった者は出世しないことが多い」というポイントと、「授業の予習・復習、課題などを含めて授業外で勉強すること」が大切というポイントは、押さえたほうがよいと思います。

13:40-14:20 アウトライン作成、原稿作成

- ・ 今回はループリックも一緒に配ってください。
- ・ 字数が 600 字なので、主要な内容は 4 段落程度が適当だと思われます。ただし、内容は、
 - ・ 自分は大学で勉強するつもりがあるのかどうか
 - ・ その理由はなにか
- ・ という内容になります。なので、根拠を 2 つか 3 つ述べていくことになるでしょう。
- ・ アウトライン作成は、グループで相談してもよいでしょう。
- ・ 意見・根拠・勉強しない大学生の現状、勉強の有用性の項目は相互に関連しているので、参考にしたい資料の内容を先に記入して、そこから自分なりの意見に結びつけるというやり方もよいと思います。
- ・ また引用する資料として、自分の意見だけでなく、別の意見や反対の意見も使って(反論して)、自分の意見を補強することも必要、という指示も出してください。
- ・ つまりは、アウトラインの各項目をバラバラに書くのではなく、資料と意見と根拠を結びつけながら、アウトラインを作っていくよう、指導をお願いします。

14:20-14:30 (できた学生から) ピアレビュー

よろしくお祈いします!

(第 3 回目資料)

【資料 5】以下の文章は、京都大学准教授溝上新一氏の文章の一部である。

大学でしっかり勉強することは、どういう意味をもつのだろうか。しっかりと勉強した者が有名大学へ合格する高校までの勉強とは違って、大学での勉強はこの点がわかりにくい。欧米と違って、大学でしっかり勉強したかどうか、基本的なところで就職時に反映されるようになっていない。

しかし最近になって、大学でしっかり勉強した者の卒業後の仕事ぶりや出世度合いがそうでない者と比べて異なることが、いくつかの調査研究で示されるようになってきた。例えば、大学でまじめに勉強すれば将来必ず出世するというわけではないが、勉強しなかった者は出世しないことが多い、ということが明らかになっている。大学時代、クラブやサークル、アルバイトなどを通して人間関係、コミュニケーションを伸ばすことが将来において重要だとよく言われたが、そしてそれらの影響はたしかにあるだろうが、それだけではだめなのである。それに加えて、やはりしっかりとした学習の蓄積が必要なのである。

いま私が関わっているある大学生全国調査で調べてみると、影響があるのは、授業の予習・復習、課題などを含めて授業外でどれだけ勉強しているかである。この結果を敷衍すると、学習を中心にしてどのように一週間の学生生活をマネジメント（設計・管理・運営）しているか、という話につながる。

そもそも大学教育は、高校までのそれと比べて、答えの不確かな世界で教育がなされてきたという特徴をもっている。否、それこそが現実世界の縮図でもある。教育をする限り、答えがまったくないということはある得ない。しかし、高校までの教育と比べると、限定された答えとして、学生の反応を評価できる範囲はぐっと狭まる。

ということは、学生がどれだけ自らの視点で世界を見てものを考え、自分の見方や考えを言葉にして他者に伝えられるか、そのために必要な知識をどこでどうやって身につけるか、そうした一連の学習が大学では本質的に問われているということである。先の卒業生を対象にした調査で、たとえ大学での学習が将来の仕事ぶりに効いていたという結果が出たとしても、その該当者たちは授業によって自分たちは育てられたのだとは思わないだろう。きっと、授業はあくまできっかけで、授業外を通してゆるやかに自分で勉強してきたのだと思うことだろう。

調査が示したのは、自主的に勉強をした学生が力をつけている、そんな結果である。

溝上慎一（みぞかみ しんいち）京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授。京都大学博士（教育学）、「大学新聞 Web Edition」2007/08/25

第5ユニット第3週

【資料5】 ワークシート設問

【問1】 大学で勉強する人とそうでない人の違いはどこにあるのか？

・大学でまじめに勉強すれば将来必ず出世するというわけではないが、勉強しなかった者は出世しないことが多い。

【問2】 筆者は、学生はどのように勉強することが大切だと言っているか？

- ・ 授業の予習・復習、課題などを含めて授業外で勉強すること
- ・ 学習を中心にして一週間の学生生活をマネジメントすること
- ・ 自主的に勉強をすること
- ・

【問3】 筆者は、大学の勉強の中で、社会で役に立つ学習とはどのようなものと言っているか？

- ・ 答えの不確かな世界で、どれだけ自らの視点で世界を見てものを考え、自分の見方や考えを言葉にして他者に伝えられるか、そのために必要な知識をどこでどうやって身につけるか。

アウトライン作成

学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

◆自分の意見

●なぜあなたは大学に行くのか？ なぜ大学で勉強しようと思うのか？

--

●その意見を自分なりにどう理由（根拠）付けするか？ 根拠を2～3つ考えること。

根拠①

--

根拠②

--

根拠③

--

◆資料との関係（根拠の中を含めること）

●資料では日本の多くの大学生は勉強時間が少ないことがわかるが、それに対してどう考えるか？

→ 根拠（ ）と関連

→ 根拠（ ）と関連

●資料では、大学で学ぶ知識は社会でどのように役に立つと述べられているか？ その中で参考になる意見、あるいは反論したい意見はどれか？ 資料の内容のまとめと、それに対する自分の考えを書きなさい

→ 根拠（ ）と関連

→ 根拠（ ）と関連

教養特講5 「大学の勉強は役に立つか」 採点基準（ルーブリック）…10点満点

氏名		得点	
----	--	----	--

■ 書き出しや終わりに工夫がある（1点満点）

◇書き出しや終わりに工夫があり、読者をひきつける文章となっている	1点
◇書き出しや終わりに工夫がない	0点

■ 自分の意見が書かれている（3点満点）

◇大学の勉強の有用性と自分の意気込み等について、自分の意見が明確に書かれている。	3点
◇自分の意見が明確に書かれているが不十分である／意見が不足している	2点
◇自分の意見が曖昧である	1点
◇自分の意見が書かれていない	0点

■ 自分の意見を支える根拠が書かれている（3点満点）

◇根拠が自分の意見ときちんと関連しており、説得力がある	3点
◇根拠と自分の意見との関連性があいまいで、説得力が弱い	2点
◇根拠が書かれているが、自分の意見と関連していない	1点
◇根拠が書かれていない	0点

■ 与えられた資料をふまえている（必ずしも引用していなくてもよい）（3点満点）

◇資料を複数ふまえており、自分の意見を補強するために使われているだけでなく、反対の意見や別の意見等が含まれた内容になっている	3点
◇自分の主張を補強する形で資料がきちんとふまえられている	2点
◇資料をふまえているが、その内容が文脈と合っていない	1点
◇資料をまったくふまえていない	0点

□ 減点対象

◇文字数が540字未満	1点減点
◇誤字・脱字がある	1点減点
◇誤字・脱字が多い	2点減点
◇「です・ます」調と「である」調が混ざっている	1点減点
◇段落わけが不適切である	1点減点
◇自分自身のことを「私」と言えていないなど、不適切な言葉遣いがある	1点減点
◇主述が対応していないなど、文法的に不適切な文章がある	1点減点
◇主述が対応していないなど、文法的に不適切な文章が多い	2点減点

■採点者氏名（)

2013 年度
第 3 回佛教大学 FD 研究会
「基礎学力調査結果報告」

開催日：2013 年 12 月 4 日（水）16：10～

会場：佛教大学紫野キャンパス

常照ホール（成徳常照館 5 階）

発表者：岡崎 祐司（教育推進機構長）

小倉 直樹 氏（株式会社ベネッセコーポレーション）

参加者数：226 名

2013年度第3回FD研究会 基礎学力調査結果報告

日時：2013年12月4日（水）

於教職員連絡会

場所：常照ホール（成徳常照館5階）

【報告】 岡崎祐司 教育推進機構長

小倉直樹 株式会社ベネッセコーポレーション

【概要】

今年度4月に1・2・3回生が受験した新入生基礎学力調査の結果を報告します。本学学生の現状や傾向を共有し、今後の教育の取り組みをめぐる方向性を考える機会にしたいと思います。



所管部署：教育推進課（内線：2331・2335）

2013年度 第3回FD研究会

1. 開催概要

開催日：2013年12月4日（水）16：10～

テーマ：「基礎学力調査結果報告」

会場：佛教大学紫野キャンパス 常照ホール（成徳常照館5階）

発表者：岡崎 祐司（社会福祉学部教授・教育推進機構長）

小倉 直樹氏（株式会社ベネッセコーポレーション）

司会進行：岡崎 祐司

2. 発表＜岡崎 祐司 先生＞

＜小倉 直樹 氏＞

（1）はじめに

本学は、2009年度から新生を対象に基礎学力調査を実施している。また、2013年度からは2回生にも基礎学力調査、3回生にはキャリアアプローチを使った調査を行っている。

今回、2013年4月に行った調査について(株)ベネッセコーポレーションの小倉直樹氏よりその結果と昨年度結果と比べて大きく変わった点についてご報告をいただく。

（2）基礎学力調査報告①

小倉氏より2013年度の基礎学力調査の結果について下記のとおり報告が行われた

シート5には学力調査「国語」の結果を示している。作業療法学科は昨年度、今年度と平均点が下がっており、国語力の低下が伺えるので注意が必要である。

シート6には学力調査「国語」の結果を入試区分ごとに示している。公募制推薦入試や一般入試については大きな変化は見られないが、教育連携校入試については過去2年間、平均点の低下傾向にあるので何らかの対策が必要である。

次に、シート12には各学科の学力調査「国語」の成績をAからD-の段階別にして示している。平均より低いC-以下の層が50%前後を示している仏教学科、中国学科、公共政策学科、作業療法学科は注意が必要で、AからD-の段階についての庄氏はシート4に示している。

シート16には「基礎学力（英語）」の結果を学科別に示している。仏教学科、中国学科については低い段階層の学生が多い結果となっている。

シート18には「基礎学力（判断推理）」についての結果となっている。これは数学

に近い内容となっており就職活動などで求められる数的処理能力を測定したものである。結果については段階値が 1.2 の学生が 40%近い仏教学科、中国学科、歴史文化学科、現代社会学科、公共政策学科、社会福祉学科の学生については判断推理能力を何らかのフォローで向上させる必要があると考える。

シート 24 は現在の 2 回生が 1 回生時との偏差値を比較するために、昨年の国語の結果と今年の日本語理解の結果を示している。資料では、偏差値の高低度合いを示しているのだが、この資料からは中国学科と作業療法学科において低下した学生が多い事が見て取れる。

シート 27 では授業へ寄せる期待について資料の 11 項目から 2 つを選択する調査になっています。その結果を 1 回生時に回答したものと 2 回生時に回答したものとで比較分析を行っています。

全体的に下降傾向にあるのは「5. 説明のわかりやすさ」と「9. 質問に対する丁寧な対応」となっている。

逆に上昇傾向にあるものは「3. 課題・レポートの量の適切さ」となっている。

シート 29 では 2 回生が自習時間をどの程度確保しているかという調査結果になっている。結果は資料の通りとなるが「4. 次週はしていない」と回答した学生が 1~2 割いる学科については、授業で自宅学習を課すなど何らかの仕掛けが必要となる。

シート 38. 39 では 2 回生に入学時のイメージと現在のイメージがどのように変化したかという事を聞いており、その結果をどの項目が上がったのか、下がったのかを示しているのがシート 40 となります。

例えば、歴史文化であれば「興味のある科目の数が多い」についてイメージが上がった事を示している。

逆に、シート 41 では入学時のイメージから考えて悪かった項目についての設問となっている。全学平均を見ると「興味のある科目の数が少ない」「周囲の学生の意識が低い」「キャンパスの施設・設備が不十分」などが高い数値となっている。

この入学前後のギャップの原因は恐らく十分に入学する学部学科の内容について調べたかどうかが大きく影響していると考えられるが、シート 79 では「自分の入学した学部・学科のことは、事前あまり調べず入学してしまった」も関連する調査なので併せてみていきたい

この設問に対して、四割以上の学生が当てはまると回答した学科は仏教学科、中国学科、英米学科、現代社会学科、公共政策学科となりこの 5 学科では学びの内容や方法を考えさせる初年次教育の充実が急がれると考える。

入学の目的については「免許資格取得」の学生が多いのが本学の特徴であるが、免許資格への関心度についての調査結果がシート 76・77 となっているので参考にしていきたい。

シート 43 に戻りますが、ここでは「自分の学部・学科の後輩へのお勧め度」を聞いて

ている。

教育学科、理学療法学科で 50%の学生が「とても勧めたい」と回答しており、非常に高い比率となっている。この要因としては、その学科での目標が明確に決まっている事だと推察される。

この項目について、全学の平均を全国平均と比較すると本学の「とても勧めたい」「まあ勧めたい」を占める割合が 5%程高い結果となっている。

シート 47 では、「困っていること」について質問しており回答の中で端的に結果が表れているところは、作業療法学科の「授業のレベルが高い」についてである。

約 35%の学生が肯定的に回答しているので、授業レベルと学生の学力にギャップが生じている事が伺える。

また「やりたいことが見つからない」についても、中国学科、歴史文化学科、現代社会学科、公共政策学科において 20%以上の学生がそのように回答している。これは、全国平均から比すれば大きな差はないものの、本学の中でも学びの目的を持たない学生が一定数いることがうかがえる。

シート 48 は 2 回生時の成長感について学科毎にまとめたものです。教育学科では進路に対して肯定的な意見が強く出ているし、理学療法学科や作業療法学科では対人積極性の項目で成長実感をあまり持てていない事が伺えます。

シート 56 では現 3 回生に対しての成長実感について聞いており、全体的に 2 回生とは違う傾向が見て取れますのでその要因を検証する必要がある。

スライドが前後するが、シート 53 では、「詳細の満足度」を聞いている。「学部の授業やカリキュラム」では全学平均 58%に対する数値が学科毎に出ているので、その傾向を確認して欲しい。

また、表の下には、今年度の 2 年生と 3 年生の数値を比較しているのだが、全体的に回生が上がるとその満足度が下がっている事が見て取れる。これも、その要因等を調査する必要がある。

スクリーンに投影している資料は、「入門ゼミで身についたこと」について全体の数値を載せており、ここにはプレゼンテーションとディスカッションについて他の設問より成長実感が低いことがうかがえる。

しかしシート 88 を見てみると、プレゼンテーションとディスカッションについて成長実感が低いからと言って、プレゼンテーションとディスカッションの時間を増やして欲しいのではなく、専門領域の時間を増やして欲しいことを希望している。

これは恐らく、プレゼンテーションとディスカッションについて成長実感が低いと感じつつも、受身な学習スタイルを変えられないと言う学生の特徴があり、このような学生への対応を検討しなくてはならない。

「カリキュラムを振り返って (3 年生・2 年生)」と印刷されているシート 89 からを見ると、「もっと文章やレポートの書き方を学びたかった」「専門領域における問題把

握力と解決スキル、知識・技能などを総合的に活用する力を身につけたかった」という項目について、現 2.3 回生とも肯定的意見が高く出ている。

この結果から、学生は何かスキルのような即効的に役立つものを身につけたいと考えている傾向が見て取れる。

ここからは「社会的強み」についての設問となっており、複数の設問で構成されそれを偏差値化している。

まず、シート 59 を見ると、本学全体平均と全国平均を比較している。全国に比して若干低い値を示している。特徴的なのは、「協調性」「共感力」「発信力」「説得力」が全国平均からみても低く、自分への自信度のようなものが足りないのではないかと予測される。

最後にシート 60 は 1～3 年生を比較している。同一学生を 3 年間比較したデータではないので単純な比較とはできませんが、他大学 6,000 名のサンプルデータと比較してみると「協調性」「共感力」「発信力」「説得力」あたりは一定伸びている事が伺える。

(3) 基礎学力調査報告②

引き続き小倉氏の報告に加えて、岡崎先生より下記のように報告が行われた。

今回の調査結果が全てではないが、学生の状況や実態の一側面であることは間違いないので、このデータを教学改革や FD、日々の教育活動の中で活かして欲しいと考える。

また、単にここに出ている数値に一喜一憂するのではなく、その背景にあるものや教員の実感値と重ねながら検討していく必要があると考える。

シート 12 の学力調査「国語」について A から D- の層に分けて示しているが、C- 以下の層については、授業についてくる事が難しい層だと考える。

例えば、私の所属する社会福祉学部を見てみると、C- 以下の層が 4 割を超える数値となっているが、この数値は卒業までの 4 年間で伸ばすべき学力についての有効な手がかりともなる。

シート 24 は、現在の 2 回生が 1 回生時の「国語力」についての偏差値を示した表ですが、これを見ると、大学で 1 年間学んだからと言って必ずしも学力が上がるとは限らないことが見て取れる。

授業と個別指導を上手く組み合わせ、教育していくことが重要だと考える。

シート 27 に「授業への期待」について 1 回生時と 2 回生時の期待感を比較しているものであるが「課題・レポートの適切さ」については、中国学科、歴史文化学科、作業療法学科、看護学科で高くなっている。

また、「目標、内容、評価方法が明らかにされている」については中国学科、英米学科で数値があがっており、学年が進む程理解の度合いが高くなっている事がうかがえる。

シート 29 は 2 回生時の自習時間についてのデータとなっている。総合的に見ると 5

時間未満の学生が殆どを占めており、授業外学習が進んでいない事がうかがえる。また、その背景として私達教員たちが実の学修に導くような課題の出し方が出来ていない事が挙げられ、学生が主体的に学ぶ環境整備が必要となる。

シート33～37には学科毎の大学志望度と学科志望度についてクロス集計した結果を掲載している。

「学びの内容」で学科を選択した学生が多いのは日本文学科、歴史学科、歴史文化学科、教育学科、臨床心理学科、理学療法学科、看護学科である。逆に、私が所属する社会福祉学科の学生の一定数が社会福祉を第一希望として入学してきた学生では無く、そのような場合、「学生は社会福祉を学びたくて入学してきた」という立場に立って授業を進めることは、非常に読み違えていることとなります。

また、そのような学生が一定数いる場合には、その層に対して早い段階で大学の魅力や内容を伝えることが重要となる。

シート82からは入学前教育で身についたことについて設問ごとの結果となっている。シート89からはカリキュラムに対しての設問となっているが、実際は自分が受けた授業への印象を回答していると考えられる。

回答を見てみると「もっと文章やレポートの書き方を学びたかった」といった基礎的なスキルを習得したかったと回答しつつも他方で「専門領域における問題把握力と解決スキル、知識・技能などを総合的に活用する力を身につけたかった」とも回答している。

今回の結果を通して感じるのは、学生を成長させ学生にその実感を持たせることが大学の使命であり、そのような教育を提供するために何をすべきかを考えることがこれからの課題である。

また、今回の数値を単にその高い低いだけで見るのではなく、色々なデータをクロスさせて複合的に分析し、本学教職員がどのような教育を提供すべきかを考える必要がある。

佛敎大学 御中

2013年度 「基礎学力調査」 結果報告

発表用抜粋版PPT

2013年12月4日

株式会社ベネッセコーポレーション
大学事業部：06-6204-1714
担当：小倉直樹



2 調査実施内容の確認

1年 2年 3年 4年

2012
学習力調査
国語
新入生アンケート

2013
学習力調査
国語
大学生基礎力調査Ⅰ
基礎学力
キャリア意識調査
新入生アンケート

大学生基礎力調査Ⅱ
基礎学力
キャリア意識調査
アンケート

キャリアアプローチ
就職向け学力
キャリア意識調査
アンケート

※新入生アンケートは
2012年までと2013年は同じもの

2012年度実績 約9万3,000人

約2万6,000人

約4万6,000人

1 受検者数

■2013年度 学部・学科・学年別

学部・学科	1年生	2年生	3年生
全学	1,633	1,351	1,237
仏教学部	56	58	48
仏教部	66	58	48
文学部	300	214	232
日本文	145	117	123
中国	74	43	40
英米	81	54	69
歴史学部	230	180	167
歴史	141	116	102
歴史文化	89	64	65
教育学部	228	189	190
教育	163	131	148
臨床心理	65	58	42
社会学部	372	308	280
現代社会	230	196	179
公共政策	142	112	101
社会福祉学部	283	264	249
社会福祉	283	264	249
保健医療学部	154	138	71
理学療法	40	38	39
作業療法	47	37	32
看護	67	63	

※1年以内の教習で学習力調査(国語)のみ受検して検定した学生が11名のため、
国語以外の大学生基礎力調査(国語)分は仏教学部は58名

■全体受検率

	1年生	2年生	3年生
受検者数	1,632	1,351	1,237
在籍者数	1,662	1,541	1,558
受検率	98.2%	87.7%	79.4%

■2013年度1年生入試種別内訳

入試区分	人数
一般入試A日程	563
一般入試B日程	335
センター入試(前期)	19
センター入試(後期)	15
公募推薦	416
特別推薦(指定校)	131
特別推薦(法人系列校)	29
特別推薦(4年一貫強化枠)	12
特別推薦(課外活動)	23
特別推薦(教育連携校)	20
AO選抜	22
帰国生枠	1
入門後継者	15
同窓	28
留学生新入学	1
その他	1

3 調査実施内容の整理

1年生向け 2年生向け 3年生向け

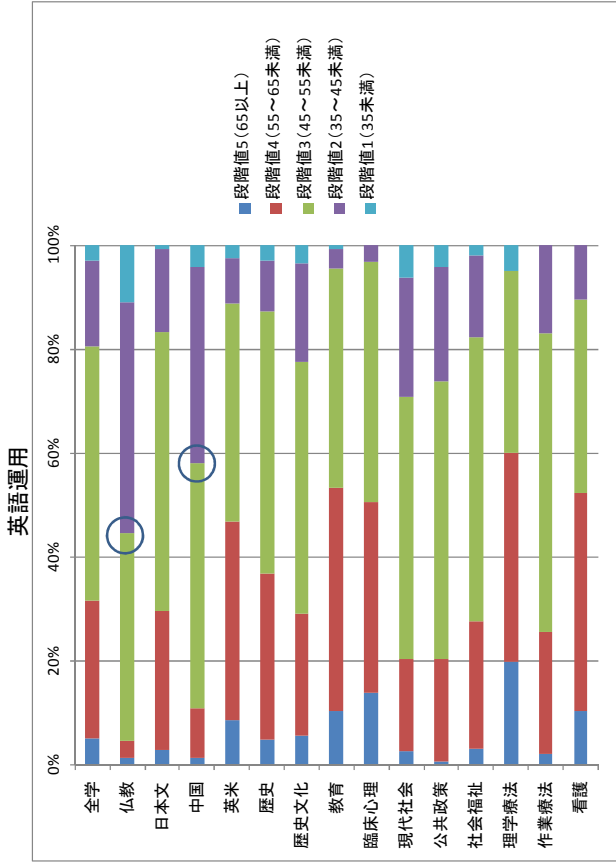
1年生向け	2年生向け	3年生向け
大学生基礎力調査Ⅰ	大学生基礎力調査Ⅱ	キャリアアプローチ
社会的適応力(1・2・3) * 進路に対する意識(1・2・3) * 進路への不安(1・2・3) * 進路への希望(1・2・3)	社会的適応力(1・2・3) * 進路に対する意識(1・2・3) * 進路への不安(1・2・3) * 進路への希望(1・2・3)	社会的適応力(1・2・3) * 進路に対する意識(1・2・3) * 進路への不安(1・2・3) * 進路への希望(1・2・3) * 就職活動への不安(3) * 就職活動へのアドバイス * 能力の強み(3) * 希望する進路(3) * 学部の自分の進路へのお勧め度(2・3) * 詳細の進路度(2・3) * 進路への不安(2・3) * 進路への不安(2・3) * 進路への不安(2・3) * 進路への不安(2・3) * 進路への不安(2・3) * 進路への不安(2・3) *
大学生生活・授業への期待(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) *	大学生生活・授業への期待(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) *	大学生生活・授業への期待(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) * 力を入れた科目(1・2) *
基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) * 基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) *	基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) * 基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) *	基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) * 基礎学力(日本語理解・英語運用)(1・2) *
入学理由(1) * 大学生活への不安(1) * 大学生活に役立った経験(1) * 進路選択の学習習慣(1)	入学理由(1) * 大学生活への不安(1) * 大学生活に役立った経験(1) * 進路選択の学習習慣(1)	入学理由(1) * 大学生活への不安(1) * 大学生活に役立った経験(1) * 進路選択の学習習慣(1)

※同色のものは学年を超えての比較が可能

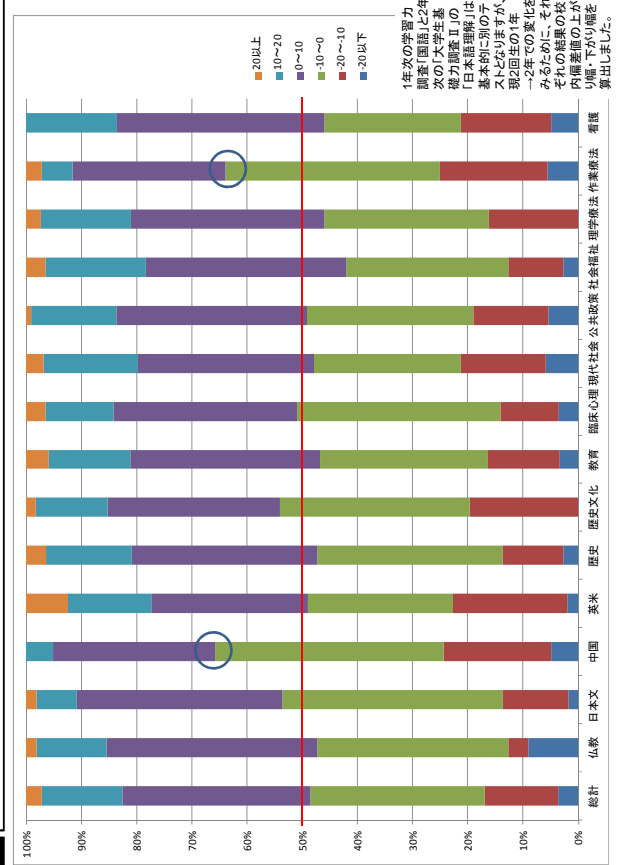
学習力調査(国語)

検定学力・国語 *

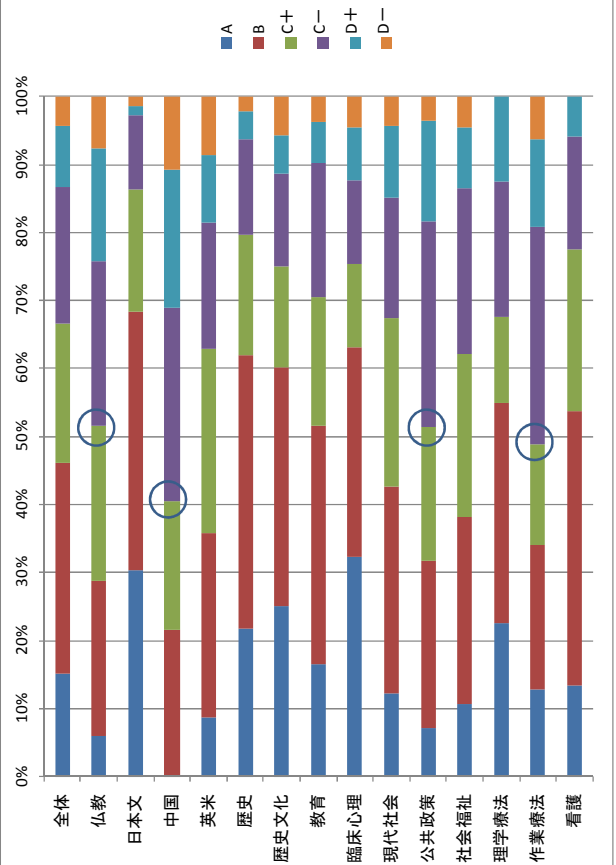
16 大学生基礎力調査「基礎学力」総合 1年生 段階値比率 (2013)



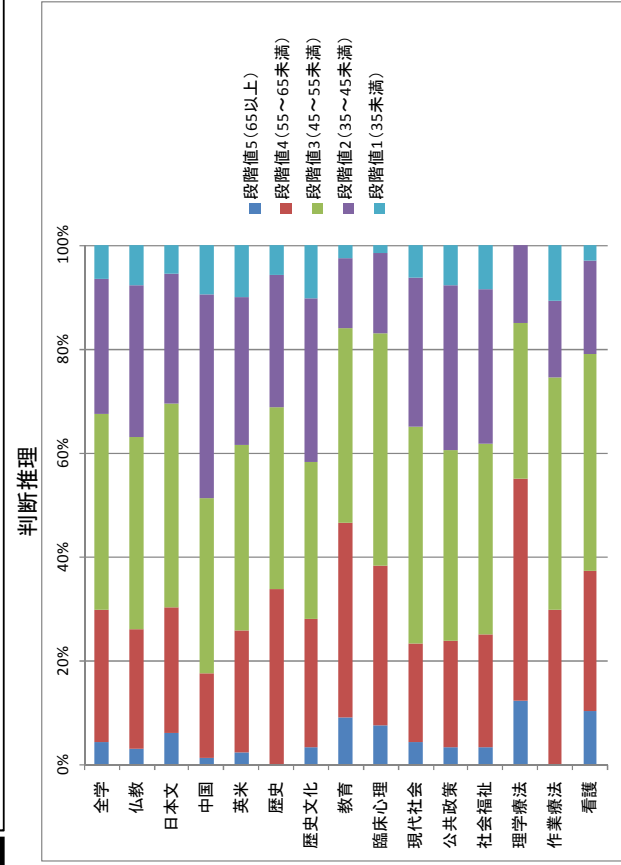
24 2012年度「年次「国語」」→2013年度2年次「日本語理解」 校内偏差値増減



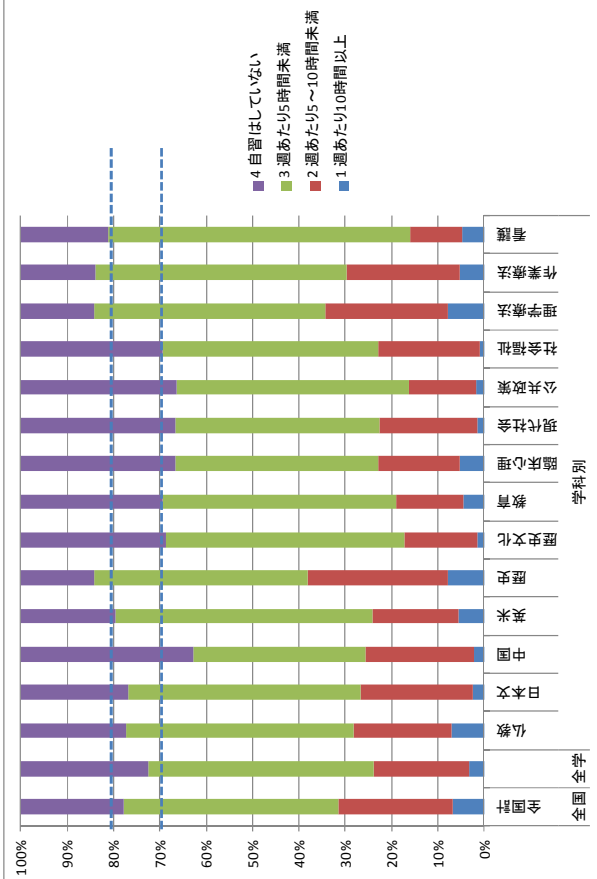
12 各評価ごとの比率 (%) (学科別) 2013グラフ



18 大学生基礎力調査「基礎学力」総合 1年生 段階値比率 (2013)



29 自習時間2年生



38 入学前後のギャップ 2年生

■ 入学前後のギャップ(意識率%)

番号	質問内容	学科別								
		全学	仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化		
1-2	入学前：悪いイメージを持っていた	41.5	45.5	30.4	41.9	49.0	48.7	40.6		
1	良い→想像より良かった	7.9	0.0	3.5	11.6	5.9	6.1	10.9		
2	良い→想像通り	18.6	30.9	19.1	14.0	15.7	19.1	14.1		
3	良い→想像より悪かった	15.0	14.5	7.8	16.3	27.5	23.5	15.6		
3-5	入学前：どちらともいえない	53.2	50.9	67.0	53.5	49.0	47.0	54.7		
4	どちらとも→想像より良かった	23.7	30.9	27.0	18.6	15.7	17.4	25.0		
5	どちらとも→想像通り	20.2	10.9	28.7	23.3	21.6	21.7	23.4		
6	どちらとも→想像より悪かった	9.3	9.1	11.3	11.6	11.8	7.8	6.3		
3-6	入学前：悪いイメージを持っていた	5.3	3.6	2.6	4.7	2.0	4.3	4.7		
7	悪い→想像より良かった	3.1	0.0	0.9	2.3	0.0	3.5	1.6		
8	悪い→想像通り	1.4	1.8	0.0	2.3	0.0	0.9	3.1		
9	悪い→想像より悪かった	0.8	1.8	1.7	0.0	2.0	0.0	0.0		

*全学に対し、選択率が左の数値を超える場合は欄かけ。

27 授業への期待 1年→2年の経年変化

■ 授業への期待(授業満足率、2次選択)

番号	質問内容	年度別												
		全学	国語	英語	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法	
1	目的・内容、評価方法が分かりやすいか	21.1	24.1	20.2	27.9	33.9	18.6	19.0	12.5	25.5	18.3	22.2	18.9	17.7
13-120	差	19.9	31.8	27.7	23.1	25.0	13.3	13.0	19.7	9.3	20.8	20.5	23.1	12.1
2	教員とコミュニケーションがとれる	16.4	19.0	14.0	22.2	4.8	13.9	5.3	6.0	-2.9	3.2	4.7	3.1	-1.9
13-120	差	13.5	12.1	12.1	15.4	13.2	16.7	23.2	17.7	17.3	11.5	10.2	12.9	7.5
3	講師・レポートの量の多い少ない	19.3	22.4	18.4	25.6	18.5	1.9	-2.6	-0.9	-1.2	-0.8	11.6	5.0	14.7
13-120	差	13.5	10.6	19.1	13.5	18.8	16.7	23.2	17.7	12.0	12.8	4.7	11.5	15.0
4	専門知識の豊富さ	5.8	11.8	-0.7	12.1	9.7	2.8	5.4	-3.2	4.1	4.0	11.7	7.6	-6.7
13-120	差	38.6	25.8	36.2	25.0	32.4	55.0	49.5	35.4	44.0	29.6	24.4	46.7	60.0
5	説明のわかりやすさ	46.2	37.9	54.6	48.3	25.9	40.7	46.0	46.6	40.3	40.0	44.7	48.3	46.6
13-120	差	-11.2	-21.2	11.4	-10.6	-32.9	-12.6	-12.0	-9.2	-23.4	-23.8	-6.2	-9.7	-7.8
6	授業のわかりやすさ	9.5	13.6	7.8	13.5	13.2	15.9	15.9	9.2	10.7	9.7	10.9	13.4	18.4
13-120	差	3.4	7.1	3.6	2.8	5.8	2.7	-0.5	-0.9	4.7	4.4	8.5	12.0	
7	授業の満足	11.0	13.6	12.1	5.8	16.2	10.0	13.0	17.0	10.7	7.1	9.4	11.1	5.0
13-120	差	-0.1	-3.3	-1.6	10.5	-5.1	5.3	4.8	8.4	8.9	7.7	10.5	3.4	-2.8
8	クラスメーション、プレゼンテーション	5.9	3.4	5.3	2.3	11.1	5.3	4.8	7.5	2.7	8.4	8.7	2.8	0.0
13-120	差	1.8	3.4	2.5	2.3	9.6	3.6	-1.0	0.9	6.2	-0.7	2.2	0.6	2.8
9	AV機器などに対する丁寧な対応	5.5	3.4	4.4	7.0	9.3	2.7	3.2	5.3	7.1	3.6	5.6	8.4	2.8
13-120	差	15.3	16.7	12.8	32.7	13.2	10.1	18.3	16.0	10.6	14.2	18.8	15.0	7.7
10	AV機器などの効果的な使用	-2.1	-1.3	2.6	2.1	1.9	0.9	1.6	0.8	-11.0	-8.9	-7.0	-10.6	-10.4
13-120	差	1.4	0.0	0.0	4.4	0.8	0.0	0.7	0.0	4.9	2.4	0.0	0.0	2.6
11	授業内容と社会との関わりがわかる	0.7	1.7	1.9	2.3	-2.5	0.1	1.8	0.1	0.0	0.2	0.3	1.9	2.8
13-120	差	16.5	16.7	10.6	11.5	13.2	7.5	7.2	8.2	12.0	30.5	26.3	16.4	7.5
13-120	差	0.3	0.8	3.4	2.5	-3.9	2.2	10.3	5.5	2.3	-6.0	-2.8	6.4	-12.3

入学時の意識に関するご報告

大学・学部・学科志望度クロス表(1)
入学前後のギャップ(2)

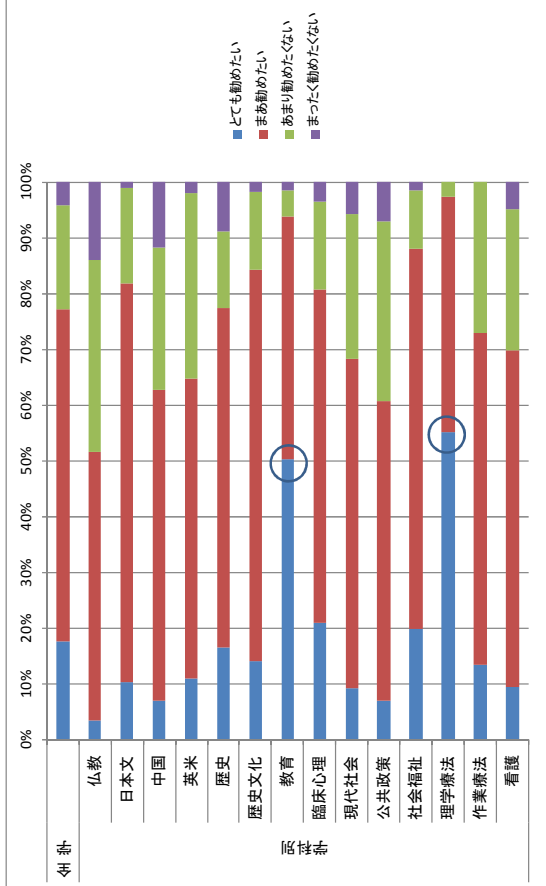
※数字は対応している学年

以下の免許・資格のうち、現在一書に関心があるものは何ですか

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
教員免許状	46%	9%	1%	5%	1%	7%	1%	7%	3%	3%	4%	1%	1%	0%	0%	1%	1%	5%	0%	1%
国家資格司書	46%	9%	3%	7%	0%	3%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	25%	1%	0%	0%	3%	1%	0%	0%
国家資格司書	66%	25%	2%	3%	0%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
中国	53%	14%	1%	1%	4%	1%	0%	5%	3%	1%	3%	1%	0%	1%	0%	3%	3%	4%	0%	0%
英米	79%	8%	2%	0%	1%	0%	2%	0%	4%	0%	4%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	1%	0%	0%
歴史	60%	14%	1%	20%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
歴史文化	35%	14%	0%	41%	3%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	2%	0%	1%	0%	0%	0%	0%
教育	87%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	7%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	0%
臨床心理	62%	12%	2%	0%	0%	3%	11%	2%	2%	0%	2%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	2%	2%	2%
現代社会	48%	12%	1%	5%	1%	0%	1%	3%	0%	0%	2%	0%	1%	1%	0%	2%	0%	23%	0%	1%
公共政策	35%	18%	1%	2%	2%	2%	1%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	0%	3%	10%	20%	1%	0%
社会福祉	21%	1%	0%	0%	38%	3%	29%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	4%
理学療法	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
作業療法	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	94%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	4%
看護	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	82%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

以下の免許・資格のうち、現在二書目に関心があるものは何ですか

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
教員免許状	12%	16%	8%	7%	4%	6%	4%	12%	3%	1%	3%	6%	2%	1%	0%	3%	2%	5%	1%	5%
国家資格司書	16%	19%	7%	5%	4%	0%	1%	8%	1%	1%	1%	7%	9%	7%	3%	4%	0%	5%	0%	1%
国家資格司書	10%	35%	30%	5%	1%	1%	0%	9%	1%	0%	1%	1%	3%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	1%
中国	11%	16%	6%	9%	7%	6%	2%	15%	0%	0%	6%	6%	6%	0%	0%	5%	0%	5%	1%	2%
英米	11%	17%	7%	6%	8%	4%	1%	17%	2%	1%	3%	7%	2%	0%	0%	8%	0%	1%	1%	6%
歴史	12%	25%	11%	26%	11%	2%	1%	1%	0%	0%	1%	3%	1%	1%	0%	2%	1%	2%	0%	0%
歴史文化	11%	33%	7%	25%	4%	2%	0%	3%	0%	0%	1%	4%	4%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	0%
教育	7%	10%	9%	1%	6%	5%	0%	37%	5%	0%	2%	5%	2%	0%	0%	3%	0%	1%	0%	7%
臨床心理	15%	12%	12%	1%	4%	18%	1%	13%	9%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	0%	1%	4%
現代社会	12%	17%	8%	6%	5%	5%	1%	9%	3%	0%	2%	3%	2%	0%	0%	5%	6%	15%	1%	1%
公共政策	8%	12%	4%	7%	5%	3%	1%	7%	1%	0%	1%	2%	2%	0%	1%	5%	15%	24%	1%	1%
社会福祉	16%	6%	2%	0%	18%	13%	1%	13%	1%	1%	2%	3%	1%	1%	0%	0%	0%	2%	4%	15%
理学療法	17%	7%	0%	0%	0%	7%	2%	10%	2%	31%	10%	12%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%
作業療法	6%	4%	2%	0%	0%	8%	8%	6%	26%	2%	13%	11%	4%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	9%
看護	3%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	1%	0%	22%	65%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%

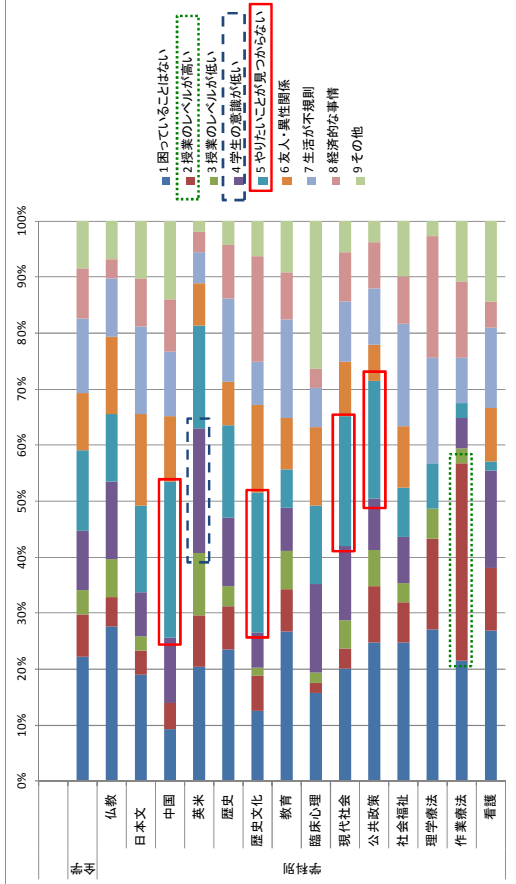


満足度・成長感に関するご報告

充実度(2・3)
 学部・学科の後輩へのお勧め度(2・3)
 詳細の満足度(2・3)
 困っていること(2・3)
 成長感(2・3)

※数字は対応している学年

47 困っていること 2年生



48 成長感 2年生

※全設問の総回答数に占める肯定回答数の割合

■成長感(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別													
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法	看護
1	成長感総合 (以下5項目から「進路」を抜いた肯定回答率)	67.1	65.6	57.2	63.4	68.2	62.7	67.9	71.0	63.8	63.7	59.7	67.9	72.5	59.8
2	自己認識	80.5	76.9	72.9	75.9	81.2	78.3	81.2	80.5	72.9	75.9	72.2	71.9	64.6	46.0
3	対人積極性	52.9	50.0	44.2	52.5	52.6	46.0	54.8	72.2	71.3	70.1	63.6	72.2	71.9	64.6
4	社会理解	63.8	65.3	48.1	53.1	67.2	61.9	63.6	63.8	65.3	48.1	53.1	67.2	61.9	61.9
5	知的活動性	71.0	63.8	63.7	59.7	67.9	72.5	71.0	63.8	63.7	59.7	67.9	72.5	59.8	59.8
6	進路														

■成長感(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別													
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法	看護
1	成長感総合 (以下5項目から「進路」を抜いた肯定回答率)	67.9	71.0	69.6	70.5	69.4	67.1	64.9	67.3	67.9	71.0	69.6	70.5	69.4	67.1
2	自己認識	81.2	82.8	84.2	83.3	82.9	79.8	81.1	80.4	81.2	82.8	84.2	83.3	82.9	79.8
3	対人積極性	54.8	55.3	58.7	60.5	56.1	48.5	49.5	55.0	54.8	55.3	58.7	60.5	56.1	48.5
4	社会理解	72.2	72.8	72.4	74.4	75.6	69.3	71.2	75.7	72.2	72.8	72.4	74.4	75.6	69.3
5	知的活動性	63.6	67.4	70.2	64.9	62.8	57.7	64.9	63.6	63.6	67.4	70.2	64.9	62.8	57.7
6	進路	71.0	64.1	68.2	69.1	63.0	77.8	71.9	69.4	71.0	64.1	68.2	69.1	63.0	77.8

53 詳細の満足度 3年生

■詳細の満足度(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別												
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法
1	学部の授業やカリキュラム	53.2	66.1	69.4	56.9	65.7	67.7	58.5	61.0	54.9	56.3	53.8	53.8	75.0
2	友人との人間関係	66.0	72.1	67.5	70.1	68.0	72.3	67.4	63.9	69.0	59.8	63.1	71.8	81.3
3	教員との関係	47.9	54.5	53.8	52.2	57.0	61.5	53.5	51.0	45.7	52.1	53.2	61.5	82.5
4	就職課、キャリアセンターのサポート	45.8	45.9	37.5	59.7	40.4	58.5	50.1	43.2	58.0	53.6	51.4	38.5	62.5

■詳細の満足度(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別												
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法
1	学部の授業やカリキュラム	54.1	61.0	54.9	56.3	53.4	53.8	58.5	61.0	54.9	56.3	53.8	53.8	75.0
2	友人との人間関係	63.9	69.0	71.8	59.8	63.1	71.8	67.4	63.9	69.0	59.8	63.1	71.8	81.3
3	教員との関係	51.0	45.7	52.1	53.2	61.5	82.5	53.5	51.0	45.7	52.1	53.2	61.5	82.5
4	就職課、キャリアセンターのサポート	43.2	58.0	53.6	51.4	38.5	62.5	50.1	43.2	58.0	53.6	51.4	38.5	62.5

2013年度3年生

番号	質問内容	割合
1	学部の授業やカリキュラム	58.5
2	友人との人間関係	67.4
3	教員との関係	53.5
4	就職課、キャリアセンターのサポート	50.1

2013年度2年生

番号	質問内容	割合
1	学部の授業やカリキュラム	77.2
2	友人との人間関係	77.2
3	教員との関係	57.0
4	就職課、キャリアセンターのサポート	62.9

56 成長感 3年生

※全設問の総回答数に占める肯定回答数の割合

■成長感(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別												
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法
1	成長感総合 (以下5項目から「進路」を抜いた肯定回答率)	64.7	66.7	68.2	65.3	66.9	66.8	64.7	66.7	68.2	65.3	66.9	66.8	66.8
2	自己認識	72.4	70.4	70.8	75.4	70.8	76.4	72.4	70.4	70.8	75.4	70.8	76.4	76.4
3	対人積極性	59.3	60.0	64.2	60.5	59.5	56.2	59.3	60.0	64.2	60.5	59.5	56.2	56.2
4	社会理解	65.3	71.9	66.7	66.7	67.2	70.3	65.3	71.9	66.7	66.7	67.2	70.3	70.3
5	知的活動性	62.0	64.4	58.3	58.5	70.1	64.1	62.0	64.4	58.3	58.5	70.1	64.1	64.1
6	進路	64.1	65.2	61.7	65.3	63.8	62.6	64.1	65.2	61.7	65.3	63.8	62.6	62.6

■成長感(肯定回答率%)

番号	質問内容	学教科別												
		仏教	日本文	中国	英米	歴史	歴史文化	教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉	理学療法	作業療法
1	成長感総合 (以下5項目から「進路」を抜いた肯定回答率)	64.7	66.7	68.2	65.3	66.9	66.8	64.7	66.7	68.2	65.3	66.9	66.8	66.8
2	自己認識	72.4	70.4	70.8	75.4	70.8	76.4	72.4	70.4	70.8	75.4	70.8	76.4	76.4
3	対人積極性	59.3	60.0	64.2	60.5	59.5	56.2	59.3	60.0	64.2	60.5	59.5	56.2	56.2
4	社会理解	65.3	71.9	66.7	66.7	67.2	70.3	65.3	71.9	66.7	66.7	67.2	70.3	70.3
5	知的活動性	62.0	64.4	58.3	58.5	70.1	64.1	62.0	64.4	58.3	58.5	70.1	64.1	64.1
6	進路	64.1	65.2	61.7	65.3	63.8	62.6	64.1	65.2	61.7	65.3	63.8	62.6	62.6

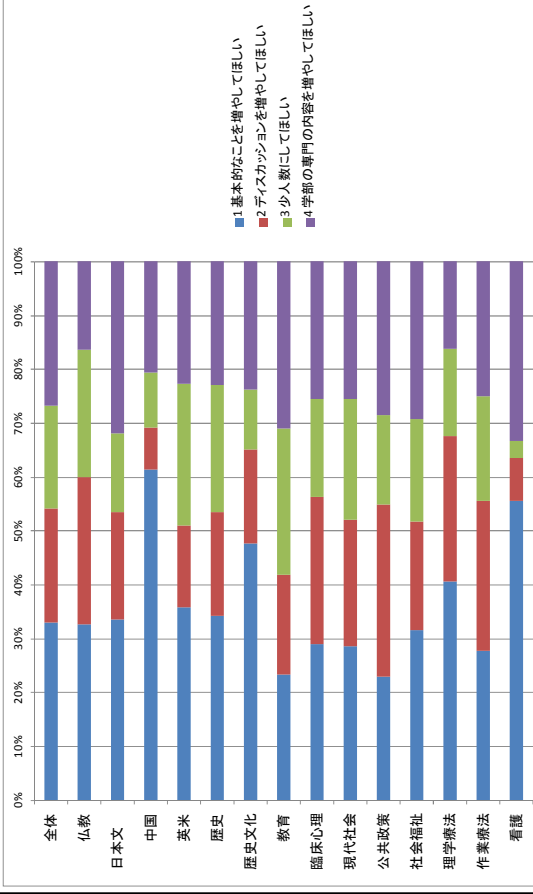
2013年度3年生

番号	質問内容	割合
1	学部の授業やカリキュラム	71.1
2	友人との人間関係	82.3
3	教員との関係	64.6
4	就職課、キャリアセンターのサポート	74.0

2013年度2年生

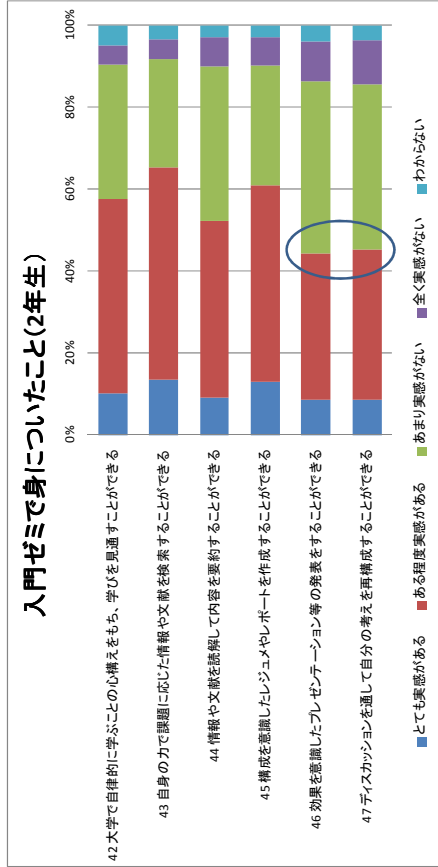
番号	質問内容	割合
1	学部の授業やカリキュラム	77.2
2	友人との人間関係	77.2
3	教員との関係	57.0
4	就職課、キャリアセンターのサポート	62.9

48 「入門ゼミ」についてどう感じましたか

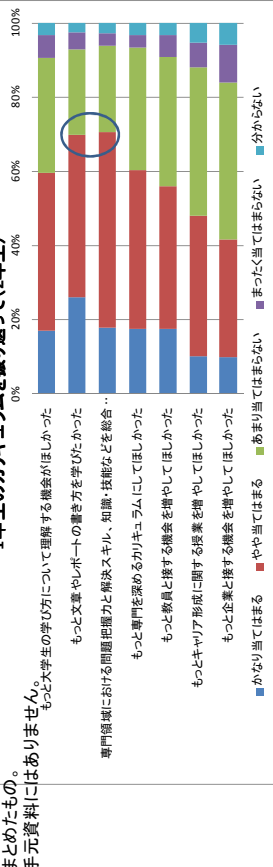


※ スライド88～93の全学部分をまとめたもの。手元資料にはありません。

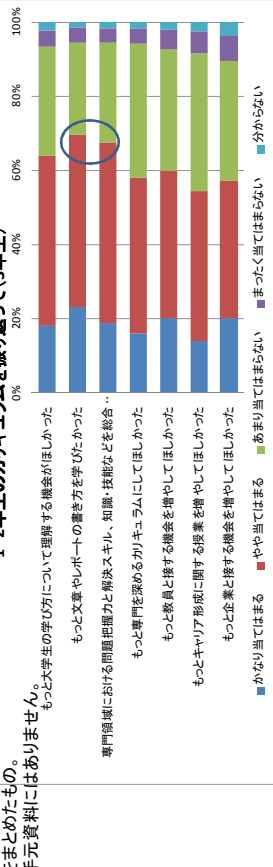
入門ゼミで身についたこと(2年生)



1年生のカリキュラムを振り返って(2年生)



1・2年生のカリキュラムを振り返って(3年生)

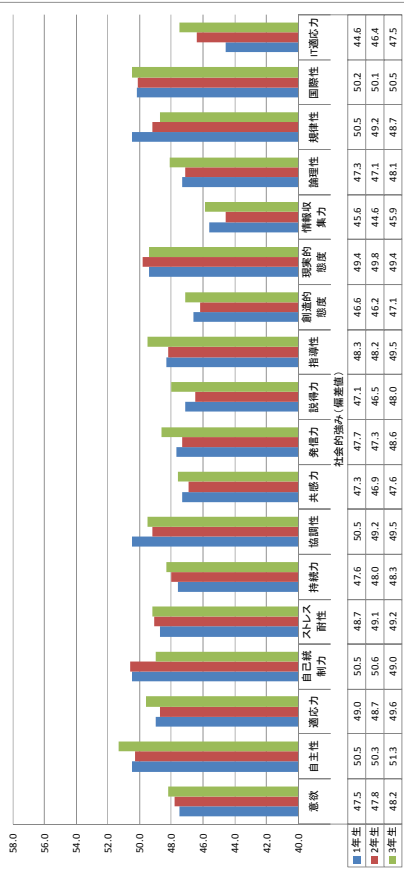


キャリア意識に関するご報告

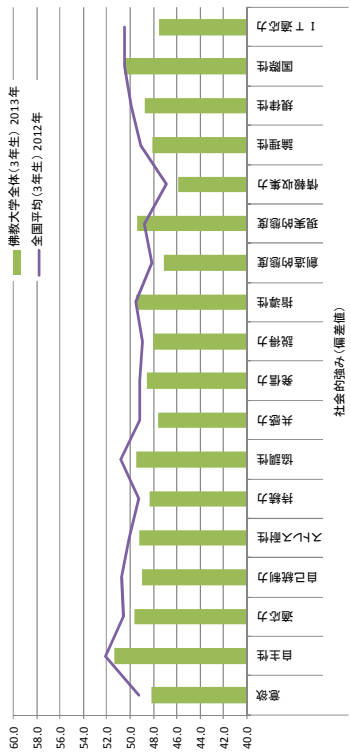
社会的強み(1・2・3)
進路に対する意識(1・2・3)
進路への不安(1・2・3)

※数字は対応している学年

社会的強み(2013年度の1~3年生)

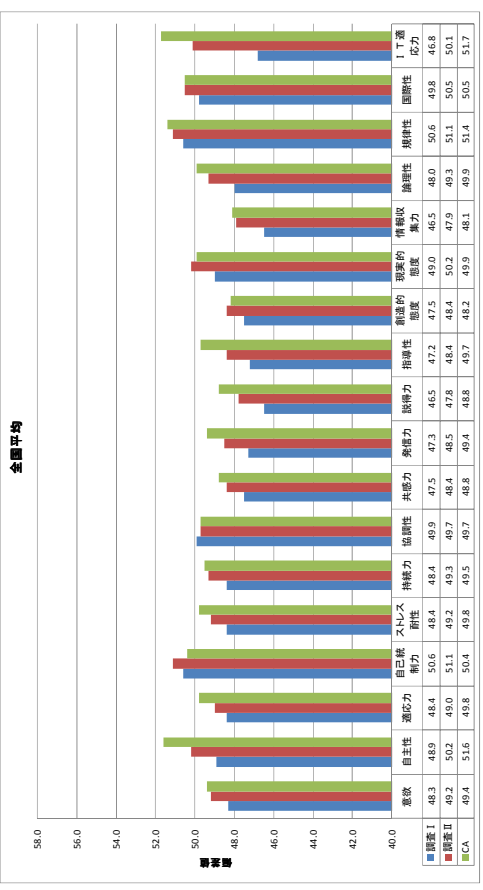


社会的強み(備差値)		2013年		2012年	
受検者数	13年	13年	13年	13年	13年
IT適応力	47.5	48.7	49.4	45.9	48.1
国際性	50.5	48.7	49.4	48.8	49.1
規律性	49.9	48.3	49.5	47.1	48.1
論理性	48.1	49.3	49.5	48.1	48.3
情報収集力	45.9	48.3	49.5	47.1	48.1
現実的態度	48.0	48.3	49.5	47.1	48.1
創造的態度	46.6	48.3	49.5	47.1	48.1
指導性	49.5	48.3	49.5	47.1	48.1
説得力	48.0	48.3	49.5	47.1	48.1
発信力	47.6	48.3	49.5	47.1	48.1
共感力	47.3	48.3	49.5	47.1	48.1
協調性	49.5	48.3	49.5	47.1	48.1
持続力	48.3	48.3	49.5	47.1	48.1
ストレス耐性	49.2	48.3	49.5	47.1	48.1
自己統制力	50.7	49.0	49.2	48.3	49.5
適応力	50.6	49.0	49.2	48.3	49.5
自主性	51.3	49.6	49.9	48.3	49.5
意欲	48.2	49.3	49.5	48.1	48.3



【参考】社会的強み 全国 同じ母集団での3カ年比較 (n=6516)

調査対象	学部・学科別		
	全学	人文	経済・経営
CA(2012年)	6,516	1,257	2,241
大学生基礎力調査Ⅱ(2011年)	6,516	1,257	2,241
大学生基礎力調査Ⅰ(2010年)	6,516	1,257	2,241

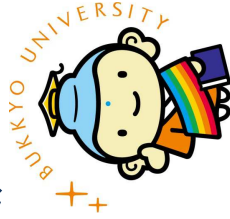


新入生・2年生・3年生の 学力調査結果からみえてくること

(含む、アンケート結果)

教育推進機構長

岡崎祐司



4～12－国語の基礎学力

- [C－] [D] [D－]→全体で33.3
- [C－]が40%を超える／近い学科
- 学生の能力伸長の土台。教養教育・専門教育だけではなく、就職活動、キャリア形成力にも影響を与える。
- 国語力底上げの取り組み、工夫→『日本語表現法』の配布と活用。
- [C－]以下の学生には「現代日本語」の受講を勧奨。



BUKKYO UNIVERSITY

22、24－2年生の日本語理解

- [段階値2・段階値1]...全体で20%
- [段階値2・段階値1]...40%まで。学科別
- 校内偏差値の増減－意識的・組織的な教育方法が必要。
- 1年生の段階で、どのような力を伸ばさなければならぬのか、学生に自覚と目標を持たせる教育方法の工夫。
- 例：ポートフォリオ、個別学習相談



BUKKYO UNIVERSITY

学生の国語力と授業

- 教員としてどの程度の水準を前提に授業をすればよいのか？
- 「底上げ」という観点からの取り組み
- 「能力伸長」という観点からの取り組み
- 授業のレベルの提示と到達目標の明確化
- 一斉授業と個別学習支援の組み合わせ
- 学生も弱点・課題を自覚し、支援を受けながら主体的に学修する「しかけ」づくり。



BUKKYO UNIVERSITY

27ー授業への期待、1年生→2年生

- 項目ごとに読み方と引き出す課題は違う。
- [課題・レポート量の適切さ]...
- [専門知識の豊富さ]...AVより高い学科
- [説明のわかりやすさ]...全体の低下
- [目標、内容、評価方法が明らかにされる]...マインスになるのはなぜか？授業への期待が低くなる？学修の過程(順次性、つながり)が見えていない？



BUKKYO UNIVERSITY

29ー学生が学習する大学へ

- [自習していない]...全体で20%
- [週あたり5時間未満]...全体で70%
- 授業以外の時間で、「学び」に重点が置かれているのか？
- 自習、予習・復習の習慣ができてない
- 課題の出し方、復習－主体性を前提に学生がしっかり学習する教育方法、環境
- 授業以外も含めた、学びの豊かさ、面白さをどう実感させるか



BUKKYO UNIVERSITY

33～37ー大学と学科の志望度

- 学部学科が第1希望＝「第1ゾーン」
- 70%超 日文76%、歴史84%、歴史文76%、教育96%、臨床75%、理学93%、看護88%
- 学部学科が第2希望＝「第2ゾーン」
- 仏教65%、日文24%、中国82%、英米46%、歴史16%、歴史文24%、教育4%、臨床25%、現社40%、公共41%、社福38%、理学8%、作業28%、看護12%



BUKKYO UNIVERSITY

33～37ー大学と学科の志望度

- 全ての学生が「第1ゾーン」ではない。
- その学科の関連領域や異なる領域を学びたかった学生もいる。多様性、バラツキ？
- 初年次において専門分野の魅力、将来性を十分に伝える努力が重要。いかに、学科の中心軸に引き付けるか。
- 学士課程としての学びの中心と、進路の多様さ、活用の幅をいかに示すかーキャリア教育



BUKKYO UNIVERSITY

入学後の学生の評価

- 「入学前後のギャップ」(38～41)
- 「後輩へのお勧め度」(43、44、51、52)
- 「お勧め度」が高い学科の、「想像よりよかった」→「学生同士の交流機会」、「キャンパスの施設・設備充実」
- 「お勧め度」が低い学科の「想像より悪かった」→「興味のある科目」、「周囲の学生の意識低い」、「キャンパスの施設設備」



82～88 学生の入門ゼミの評価

- 学生の「実感」評価を通してみた入門ゼミの学修成果
- 「とても実感がある」「ある程度実感がある」
- 「あまり実感が無い」「まったく実感が無い」
- を統一シラバスの項目で聞いたもの。
- 学科による学生の実感の違い。
- 今後、入門ゼミの役割と位置付け—基礎的な学びの方法をつかませる。専門教育の導入。



89～102 学生のキャリアム評価

- 基本的なことを求める(文章、レポートの書き方)
- 「専門を深める」キャリアムの希望
- 教員と接する機会—勉強の相談
- 基礎的な力をつけながら、専門性も身につけた
- キャリア教育に関する意識—必ずしも高くない



学士課程としてのありかた

- 教育力の高い大学をめざすには？
- 中規模の良さを生かした「面倒見のよい大学」
- 学生が成長実感の持てる教育
- 主体的な「学び」
- 偏差値だけではなく、教育面での評価軸を積極的に学外にアピールできる取り組みが必要
- 教職協働により取り組む



人が育つ大学教育の追及

- 人が育つ・成長する大学、成長実感の高い大学
- 学生の現状・状況、学生の自己評価・自画像をつかんで、学生の潜在能力を引き出す組織的な教育活動、連動した教育活動。
- さまざまな仕掛け—教員の取り組み、学生同士の相互作用(支援)初年次から二年次以降にどうつながるか
- もっと学修を中心にした大学生生活の実現



今後のカリキュラム改革

- 明確な教育目標、到達目標と教育方法が準備され、学生の主体性を引き出しながら、順次性・体系性をもった、厳選されたカリキュラム
- おのずとスリム化されていくはず。
- 教養教育と専門教育
- 科目のナンバリング、カリキュラムマップ



いま取り組みべきこと

- (1) 導入(1回生)だけではなく、2回生段階での指導・支援体制
- (2) 授業科目、教員間のつながり—シラバスの相互点検
- (3) 回生ごとの教育目標、到達目標の設定と教育方法の確立
- (4) 「基礎学力調査結果」や授業アンケートの数値と、現場の実感を切り結んだ検討—学部学科、各部署で
- (5) 求められる教員の役割・専門性・責任とはなにか、求められる職員の役割・専門性・責任とはなにか



2013 年度 FD 関連研究会
参加支援 報告書

2013年度 学外FD関連研修会参加支援一覧

開催日時	企画名称	主催	参加者所属
2013年6月1日(土)	大学教育学会公開講演・シンポジウム 「教育から学習への転換を支えるもの」	大学教育学会	教育学科
2013年11月30日(土)	大学教育学会2013年度課題研究集会 —大学教育の質的転換の方向性を問う—	大学教育学会	教育学科
2013年12月9日(月)	平成25年度教育改革国際シンポジウム TUNING Workshop—学位プログラムの体系化に向けて	国立教育政策研究所	英米学科
2013年12月10日(火)	平成25年度教育改革国際シンポジウム AHELO—コンピテンス枠組の共有と水準規程によるグローバル質保証	国立教育政策研究所	英米学科
2013年12月12日(木)	E-FORUM教育研究セミナー 「教職の高度化」をどう構想するか	京都大学本部キャンパス	教職支援センター

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	大学教育学会
企画名称・テーマ	大学教育学会第 35 回(2013 年)大会 教育から学習への転換を支えるもの
開催日時<会場>	2013 年 6 月 1 日(土) <東北大学川内北キャンパス>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

本プログラムでは、「教育から学習への転換を支えるもの」をテーマとし、i)カリキュラムの観点、ii)学習環境の観点、iii)マネジメントの観点、以上の多角的な観点から、教育から学習への転換が意味することを考える。

2. 研修会の概要

以下の展開で研修会が進められた。

①基調講演

アメリカで高等教育コンサルタントとして活躍中のフィンク博士による講演。

Designing Your Courses for More Significant Learning

Dee Fink 博士

②公開シンポジウム

【報告 1】“カリキュラムの観点から” 松下佳代(京都大学)

【報告 2】“学習環境の観点から” 山内祐平(東京大学)

【報告 3】“マネジメントの観点から” 沖 裕貴(立命館大学)

③ディスカッション

フロアの参加者とシンポジストとの質疑応答。

上記①～③を総括すると、「大学教育は、スクリーニング(選抜)としての効果や、学校歴のブランドによる効果ではなく、その実質が問われ、学習の成果が求められている」「教育する側の理論に立ったカリキュラムや教育活動ではなく、学習者の視点から教育を捉え直すことが求められている」「学習者を中心に教育活動を考えることは、大学教育全体の構造的変化を意味し、キャンパス空間全体の再構築、教員の役割の変化など、多くの課題が検討を必要としている」こと等が確認された(なお、本研修会は大学教育学会の主催で行われたが、東北大学高等教育開発推進センター大学教育支援センターが基調講演および公開シンポジウムの企画・実施に全面的に協力を行ったものであり、これらを PDP の一つとして公開している)。

3. 本学の FD 活動における検討課題

「学生の意欲格差(インセンティブ・ディバイド)によるカリキュラム経験(学びの履歴)の格差の拡大」「自分に対する教育を編成していく力と責任を学生たちに与えていくという大学の使命」等を、全ての教職員が共通して認識することが今後の本学の課題であろう。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	大学教育学会
企画名称・テーマ	大学教育学会 2013 課題研究集会 「大学教育の質的転換の方向性を問う」
開催日時<会場>	2013 年 11 月 30 日(土)・12 月 1 日(日) 同志社大学
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

「大学教育において、アクティブ・ラーニングの学習方法は、主体的な学習の鍵として捉えられつつある。質的転換の方向性を考えるうえで、アクティブ・ラーニングの本質、なぜ、主体的な学習の鍵としてなるのか、その是非論も含めて検討する。

2. 研修会の概要

13:30-15:00 基調講演 Active learning for active citizenship: Educational designs, pedagogies, and practices by McTighe Musil, Varyn (Association of American Colleges and Universities)

問題解決学習を主としたアクティブ・ラーニングは、持続可能な教育を行ううえでの方略である。このアクティブ・ラーニングを大学で行う目的は、学生をアクティブシチズンとして成長させることになる。

15:10-17:50 シンポジウム: 大学教育の質的転換の方向性を問う

河田悌一 氏(日本私立学校振興・共済事業団理事長 中央教育審議委員)「大学教育の質的転換に向けて: 中教教育答申と今後の課題」→中教審答申で求められたもの。中教審の動向。

飯吉透 氏 「アクティブ・ラーニングの是非を巡って: 教育文化の視点から」→主体的な学習者となるべく、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育が論じられる一方、多面的な人間としての成長に評価していない日本の現状。

山田礼子 氏「アクティブ・ラーニングを通じての学生の学びとそれを支える環境」→アクティブ・ラーニングを通して学生に quick thinking の力を培わせるために、ラーニング・コモンズという学習環境の場が必要となる。

3. 本学の FD 活動における検討課題

「大学教育の質的転換の方向性を問う」というテーマの結論は、共感性をもった自立した市民として成長させるうえで、アクティブ・ラーニングを授業の方略として検討していく必要があるという点である。ただし、アクティブ・ラーニングを授業レベルで扱うのではなく、カリキュラム・レベルでのアクティブ・ラーニングを検討する必要があるという点である。

本学においても、主体的に問題解決ができる学生、ひいては、社会に貢献できる人材を育成していくうえで、①カリキュラムを構成していく基礎から専門へと導くナンバリング、②カリキュラム上におけるアクティブ・ラーニングを用いた方略、③ラーニング・コモンズといった学習環境の場についての 3 点は、カリキュラム改革を検討するうえでの視点となる。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	国立教育政策研究所 高等教育研究部
企画名称・テーマ	国立教育政策研究所 科学研究費助成事業 TUNING Workshop—学位プログラムの体系化に向けて
開催日時<会場>	平成 25 年 12 月 9 日(月) 早稲田大学国際会議場
参加者所属	文学部 英米学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

欧州では、欧州高等教育圏の確立をめざすボローニャ・プロセスの実質化を図る目的で、大学が自主的に参加する「チューニング」の取り組みが 2000 年より行われている。「チューニング」とは、専門分野ごとに学生に身につけさせようとする能力(コンピテンス)の枠組を定義し、大学の自律性や多様性を尊重しながらコンピテンス枠組に則した学位プログラムを構築する方法や手続きのことである。このチューニングについての理解を深め、学位プログラムの体系化が課題となっている日本の大学において、チューニングが援用できるのか、その可能性を議論するために開催されたワークショップである。なおこのワークショップは一般公開ではなく、大学教育改革やカリキュラム改編に携わる者を対象としたものである。

2. 研修会の概要

チューニングの取り組みを先導してこられた、オランダ・フローニンゲン大学ローベルト・ワーヘナール教授によるチューニングの解説と、歴史学分野におけるチューニングによる学位プログラム開発の実例紹介の二つがワークショップの中心であった。また、一橋大学におけるチューニングの事例を松塚ゆかり教授が、カナダ・オンタリオ州におけるチューニングの事例をメアリー・キャサリン・レノン氏(オンタリオ州高等教育質保証カウンシル上級研究アナリスト)が、それぞれ紹介した。

チューニングの基本としては、社会的なニーズに応える学位プログラムを構築することである。プログラムの開発は教員の仕事であるが、雇用者や学生(学友会ではない)の意見も取り入れている。専門的な能力も必要であるが、汎用的な能力も養われるようなプログラムが必要である。たとえば、昔は歴史学専攻の学生は歴史の教員となったが、現在では 10% の学生しか教員にならず、他の職業に就いている。その意味では歴史学に関する能力の養成だけはいけない。リーダーシップやチームで協働するといった能力の養成もプログラムの中に含まれるのである。

3. 本学の FD 活動における検討課題

本学は人文学系の学部・学科が中心であり、卒業生の大半がその専門分野の専門家になるということは考えられない。その意味では学位プログラムの構築においては、専門分野の知識・能力だけではなく、雇用者の求める能力の養成も視野に入れる必要があるだろう。チューニングでは汎用的な能力については 30 以上の項目が列举されているが、その全てを網羅する必要はなく、どの能力をプログラムに組み入れるかは各分野で選択することになる。本学でもディプロマ・ポリシーが策定されているが、やや抽象的な感が否めない。もっと細部にわたる具体的な能力を項目として設定し、それぞれの能力がどこでどのようにして養われ、また、その養われた能力がどのような形で、またどのような尺度で測定されるのかを明確にしていく必要があるのではないかと考える。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	国立教育政策研究所 高等教育研究部
企画名称・テーマ	平成 25 年度教育改革国際シンポジウム TUNING-AHELO—コンピテンス枠組の共有と水準規定によるグローバル質保証
開催日時〈会場〉	平成 25 年 12 月 10 日(火) 文部科学省講堂
参加者所属	文学部 英米学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

経済協力開発機構(OECD)による高等教育における学習成果調査(Assessment of Higher Education Learning Outcomes,AHELO)は、大学教育の成果を世界共通のテストで測定することをめざす取り組みで、その実施可能性を検証するための試行調査(フィージビリティ・スタディ)が2008年から2012年にかけて実施された。日本はこの調査に工学分野で参加し、国立教育政策研究所は問題作成のための国際コンソーシアムのメンバーとして、また国内実施のための事務局として参画した。AHELOのテストの妥当性と信頼性は、17か国で実施された調査結果にもとづいて検証されており、本調査の実施の可否について現在 OECD で検討されている。AHELO 専門分野のテストは「チューニング」と呼ばれる方法を用いて定義したコンピテンス枠組にもとづいて作成された。

このシンポジウムでは、日本の高等教育政策、チューニング、AHELO を先導してきた専門家が、コンピテンスにもとづく学位プログラムの体系化、国際的な学習成果アセスメントの役割、グローバル時代における大学教育の質保証のあり方について検討・討議が行われた。

2. 研修会の概要

基調講演として、文部科学省顧問の木村孟氏が、日本の現行の大学評価制度がどのように導入され、大学によってどのように受け止められているか、について論じられた。結論としては、大学評価制度が高等教育における競争的環境を作り出すことに成功したわけではなく、日本が取り組むべき次の課題は、競争的環境を作り出すような教育評価制度を生み出すことであるとのことである。なおこの基調講演は英語で行われた。

基調講演に続いて3つの講演が行われ、オランダ・フローニンゲン大学ローベルト・ワヘナール教授がチューニング・コンピテンス枠組について、ピーター・ユウウェル全米高等教育経営システム研究所副所長が AHELO の試行調査の調査結果と技術諮問グループの結論について、岸本喜久雄東京工業大学教授が日本における AHELO の取り組みと今後の展望について、それぞれ報告された。

第二部のパネルディスカッションでは、日本、オーストラリア、カナダにおける AHELO の取り組みを中心に討論が行われた。

AHELO の試行調査は 17 か国(地域)で実施され、分野としては経済学、工学、一般的技能の3つである。テスト問題は多肢選択式と記述式の二種類からなる。日本は 12 大学が工学分野で参加し、問題作成の段階から関与している。

3. 本学の FD 活動における検討課題

世界的な基準で大学教育の成果を測定しようとするもので、本学とは程遠いものという感じがするが、基本的な発想としては本学でも援用できるかもしれない。本学にも学位プログラムがあるが、その教育成果をいかに測定するのかという問題があろう。124 単位を取得すれば卒業できるわけであるが、それだけでディプロマ・ポリシーが本当に各学生において実現されているかどうかは測定できているわけではない。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	京都大学大学院教育研究科 教育実践コラボレーション・センター
企画名称・テーマ	E.FORUM 教育研究セミナー 「教職の高度化」をどう構想するか
開催日時<会場>	平成 25 年 12 月 12 日(木) 京都大学本部キャンパス
参加者所属	教職支援センター 実習指導講師

参加報告

1. 研修会の趣旨

現在、教員養成の修士レベル化などの教職に向けた議論が進んでいる。そこでは、小学校教員を主に想定した即戦力としての実践力が一面的に強調され、研究型総合大学で研究的力量を持った中高の教員を養成することの意義が看過される傾向がある。本シンポジウムでは、特に中等教育レベルの養成を想定しながら、「教職の高度化」のあり方について考える。

2. 研修会の概要

- (1) 講演 京都市教育委員会教育企画監 荒瀬克己氏(元京都市立堀川高等学校長)
「今、専門職として教師に求められる力量とは？」
- ①中央教育審議会答申より「求められる力量」とは？
- A. 教職に対する責任感、探求心、教職全体を通じて主体的に学び続ける力
 - B. 専門職としての高度な知識・技能
 - a. 教科や教職に関する高度な専門知識(新たな課題に対応できるもの)
 - b. 新たな学びを展開できる実践的指導力(学びをデザインする力)
 - c. 教科指導・生徒指導・学級経営等を的確に実践できる力
 - C. 総合的な人間力
- ②Active Learning の必要性(堀川高校の実践、30 分のパフォーマンスに3ヶ月かける生徒たちの体験的学びから)
- ③「対話」の重視(対話的な態度の重要性)
- ④「手続き」の重視(脳裏に刻むための大切な手立てをつくる)
- (2) シンポジウム(各氏から 30 分程度のプレゼン)
- ①「学問する」教師をめざす京都大学の教員の取組
石井英真(京都大学大学院教育学研究科・准教授)
・教職実践演習の導入、教師に求められる 5 つの柱と教職課程ポートフォリオによる学び

②京都大学大学院教育学研究科の専修コースでの学びから

内田真理子(岡山県立勝山高等学校・教諭)

・京大の学びから現場へ「実践者の立場を離れることで、実践者としての自分の思考傾向を自覚する。実践者である自分の中に研究者としての自分を持つ」全ての授業が自分の研究授業である。

③子どもたちや学生たちの学びの場としての総合博物館

大野照文(京都大学総合博物館・館長)

・実践演習「展示をつくる」から、実践を紹介。対話力の錬成。

④教育における「理論と実践の融合」をどう考えるか

山名 淳(京都大学大学院教育学研究科・准教授)

・「理論と実践の融合」のモデルの提示

(3)まとめ

これからの教育に必要なことは「汎用的能力」の育成であり、それらをデザインできる教員の育成が大切である。

3. 本学の FD 活動における検討課題

十分に本学の活動を把握できていないので、課題は提示できないが、学生の学びを高めるためには、一方で講義の交流が必要ではないかと思っている。

2014 年度
「FD 研究会」
「学外 FD 関連研修会 参加支援」
報告書

第 1 回 FD 研究会

「大人数講義に使える 30 の授業ティップス
—大人数講義で学生との対話は可能か?—」

開催日：2014 年 7 月 24 日（木）13：00～

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-401 教室

発表者：佐藤 浩章（大阪大学教育学習支援センター 准教授）

参加者数：103名

第1回佛教大学FD研究会 大人数講義に使える30の授業ティップス — 大人数講義で学生との対話は可能か? —



大人数講義は操縦不能か?

大人数講義の担当者からは、「私語が多く、それを注意すると教室の雰囲気が悪くなる。」「教室後方が無法地帯化。」「資料配布やレポート採点がたいへん。」など多くの声が聞かれます。

しかし一方では、学生は教員ほど大人数講義について不満を抱えていないというデータもあり、是非、その期待に応えたいものです。

このような、多くの特殊性を持つ大人数講義ですが、ちょっとしたティップス(技)や大人数を逆手に取る発想を用いれば、その雰囲気は大きく変化します。

今回は、誰にでも実践可能な30の授業ティップス(技)を紹介しながら、学生との対話を可能とする大人数講義の進め方について考える機会としたいと思います。

大人数講義を担当されている先生はもとより、対話型講義に興味をお持ちの先生、是非、ご参加下さい。

講師



佐藤 浩章 氏

大阪大学教育学習支援センター
副センター長
大阪大学全学教育推進機構
教育学習支援部門 准教授

日時

平成26年 **7月24日**(木)
13:00~15:00(12:30受付開始)

定員

先着100名(本学以外の方も参加可能)

お申込み

下記内容を記入のうえfdoffice@bukkyo-u.ac.jp宛に、メールにてお申込みください。

※申込み〆切7月17日(木)

件名:FD研究会申込み
本文:氏名
:所属
:役職
:緊急連絡先(携帯電話等)

会場・アクセス

<会場>
佛教大学 紫野キャンパス
1号館4階 1-401教室

<最寄駅>
・阪急大宮駅、地下鉄北大路駅、JR二条駅よりバス。
・京都市バスで、千本北大路、佛教大学前 下車すぐ。

<紫野キャンパスMAP>



※駐車場がございませんので、公共交通機関にてご来場ください。



佛教大学教育推進機構

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL:075(491)2141(代表)
mail: fdoffice@bukkyo-u.ac.jp

2014年度 第1回佛教大学FD研究会

1. 開催概要

開催日：2014年7月24日（木）13：00～15：00

テーマ：「大人数講義に使える30の授業ティップス ―大人数講義で学生との対話は可能か？―」

会場：佛教大学紫野キャンパス 1号館 4階 1-401 教室

発表者：佐藤 浩章（大阪大学教育学習支援センター/教育推進機構 教育学習支援部門 准教授）

司会進行：岡崎 祐司（教育推進機構長）

参加者数：103名

2. 発表

大阪大学教育学習支援センターより佐藤浩章氏をお招きし「大人数講義に使える30の授業ティップス ―大人数講義で学生との対話は可能か？―」と題し第1回佛教大学FD研究会を開催した。

会場は大教室であったが教員が大人数講義を受講する学生の心理状態を体感してもらうために、詰めた形で着席して頂くなど、佐藤氏の取り計らいでユニークな形態での開催となった。

冒頭のアイスブレイクでは、佐藤氏が大人数講義でのコミュニケーションツールとして使用している「コミュニケーションカード」（表が赤、裏が青となっているカード）を使用しながら大人数との対話をおこないつつ、大人数講義を成功させるにはクラス内の緊張状態をときほぐすことが第一歩であることだと実践を交えながら紹介いただいた。

佐藤氏から今回の研究会は資料「大人数講義法入門」にそって進めていくこと、到達目標は「大人数講義の特殊性を説明できる」「自分で使えるようなティップス2つ以上説明できる」の2つであることを確認がおこなわれた。

1. 大規模クラスの特長とは

佐藤氏より、資料「大人数講義法入門」の「1. はじめに～大規模クラスの特長～」に沿って大人数講義の特徴や傾向などについて先行研究を交え報告がおこなわれた。

クラス規模に関する先行研究は様々存在するが中井（2006）は①クラス規模は学生や教員の意欲や態度に影響を与え、結果として教育効果に影響がある、②クラス規模は授業の進行や成果にあまり影響を与える要因ではない、といった背反する立場があると指摘している。

さらに北米での研究によれば、受講生と授業におけるグループ交流や個人的信頼関係に関する評価点との間には負の相関関係が見られ、受講生が少ない授業の方が好意的に評価される。しかし受講生が数百人以上の規模になると授業が好意的に評価される、と一定の人数を超えると再び評価が良くなるといった研究結果も出ている。

そして、日本（中井 2006）での研究では、①クラス規模は授業に負の影響を与える、②大きな差は「質問や意見の機会」と「時間外学習促進」で見られる、③100名を超える段階では教育効果に関する項目（「知的刺激度」「総合的満足度」等）については上昇する、④多人数授業に対して学生は教員と比較してそれほど大きな不満を抱いていない、などが報告されており、大人数講義に関しては一律に

負の要素ばかりではないことが示されている。

しかしながら、大人数に対して放っておくとそれは群衆そのものとなり学習をコントロールできない状況となることは間違いない。大人数講義の運営についてはその困難を乗り越え「いかにその群衆を学習集団に変えていくか」が大きな課題である。

今回、その群衆を学修集団へ変えるテクニック (Tips) について、佐藤氏より 30 のティップスについて次のとおりレクチャーをいただいた。

2. 大人数講義で使える 30 の Tips

1) はっきり話し、大きく書き、よく動く

Tips 1. 話し方は明瞭に、指示は明確に

学生の数だけ解釈は多様なため、大人数講義では誤解は当然起きる。

大規模クラスでは誤解者が相当数いることを前提に声はマイクを使って大きくし、繰り返しの説明や意志表示をさせるなど何度も確認することが必要。

Tips 2. 大きく、見やすく書く

大人数講義でパワーポイントを使用する場合、文字サイズは 50 ポイント以上、フォントはゴシック体、1 行を 15 文字程度に収めることが大切。また、プラズマディスプレイは背景が明るいのでパワーポイントの背景を濃色にする。

Tips 3. よく動く

大人数講義の場合、後ろの席になればなるほど刺激が少なく眠気を誘発するので、縦横に移動し刺激を与えることが効果的。

2) 匿名空間にしない

現代社会で人間がある程度お互いを認識しまとまりを保てるのは 150 人前後と言われている。それを超えるクラス規模となると個人が認められない空間となる。

クラスの中で自分が認められない存在だと感じた学生は、学習の動機づけが比較的弱く、必要な作業もしない傾向がある。

逆にクラスに一体感を抱いている学生はより集中し、参加の割合も高くなる。

つまり、大人数講義の教室内を匿名空間にしないことが必要であり、それには以下の取り組みが有効と考えられる。

Tips 4. 座席を前方に固める (密集理論)

共同体の感覚を学生に持たせることが目的。座席については第 1 回目でのルール作りが必須。

Tips 5. 席を固定する

席を固定することで個人が特定しやすくなる。私語の削減にもつながる。

Tips 6 個人名で呼びかける

意見を求める時は個人名で呼びかける。また、起立させて発表してもらうことで更にクラス内の集中力が高まる。

Tips 7. 早目に教室に着いて、ゆっくり退出して、学生が話しやすい機会を作る

学生が教員に話しかけるきっかけを作っておくことも大切。

Tips 8. 学生の意見や質問を紹介する

授業の終了時にコメントシートを書いてもらい翌週の冒頭で紹介する。

Tips 9. ニュースレターを発行する

コメントシートに書かれたものをニュースレターにまとめて配付する。

Tips10. 教員の個人的な話をする

学生と教員との閉ざされた関係を壊すのには有効。特に教員の失敗談が効果的と言われている。

Tips11. 1 回目の授業で周囲の学生間で自己紹介させる

学生が緊張している状況は学習が促進されないので、第 1 回目でその緊張状態を解消してやるのが大切。

Tips12. 学生を 2 人組や 3 人組にする (学習パートナー、バディーづくり)

100 名の講義であっても、2 人組にすることで 50 のまとまりとなり、授業がコントロールしやすくなる。

3) ペア・ワーク/グループ・ワークのコツ 56 : 49

Tips13. Think, Pair & Share

個人ワークで何かの課題について感あげさせ、その後近くの学生とペア・ワークを以て意見交換をおこない、その後、クラス全体でシェアすることで幅広い思考性や知識を定着させる。

大人数講義では教員からの質問に対して自ら回答する学生は少ないが、複数で考えグループとしての意見であれば回答率も上昇する。

授業にワークを取り入れる際、ワークが苦手な学生に対しては強制的に参加させる必要はなく、時間をかけて「慣れてもらう」ことが必要である。

4) 発問で刺激する

Tips14. 質問内容をゆっくり伝え、繰り返す

大人数講義において学生の思考をアクティブするには発問が非常に重要となる。

大人数講義では聞き漏らしや誤解が生じる可能性が極めて高いので黒板への書き出しや復唱することで発問に対する誤解を減らし質問の意図を的確に伝えることが重要である。

Tips15. 考えるのに必要な時間を確保する

先行研究によると、大学教員が学生に与える考える時間は数秒と言われている。

また1、2回生の場合、いきなり発言させることは難しいので一度紙に整理させてから発言させるなど、一定の時間を確保することが必要。

Tips16. マイクをバトンリレーさせて複数に回答させる

大人数の場合、教員が教室内を移動しながら学生に意見を求めることが難しいので、マイクをバトンリレーさせ効率よく意見を求めることもひとつの手段である。

また、前から後ろにリレーすると最後は教室の後方に取りに行かなくてはならないので、予め後ろに置いておき前にリレーさせる。

また、意見を求める際、教室前方に座っている学生や授業に積極的に参加する学生を集中的に当てがちだが、そうすることでそれ以外の学生たちの意欲が低下するので、学習意欲が低い層にも平等に関わっていく必要がある。

Tips17. 個別に意思表示をさせる

授業内で「解からない人は手を挙げてください」という発問を目にするが、解からない学生にとっては手を挙げることは恥ずかしいことなのでまず手はあがらない。

コミュニケーションカード（表が赤色、裏が青色のカード）などを使い全員に意思表示をさせることで、解からない学生も意思表示をし易くなる。

5) 大人数であることを逆手にとる

Tips18. わざと意見が分かれるような質問をして、その結果を示す

意図的に意見が二分するような発問を行ない自分と違う思考を持つ人間が多数いることを認識させ学習意欲に刺激を与える。

大人数のスケールメリットを活かせば、少人数クラスでは感じることでできないインパクトを与えることができる。

Tips19. 全員から拍手をさせる機会をつくる（全員で感情を共有する）

例えば問いに対して正解する、登壇して発表するなどの後にクラス全体で拍手をするようにすることで、学生にとって貴重な経験となり更に学習意欲を刺激することとなる。

Tips20. 学生に登壇させて話す機会をつくる

大人数中を前に発表することで学生にとっては貴重な経験となるし、教員からの称賛の言葉などがあれば更に良い経験となる。

Tips21. 映像教材を流す

映像教材を大画面・大音量で使用することで、映画館にいるような一体感（シアター効果）を感

じることができ、集中力も向上する。

6) 資料配布・回収やテストを効果的に行う

Tips22. 資料を1セットにして初回に配布する

1セットで初回に配布することで、2週目以降の資料配布の手間を削減できる。

Tips23. 資料をインターネット上でダウンロード可能にして、事前にプリントアウト・持参させる
e-learning システムを活用し、学生本人に準備させる。

Tips24. 出席番号順や名前でごく切った封筒を用意し、提出物を回収・配布する

教室の列ごとに封筒などを置き、学生自身が課題の提出や資料の受け取りをおこなう。

Tips25. グループ分けをして、リーダーにとりまとめを依頼する

グルーピングすることで、グループに対する指示だけでよいので効率的な回収・配布が可能となる。

Tips26. レポートの提出期限をずらす

レポートの提出時期をずらすことでレポート採点の負担が分散させる。しかし、全員を同じ課題とすると提出期限が遅い学生が有利となるため、時期ごとに別の課題を与えるなど平等性を担保するための工夫が必要である。

Tips27. 宿題やテストを学生同士で採点させる

予め自己採点可能なテストにしておき学生本人、または学生同士で採点させる。

Tips28. 多岐選択方式の試験を行う

自由記述ではなく多岐選択方式（マークセンス方式）の試験とすることで、採点時間の短縮が図れる。

Tips29. ルーブリック評価を行う

評価基準に沿って採点することで標準化された採点がおこなえるだけでなく、採点時間の短縮にもつながる。また採点基準が決まっているので採点をTAにお願いすることも可能となる。

7) 学習を阻害する行動を管理する

Tips30. 学習を阻害する行動に関するルールを決め、初回の授業で説明する

タックマンの集団発達モデルによると組織は **forming**（形成・結成）、**storming**（混乱・激動）、**norming**（統一・規範形成）、**performing**（機能・成就）、**adjourning**（解散・散会）の段階を経るとの指摘があるが、大学における授業も類似した傾向がある。

15週の中で居眠りや私語が起こる **storming**（混乱・激動）期が訪れるが、学修成果を上げるため

には出来るだけ早く **norming**（統一・規範形成）期にしなくてはならず、そうするためにはシラバスや第一回目の講義で学習を阻害する行動に関するルールを決めることが有効である。

3. まとめ

今回、佐藤氏には大人数講義をより良い授業とするための 30 のテクニックを紹介していただいた。特に印象的だったのは大人数であることを逆手にとりそのスケールメリットを最大限に活かし学習効果の高い授業を作り上げるテクニックの紹介であった。

本学においても、大人数講義は教員からの評判も決して良くはないが、大人数を逆手にとる発想や今回紹介いただいた 30 のティップスなどを活用しながらより良い授業運営に役立てていただきたい。

以上

第2回 FD 研究会

「発達障がい学生支援について
～授業に視点をおいて～」

開催日：2014年9月10日（水）12：45 ～

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-401教室(1号館4階)

二条キャンパス N1-741教室(7階)

発表者：菅原 伸康（教育学部 教授）

参加者数：86名



第2回佛教大学FD研究会

<シリーズ企画①>

発達障がい学生支援について ～授業に視点をおいて～

ここ数年で、増加しつつある発達障がいのある学生。その対応に独りで悩まれている先生、職員の方も多いのではないのでしょうか。

特に、授業設計や授業運営には、発達障がいの特性に沿った工夫が必要となります。

第2回FD研究会では、発達障がい学生の特徴を理解し、それに沿った授業の工夫や配慮についてお話ししたいと思います。

～ 概 要 ～

日時	2014年9月10日(水) 12:45～14:15
会場	佛教大学 紫野キャンパス 1号館4階1-401教室
アクセス	・阪急大宮駅、地下鉄北大路駅、JR二条駅よりバス ・京都市バスで、千本北大路、佛教大学前 下車すぐ
参加費	無料
申込み	下記内容を記入のうえfdoffice@bukkyo-u.ac.jp宛に、メールにてお申込みください。 件名：第2回FD研究会申込み 本文：氏名 ：所属 ：役職 ：緊急連絡先(携帯電話等) ：e-mailアドレス ※e-mailアドレスにつきましては、本会の事務連絡と開催後に行いますアンケートのご依頼に使用させていただきます。
プログラム	12:45 開会挨拶 12:50 講演：「発達障がい学生支援について ～授業に視点をおいて～」 14:00 質疑応答

～講師のご紹介～



氏名 菅原伸康
 役職 教育学部 教授
 専門 特別支援教育
 知的障害児教育
 重複障害児教育
 発達障害児教育

<キャンパスMAP>



※駐車場がございませんので、
公共交通機関にてご来場ください。

次回予告

※ 本企画は3回のシリーズ企画となっております。次回もぜひご参加ください。

シリーズ企画② **2014年10月 8日(水) 16:10～(予定)**
テーマ「発達障がい学生支援について～大学生活に視点をおいて～」

シリーズ企画③ **2014年11月27日(木) 16:10～(予定)**
テーマ「発達障がい学生支援について～授業評価に視点をおいて～」



佛教大学教育推進機構

〒603-8301京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL:075(491)2141(代表)
mail: fdoffice@bukkyo-u.ac.jp

2014年度 第2回佛教大学FD研究会

1. 開催概要

開催日：2014年9月10日（水） 12：45～14：15

テーマ：「発達障がい学生支援について ～授業に視点をおいて～」

会場：佛教大学紫野キャンパス 1号館4階1-401教室

発表者：菅原 伸康（教育学部 教授）

司会進行：岡崎 祐司（教育推進機構長）

参加者数：86名

2. 発表

近年、大学教育が抱える課題のなかで早急に議論しなければならないもののひとつに発達障害のある学生への支援が挙げられるだろう。

しかしながら文部科学省の障がいのある学生の修学支援に関する検討会や各大学等においても様々な議論がおこなわれているがその具体的な対応策については未だ見えてきていない。

本学においても、発達障害学生への対応や就学支援については十分な議論がされていないのが現状で、特に授業内での対応については個々の教員が苦慮しながら対応しているのが現状である。

そこで、平成26年度の佛教大学FD研究会ではこの発達障害学生の学習支援を取り上げ、「授業」「大学生活」「成績評価」の三視点から3回シリーズで実施する事とした。

その第一回目は「発達障がい学生支援について ～授業に視点をおいて～」と題し本学教育学科教授の菅原伸康先生を講師に招き開催した。

1. 発達障害がもたらす困難

大学生活の中で発達障害がもたらす困難は学習、対人関係、行動など多面的に表れるが、実際に発達障害の有無については非常に判断しにくい。

また、その内容も一人一人実態が異なることや更には個々に見合った支援が必要となるため多くの教職員が戸惑いながら対応しているのが現状である。

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査（2003年）」によると発達障害が疑われる児童生徒は全体の6.3%を占めており、この10年間で大学へ進学する発達障害の児童生徒は増加している。

そのような現状を踏まえ大学入試センター試験では、2011年度より発達障害のある生徒に対し時間の延長や文字拡大した問題用紙の使用、別室受験等の配慮をおこなっており、発達障害のある生徒の進学率の上昇に伴い国内でも様々な対応が拡がりを見せてい

る。

2. 大学で問題になる発達障害

大学で問題となる発達障害の代表的なものとしてアスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害などが挙げられるが、共通して言えることはどの発達障害も知的な遅れはないということである。

(1) アスペルガー症候群

アスペルガー症候群は知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち、ことばの発達の遅れを伴わないもので、主に社会性の障害、コミュニケーションの障害、こだわりが強く柔軟性がない想像力の障害などが挙げられる。

社会性の障害とは視線や表情をうまく使えない、他者の感情が読み取れない、興味関心や意味を共有できないなどが挙げられる。

コミュニケーションの障害とは会話が続かない、もしくは会話が一方的、同じ表現の繰り返しなどである。

そして、こだわりが強く柔軟性がない想像力の障害は物集めや知識集めに強いこだわりがある、またルールや考え方を柔軟に変更できないなどの症状が挙げられる。

このような特徴をもつアスペルガー症候群の学生は、グループワークや実習で求められる臨機応変な判断をおこなうことに困難を抱えることが多い。

(2) 注意欠陥多動性障害 (ADHD)

注意欠陥多動性障害の特徴は、注意や集中が持続しない、目的を持った行動が困難といった「不注意」、興味や関心が変わりやすい、目的なく動き回るといった「多動性」、思いつきの行動、刺激に反応して即座に行動するなどの「衝動性」が挙げられる。

大学生活の中では、遅刻が多い、不注意なミスが多い、レポートの提出遅れ、落ち着きがない、複数の課題を並行してこなせないといった起きやすく単位修得に影響を及ぼすことが多い。

(3) 学習障害 (LD)

学習障害の特徴は知的発達の遅れはないものの、学習の基盤ともいえる「聞く」「話す」「読む」「推論する」「書く」「計算する」の能力のうち特定のものの修得に関して著しい困難が見られる。

学校生活の中では、その困難が原因となり言葉の指示を理解することが難しい、言いたいことをうまく話せない、頻繁に文字を書き間違える、教科書がうまく読めない、繰り上がりや繰り下がり計算ミスが多い、図形の問題や文章題をとくことが難しい、ハサミやのり、ボール、リコーダーなどがうまく扱えないなどの特徴が

みられる。

また、大学生活においてはノートがとれない、90 分間の話が聞けない、授業内での課題ができない、読む速度が著しく遅いなど単位修得に大きな影響を与える場合もある。

3. 具体的に授業をデザインしていくための考え方

このように様々な特徴を持つ発達障害学生に対しては入学後に気付くことも多く、教員だけでなく支援担当者や支援学生等の具体的な指導や、支援を個別化することも必要となる。

そして、授業担当者は発達障害のある学生に向け、その特徴にあった授業デザインをする必要がある。

(1) 授業デザインでの代表的な配慮

■授業のユニバーサル化を図る

- すべての学生にとってもわかりやすい授業となる
- 特別な支援を目立たなくし、プライドにも配慮できる

■レポートや仮題への配慮

- テーマの理解度（何をどこまで求めているのか）を確かめる
- こまめにチェックする計画化の支援を行う

■教室環境の整備

- 空調やプロジェクター等の音を減らせる
- 出入り可能な教室を選んであげる

■資料を作成・配付（PPT）

- 文字ばかりの PPT でなく、デザインに工夫する（階層化する）
- 1 枚のスライドに 1 つのものの説明。

■複数のワークシートを用意（拡大・カラー等）

■IC レコーダー、パソコン、デジカメの持ち込み

- 音声情報の保持ができないので、音声を聞き、聞いた事を記憶し、書くことが弱い。

■授業の見通し（授業の流れの提示）

- 授業のはじめにアウトラインを提示

■「聴覚優位」「視覚優位」への配慮

- 板書の撮影、講義内容の録音などを認める

■短く、はっきり、繰り返し（説明など）

■大きく、見やすく、具体的（板書など）

- 板書を構造化する

■課題（レポート、発表、筆記試験等）の明確化

- 締切りをはっきり示す
- 優先順位を示してやる（どの課題から始めるか）
- 理解できない部分について聞き易い雰囲気を作る

- グループワークはシラバスに明記
- 意識面のユニバーサル（どうして欲しいのか）

（2）その他の工夫・配慮

- 学習障害（LD）を持つ学生の特徴
 - それぞれの形がきちんと取れていない
 - 画数が正しくない
 - 極端に大きい字や小さい字が入り乱れて読みづらい
 - 字間、方向が一定に保てない
 - こうした学生は書くことがとても遅く汚いので努力不足だと評価されることがある。
 - 字が汚いことで学力も低いと評価されてしまうことがある。

4. まとめ

今回、発達障害学生の主な特徴の説明と授業デザインの工夫や授業内での支援方法についてお話しいただいた。

アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などについては知的な遅れが無いことから、教員が丁寧な情報伝達、情報機器（ICレコーダー等）の活用、板書やパワーポイントの工夫などを通して発達障害のある学生たちの学修支援をすることは可能である。

ただし、その支援について授業を担当する教員だけで行うのではなく、職員や学生同士の支援も重要であり今後は組織的支援が望まれるところである。

今回、講師をお願いした菅原先生も指摘されていたが、発達障害のある学生への学習支援の中で最も重要な事は「授業をユニバーサル化」することである。

どのような学力や特徴を持った学生でも受け入れられ理解できる授業のデザインが、発達障害のある学生への支援であり、ひいては授業運営におけるFD活動の目指すべきところである。

本シリーズは「学生支援について～大学生活に視点をおいて～」 「発達障がい学生支援について～成績評価に視点をおいて～」にテーマを移しながら残り二回を開催し様々な角度からその支援を考えていきたい。

以上

発達障害学生 支援について

～発達障害の理解と授業設計～

in佛教大学 教授 菅原伸康
佛教大学 20140910

アウトライン

- 発達障害がもたらす困難
- 大学で問題になる発達障害
- 具体的に授業をデザインしていくための考え方



発達障害のある児童生徒等への支援について（通知）

- 平成17年4月1日文科科学省 文部科学省高等教育局長
大学及び高等専門学校における教育上の配慮
- **発達障害のある学生**に対し、障害の状態に応じて、例えば、**試験を受ける環境等についての配慮**や、これらの学生の**学生生活や進路等**についての相談に適切に対応する等の配慮を行うこと。

発達障害者支援法

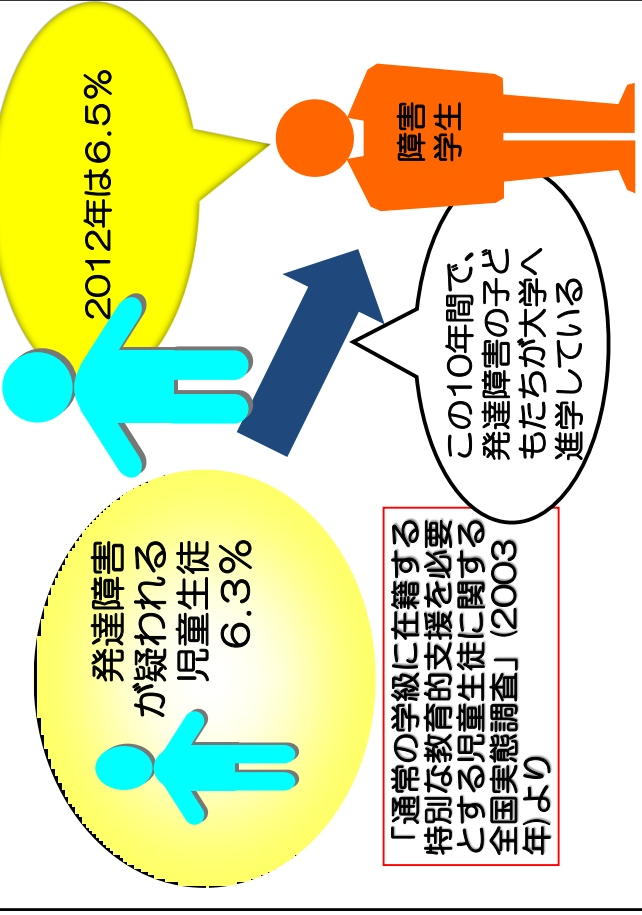
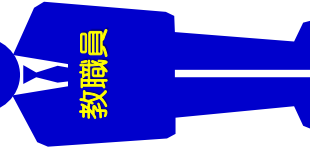
- 第1条 この法律は、（中略）**学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援**、（中略）等について定めることにより、**発達障害者の自立及び社会参加**に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする。
- 第8条 2 **大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするものとする。**

発達障害がもたらす困難

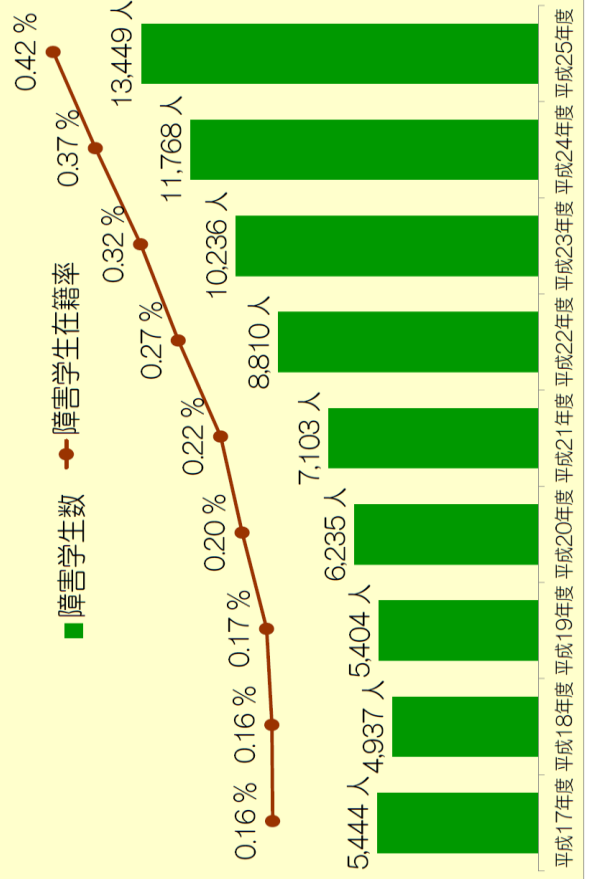
- **学習面**
- **対人関係面**
- **行動面**
- 目にみえにくい/分かりにくい
- 一人一人の実態が異なる
- 個別支援の必要性

指導に
とまどい

障害として
分かりにくい



障害学生数の推移



①大学入試センター試験における配慮

- 2011年1月より、発達障害のある受験生に対して、特別措置をとることになった
- 試験時間を通常の1.3倍
- 文字を拡大した問題用紙の使用
- 別室や配慮した試験室での受験

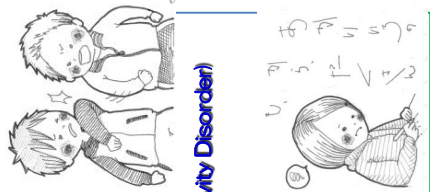
②私学を中心に、大学入試方法の多様化

大学で問題になる発達障害

アスペルガー症候群 (Asperger Syndrome)
 社会性の障害 コミュニケーションの障害
 こだわりが強く柔軟性がない想像力の障害

注意欠陥多動性障害 (Attention - Deficit / Hyper Activity Disorder)
 注意の散漫・持続しない 多動性 衝動性

学習障害 (Learning Disabilities)
 話す 聞く 読む 書く 計算する 推論する
 等の一部に著しい困難



*** 基本的に知的な遅れはない**

間違っ理解している言葉がある

内容をイメージ化できない

重要なキーワードに気づかない

物差しやコンパスなどの道具がうまく使えない

眼球運動の問題があり、目で文字を追うことが難しく、うまく読めない

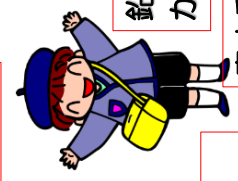
誤った解決方法を身に付けている

鉛筆がうまく持てず筆圧が弱い、あるいは強い

書字動作が遅いため、速くたくさん書くことができない

文章を一通り読むだけで、読み直したり確認したりしていない

姿勢の保持が困難



アスペルガー症候群 (Asperger Syndrome)

- 知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうちのことばの発達の遅れを伴わないもの

全身運動も指先の活動もぎこちない

泣き叫びかんしゃくがある

視線が合わない

理由の分からない苦痛の態度を示す

耳が聞こえないかのようにつぶる舞つ

明らかな危険に恐怖心が無い

落ち着きなく動き回るのが手を引かれないと活動できない

不適切な笑い方をする

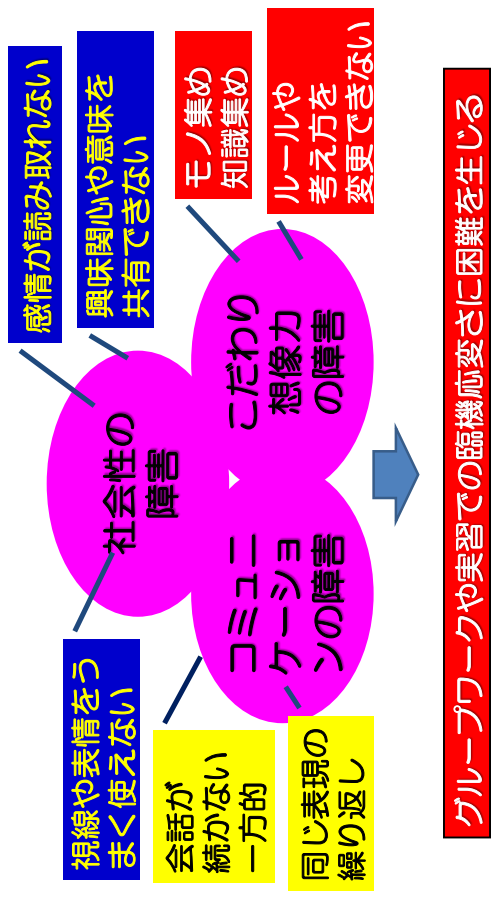
他の子どもたちの中に入れない

痛みに鈍感

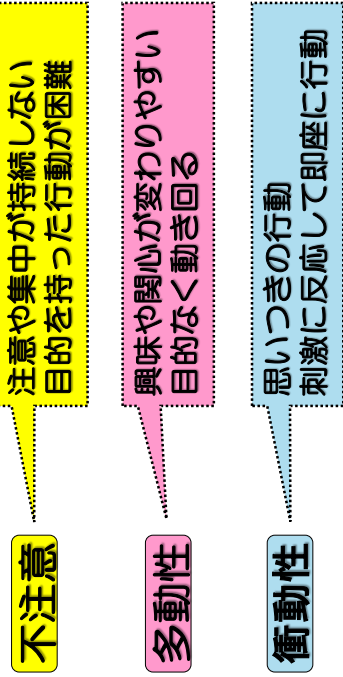
奇妙な遊びに没頭する



アスペルガー症候群 (AS) (Asperger Syndrome)



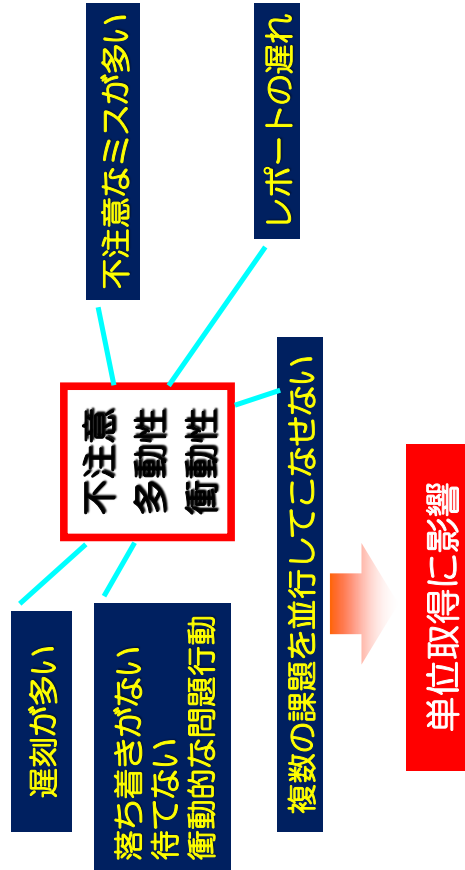
注意欠陥多動性障害 (Attention Deficit /Hyper Activity Disorder)



- 社会的な活動や学業の機能に支障をきたす

2012(C) BUKKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

注意欠陥多動性障害 (ADHD) (Attention Deficit /Hyper Activity Disorder)



読み間違い、読みとばし

文章の意味を正確に理解できない

書字が乱雑、マス目に入らない



数字の書き間違い

正しく文章問題を読めない

桁がずれる

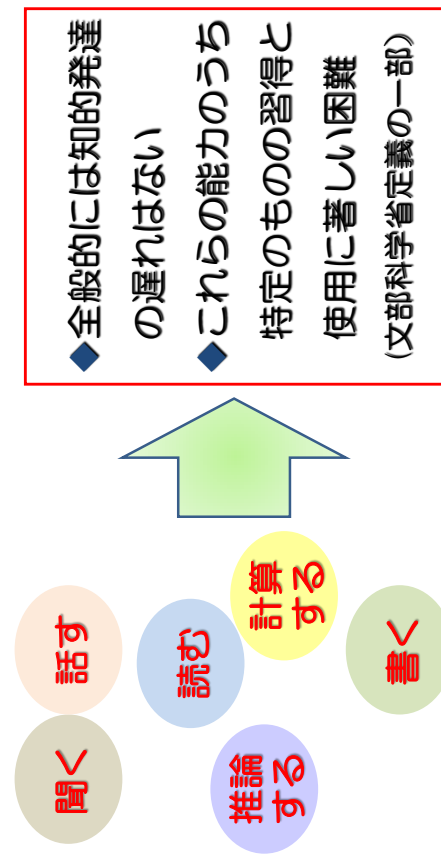
着席していられない

簡単な計算間違い

漢字の形を正確に覚えられない

集中力が続かない

学習障害 (LD) (Learning Disabilities)



学習障害 (LD) (Learning Disabilities)

ノートがとれない

90分間話が聞けない

授業内での課題ができない

気付かれにくい例

【読み障害】

外国語の習得困難

読み速度が著しく遅い

単位取得に影響

言葉の指示を理解
することが難しい

教科書がうまく読めない

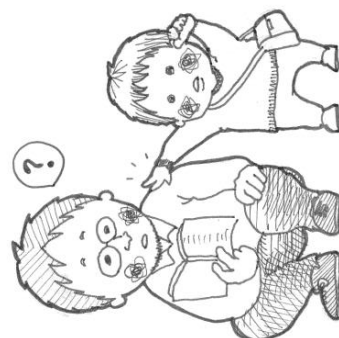
繰り上がりや繰り下が
りの計算ミスが多い

図形の問題や文章題を
解くことが難しい

言いたいことをうまく話せない

頻繁に文字を書き
間違える

ハサミやのり、ポー
ル、リコーダーなど
がうまく扱えない



大学に本人からの申し出があり、
それに対して大学が何らかの支
援を行う。

入学後に気づかれる場面

トラブル

授業、実習、ゼミ等で

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害

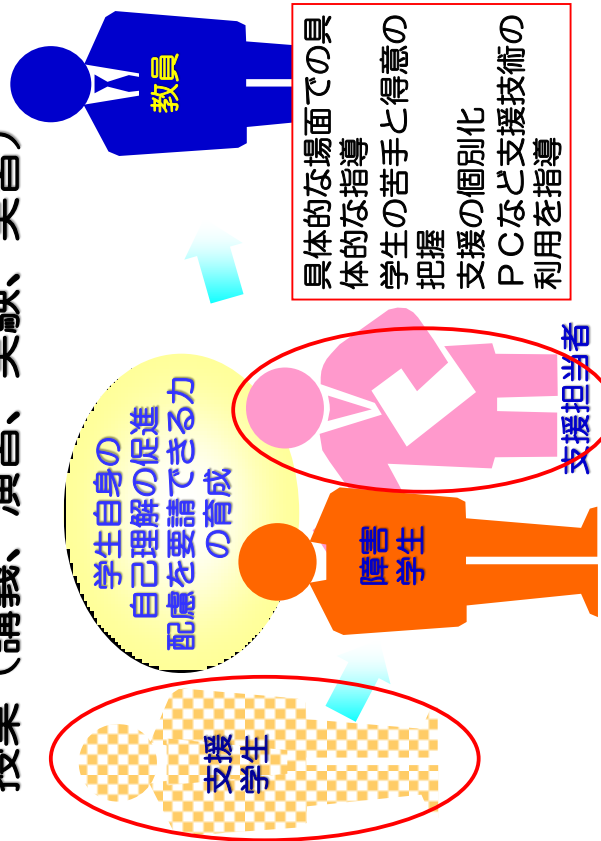
学習障害

暗黙のルールに気づかない
冗談や比喩が理解できず、
字義通りに受け取る

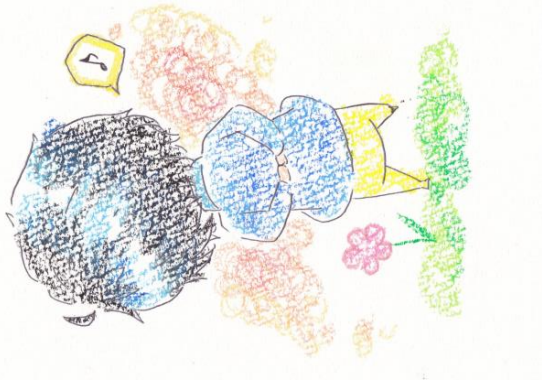
レポート提出期
日を守れない
遅刻 忘れ物

ノートがとれない
講義内容が理解でき
ない

授業（講義、演習、実験、実習）



具体的に 授業をデザイン していきたく めの考え方



□ 授業のユニバーサルデザインを図る

- すべての学生にとってわかりやすい授業となる
 - 特別な支援を目立たなくし、プライドにも配慮できる
- ### □ レポートや課題への配慮
- テーマの理解度（何をどこまで求めているのか）を確かめる
 - こまめにチェックする計画化の支援を行う

□ 教室環境の整備

- 空調やプロジェクター等の音を減らせる
- 出入り可能な教室を選んでもあげる

□ 資料を作成・配布（PP）

- 複数のワークシートを用意（拡大、カラー等）
- ICレコーダー、パソコン、デジカメの持ち込み
- 授業の見通し（授業の流れの提示）
- 「聴覚優位」「視覚優位」への配慮
- 短く、はっきり、繰り返し（説明など）
- 大きく、見やすく、具体的（板書など）
- 課題（レポート、発表、筆記試験等）の明確化
- グループワークはシラバスに明記
- 意識面のユニバーサル（どうしてほしいのかな？）

資料を作成・配布 (PP)



例えばPP作成を例に

大学で問題になる発達障害

アスペルガー症候群

社会性の障害 コミュニケーションの障害 こだわりが強く柔軟性がない想像力の障害

注意欠陥多動性障害

注意の散漫・持続しない 多動 衝動性

学習障害

話す 聞く 読む 書く 計算する 推論する

書くスペースを
少なくしても難
しい学生がいる。
ただ、このよう
な工夫で救われ
る学生もいる。

大学で問題になる発達障害

○アスペルガー症候群

先生の説明を聞
いて書くことが
できない。
特に要点をまと
めて書くことが
できない

○注意欠陥多動性障害

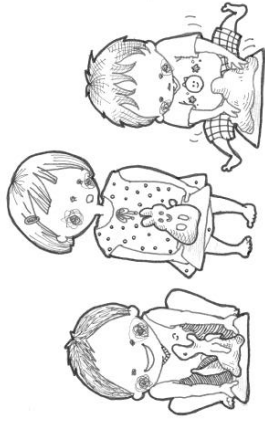
○学習障害

アスペルガー症候群

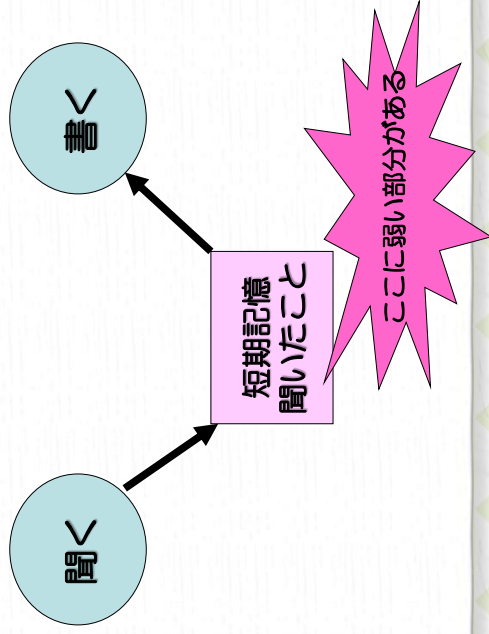
- ・ 知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうちのことばの発達の遅れを1枚のスライドに1つのものに説明。
- ・ ただし、ことばの使用や理解には、障害を
- ・ 幼児期に著しい言語的な遅れがないとされ
- ことばの遅れは徐々に改善されるため、年
症とアスペルガー障害との差が目立たなく
自閉症とアスペルガー障害をわけないとする

■ 処理された音声情報を記憶にとどめておけない

ために、いざ書く段階になると書くべき字が出てこないということもある



音声の保持がうまくいかない



アスペルガー症候群

- 知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうちのことばの発達の遅れを伴わないもの
- ただし、ことばの使用や理解には、障害を伴うことが多い。
- 幼児期に著しい言語的な遅れがないとされるが、高機能自閉症も、ことばの遅れは徐々に改善されるため、年齢が増すほど高機能自閉症とアスペルガー障害との差が目立たなくなる。そのため、高機能自閉症とアスペルガー障害をわけないとする説もある。

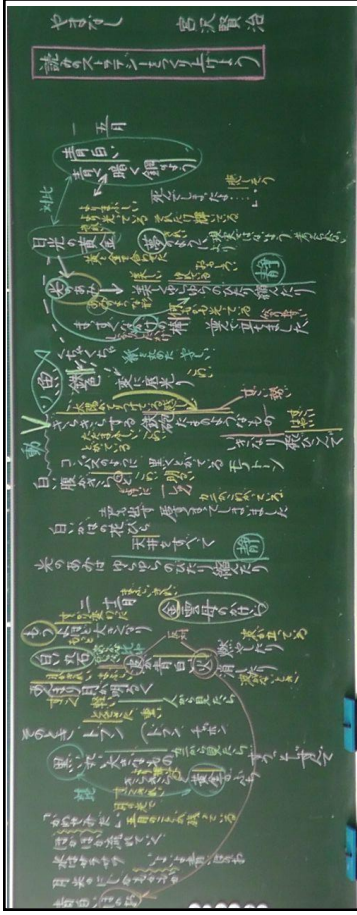
アスペルガー症候群

- 知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうちのことばの発達の遅れを伴わないもの
- ただし、ことばの使用や理解には、障害を伴うことが多い。
- 幼児期に著しい言語的な遅れがないとされるが、高機能自閉症も、ことばの遅れは徐々に改善されるため、年齢が増すほど高機能自閉症とアスペルガー障害との差が目立たなくなる。そのため、高機能自閉症とアスペルガー障害をわけないとする説もある。

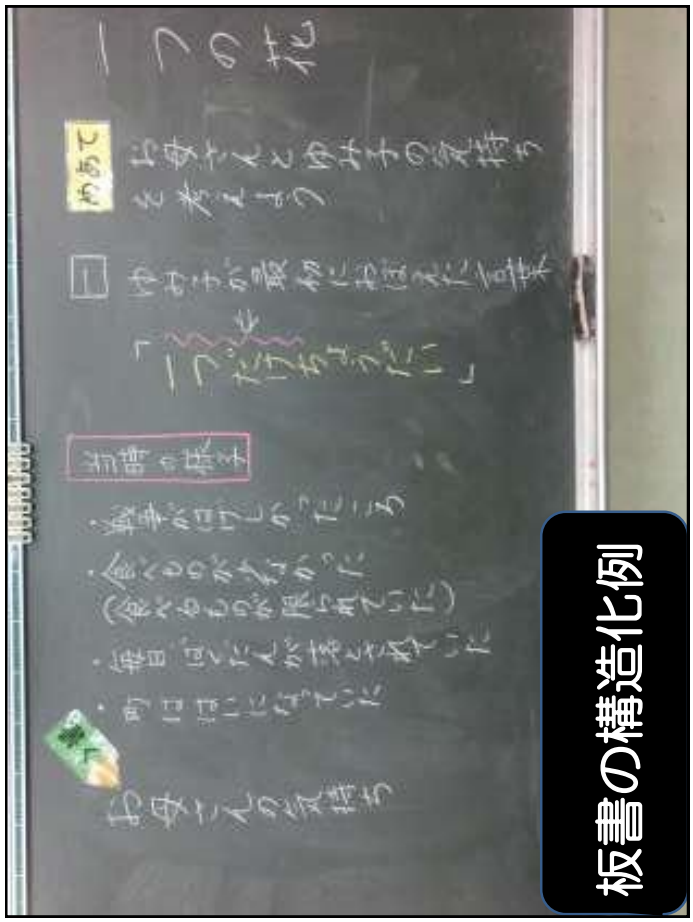


- ・ICレコーダー、デジカム等の持ち込みを認める
- ・「聴覚優位」「視覚優位」への配慮

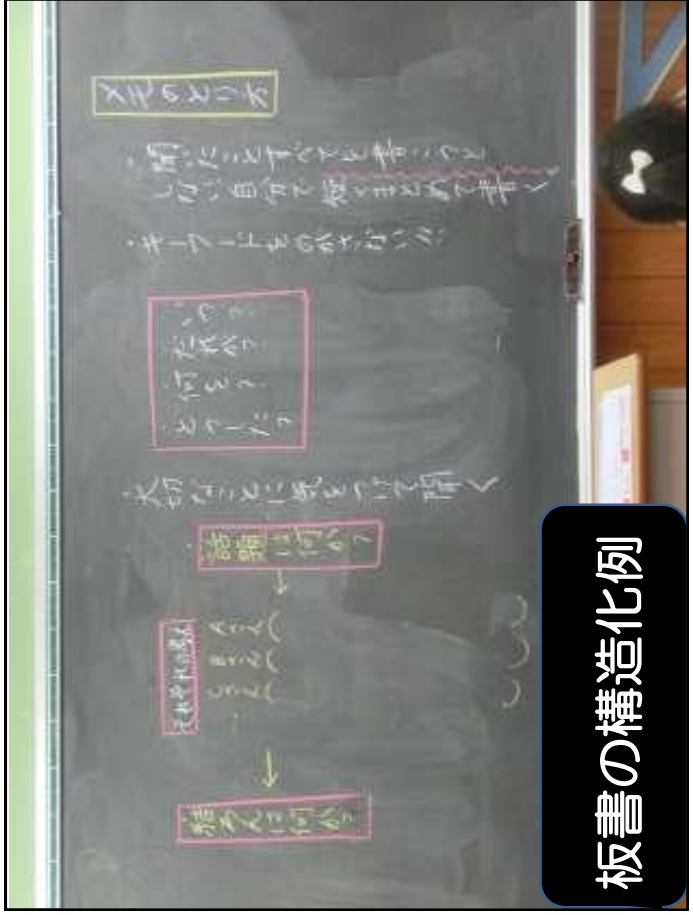
板書を撮影
講義内容を録音



この板書では、内容を理解することはかなり難しい。
この板書を、ノートに書き写すことはかなり難しい。
デジタルカメラやパッド、スマートフォンなどで、撮影させる
という配慮が必要。
講義内容はICレコーダーでの録音を認める。



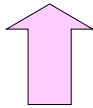
板書の構造化例



板書の構造化例

文字を追うことが難しい

なにぬの
たちごと
さしすせそ
かきくけこ
あいうえお



たしちぢぢ

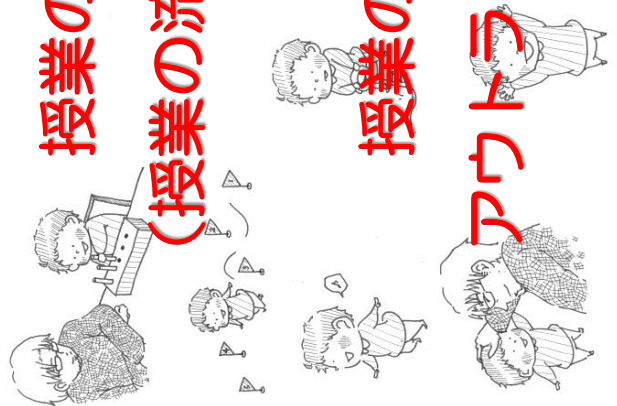
たくさんの文字
+
紙の色やアウトライン
などのたくさんの
視覚情報

読むべき文字だけ
に焦点を定めて、
他のものはみない

授業の見通し
(授業の流れの確認)

授業の初めに

アウトラインを提示



読みに関するLDがある子どもは、

- 文字を読むことが難しい
- 文字を追うことが難しい



筆記試験では、

文字を読んだり追ったりすることで精一杯



読みながら内容を理解するのは難しく、
試験時間が足りなくなってしまう



アウトライン

1. 全国実態調査の実施と発達障害児の症状と本人の思い

人の思い

2. 教育的対応の中で子ども理解

• 写真カードの作成の仕方

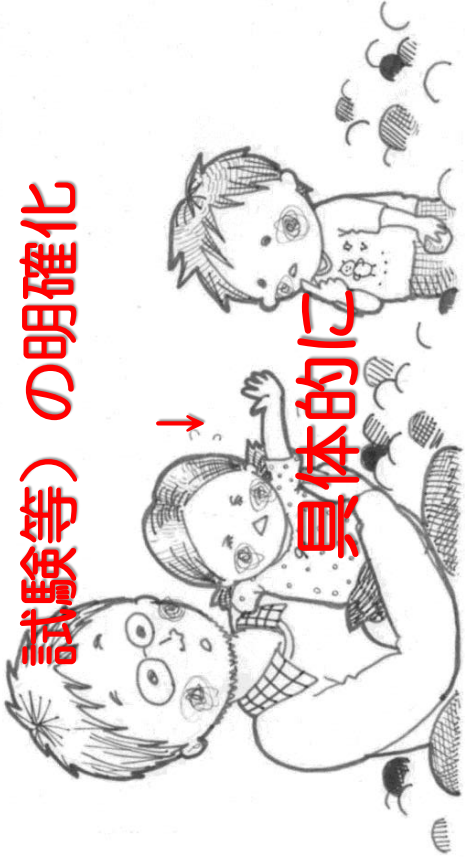
• 支援のための6項目

• 障害特性からの支援



課題（レポート、発表、筆記

試験等）の明確化



レポート提出ができない・常に遅れる

- ・ 見通しの甘さ・締切を忘れる（実行機能障害）
- ・ 優先順位をつけられない（今、何が重要かわからない）
- ・ 書けない部分がある（人に聞けない、プライド）
- ・ 締切日や提出先が明確でなかった（書けたら持ってくるという暗黙のルールがわからない、「来週のこの時間」にレポートを提出してください。→「〇月△日の授業の終わつた後に、レポートを提出してください。」

自分でも読めないくらい汚い字になってしまう

- 汚い字にもいろいろある
- 偏とつくりのバランスが悪い、それぞれの形がきちん
ととれていないといった字もあれば、画数が正しくな
い字もある
- 極端に大きい字や小さい字が入り乱れて読みづらくな
ることや字間や行間が整っていないのも字を読みにく
くする

- LDがある子どもの中には、方向や位置、大きさ、距

離などをとらえる感覚が弱い子どもがいる

- そのため、字の形がとらえにくく、正しく再現できな
い

- マス目や罫線がないと字の大きさや字間、行間が一定
に保てないのもこうした弱さが原因と考えられる

■ こうした弱さをもつ子どもは、**学力は低くないのに字**

を書くのがとても遅く、しかも汚いので、怠けている、

努力不足だと叱られることがある

■ 反対に、**学力も書く力と同程度**

だと過小評価されてしまうこと

もある



最後にもう一つ

アクティブラーニング

- 教員が一方的に知識を教える「**講義型**」ではなく、**学生自らが課題を解決したりプレゼンテーション**をしたりする授業。
- 「**能動的学習**」と言われる。
- 中央教育審議会の大学教育部会が公表した「**審議まとめ**」は、主体的な人材は「**受動的な学修経験では育成できない**」とし、求められる教育は「**アクティブ・ラーニング**」による**双方向の授業**と位置づけている。

例えば、グループワークを行う場合

- 発達障害学生は、基本的には苦手
- 最低でも、シラバスに必ず記載することが必要
- それでも共働でのグループワークを行う場合は、個別の配慮が必要。
- 見えないルールがわからない（敬語、座る場所、“**気を使う**”こと）
- コミュニケーションの苦しさ（**比喩的表現の理解が困難・衝動性**）

- 政府は今年、**国連障害者権利条約**を批准した。
- 2016年春からは**障害者差別解消法**が施行され、教育場面での**合理的配慮**の提供が義務付けられる。
- **合理的配慮**とは、
例えば、ホームまでのエレベーターがないから車椅子のひとは電車に乗れない、点字の資料がないから目が見えないひとは会合に参加できないなど、結果的にやりたいことが制限される、社会参加できないことは、差別につながる。
- **個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、小部屋等の確保**
- **クールダウンするための小部屋等の確保**
- **口頭による指導だけでなく、板書、メモ等による情報揭示**

- 来春のセンター試験では、読み書き障害のある高校3年生の男子が、問題文を代読してもらおう配慮を申請する予定。
- これまで認められたケースはない。
- ただ、この男子生徒は、高校の定期試験でも代読の配慮を受けている。
- 大学入試センターの判断が注目されている。

参考文献

- 福田真也 (2010) 『Q&A大学生のアスペルガー症候群：理解と支援を進めるためのガイドブック』 明石書店
- 片岡美華 (2010) 『障害学生のためのユニバーサルデザイン教育システム構築における比較研究：平和中島財団平成21年度国際学術共同研究助成研究成果報告書』。
- 片岡美華 (2009) 『発達障害のある大学生等への支援モデル構築に関する比較教育的研究：平成19・20年度科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ)) 研究成果報告書』。
- 日本学生支援機構 (2009) 『教職員のための障害学生就学支援ガイド』。
- 日本学生支援機構 (2011) 『平成22年度(2010年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書』
- 佐々木正美・梅永雄二 (2010) 『大学生の発達障害』 講談社。
- 菅原伸康編 (2011) 『特別支援教育を学ぶ人へ』 ミネルヴァ書房。

第3回FD研究会

「発達障がい学生支援について
～大学生活に視点をおいて～」

開催日：2014年10月8日（水）16：10 ～

会場：佛教大学紫野キャンパス

常照ホール（成徳常照館5階）

発表者：菅原 伸康（教育学部 教授）

渡邊 照美（教育学部 准教授）

参加者数：93名

＜シリーズ企画②＞
発達障がい学生支援について
～大学生活に視点をおいて～

発達障がいのある学生にはさまざまな配慮が必要です。
 特に、授業を進める中での配慮は、とても複雑でデリケートな課題ではないでしょうか。
 今回のFD研究会は発達障がい学生が大学生活の中でどのような悩みを抱えているのかを考えます。
 その上で、特に授業場面に焦点を当てて、どのような方法で対応していくことが効果的なのかを考える機会としたいと思います。

～ 概 要 ～

日時	2014年10月8日（水） 16：10～17：40
会場	佛教大学紫野キャンパス 成徳常照館5階 常照ホール
アクセス	・阪急大宮駅、地下鉄北大路駅、JR二条駅よりバス ・京都市バスで、千本北大路、佛教大学前 下車すぐ
参加費	無料
申込み	下記内容を記入のうえfdoffice@bukkyo-u.ac.jp宛に、メールにてお申込みください。 件名：第3回FD研究会申込み 本文：氏名 ：所属 ：役職 ：緊急連絡先（携帯電話等） ：e-mailアドレス ※e-mailアドレスにつきましては、本会の事務連絡と開催後に行いますアンケートのご依頼に使用させていただきます。
プログラム	16：10 開会挨拶 16：15 講演：「発達障がい学生支援について ～大学生活に視点をおいて～」 17：25 質疑応答

～講師のご紹介～



氏名 菅原伸康
 役職 教育学部 教授
 専門 特別支援教育
 知的障害児教育
 重複障害児教育
 発達障害児教育



氏名 渡邊照美
 役職 教育学部 准教授
 専門 障害者心理学
 生涯発達心理学

＜キャンパスMAP＞



※駐車場がございませんので、
 公共交通機関にてご来場ください。



※ 本企画は3回のシリーズ企画となっております。次回もぜひご参加ください。
 シリーズ企画③ **2014年11月27日（木） 16：10～（予定）**
 テーマ「発達障がい学生支援について～授業評価に視点をおいて～」

2014年度 第3回佛教大学FD研究会

1. 開催概要

開催日：2014年10月8日（水）16：10～

テーマ：「発達障がい学生支援について～大学生活に視点をおいて～」

会場：佛教大学紫野キャンパス 常照ホール（成徳常照館5階）

発表者：菅原 伸康（教育学部教授）

渡邊 照美（教育学部准教授）

司会進行：岡崎 祐司（教育推進機構長）

参加者数：92名

2. 発表（菅原伸康先生）

学生支援体制について

日本学生支援機構（JASSO）が公開しているデータによると、障がいを抱える学生に対する大学の支援体制はまだまだ低水準であり、手探り状態である。その中で、大学が主として取り組むべき課題は①人間関係②危機管理③就職活動④余暇活動が挙げられる。このことについて、他の学生との公平性、相談窓口の一本化など、合理的配慮の実現に向けて、学内で議論する必要がある。

また、“具体的な大学生の困り感”について、学生生活の視点から考えた場合、下表のようなケースがあり、大学の支援体制を検討していくことが求められる。

履修時の困難さ	情報の取捨選択が苦手な学生がいる。こだわりや思い込みの強い学生もいる。友達と異なる時間割であることについて、戸惑いを持つ学生もいる。教室がどこかわからないという、空間認知の弱い学生もいる。
掲示板の見方がわからない	どこを見ればよいか分らない。
メールで来る情報がうまく活用できない	メールのどこを見ればいいのかわからない。
誰に聞けばいいのか分からない	例えば、春秋のオリエンテーションで一度にたくさんの情報を投げかけられると混乱する場合がある。公平性を考えると、後からサポートする等のフォローが求められる。
食事をどこで食べたらいのか分からない	研究棟の中庭の片隅で食事をしている学生を見かける。
空き時間に何をしたらよいか分からない	空いた時間をどこでどのように過ごせばいいか分らない。
尋ねたのにちゃんと教えてくれなかった	相手の立場で考えることが苦手な学生がいる。回答が困難な質問をしてしまう。回答がないと不安定になる。
大学に来ることができない	失敗をずっと引きずってしまって立ち直れず、大学に来ることが難しくなってしまう。
将来したいことが見つからない	教育学部は9割以上が教員志望だが、教育学部に入ったから教員になりたい、という学生もいる。思い込みの激しい、想像性の障害の要素もある。

また、前回の研修（第1回佛教大学FD研究会「発達障がい学生支援について～授業に視点をおいて～」）でも質問があったが、「通学課程に通えなくなり、通信教育課程に入学する」ケースは多く、そのような場合は、入学時の面接（フォロー）が必要である。

3. 発表（渡邊照美先生）

高等学校と大学の違い

大学の場合、高等学校とは違い担任がいらないという時点で自己責任の度合いが高く、多くの学生が戸惑うことになるが、大抵は友人や先輩から情報を取り入れながら適応し、不安の声は段々と落ち着いていく。

また、入学後においては、次の2つの観点から、障がいのあるなしで大きく差はないと考える。

1. どんな学生も戸惑う。だから初年次教育がある。
2. 障がいの有無にかかわらず、入学直後の時期は自己のアイデンティティーの確立または自己理解を深める時期である。

構造化の度合いが異なる

特別支援教育が小中高では定着しており支援を受けやすいが、大学では主体性が求められることから学生への支援が減っていくという状況にある。

構造化とは、その場で何をすればいいのか視覚的に理解ができ、わかりやすく整理・再構成・明確化できることをいう。やることが分かっている場合は行動し易くなるので、構造化ということについて大学の中でも考えていく必要があると思われる。

特別支援教育と大学の障がい学生支援では何が異なるのか。

特別支援教育とは、一人一人の教育的ニーズを把握し、持てる力を高め適切な指導および必要な支援を行なうことである。例えば、小学校の場合、児童が自分自身で支援の必要性を主張することは難しいので、周りの人間が、その環境を整えるのである。

それに対し、障がい学生支援では、障害者権利条約 24 条では、「障害者が差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する」とされている。

障がい学生支援の場合、学生から支援が必要だと自分で言えることが必要という点が大きな差であり、自分から意思表示をする力が求められている。

合理的配慮の考え方

- ・学生本人が主体的な支援の利用者であるという意識を持つ
- ・平等な機会が与えられたら学習するのは学生本人

合理的配慮の考え方として上記の2項目が挙げられる。機会を与えないということは合理的配慮とは反する。合理的配慮とは、過度な負担とならない形で「社会的障壁」を減らすことである。

具体的には、大人数の講義で集中できず、もう一度説明してほしいとの要望があった場合、一度であればいいが、15回の授業全て対応し続けることは過度な負担となると思われる。要望への対応が継続的に可能かどうか基準になってくると考えられる。

学習支援の考え方の誤解

発達障がいのある学生はテストを免除するといった対応や、成績評価基準を緩めたりといった配慮は適切ではない。また、学生全員に公平に対応しなければならないため、特別な支援は行わない、といった対応も合理的配慮とはいえない。

発達障がい特性があると学びにくい授業は受講をすすめないといった対応も適切ではない。学ぶ機会を奪わずに本人の意思を尊重することが重要である。

また、障がいがあるからといって必ずしも支援が必要というわけではない。逆に、障がいがないからといって支援が必要ないということでもない。どの学生に対しても、個々の悩みに目を向けて日々の学生支援をしていくということが今の大学教育に求められている。

学習の支援 I. 履修登録

入学後のオリエンテーションや履修ガイダンス等は、誰もが非常に戸惑うものである。特に必修科目・選択科目・選択必修科目といった単語の意味が分からないことが多いので、教職員や上回生のサポート等があると良い。

さらに、カリキュラムの構造を分かり易く書き換え、図説する等して丁寧に伝えることが必要である。多くの大学でも履修ガイダンスの際は、非常に丁寧な説明をされているが、“全体”と“部分”の関係性を把握することが苦手な学生には、このような対応が必要であると考えられる。

また、選択科目の場合、履修登録時の判断材料として、学生の得意・不得意や教員の授業や評価のスタイルといった要素を考慮する必要がでてくる。障がいを抱える学生にとっては、グループワークが多いものは苦手であったり、逆に淡々と授業をすすめる講義形式の方がよかったりする。そういった情報をシラバスに可能な限り詳しく記述しておくことが必要である。これは、大学教育の質保証の観点からも求められるので、大学として、または教員としての責務でもあると考える。

表 1. 得意・不得意に合わせて科目を選択する対策例：相性の考え方

コミュニケーションが苦手な場合	演習形式でグループワークが多いものは難しいので個人の作業が中心の科目を積極的に履修した方が単位修得しやすい場合がある。
書字に困難がある場合	プレゼンテーション等の筆記試験以外の形で評価するものを選択することが多い。
感覚的に授業を選んでしまう場合	タイトルだけで判断して履修し、実際の内容が異なると怒ってくるということがある。
自分の興味・関心がある科目のみを選ぶ場合	履修登録の基本ルールを説明したうえで、自身の特性を確認・理解し、ちぐはぐな授業選択にならないようにする。

表 2. 授業数や時間のバランスを判断する対策例

集中力が持続しない	授業と空き時間のバランスをとる。授業を詰め込みすぎる傾向がある。結局過重な負担となり、単位がとれなくなるケースがある。
睡眠が不規則で遅刻が多い	似た内容の授業が複数開講されている場合は、1限目を避ける。

科目を選択する際には、上記（表 1、表 2）のような対応が考えられる。しかし、このようなこ

とで社会に出てやっていけるのか、という疑問も生まれてくるかもしれないが、自分を知るためには、学生自身がこのようなケースに直面するという必要もある。もし、学生が気付くことができなければ、場合によっては教職員が教えることも重要である。

大学では授業と授業の間に空き時間があることは普通のことであり、そのひとつひとつにかかる時間（授業の時間だけでなく、予習・復習やレポートを書く時間も含む）を確認するといったことが必要である。飲み会に行くことや家賃を払うといった生活に関することも、“週間予定表”等を使って書くようにすると良い。

学習の支援 II. 授業

これまでの内容は授業の前段階のことであるが、授業が始まると教職員の配慮による環境の調整が必要となってくる。支援が必要な学生の特性や困り感を意識して配慮を行なうと、単位修得率が向上する。

講義形式の授業 対策例①

障がいを抱える学生は、講義中に教員の話聞くことで精一杯で、メモを取る余裕がない場合があるので、講義資料をきちんと準備することも配慮の一つである。佛教大学には manaba という e-learning システムがあり、講義資料をダウンロードさせることも可能であるが、複雑な作業が必要な場合は、一度学生に付き添って作業をしてもらうといった配慮も考えられる。それでも難しいければ、他の手段（ノートテイカーの利用など）を検討することが必要である。

講義形式の授業 対策例②

他の手段の一つとして、授業の録音や黒板の撮影等によって、講義内容を後から確認できるようにする方法がある。

ただし、この方法は授業の情報がインターネット等に拡散しないか、といったセキュリティにおける懸念があるので、配慮希望の申し出があった場合にのみ許可をしている。また、授業中にそのような申し出ができない学生もいるので、研究室で別途対応すること考えておかなければならない。あるいは、パソコンの持込を許可するといった対応も考えられる。

講義形式の授業 対策例③

最近、完璧主義な発達障がい学生をよく目にするが、彼らが持つ完璧主義を少しだけ柔軟にすることが求められる。このような思考を持つ学生は、ひとつ失敗すると自分はダメだと思いがちである。通常、1回授業を休んだだけで即不合格になることはないが、本人は不合格になると思込んでしまうことがある。0か100か、白か黒か、中間（適当）という考え方ができないので、少しでも、1や99といった考え方ができるように、大学として支援することが大事である。

また、聴覚過敏な学生は、他の人が気にならないような私語が気になってしまうことがある。そのような場合は、防音効果の低い耳栓をつけて教員の近くに座る方法が有効である。

こだわりがあって社会性が乏しい学生は、他者の考え方に共感できない場合がある。例えば、大学の先生が話をしたことに共感できずにいると、「あの先生は大嫌い」「もう受講しない」という考えに陥ってしまう。そうならないよう、「私はこう考える、ただし、こういう良い面もあれ

ば悪い面もあるし、別の考え方もある。」という言い方をして、多様な意見を提示しておくという必要がある。また、その提示された意見の中で、自分の考えと近いものを選ぶトレーニングも必要である。

最後に、遅刻・欠席をしたとき、それが重圧となってさらに遅刻・欠席をしてしまう場合がある。その場合は、他の学生も遅刻・欠席はしていることを伝え、欠席した場合はノートを借りる等して対応策を伝えると良い。

演習形式の授業 対策例①

障がい学生の場合、「あなたはどう思いますか」といった漠然とした質問は望ましくない。「AとBどちらがよいと思いますか」といった解答が明確な質問が良い。

また、オンラインコミュニケーションを取り入れるのも一つの方法である。掲示板等があれば人と話すことが苦手な学生も参加しやすいことがあるので、そのようなツールを利用するのも一つの方法である。

演習形式の授業 対策例②

グループワークの際、周囲の声が気になってしまい、自身のグループの話を聞くことができないといったケースがあるので、マイクやヘッドホンを使って、聞くべき音を分離して聞くことが必要である。

また、発表や討論がどうしてもうまくいかない場合、推奨はしないが、違う課題に置き換えることも代替措置の方法の一つではある。ただし、課題の本質や単位認定の基準を変えてはいけないことに注意が必要である。

実験・実習形式の授業 対策例①

実験・実習形式の授業においては、教員からの指示を聞くことができず、道具や材料の扱いで単純なミスをしてしまうことがある。このようなケースでは、簡潔な説明を念入りに行なうことと、周囲にサポートをお願いするといった対応が必要である。

また、チェックリスト等を使って、教員の説明が理解できたかどうかを同じグループの学生同士で相互に確認する等の工夫が必要である。

実験・実習形式の授業 対策例②

専攻での学習に不可欠な内容に関して、非常に対応が難しい場合は、転専攻や転学部を考えなくてはならない可能性もでてくる。これは非常に難しいケースであり慎重さが求められるが、代替措置が不可で、且つそれが専攻の中核を担う科目である場合は、方向転換を促すということも大学がしていかなければならないことの一つである。

学外実習

おそらく多くの先生が困難に直面する学外実習では、履修が困難な学生に対し、最初から「あなたは実習を完了させることは無理でしょう」と断言することは不適切であると考えられる。ただ、そうした現実と直面することは、本人が進路変更の可能性について考えるきっかけにもなる。

さらに、保護者がどうしても免許・資格を取得してほしいという思いを持っている場合がある

が、保護者の意識も変化させるきっかけにもなりうる。

このようなケースが想定される学外実習においては、注意事項（実習に先立って、気を付けなくてはならないこと等をまとめたもの）を文書にまとめて本人に渡しておくことが望ましい。また、指導教員と実習担当者が、本人の了解を得て、実習先に事前に配慮要請をしておくことも、方法の一つとして考えられる。なお、配慮を要請する際は、詳細な資料等もあれば良い。可能ならば、本人が直接実習先を訪問しても良い。

個人的に、学外実習は、多くの学生にとって初めて社会との接点を持つ機会であり、高い壁に当たりながら成長していくものである。発達障がい学生であったとしても、そこでどう人生を切り返すのか、あるいはそのまま進むのか、大きな成長の時である。

学習の支援 Ⅲ. レポート・卒業論文

前述のように、発達障がい学生は自分でテーマを決めるのが苦手であるから、論文のテーマ選びや資料選びは、教員や友達と相談し方向性を定めてから決定するようにする。

単純に、「はい、やってきて」と漠然とした指示では、どこから手を付けていいのか分からないという状態に陥ってしまうので、進捗を細かにチェックしたり、「今週は〇〇まで調べてきて」という具合に、具体的に指示することが重要である。

また、独自の意見が出せない場合は、まずは口頭で話し合ってみることが大事である。その後、その内容を文書化するという手順を踏んでやると円滑にすすむことがある。

どんな授業であっても

障がい学生の学習支援については、学生と支援者（教職員）が話し合うことが大事である。どこまでは言ってもいいか、どの範囲までは言ってもいいか、事前に相談し、確認しておくことが望ましい。

授業のルールについては、ルールを明確化し、受講生全員で確認していくことが必要である。変更が生じた場合は、事前の伝達をキチンと行なうこと。特に、台風等による臨時の休講は、非常に不安を与えることであるので、分かり易く伝えてあげることが心掛ける。

また、連絡方法は紙・電話・メール等があるが、状況に応じて使い分けること。メールでの連絡が手軽で良いと思われがちであるが、メールを返信する際の文章をどう書いていいか分からずに気が滅入るといったこともあるので、電話等の方が良いケースもある。

授業は苦手なことを知る機会

自由度が高い大学の環境は、自ら何かを決定するスキルを養う場でもある。したがって、本人の意思を無視して授業を組んだり手だてを講じたりはしないこと。時には失敗することも必要である。大学生であるうちに苦手なことを知り、適切なアドバイスがあれば、苦手なこともクリアできるという感覚をつかむことも必要だといえる。

キャリア教育

障がい学生のキャリア教育については、まず、自己評価と他者評価にズレが生じるということは頻繁にあることを認識しておく。大事なことは、具体的な数値を示して自分自身が何が得意で何が不得意かを認識させるということである。

彼らは、口が達者で、分かっていると誤解されるケースがある。知識と実践は異なるので、就職活動では何度も不合格になることもある。時には、障がいオープンにする方が、就職・継続就労が可能な場合も多いということを伝えることも必要であるが、その場合は、障害者枠で就職することの気持ちも考慮しておく必要がある。

やはり、周りの支援なしには就職は難しい現状がある。最後には粘り強い支援が必要になってくると考える。

発達障がい学生

支援について

～大学生活に視点を置いて～

佛教大學教育学部
教授 菅原伸康
准教授 渡邊照美

1

アウトライン

1. 発達障害学生への大学の対応
2. 大学生の困り感（大学生生活）
3. 具体的な手立てー授業設計ー
 - ①高等学校までと大学の違い
 - ②学習支援

前回の質問から…就職支援、保護者支援

2

発達障害学生への大学の対応

- **支援担当部署の設置**

専門部署・機関連設	8.5%
他の部署・機関が対応	79.2%
- **規定の整備**

あり	16.6%	なし	82.9%
----	-------	----	-------
- **担当者配置**

専任	9.2%
兼任	72.5%
- **研修啓発活動** 65.0%

大学における研修啓発活動

- 関連する講義の開講 18.0%
- 学生向け研修（ノートテイク養成研修など） 10.6%
- 各種イベント（障害体験講座・講演など） 7.6%
- 教職員向け研修 14.1%
- 学外研修への教職員派遣 23.5%
- 障害学生・支援スタッフへの相談、懇談会など 46.1%
- 支援マニュアル、パンフ等作成配布 15.2%
- ホームページで障害学生修学支援情報公開 11.4%
- 学内イベントでの支援についての情報提供 17.6%
- 障害学生への就職支援、キャリア教育支援 37.2%

大学の取り組むべき課題

- **人間関係**
教職員、友人、先輩・後輩、不特定な第三者、異性
- **危機管理**
物品の紛失、体調不良、怪我、犯罪回避
- **就職活動（キャリア）**
将来の見通しを立てる、自立のために
- **余暇活動**
クラブ・サークルへの参加など

大学での対応の原則

- 窓口の一本化
- 教職員への情報提供（学内の共通認識）
- 障害名での画一的対応でなく、個々に検討
- 本人の自己認識の確認
- **他学生との公平性**
- **合理的配慮の枠を逸脱しない**
- 本人・保護者・他機関との相談・連携
- 社会人として送り出す最後の砦

具体的な大学生の困り感（大学生生活）

- 履修の方法がわからない
- 教室がどこかわからない
- 掲示板の見方がわからない
- メールで来る情報がうまく活用できない
- 誰に聞けばいいのかわからない
- どこで食べたいのかわからない
- 空き時間にどこで何をしたらいいのかわからない
- 将来したいことが見つからない
- ～以外の職業は考えられない
- 面接試験がうまくいかない

履修時の困難さ

- 情報の取捨選択が苦手（選択的注意や図地の弁別）
- こだわりや思い込みの強さ（アスペルガー症候群）
- 見通しの甘さ＝実行機能の弱さ（ADHD）
- ルールの理解の弱さ
- 友だちと異なる時間割へのとまどい
- **教室がどこかわからない**
- 空間認知の弱さ
- 変更への対応が困難（シングルフォカス；アスペルガー症候群）

掲示板の見方がわからない

- 選択的注意の弱さ（情報・空間ともに）
 - 見ることを忘れる（不注意・他のことに没頭）
- メールで来る情報がうまく活用できない**
- 情報の取舍選択が苦手
- 誰に聞けばいいのかわからない**
- 読むことの苦しさ（視覚的情報処理の弱さ/注意の持続力のなさ）
 - 一度に言われると混乱（オリエンテーションで一度言われただけではわからない）

人の目が気になる・音が気になる

- 感覚過敏（アスペルガー症候群）
 - 聴覚的情報処理の弱さ（選択的注意の弱さ）
- どこで食べた方がいいのかわからない**
- 空き時間にどこで何をしたらいいのかわからない**
- 決まったことならできるが、自由度が高いと戸惑う（アスペルガー症候群）
 - 状況判断が苦手、してもいいこと、してはいけないことがわからない

尋ねたのにちゃんと教えてくれなかった

- 相手の立場で考えることが苦手（想像性の障害）
 - 相手は知らない情報なのに、知っていると思いきんてい
る
 - 順序立てて話せない（理由を言わずに、「履修登録して
ください」）
- 何がいけないのかわからない・求められているこ
とがわからない**
- 場理解が苦手
 - 想像性の障害（興味の限定・こだわり）

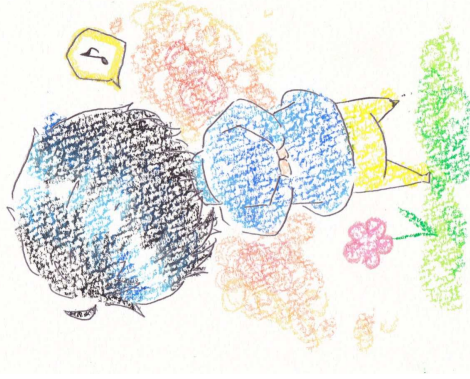
大学にこられない

- 一度の失敗から立ち直れない（こだわり、自尊心の低
さ）
 - 生活リズムが崩れている（過集中による昼夜逆転生活）
- 将来したいことが見つからない**
- 想像性の障害
 - これまでの失敗経験からくる自信のなさ
 - モデル不在からくる不安
- ～以外の職業は考えられない**
- 思い込みの激しさや、柔軟性の欠如（固執）

参考文献

- 福田真也 (2010) 『Q&A大学生のアスペルガー症候群：理解と支援を進めるためのガイドブック』 明石書店
- 日本学生支援機構 (2009) 『教職員のための障害学生就学支援ガイド』.
- 日本学生支援機構 (2011) 『平成22年度 (2010年度) 大学、短期大学及び高等学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書』
- 佐々木正美・梅永雄二 (2010) 『大学生の発達障害』 講談社.
- 菅原伸康編 (2011) 『特別支援教育を学ぶ人へ』 ミネルヴァ書房.
- 独立行政法人日本学生支援機構ホームページ
<http://www.jasso.go.jp/index.html>

具体的な 手立て



14

高等学校と大学の違い

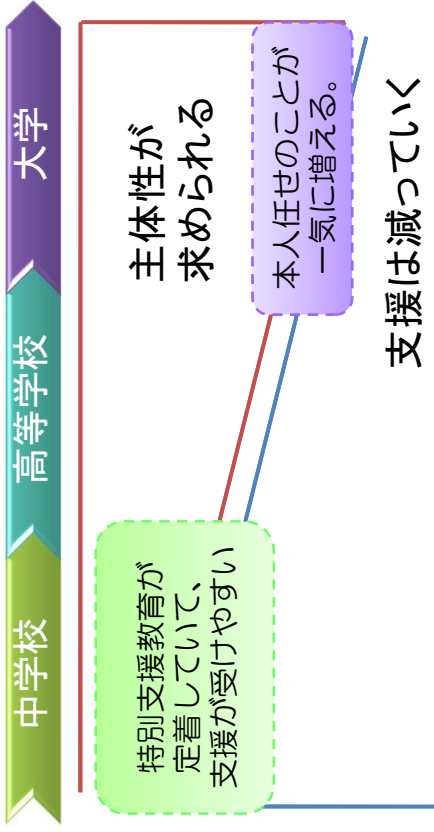
	高等学校	大学
担任	いる	いない
教室や座席	ほぼ決まっている	決まっていない
時間割	ほぼ決まっている	決まっていない
空き時間	ない	ある
授業形態	ほぼ決まっている	さまざま (講義形式のもの、演習形式のもの、実習等。想像力や応用力を必要とする課題の増加)
評価方法	ほぼ決まっている (教科書に沿った出題が多い)	さまざま (教室試験、レポート試験、プレゼンテーション等)

■障がいの有無にかかわらず、大学に入ると戸惑う
→→→ 初年次教育の実施

■障がいの有無にかかわらず、自己理解を深める時期

15

構造化の度合いが異なる



16

構造化とは？

- その場で何をすればよいのかが見覚的に理解でき、自分から行動できるように、環境をわかりやすく整理・再構成・明確化すること。
- 発達障がいのある学生は、特性のひとつとして、**視覚的に整理されている環境、やること**が**明確な指示**といった、**構造化された場**的・**人的環境**によって、**判断や行動がしやすくなる傾向**がある。

17

特別支援教育

- 特別支援教育の推進について(通知)
- 幼児児童生徒**一人一人の教育的ニーズを把握**し、**その持つ力を高め**、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、**適切な指導及び必要な支援**を行うものである。

障がい学生支援

- 障害者権利条約(2014年1月20日批准)
- 第24条 教育 障害者が、**差別なしに**、かつ、**他の者と**の**平等を基礎として**、**一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができ**ることを確保する。このため、**締約国は、合理的配慮**が障害者に提供されることを確保する。

18

特別支援教育と障がい学生支援の違い

合理的配慮*の考え方に基づいて

- 学生本人が主体的な支援の利用者であるという意識を持つ。
- 平等な機会が与えられたら、学習するのは学生本人

* 障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。(障害者権利条約)

↓ つまり ↓

過度な負担とならない形で「社会的障壁」を減らすこと。

19

学習支援の考え方

よくある誤解

- 発達障がいのある人はテストは免除に。単位が無条件で取得できる。
- 学生全員に対応するため、特別な支援は行わない。
- 発達障がい特性があると学習ににくい授業は、受講をすすめない。

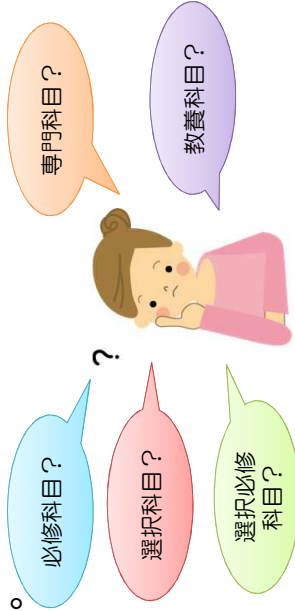
適切な支援

- 障がいがあるからといって、必ずしも支援が必要とは限らない。
- 本人が困っている場合に、支援を考慮する。個々の悩みに目を向ける。
- 学生本人から学ぶ機会を奪わない。本人の意思をまずは尊重する。

20

学習の支援 I. 履修登録

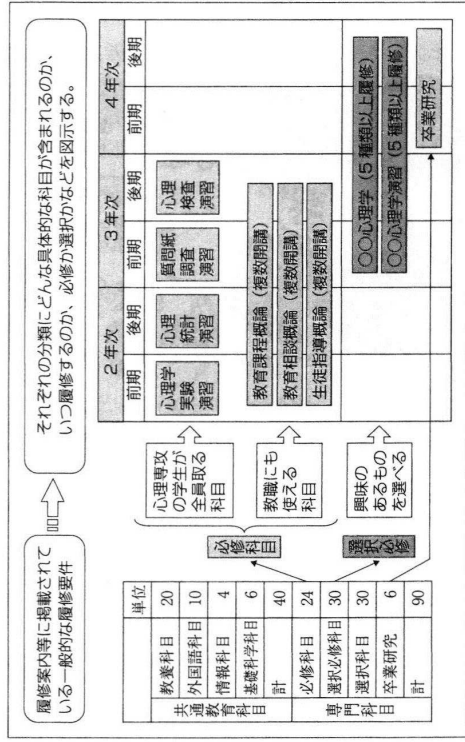
- 教職員やピア・サポーターが学生と面接し、本人の希望と必修科目のバランスをとりながら、適切な登録が行われるよう支援することが望ましい。



21

カリキュラムの構造を理解する

<全体と部分の関係を把握するのが苦手な場合>



(高橋知香 2012 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 学研教育出版 p.22) 22

得意・不得意に合わせて科目を選択する

■ 選択科目の場合



- 教員側が**シラバス**に「授業の内容」「到達目標」「準備学習・留意事項・課題についての具体的な指示」「成績評価の基準」「授業形式」など**可能な限り詳しく、明確に記述しておく**。

23

得意・不得意に合わせて科目を選択する 対策例：相性の考え方①

- <コミュニケーションが苦手>
- 演習形式でグループワークが多いものは ×
- ↓ そこで ↓
- 個人で取り組み課題が出される授業を積極的に利用
- 講義形式や個人作業中心の内容



24

得意・不得意に合わせて科目を選択する 対策例：相性の考え方②

- <書字に困難がある>
- プレゼンテーションなど、筆記試験以外の形で評価を得られるような授業を選択
- <感覚的に授業を選んでもしょう>
- <自分の興味・関心がある科目のみを選ぶ>
- 履修登録の基本ルールを説明した上で、自身の特性を確認・理解し、ちぐはぐな授業選択にならないうにする。

25

授業数や時間のバランスを判断する 対策例②

- <集中力が持続しない>
- 授業と空き時間のバランスをとる。
- 自分の集中持続時間を考えて調整する。
- <睡眠が不規則・遅刻が多い>
- 同じ(似た)内容の授業が複数開講されている場合は、1時限目は避けるようにする。
- 睡眠リズムを正すのに時間がかかるケースもあるので、そういう場合は専門家に相談して、無理をしない。

26

授業数や時間のバランスを判断する 対策例①

- <無理のある時間割を組んでしまう>
- <授業を詰め込みすぎる>
- 大学では空き時間があることは普通であることを伝える。
- ひとつひとつにかかる時間を確認する。
- 授業だけでなく、準備する時間も含めて考え、空き時間の活用について一緒に考える(時間割表に準備時間も記入する)。

27

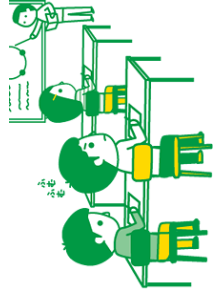
週間予定表の例

月	火	水	木	金	土	日
8		有機物 ゴミ出し				
9		カフンゼリ ンク技法	臨床 心理学	特別区 教育機関		部屋の掃除
10	認知心理 学演習	学生指導 概論	野外教育 講	発達心理 学演習	バイト	買い物
11						
12						
13	学校心理学 学演習	教育心理 学演習	発達心理学 概論			手紙の返事 を書く
14						
15	教員研修 のレポート	ゼミ準備	ゼミ	勉強会		
16						
17						
18			バイト			
19	発達心理学 演習発表 資料準備	発達心理学 演習発表 資料準備		サークル		
20						
21						
メモ	教員の 即席	演習を扱う				

(高橋知音 2012 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 学研教育出版 p.109) 28

学習の支援 II. 授業

- 授業場面では、その形態によって、学生が感じる困難や必要な支援が大きく異なる。
- 教職員の配慮による環境調整が必要。
- その学生の特性や困り感を意識した工夫や配慮を行えば、学生にとって単位修得への距離が縮まる。



29

講義形式の授業 対策例①

講義形式の場合、教科書を読んで理解したり、話を聞いて理解したりと学習者が情報を取り入れることが重要になる。

＜講義内容のポイントをまとめた資料を配布する＞

- 授業前に渡しておく、ノートをとるのが苦手な学生にとって安心。
- 講義に集中できる。
- 試験範囲もわかりやすい。

＜ノートテイク者を利用する＞

30

講義形式の授業 対策例②

＜機器を利用して授業を記録する＞

- 授業の録音や黒板の撮影などによって、講義内容を記録し、後から確認できるように。
- 文字を書くことは苦手、でもタイピングなら得意という場合は、パソコンの持ち込みを許可することも。
- スマートペンの使用

31

学研教育出版HPより引用

<http://gakken-ep.co.jp/news/201309/20130919.html>

株式会社学研教育出版は、米国Livescribe社製「エコー・スマートペン(echo smartpen)」を日本国内独占発売いたします。

Livescribe社製スマートペンのシリーズは、世界で唯一、**手書きの文字と音声を同時に記録してデジタル化することができるICT機器**です。その中でも「エコー・スマートペン」は、全世界で150万本以上販売されており、ビジネスマンや教育関係者から特に高い評価を得ている製品です。

2013年11月～販売されている。



32

講義形式の授業 対策例③

＜完璧主義を少しでも柔軟にする＞

- ひとつ失敗しただけで、自分はダメな人間だと思い込み、一休んだだけで、来年がんばろうと考える(0か100か)。
- 聴覚過敏によって、人の私語や物音が気になるので、防音効果の低い耳栓をつけ、教員の近くに座る。
- こだわりがあり、社会性が低い場合、他者の考え方に共感できない場合もあるので、教員の考えが認められないことがある。そのため、さまざまな考え方の良い面、悪い面を具体的に述べる。
- ストレスや生活リズムの乱れにより、遅刻、欠席をする。すると、それが気になって、出席できなくなる。他の学生も遅刻や欠席をしていることを伝え、欠席した場合は、ノートを借りる等の対応策を伝える。

33

演習形式の授業 対策例①

＜「何を答えたらよいか」がわかりやすい質問をする＞

- 漠然とした質問は×
☞例えば「あなたはどう思いますか」
- 具体的な質問が○
☞例えば「AとBとどちらがよいと思いますか？」

＜オンラインコミュニケーションを取り入れる＞

- オンラインの掲示板などであれば、人と話すのが苦手な学生も参加しやすい。

34

演習形式の授業 対策例②

＜マイクを使用して聞くべき音を分離する＞

- 周囲の音が雑音となって、グループの発言が聞き取れないことがある。マイクの出力をヘッドホンで聞くようにすれば、聞くべき音を分離して聞くことができる。

＜発表や討論を違う課題に置き換える＞

- 発表や討論がどうしてもうまくいかない場合、レポートなど違う課題に置き換えることが可能であると授業担当者が判断すれば、代替の課題を与える。
- ただし、課題の本質は変えない。単位認定基準・卒業要件の緩和は大学ではできないこと！

35

実験・実習形式の授業 対策例②

＜不器用さが顕著＞

- 作業に時間がかかることを計算にいれておき、危険を伴う作業に関しては無理をしないように声をかける。

＜感覚過敏が強い＞

- 代替措置を検討。免除できる範囲なのか、代替授業が可能なのかの検討。
- 専攻での学習に不可欠な内容に関して、ちよつとした配慮では対応が難しい場合は、転専攻や転学部を考えなくてはならない可能性もある。

36

実験・実習形式の授業 対策例①

指示の聞き落としが多く、道具や材料の扱いについて単純なミスを起こすことがある。それが大事故につながるような実験や実習を行う場合は、特に注意が必要。

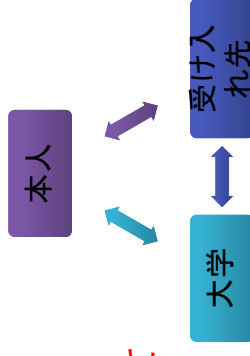
<不注意・多動性・衝動性が強い>

- 簡潔な説明を念入りに行い、周囲のサポートをお願いする。
- 作業前に、説明が理解できたかどうかのチェックリストを記入し、同じグループのメンバーも一緒に確認する。
- 本人の自覚も促し、自分から周囲に必要な支援要請ができるようにする。

37

学外実習

医療・福祉・教育の分野などでは、学外での実習が卒業要件となることがある。社会性やコミュニケーションの問題に大きな偏りがある場合、どう振る舞えばいいのかかわからない事態に直面する。



「実習をこなせない」という現実に直面することは、**進路変更の可能性について考えるきっかけ**になりうる場合もある。

38

学外実習 対策例

<注意事項を文書にまとめて渡しておく>

- 実習に先立って、気をつけなくてはならないことを他の学生以上に詳細に伝え、重要事項は文書にまとめて渡しておく。

<指導教員と支援担当者が事前に実習先を尋ね、担当者に配慮要請をする>

- 実習の受け入れ先担当者も学生のことを理解しておかないと、対応に戸惑うことになるため、資料を作成して伝える。
- 事前に本人にも会っておいてもらおうと双方が安心

39

学習の支援 Ⅲ. レポート・卒業論文

<自分でテーマを考えることが苦手>

テーマ選び、資料選びは、教員や友だちと相談して、方向を定めてから。

<いつまでもまとまらない・期限に出せない>

こまめにチェックする。
具体的にすべきことを指示する。

<独自の意見が出せない>

まずは口頭で話してみよう。そして文章に。

例) Aという意見とBという意見だと、どちらに近い？なぜそう思うの？

40

どのような授業であっても

- ①どこまで情報を開示するかを学生と相談
- 前述したような対応を行う場合、特別な配慮が必要であることを、教員や受講生に伝える必要がある。障がいに関する情報をどこまで伝えるのか、学生と支援者で話し合う。←自己理解も深まる。
- ②時間管理のスキルの指導
- 遅刻をしない、課題の提出期限を守ることは重要。その場合、1週間単位のスケジュール管理ができるようにする。「やることリスト」を作成する(手帳、携帯電話等活用)。

41

どのような授業であっても

- ③教室環境の配慮
座席の配慮
- 決まった席でないと感じない場合は、学生の座席は固定して、周囲の学生にも理解を求める。全受講生の座席を固定することも。
- 教室の出入り口の配慮(出入り自由な教室)
- 自由に入入りできると落ちついて授業を受けることができる場合もある。
- 空調やプロジェクトターの音

42

どのような授業であっても

- ④授業のルールの明確化
- 遅刻は何分までは許されるか、質問は1回何回まで、質問シートに記入して授業の最後に提出、発言者の意見は最後まで聞く等のルールを説明しておく。
- ⑤変更の事前の伝達
- 臨時の休講や教室の変更などが生じた場合、急な変更に対応するのが苦手な学生は混乱するので、わかった時点でなるべく早く伝える。

伝え方にも工夫が必要！
紙に書いて伝える。電話で伝える。
メールで伝える。etc...

43

授業は苦手なことを知る機会

- 履修登録といった事務手続き
 - 提出期限のある課題
 - ゼミや演習といった討議
 - 社会に出てからも必須のスキル
- 本人の意思を無視して、授業を組んだり、手立てを講じたりしない(失敗することも必要)。
 - 大学生であるうちに苦手なことを知る。
 - 人に相談し、アドバイスをもらい、確認してもらうことで、苦手なこともある程度できるようになる。
 - 得意にはならないが、問題は減っていく。

44

就職の支援(キャリア教育)

<自己評価と他者評価がズれる>

- 「この職業しかない」または「何でもできる」
- 職業適性やチャェクリストによる得意不得意分野の共通理解
☞ 具体的に言葉や数値にして、他者と比較するとわかる場合も
- その職業のプラス面・マイナス面を伝える

<口が達者な場合もあり、わかっていると誤解される>

- 知識と実践は異なる。
- ブースの尋ね方、面接練習を重ねる。
- エントリーシート の書き方も見本を示しながら。

45

<何度も不合格になる>

- (伝えるタイミング・伝え方に配慮は必要だが)障がいをおープンにする方が、就職・継続就労が可能なる場合も多いことを伝える。
- 支援なしには就職は難しい。
- セルフ・アドボカシー・スキル * 形成を目指す。
* 自分の特性を理解した上で人に説明し、自分にとって必要な支援を求められる力
- 自己理解につながる粘り強い教育・支援を

46

保護者支援

<本人も家族も気づいていない・受容できていない>

- 保護者向けのプログラムの実施
- 保護者との面談
- データや提出物を示しながら、実態を理解してもらう。

<共に支援方法を考える姿勢>

- 保護者が何に困っているのか。
- 大学の中で、本人が何に困っているのか。
- 解決方法を共に探る。
- 保護者のアイデアを支援の中に取り入れる。

本人のがんばりを具体的に伝える。
↓
次に課題になっている部分を伝える。

保護者をねぎらう

【引用文献・参考文献】

- 片岡美華 2012 青年期発達障害者のセルフ・アドボカシー・スキル獲得に向けた教育プログラム開発 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書
- 片岡美華・玉村公二彦 2009 高等教育における発達障害学生への導入・初年次教育-LD・ADHDに特化したランド・マーク・カレッジの場合- 奈良教育大学紀要 58, 57-67.
- 日本学生支援機構 2012 教職員のための障害学生修学支援ガイド (平成23年度改訂版) [http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/guide/top.html\(2014/9/9取得\)](http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/guide/top.html(2014/9/9取得))
- 佐々木正美・梅永雄二 2010 大学生の発達障害 講談社
- 高橋知音 2012 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 学研教育出版

48

第4回 FD 研究会

「学生が自ら学ぶ授業を設計してみませんか？
～シラバスの工夫で、授業はもっと良くなる～」

開催日：2014年11月25日（火）17：00 ～

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-309 教室（1号館3階）

発表者：中島 英博（名古屋大学 高等教育研究センター 准教授）

参加者数：25名

学生が自ら学ぶ授業を設計してみませんか？

～シラバスの工夫で、授業はもっと良くなる～

2014年**11月25日**(火)17:00～19:00

会場

佛教大学 紫野キャンパス 1号館3階 1-309教室

申込み

下記内容を記入のうえfdoffice@bukkyo-u.ac.jp宛に、メールにてお申込みください。

件名: 第4回FD研究会申込み

本文: 氏名

: 所属

: 役職

: 緊急連絡先(携帯電話等)

: e-mailアドレス

※e-mailアドレスにつきましては、本会の事務連絡と開催後に行いますアンケートのご依頼に使用させていただきます。

その他

<当日の持ち物について>

- ① 担当している講義のシラバス(次年度も引き続き担当する講義が望ましい)
- ② 学部・学科のディプロマポリシーや、カリキュラムが掲載された資料

講師



中島 英博氏

名古屋大学高等教育研究センター准教授。専門は、高等教育論、高等教育マネジメント。主な著書は、「アメリカにおける大学執行部向け研修の現状と課題」『名古屋高等教育研究』第12号、2012年、53-66。など。

キャンパスMAP



※駐車場がございませんので、公共交通機関にてご来場ください。

2014年度 第4回佛教大学FD研究会

1. 開催概要

開催日：2014年11月25日（火）17：00～

テーマ：「学生が自ら学ぶ授業を設計してみませんか？

～シラバスの工夫で、授業はもっと良くなる～

会場：佛教大学紫野キャンパス 1-309 教室（1号館3階）

発表者：中島 英博（名古屋大学 高等教育研究センター 准教授）

司会進行：岡崎 祐司（教育推進機構長）

参加者数：25名

2. 発表

今回の研究会では講師の知識を披露するのではなく、持参したシラバス等を使いながら、参加者同士で話題提供や議論をしながら進めていきたい。その中で授業設計の原則を振り返っていく。

学習支援計画書

金沢工業大学がシラバスのことを「学習支援計画書」として公開しており、約3ページにわたる授業計画を作成している。また、フォーマットが作り込まれているので、これを参考にすると、シラバスを作成に必要な部分に分かってくるだろう。今回の研究会では「学習支援計画書」という名前を使って説明する。

今日では豊富に資料がある

- 北海道教育大学「シラバス作成の手引き」
- 岩手大学「シラバス作成の手引き」
- 筑波大学「シラバス作成のためのガイドライン」
- 山口大学FDハンドブック「シラバスの作成」

上記大学は教員向けのシラバス作成マニュアルを公開している。中でも北海道教育大学と岩手大学が授業設計の方法論等をコンパクトにまとめているので、是非参考としていただきたい。

【ケーススタディ】「単位の互換を認定するかどうか。」

自身が学部長という想定で、4人ごとのグループに分かれて、自己紹介を含めて5分間「認定する」「認定しない」の意見交換を行なっていただく。

<ケーススタディの設定条件>

- 編入学生が、他大学で履修済みの科目を、本学の授業に振り替えて単位を認定してほしいという申請があった。
- 科目は「データ解析入門」
- 事務局長は、あなたに「認定すべきではない」と進言している。

- ・その理由として事務局長はシラバスをあげた。
- ・従来より同一科目名は原則として認定してきた。
- ・当該学生の卒業認定を左右するため、不認定は学生・保護者・内定先への十分な説明が必要。
- ・全学部長に相談すると、「事務局長の意見はもっともだが、卒業延期にするほどの問題ではない。大目にみて認定すればよい。」
- ・明日の教授会の審議事項として結論を出さねばならない。

実際、このような編入時における単位認定の問題は、中国からの留学生に対して多く発生しているようである。その認定できない主な理由としては、多くの大学がシラバスを公開していない、あるいは不明確なシラバスなため認定の判断が付かないといったことである。これに対し、ヨーロッパの大学では不明確なシラバスは一律認定しないとといった措置をとっていることもある。自身が作成したシラバスも外部の目に触れている可能性もあることも認識していただきたい。

私立大学等改革総合支援事業での評価

- ・シラバス作成要領により、準備学習に必要な時間またはそれに準じる程度の具体的な学習内容をシラバスに記載しているか。(含む非常勤) (配点 10)
- ・シラバスに到達目標を明記しているか。(含む非常勤) (配点 4)
- ・シラバスの記載内容の適性について、第三者がチェックしているか。(配点 5)

上記は私立大学の改革総合支援事業で、補助金を獲得するために取り組まなければならない項目である。平成 26 年度の申請結果では、シラバスへの到達目標の明記が申請校で 95%、採択校で 99%、準備学習・具体的な学習内容の記載が申請校で 79%、採択校で 95%、シラバスの第三者チェックが申請校で 54%、採択校で 76%となっている。

シラバスとは

『中教審(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」答申』の用語集では、「各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習などについての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。アメリカでは、教員と学生の契約書と理解されている例もある。授業内容の概要を総覧する資料(いわゆるコース・カタログ)とは異なり、科目の到達目標や学生の学習内容、準備学修の内容、成績評価の方法・基準の明示が求められる」とされている。

「シラバス」と「コースカタログ」の分類

	Course Catalog ⇒ シラバス	Syllabus ⇒ 学習支援計画書
対象	履修希望学生・同僚教員・社会	授業参加学生 (+同僚教員)
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が履修科目を選択する際に参考となる情報を提供 ・社会に対する大学の説明責任を果たすための情報を提供 ・教員間で授業内容の調整をする際の資料を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生がその科目の学習を進める際の学習の手引きを提供 ・(FDにおいて、他の教員から授業目標の書き方や課題の出し方を学び合う資料)
記載内容	<ul style="list-style-type: none"> ・その分野の専門家でなくても理解できるように書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が学習を進める上で必要な情報が盛り込まれている
伝達方法	<ul style="list-style-type: none"> ・統一様式 (簡潔) ・オンライン 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由様式 (詳細) ・ハンドアウト

学生が使いやすい学習支援計画書

1. 目標が理解できる
 - ・ 専門性+生活や職業上の意義
2. 学生が自らの学修について点検できる(評価方法が理解できる)
 - ・ 試験：過去問、模擬問題、模範解答
 - ・ 論述：過年度の成果、評価基準ルーブリック
3. 授業中・授業外でどのような活動をするかが予想できる
 - ・ 負荷の程度「自分でもやれそう」
4. 課題や授業中の活動に必要な情報がまとまっている
 - ・ 文献・資料・道具 ⇒ 「コースバック」(発展系)
5. 教員のメッセージが読み取れる
 - ・ ルール・注意事項、過去の成果

上記のことをふまえて、実際に学習支援計画書を学生に配付し、最初の授業で40分程かけて説明したところ、180人程度の授業であったが、学生は自分に期待される行動を理解し、私語がなくなり、また熱心に授業に参加してくれるという効果があった。

学習支援計画書をつくるメリット

1. 自発的な授業時間外学習、試験準備学習が増える。
2. 質問が増える。
3. 試験・レポートの平均点が上がる、
4. (結果として)授業中の私語が減る。
5. 一度丁寧に学習支援計画書をつくると、次年度以降の授業が楽になる。

学習支援計画書を作成したことで、徐々に授業満足度で高得点を得られるようになった。授業の手法や技術に頼らず、誰でも良い結果出せるという意味では、学習支援計画書は非常に有効なツールであると考えられる。

バックワードデザイン

担当科目が決まった時、何を教えるべきかを漠然と考えがちであるが、あらかじめ設定されているカリキュラム上の目標から学生の現状を引いて考えるとよい。目標⇒評価⇒授業内容という具合に逆算設計で授業を考えることがバックワードデザインであり、決められた目標に対し、どのように評価するかを考え、その評価のために必要な内容を授業で教えていくという流れである。

授業を設計する5つのポイント

1. 担当授業の位置づけ

「担当授業の前に何を学んできたか」「担当授業の後に何を学ぶ予定か」「担当授業に期待されていることは何か」を考える。

【ワーク 1】 授業と教育目標の関係を把握する (5分) [別添のワークシートを参照ください]

1. 参加者が持参した学部のDP(ディプロマポリシー)を「ラーニングアウトカムズ」に書き写す。
2. 参加者が持参した担当授業の目的と到達目標を、枠内に書き写す。
3. ラーニングアウトカムズのうち、担当授業の目標が特に重視しているものがあれば「◎」を付ける
4. 同様に「○」「△」をつける

【ディスカッション 1】 授業と教育目標の関係を把握する

1. 「◎」「○」「△」の結果と、なぜそのようになっているかを説明する (1分)
2. 説明を聞いた方は、「◎」「○」「△」が多すぎるか・少なすぎるか・ちょうどよいかの感想を述べる(その他の質問も可) (計3分)
3. 1人目が終わったら、2人目以降の方へ順に進める (計16分)

学部が決めたラーニングアウトカムズのうち、自身の担当授業がどれくらいカバーするのは、個人では決められないところがある。本来、このような議論は学部の教務委員会、あるいは学科単位や専攻単位など、限定されたグループで議論すべきかもしれないが、今回の議論で自身が担当する授業の教育目標を確認する良い機会であったと思う。

ラーニングアウトカムズ全てをカバーすることが必要なわけでもない。また、広くカバーするほど良い授業だという事ではないが、あまりにもそこから逸脱した授業の設定をしてしまうということも、学部のカリキュラムの目標に対して誠実でないことになる。

ディプロマポリシーを知ることは、カリキュラムにおける自身の科目を位置付けを知るための作業の一部分である。その他、担当授業の前に何を学んできたか、あるいは後に何を学ぶか、担当授業に期待されていることは何かということも位置付けを知る上での必要な作業である。大よそ授業目標の半分は所与であると考え、残りの半分を教員が学生の履修状況等を鑑みて設定するといった考えで良いのではないか。

2. 授業の到達目標を振り返る

学習成果のプロフィール（要素）を作成する

授業終了時に学生が「何をできるようになっているのか」の一覧(行動目標)を15回の授業で30個以上書き出し、書き出した物を5点前後の「到達目標」にまとめて表記する。

※学習成果のプロフィールについては別添の資料参照

学習成果のプロフィールの例 「労働経済学」

• 知識・記憶レベル

労働力率の定義を知っている、無差別曲線が描ける、世帯の予算制約線を描くことができる、一般訓練と企業特殊訓練の違いを説明できる、M字カーブを説明できる、情報の非対称性の定義を説明できる、統計的差別を説明できる、賃金構造基本統計調査・労働力調査・毎月勤労統計調査の調査項目を知っている

• 理解・応用レベル

世帯の予算制約を用いて夫婦の働き方の組み合わせを分析できる、2期間モデルを用いて訓練が企業特殊的なときの賃金プロファイルの特徴を説明できる、UV曲線を用いて失業を需要不足失業と構造的・摩擦的失業に分解できる、シグナリングモデルにおける労働者の訓練費用に関する仮定の特徴を指摘できる、シグナリングモデルを用いて学歴間の賃金格差の存在を説明できる

到達目標の例

1. 労働経済学の分野で使われる専門用語や概念の定義を理解する
2. 統計資料に基づいて日本の労働市場の実態と特徴を読み取ることができる
3. 労働経済学の分野で使われる基礎的なモデルを用いた分析ができる
4. 現代日本の労働政策について、モデル分析を応用しながら自分の考えを説得的に述べることができる

【ワーク 2】 授業の到達目標を5点でまとめる (5分)

- 学習成果のプロフィールを列举する(省略可)
- 学習成果のプロフィールをまとめ、5点程度の到達目標にまとめる

まとめ方1: 認知の水準が順に上がる

説明できる→応用する→評価する

定理を知っている→公式を導く→応用問題を解く

まとめ方2: 活動レベルの別にする

理解する・問題解決策を提案する・協力して発表する

説明できる・議論に貢献する

3. 評価方法を定める

到達目標は評価方法と密接に連動している部分がある。到達目標を複数設定したことは、評価方法を多様化するということである。また、評価方法の多様化、評価機会の多様化は政策的にも求められている。評価とは、学生を断罪するためのものではなく、学習を推進する強力な手段であると同時に、シラバスにおける「評価の方法と基準」は、学生が2番目に興味をもつ箇所非常にメッセージ性がある。

評価方法と評価基準

評価方法

評価方法とは学生の学習成果を測定する方法のことである。

例)期末試験、期末レポート、小テスト、口頭試問、調査発表

評価基準

評価基準とは、各評価方法について、成績をつける基準のことである。

例 1) レポートの場合

「適切に問題が設定されている」、「設定した問題の背景を説明している」、「既存の学説を3つ以上あげている」、「複数の学説の相違点を比較している」、「既存の学説に基づいた自分の見解を述べている」のうちの2つ以上を満たせば「C」、5つ全て満たせば「A」

例 2) 試験の場合

テキストの例題を解ける = 「C」、テキストの章末問題が解ける = 「B」、テキストの応用問題が解ける = 「A」

【ワーク 3】 到達目標に対応した評価をきめる (10分) [別添のワークシートを参照ください]

1. (ワーク 2 で作った)目標到達を書き写す
2. それぞれの目標を評価する方法を選ぶ
 - 方法を決め、対応する目標に「✓」を入れる
3. 評価の方法を書き写す
4. それぞれの方法に対応した評価基準を決める
 - 「C」「可」「合格」の基準を示す
 - 「A」や「優」としても構わない

【ディスカッション 2】 到達目標と評価方法を紹介する (20分)

1. ワーク 2・3 の結果を紹介する (2分)
2. 聞いた方は、学生が「わかりやすい」というかについて感想を述べる (計 3分)
3. 1人目の方が終わったら、2人目以降の方へ順に進める

4. 学習活動を決める

設定した評価基準に到達できるための学習活動を設定する

試験で評価する場合は、授業内での練習問題や学生同士で教え合う機会を設定する。レポートで評価する場合は、書く練習や自己評価の機会を設定するなど、授業の中で設定すべきアクティビティは決まっている。学習活動には、主に次の要素があるので、評価基準に適した学習活動を設定していただきたい。ただ、90分の授業の中で実施できる学習活動には限りがあるので、授業時間外を活用することが重要になってくる。

- 情報・考え方を得る

直接：自らデータや情報を集める

間接：講義を聞く、テキスト・資料を読む、映像を見る

- 体験する

行動：解く、他者に教える、実践する、発言する、実習する

観察：見学する

- 省察する

一人で：自己採点をする、振り返る

他者と：教えてもらう、意見をもらう

5. 実行可能な学習計画を設定する

- 大きな目標を 15 回の授業に振り分ける

- 15 回の作り方：2つのアプローチ

1. Top Down：到達目標→5つ程度の単元目標→3回分のまとめり→15回分の目標

2. Bottom Up：2～3の学習成果のプロフィールをまとめる→授業1回分の目標×15

到達目標と評価方法を作るためには、とにかく沢山の学習成果のプロフィールを作ることが大事である。多めに作成しておき、授業科目の位置付けと学生の履修状況を見てどの程度の到達目標を設定すべきなのかを判断する。

授業計画を作るポイント

複数の学習活動を 90 分間の講義で行なうことは容易ではないので、講義資料等は事前にインターネット等にアップロードして授業時間外の学習を促し、授業の冒頭に確認試験を行なった後、隣同士で教え合い（シンク・ペア・シェア）をさせることで導入も楽になる。それには、授業中の活動計画と授業当日までに行う学習計画の 2 つを予め用意しておくがよい。講義の時間は 40 分に設定して残りの時間は学生同士で活動をさせるというやり方でも、十分に学習機会は作れる。特にシンク・ペア・シェアは大人数授業でも使いやすい手法である。

最後に

学習支援計画書を準備すると、学生はよく学ぶようになることに加え、自身の授業運営も楽になる。作成にあたっては、急に完成形を作ろうとせず数年間で完成させるつもりで取り組めば良いだろう。ただ、設計のノウハウは比較的容易に修得できるので、他の教員とのコミュニケーションを取りながらアイデアを吸収し、少しずつ完成形へ近づけていくことが肝要である。

学生が自ら学ぶ授業を設計 してみませんか？

～シラバスの工夫で、授業はもっと良くなる～

14/11/25

佛教大学第4回FD研究会

1

シラバスとは何か？

■ 今日では豊富に資料がある

- 北海道教育大学「シラバス作成の手引き」
- 岩手大学「シラバス作成の手引き」
- 筑波大学「シラバス作成のためのガイドライン」
- 山口大学FDハンドブック「シラバスの作成」

■ 今日のセミナー方針

- 既存のシラバスを振り返る
- 「授業設計」の原則

2

(ケーススタディ) 単位の互換を認定するか？

■ あなたは、ある学部の学部長です。

- 編入学生が、他大学で履修済みの科目を、本学の授業に振り替えて単位を認定してほしいという申請があった。
- 科目は「データ解析入門」。
- 学部長は、あなたに「認定すべきでない」と助言している。
- その理由として学部長はシラバスをあげた。
- しかし、従来より同一科目名は原則として認定してきた。
- 当該学生の卒業判定を左右するため、不認定は学生・保護者・内定先への十分な説明が必要である。
- 前任学部長に相談すると、「学部長の意見はもっともだが、卒業延期にするほどの問題ではない。大目に見て認定すればよい。」
- 明日の教授会の審議事項として結論をささねばならない。

- あなたなら、認定するか？

3

私立大学等改革総合支援事業 (タイプ1)

■ 「シラバス作成要領により、準備学習に必要な時間またはそれに準じる程度の具体的な学習内容をシラバスに記載しているか」 (含む非常勤) (配点10)

- 単位の実質化に対応しているか？
 - ↳ 事前事後学習が設計されているか？

■ 「シラバスに到達目標を明記しているか」 (含む非常勤) (配点4)

■ 「シラバスの記載内容の適正について、第三者がチェックしているか」 (配点5)

- カリキュラム方針に対して、授業内容が適正か？

4

私立大学等改革総合支援事業（タイプ1）

■ 平成26年度申請結果

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm

- シラバスに到達目標の明記を求めている
 - 申請校：95% 採択校：99%
- シラバスに準備学習時間・具体的な学習内容を記載
 - 申請校：79% 採択校：95%
- シラバスの記載内容の第三者チェック
 - 申請校：54% 採択校：76%

5

「シラバス」

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、**学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの**。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。アメリカでは、教員と学生の契約書と理解されている例もある。

授業内容の概要を総覧する資料（いわゆるコース・カタログ）とは異なり、科目の到達目標や学生の学修内容、準備学習の内容、成績評価の方法・基準の明示が求められる。

中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための 大学教育の質的転換に向けて」答申6

シラバスとコースカタログ

	Course Catalog ⇒ シラバス	Syllabus ⇒ 学習支援計画書
宛先	<ul style="list-style-type: none"> 履修希望学生・同僚教員・社会 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加学生（+同僚教員）
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> 学生が履修科目を選択する際に参考になる情報を提供 社会に対する大学の説明責任を果たすための情報を提供 教員間で授業内容の調整をする際の資料を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 学生がその科目の学習を進める際の学習の手引きを提供 （FDにおいて、他の教員から授業目標の書き方や課題の出し方を学び合う資料）
記載内容	<ul style="list-style-type: none"> その分野の専門家だけでなくも理解できるように書く 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が学習を進める上で必要な情報が盛り込まれている
伝達方法	<ul style="list-style-type: none"> 統一様式（簡潔） オンライン 	<ul style="list-style-type: none"> 自由様式（詳細） ハンドアウト

7

学生が使いやすい学習支援計画書

1. 目標が理解できる
 - 専門性 + 生活や職業上の意義
2. 学生が自己点検できる（評価方法が理解できる）
 - 試験：過去問、模擬問題、模範解答
 - 論述：過年度の成果、評価基準レポート
3. 授業中・授業外でどのような活動をするかが予想できる
 - 負荷の程度、「自分でもやれそう」
4. 課題や授業中の活動に必要な情報がまとまっている
 - 文献・資料・道具 ⇒ 「コースパック」（発展形）
5. 教員のメッセージが読み取れる
 - ルール・注意事項、過去の成績

8

学習支援計画書を作るメリット

- 自発的な授業時間外学習・試験準備学習が増える
- 質問が増える
- 試験・レポートの平均点が上がる
- (結果として) 授業中の私語が減る
- 一度丁寧に学習支援計画書をつくると、次年度以降の授業が楽になる

9

授業設計の基本

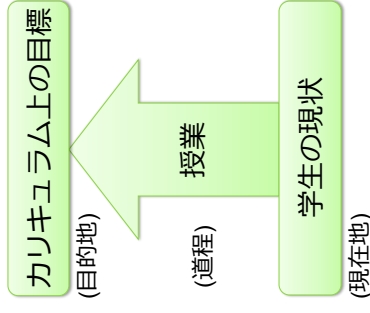
■ 「バックワードデザイン原則」

- × 「何を教えようかな」
- × 「これを教えたいな」

- 目標 ⇒ 評価 ⇒ 授業内容の逆算設計

■ 目標 - 現状 = 授業

- 学生は何をできるようにするか
- 学生はどのようなようになるべきか



10

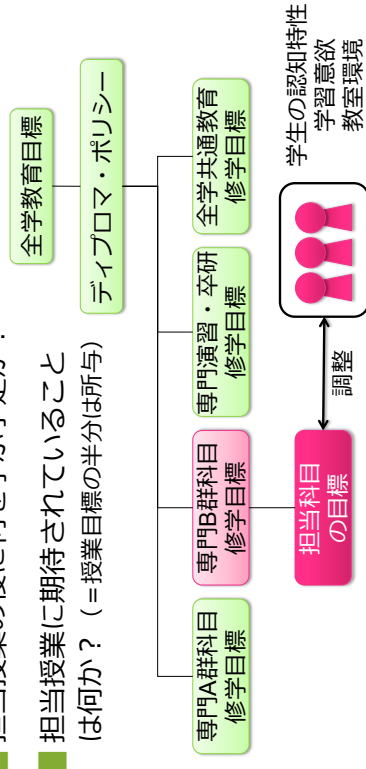
授業を設計する5つのポイント

1. 担当授業の位置づけを知る
2. 目標を決める
3. 評価方法を定める
4. 目標・評価方法と統合的な学習活動を設定する
5. 2~4を実行可能な授業計画にまとめる

11

1. 担当授業の位置づけを知る

- 担当授業の前に何を学んできたか？
- 担当授業の後に何を学ぶ予定か？
- 担当授業に期待されていること (は何か？ (=授業目標の半分は所与))



12

(作業1) 授業と教育目標の関係を把握する

- 持参した学部のカムズを「ラーニングアウトカムズ」に書き写します。
- 持参した担当授業の目的と到達目標を、枠内に書き写します。
- ラーニングアウトカムズのうち、担当授業の目標が特に重視しているものがあれば、◎を付けます。
 - 同様に、○△も付けてみて下さい。
- 5分でお願います。

13

(議論1) 授業と教育目標の関係を把握する

- はじめに紹介する方を決めます。
- ◎○△の結果と、なぜそのようになっているかを説明します。(1分)
- 聞いた方は、◎○△が多すぎるか・少なすぎるか・ちょうどよいかの感想を述べます。その他の質疑も可。(計3分)
- 1人目の方が終わったら、2人目以降の方へ順に進めます。(計16分)

14

2. 授業の到達目標を振り返る

- 「学習成果のプロフィール」を作成する
 - 授業終了時に学生が「何をできるようになっていたのか」の一覧(行動目標)を書き出す(30個以上)。
 - 3つの視点で、学生を主語として
 - 担当授業がどのように位置づけられているか(カリキュラム要請の視点)
 - 学問的な水準・専門家として何を伝えたいか(学問分野の視点)
 - 社会や学生が何を求めているのか(学習ニーズの視点)
- 学習成果のプロフィールを、5点前後の「到達目標」にまとめて表記する

15

到達目標の考え方

- 「学生を主語にする」
 - 学生が自分で到達具合を確認できるようにするため
 - 成績評価の基準として、到達を測定可能にするため
- 「理解する」は教員・学生間ギャップを生みやすい
 - 受容・体験：見る、読む、書く、聞く、体験する、実験する
 - 記憶：列挙する、暗唱する
 - 同定・識別：分類する、正誤を判定する
 - 適用：結果を予想する、解答を導く、操作ができる
 - 総合：現象を説明する、関係を説明する、仮説を立てる
 - 評価：意味を解釈する、図式化できる、必要性・有効性を説明できる

16

(作業2) 授業の到達目標を5点でまとめる

- **学習成果のプロフィールを列挙します (省略可)**
- **学習成果のプロフィールをまとめ、5点程度の到達目標にまとめます**
 - まとめ方1：認知の水準が順に上がる
 - 説明できる → 応用する → 評価する
 - 定理を知っている → 公式を導く → 応用問題を解く
 - まとめ方2：活動レベルの別にする
 - 理解する・問題解決策を提案する・協力して発表する
 - 説明できる・議論に貢献する
- **10分でお願いたします。**

17

3. 評価方法を決める

- **評価 = 学習機会**
 - 評価 ≠ 断罪
 - 学習を推進する強力な手段
- **「評価の方法と基準」は極めて重要**
 - 理由：学生が2番目に見る箇所で、メッセージ性があるため
- **「到達目標」が設定されていれば、自動的に決まる**

18

評価方法と評価基準

- **評価方法**
 - 学生の学習成果を測定する方法のこと
 - (例) 期末試験・期末レポート・小テスト・口頭試問・調査発表
- **評価基準**
 - 各方法について、成績をつける基準のこと
 - (例) レポートの場合
 - 「適切に問題が設定されている」「設定した問題の背景を説明している」「既存の学説を3つ以上あげている」「複数の学説の相違点を比較している」「既存の学説に基づいた自分の見解を述べている」のうち2つ以上を満たせば「C」、5つ全て満たせば「A」
 - (例) 試験の場合
 - テキストの例題を解ける = 「C」、テキストの章末問題が解ける = 「B」、テキストの応用問題が解ける = 「A」

19

(作業3) 到達目標に対応した評価を決める

- **5点の到達目標を書き写します。**
- **それぞれの目標を評価する方法を選びます。**
 - 方法を決め、対応する目標に「√」を入れます。
- **評価の方法を書き写します。**
- **それぞれの方法に対応した評価基準を決めます。**
 - まずは「C」「可」「合格」の基準を示します。
 - 「A」や「優」としてもかまいません。
- **5分でお願いたします。**

20

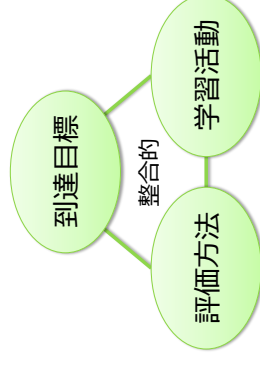
(議論2) 到達目標と評価方法を紹介する

- はじめに紹介する方を決めます。
- 作業2・3の結果を紹介します。(2分)
- 聞いた方は、学生が「わかりやすい」というかについての感想を述べます。(計3分)
- 1人目の方が終わったら、2人目以降の方へ順に進めます。(計20分)

21

4. 学習活動を決める

- 設定した評価基準に到達できるための学習活動を設定します。
- 試験で評価するのに、練習問題や教え合う機会を設定しない
- レポートで評価するのに、書く練習や自己評価の機会を設定しない



22

学習活動の種類

- 情報・考え方を得る
 - 直接：自らデータや情報を集める
 - 間接：講義を聞く、テキスト・資料を読む、映像を見る
- 体験する
 - 行動：解く、他者に教える、実践する、発言する、実習する
 - 観察：見学する
- 省察する
 - 一人で：自己採点をする、振り返る
 - 他者と：教えてもらう、意見をもらう

23

(議論3) 学習活動のアイデアを得る

- はじめに紹介する方を決めます。
- <議論2>で紹介した到達目標と評価方法に必要と考えられる学習活動を、できるだけ多く紹介します。
- 聞いた方は、「他にこのような方法があるかもしれない」という感想を述べます。(4分)
- 1人目の方が終わったら、2人目以降の方へ順に進めます。(計16分)

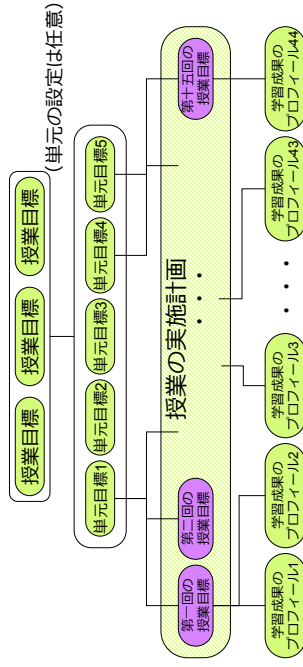
24

5. 実行可能な学習計画を設定する

■ 大きな目標を15回の授業にする

■ 15回の作り方：2つのアプローチ

- Top Down：到達目標 → 5つ程度の単元目標
→ 3回分のまとまり → 15回分の目標
- Bottom Up：2～3の学習成果のプロフィールをまとめる
→ 授業1回分の目標 × 15



25

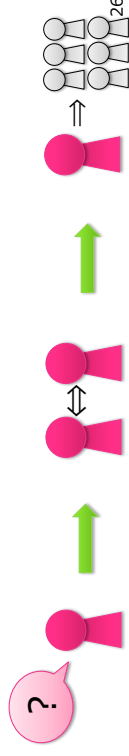
授業計画を作るポイント

■ 教室内で教えられることは「少ない」

- 3種類の学習活動を行う = 90分の講義はできない
→ 講義をできるだけ少なくする
- 事前に資料を配付して読んでもらう（時間外学習の設定）
- 授業の冒頭に確認試験を行う

■ 学生同士で教え合う機会を活用する

- 「シンク・ペア・シェア」
- 多人数授業で最も簡単な方法



26

今日のメッセージ

- 学習支援計画書を準備すると、学生はよく学ぶようになる
- 学習支援計画書は、一度準備すると授業が楽になる
- 学習支援計画書の設計ノウハウは、比較的習得が容易である
- 急に完成形を作らず、今日のポイントをつまみ食いして試し、数年で完成形を作ればよい
- 完成形に至る過程では、他の教員と話すことが、アイデアを得る近道である

27

参考文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹（2001）『成長するティップス先生』玉川大学出版部
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（2004）『もっと授業をよくするために』Vol.1
- 鈴木克明（2002）『教材設計マニュアル』北大路書房
- 佐藤浩章（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部
- Dick, W., Carey, L. and Carey, J. (2004) Systematic Design of Instruction, Allyn and Bacon

28

学生が自ら学ぶ授業を設計してみませんか？

～シラバスの工夫で、授業はもっと良くなる～

ワークシート

14/11/25

佛教大学第4回FD研究会

(ケーススタディ)

科目名：データ解析入門

年次：2年次 単位数：2 必選区分：選択科目 部門：専門教育部門-基礎科目

準備学習	授業計画に示されている教科書の指定範囲を読んで講義に臨むこと。また、授業後に、再度、指定された範囲を復習することと教科書の練習問題に取り組むこと。	
履修上の留意	この講義では、数式が使われていないテキストを用いて、統計の基礎を理解することを目指す。統計の基礎を習得したい人は、「授業に出席する」、「予習や復習を欠かさない」、「指定された教科書を入手する」を厳守すること。 ・授業で使用する印刷資料や参考資料などは、大学ポータルサイト内の「Moodle」に掲載するので予習や復習に活用すること。 ・授業を欠席した日の配布資料は、Moodle から自分で印刷すること。 ・質問や各種の連絡に関しても Moodle を利用する。 ・指定されたテキストを講義開始日までに必ず入手すること。 ・エクセルが使えること。	
授業の目的と概要	人間科学（心理学，社会学，教育学など）を学ぶ上で必要となるデータの扱い方，統計的な考え方の基礎について理解することを目的とする。具体的には，授業計画に示されている統計の基礎的内容について学んでいく。	
サブタイトル	統計の基礎	
到達目標	1. 統計的な考え方を理解する。 2. 新聞等に掲載されるアンケート結果の利点や問題点を指摘できる。 3. 代表値と散布度を算出することができる。 4. 有意性検定の論理を説明することができる。	
授業計画	1. 統計学への導入 統計とは何か，人間科学における統計の役割を理解する。 教科書：P. 6-13. 2. 社会調査と標本抽出法 新聞やインターネットに掲載されるアンケート調査の方法を理解する。 教科書：P. 13-21. 3. データの性質 尺度水準，数字の性質を理解する。 教科書：P. 24-35. 4. データの図表による整理 度数分布表，ヒストグラムなどのデータの図表表現を学ぶ。 教科書：P. 36-47. 5. データの数値による整理 データの中心傾向を表す代表値を学ぶ。 教科書：P. 41-50. 6. データのばらつき データのばらつきの指標を学ぶ。 教科書：P. 50-66. 7. 正規分布と標準偏差 ばらつきの指標である標準偏差の意味を理解する。 教科書：P. 66-84.	9. 中間確認テストと解説 これまでの学習内容を復習し，質疑の時間をとったのち，確認テストを実施する。 テストの実施と問題の解説をする。 10. 標本と母集団 標本と母集団の関係について学び，推測統計の導入を行う。 教科書：P. 89-103. 11. 母平均の推定 標本から母集団を推定するロジックについて学ぶ。 教科書：P. 103-111. 12. 有意性検定（1） 仮説検定の考え方や標本間の比較の考え方を学ぶ。 教科書：P. 113-127. 13. 有意性検定（2） 有意性検定の意味を学ぶ。パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の解説をする。 教科書：P. 127-133. 14. 有意性検定（3） 2条件間の差の検定，片側検定と両側検定，z検定とt検定を学ぶ。 教科書：P. 133-136. 141-154. 15. 関連

	8. 標準化 標準正規分布，偏差値について学ぶ。 教科書：P. 84-87.	2 変数間の関係について学ぶ。相関係数の 計算方法と意味を理解する。教科書：P. 171-198.
授業形態・方法	講義	
成績評価方法及び評価基準	レポート課題 30%，試験 70%で評価する。 3分の1以上欠席した場合は欠格とする。	
受講生へメッセージ	数学の苦手な文系の学生に統計の基礎を理解してもらおうというスタンスで授業を進めます。努力しないと統計を理解することはできません。単位をとるためだけの履修はやめておくほうが無難です。	
テキスト	1. 新・涙なしの統計学 D.ロウントリー（加納 訳）サイエンス社	
参考文献	1. 心理・教育のための統計法＜第3版＞ 山内光哉 サイエンス社 2. ここからはじめる統計学の教科書 高橋麻奈 朝倉書店 3. ひとりで学べる社会統計学 浅川達人 ミネルヴァ書房	

科目名：データ解析入門

<p><講義目的> 表計算ソフトおよびワープロソフトはあらゆる分野で利用される。この科目ではそれらの代表的なソフトの一つである MS-Excel と MS-Word を使いこなすことを目標とし、文章処理、表の作成と編集、データの統計処理、データベース機能の利用、各種の統計データの活用等を習熟する。</p>
<p><授業内容> 第1週 授業の進め方についての説明 第2～3週 基本的なワークブック、ワークシートの作成 （MS-Excel への入力、オートSUMなどの機能、レイアウトを整える） 第4週 グラフの活用（複合グラフ、補助円付き円グラフなどの作成） 第5～6週 表作成の活用（表示形式の変更や条件付き書式、入力規則などを理解する） 第7～8週 グラフィックの活用（SmartArt や図形の作成などを理解する） 第9～10週 データベースの活用（集計機能、テーブル機能などを理解する） 第11週 ブックとワークシートの活用 （複数ブック間で集計と統合、複数のワークシートの同時編集） 第12～13週 便利な機能（マクロや検索・置換、ファイル形式などを理解する） 第14週 まとめ 第15週 試験</p>
<p><成績評価方法・基準> 試験 60% 平常点 40%</p>
<p><学習の事前準備等> 第1回目の授業時に指示する</p>
<p><教科書> プリント配布</p>
<p><参考文献></p>

ラーニング・アウトカムズ

知識・教養 思考力	1	専門分野に必要な基礎知識・技法とその応用，専門分野に対する複合的な視点を確立するための幅広い領域の知識・技能
	2	現代社会における諸課題を批判的に検討したり，それをもとに問題解決のプロセスなどを構想する論理的思考力
	3	知識・技能を活かして新たな価値を生み出す創造的思考力
コミュニケーション能力	4	日本語・外国語を理解し，論理的な文章を書く能力，自らの意見をわかりやすく伝える能力
	5	多様な文化への柔軟な理解，外国語による日常生活程度のコミュニケーション能力
	6	適切な情報・情報手段を選択して活用するための基礎的な知識・技能
	7	他者と協調・協働して行動できる能力，他者に方向性を示し目標の実現に動員できるリーダーシップ
倫理観・責任感	8	生涯にわたって主体的に学び続けようとする自己学習力
	9	人としてあるべき姿を自覚した倫理観
	10	社会を構成するものとしての責任感

ラーニング・アウトカムズ達成のために，担当科目が特に重視する事項＝◎，重要な事項＝○，重視が望ましい事項＝△

授業科目名	授業の目的	授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
経済と社会	経済学的なキーワードと考え方（情報の非対称性，インセンティブ，コミットメント，シグナリング，モラルハザード，トレードオフなど）を用いて，身近な問題を解釈した文章を書けるようになること	<ul style="list-style-type: none"> 経済学で用いる基本的なキーワードとその意味を説明できる。 経済学的な考え方を用いて，現実の問題を説明したり解釈することができる。 経済学邸な考え方で理解したことを，論理的な文章で他者に伝達することができる。 	◎	◎	○	◎				○	△	○

(作業 1) 授業と教育目標の関係を把握する
ラーニング・アウトカムズ

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

(作業 2) 授業と教育目標の関係を把握する

ラーニング・アウトカムズ達成のために、担当科目が特に重視する事項＝◎，重要な事項＝○，重視が望ましい事項＝△

授業科目名	授業の目的	授業の到達目標												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			

到達目標を5点でまとめ

「学習成果のプロフィールを」を30個以上列挙します。

インセンティブ、機会費用、サンクコスト、コミットメント、ロック・イン、共有地の悲劇、裁定取引、外部性、ネットワーク外部性、情報の非対称性、シグナル、スクリーニング、逆選択、モラルハザード、保有バイアス、自信過剰バイアス、マグニチュード効果、損失回避バイアス、中位投票者定理、ホテリングの定理、シルバードゴング効果、アンカーリング、囚人のジレンマ、人的資本、企業特殊訓練、メンバーシップ、統計的差別、効率賃金、レント・シェアリング、乗数効果の意味を説明できる、キーワードに関する日常生活上の具体例を挙げる、日常的に新聞を読む、新聞記事の背後にあるインセンティブ構造に気づく、新聞記事を読むで現象の原理を考察できる、論理的な文章を書ける



「学習成果のプロフィールを」を5点前後の「到達目標」として表示します。

1. 経済学で用いる基本的なキーワードとその意味を説明できる。
2. 経済学的な考え方をを用いて、現実の問題を説明したり解釈することができる。
3. 経済学的な考え方で理解したことを、論理的な文章で他者に伝達することができる。

4.

5.

6.

7.

(作業2) 到達目標を5点でまとめる

「学習成果のプロフィールを」を30個以上列挙します。



「学習成果のプロフィールを」を5点前後の「到達目標」として表示します。

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

到達目標に対応した評価を決める

到達目標	評価の方法	期末レポート	授業内レポート					
1. 経済学で用いる基本的なキーワードとその意味を説明できる。		✓	✓					
2. 経済学的な考え方を用いて、現実の問題を説明したり解釈することができる。		✓	✓					
3. 経済学的な考え方で理解したことを、論理的な文章で他者に伝達することができる。		✓	✓					
4.								
5.								
6.								
7.								

評価の方法の例：試験 小テスト・クイズ レポート 口頭発表 実技 作品 ポートフォリオ …など

評価の方法	「C」「可」「合格」の基準
1. 授業内レポート	(1) キーワードを正しく使用している, (2) キーワードについての説明をしている, (3) 使用したキーワードに沿った解釈・解説など回答者の思考したことが書かれている, (4) 以上の3点を簡潔で読みやすい文章として構成されている, を満たせば合格。
2. 期末レポート	上に準じる。キーワードを複数用いる, 関連データや資料を示す, 同様の記事を複数示す, キーワードの具体例にオリジナルの例を示す, 解釈に加えて, 問題提起・主張・改善策などの意見を述べられれば, より優れた回答として評価する。
3.	
4.	

(作業 3) 到達目標に対応した評価を決める

到達目標	評価の方法									
1.										
2.										
3.										
4.										
5.										
6.										
7.										

評価の方法の例：試験 小テスト・クイズ レポート 口頭発表 実技 作品 ポートフォリオ …など

評価の方法	「C」「可」「合格」の基準
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

(作業4) 授業の実施計画の設計 (本日は使いません)

	授業中の学習活動	授業の運営方法	当日までに行う学習活動
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

2013年度 経済と社会 授業計画

全学共通教育部門 人間と社会科目群 2単位

担当教員：中島英博 (nakajima@.jp)

教室：S201 (共通講義棟南) 前期 木曜 4時限 (14:50~16:20)

時間割番号 020117  対象

この授業計画には重要なことが書かれています。
必ず熟読して理解し、疑問点があれば、第2回が始まるまでに必ず確認してください。

1. 授業の概要

将来、経済学を専門としない方を対象とした、経済学の授業です。2年生以上の受講も歓迎しますが、原則として1年生向けの全学共通教育科目です。ゆえに、授業への参加にあたり、特別な前提知識は必要ありません。

みなさんにこの授業で学んでほしいことは、経済学的な考え方です。今後、自分の専門領域の学習を進める場面、意思決定や判断に直面する場面、日々のニュースに接する場面などで、経済学的な考え方ができるようになると、みなさんの思考の幅が広がるでしょう。本授業は、そうした複眼的な思考法獲得支援を意図して設計しています。

2. 授業の目標

授業の目標は、みなさんが授業終了時に、経済学的なキーワードと考え方（情報の非対称性、インセンティブ、コミットメント、シグナリング、モラルハザード、トレードオフなど）を用いて、身近な問題を解釈した文章を書けるようになることです。

<授業終了時の到達目標>

- ・ 経済学で用いる基本的なキーワードとその意味を説明できる。
- ・ 経済学的な考え方を用いて、現実の問題を説明したり解釈することができる。
- ・ 経済学的な考え方で理解したことを、論理的な文章で他者に伝達することができる。

3. 教科書と参考文献について

教科書

特定の教科書は使用しません。毎回の授業に必要な資料を配布します。ただし、授業の内容は、下記の文献に基づいています。いずれも新書（700円程度）で、入手しやすいものです。購入して読破すれば、授業の理解は必ず深まります。

- ・ 大竹文雄（2005）『経済学的思考のセンス お金がない人を助けるには』中公新書
- ・ 梶井厚志（2002）『戦略的思考の技術 ゲーム理論を实践する』中公新書

参考文献

この授業の内容をより理解する上で有用な文献を、以下に紹介します。ほとんどが新書ですし、一部は学内の附属図書館で所蔵しています。なお、以下のリストはお勧めの優先順位の高い順位並べてありますので、迷ったら上から順に読んで下さい。

- ・ 大竹文雄（2008）『こんなに使える経済学 肥満から出世まで』ちくま新書
- ・ 大竹文雄（2010）『競争と公平感 市場経済の本当のメリット』中公新書
- ・ 若田部昌澄（2012）『もうダメなれないための経済学講義』光文社新書
- ・ 石渡嶺司・大沢仁（2008）『就活のバカヤロー 企業・大学・学生が演じる茶番劇』光文社新書
- ・ 大竹文雄（2008）『格差と希望 誰が損をしているか？』筑摩書房
- ・ 友野典男（2006）『行動経済学 経済は「感情」で動いている』光文社新書
- ・ 荒井一博（2007）『学歴社会の法則 教育を経済学から見直す』光文社新書
- ・ 藪下史郎（2002）『非対称情報の経済学 ステイグリッツと新しい経済学』光文社新書
- ・ 小野善康（2001）『誤解だらけの構造改革』日本経済新聞社
- ・ 宮台真司（2001）『官台教授の就活原論』太田出版
- ・ ティム・ハーフオーード（遠藤真美訳）（2008）『人は意外に合理的 新しい経済学で日常生活を読み解く』ランダムハウス講談社

4. 成績評価

みなさんの成績は、(1) 授業への参加（60%）(2) 期末レポート（45%）の2つを用いて評価します。

授業への参加（授業内レポート）

- ・ 毎回の授業の終了時に、新聞記事を経済学の視点で解釈・解説する文章作成を行います。
- ・ 授業内レポートは、(1) キーワードを正しく使用している、(2) キーワードについての説明をしている、(3) 使用したキーワードに沿った解釈・解説・問題提起・主張・改善策など回答者の思考したことが書かれている、(4) 以上の3点を簡潔で読みやすい文章として構成されている、という4つの観点で評価します。
- ・ とにかく提出すれば1点、上記4観点を満たせば各1点、計5点で評価します。
- ・ 授業内レポートは初回・2回目を除く12回分の授業で実施します（計60点満点）。
- ・ 授業内レポートの作成時間は20分です。初めは、読み、考え、書くには短いと感ずるかも知れませんが、次第に慣れて20分で構造化された文章が書けるようになります。
- ・ 優れた授業内レポート（5点のレポートの一部）は、次の回の授業で紹介いたします。
- ・ 新聞を読んで考える際は、「なぜこの行動をするインセンティブがあるのか、なぜこの行動をするメリットがあるのか」「この行動をすることで、誰が得をするのか、誰のメリットになるのか」を考えて下さい。

5. 授業のスケジュール

授業のスケジュールは以下の通りですが、時のニュース等に応じてテーマの変更や順序の入れ替えをされる場合があります。あらかじめご了承ください。

4/11 (1) オリエンテーション

- 授業の概要、授業に必要な道具、授業計画、受講希望者へのお願について説明します。

4/18 (2) 資源ゴミの持ち去りは禁止できるか？

- この授業全体を通じて基礎概念となる「インセンティブ」を理解します。

4/25 (3) 給料3ヶ月分の婚約指輪の意味は？

- 人間の意志決定は異時点間で整合しないため、ダイエットに失敗したりしますが、「コミットメント」を考えるとこの問題を理解できます。

5/2 (4) なぜ携帯各社が高校生の携帯基本料金を無料にするのか？

- 私たちは日頃さまざまな「ロック・イン」に巻き込まれて生活しています。

5/9 (5) 高い学歴は就職に有利か？

- 厳しい受験競争に参加してまで学歴を得る人にはどのようなメリットがあるのでしょうか。この問いを通して「情報の非対称性」という考え方を理解します。

5/16 (6) なぜ就職活動ではエントリーシートを書かせるのか？

- 本気の人を「スクリーニング」するための仕組みには、いろいろなものがあります。

5/23 (7) 同じものの価格が異なるのはなぜなのか？

- みなさんは同じペットボトルのお茶が、スーパーでは78円、コンビニや自販機では150円で売られている理由を説明できるでしょうか。

5/30 (8) 現代の日本には結婚したくない人が増えたのか？

- 未婚化や晩婚化といわれていますが、結婚の背後にある、私たちの意思決定を歪める「意志決定バイアス」について考えます。

6/6 (9) 消費税率は上げるべきか？下げるべきか？

- 選挙でよく争点になる問題ですがあなたはどうか答えますか？実はどちらでもよいのですが、この問題を異なる視点で物事を考えることと「世代間格差」を考えてみます。

6/13 (10) 就職協定は復活するか？

- 大学生が3年生の10月から就職活動を始めるのは早すぎると言われながら、なかなか解消できないのはなぜでしょうか。

6/20 (11) 格差の合理性 (1)

- 「どう見ても仕事ができなさそうな上司のものすごく高い給料をもらっている」と聞いてびっくりした。」と言う若手社員にたいして、あなたはどうか考えますか？

6/27 (12) 格差の合理性 (2)

- 「女性は優秀であってもすぐに退職してしまうので、新卒採用では男性を優先した方がよい」という考えに対して、あなたはどうか考えますか？

7/4 (13) 不況期には公共事業を増やすべきか？

- 不況になると増える公共事業ですが、不況対策として本当に効果があるのでしょうか。

7/11 (14) 大学で遊んだ人・勉強した人の差はどこに表れるか？

- よく出世した人ほど大学でよく遊んだと言いますが、本当でしょうか。大学在学中に獲得すべき人的資本の本身はどのようなものかを考えます。

7/25 (15) 期末レポート提出

- 期末レポートを提出して下さい。

6. その他の連絡事項

- 標準的な授業の進め方は、①前回の復習と優れたレポート紹介 (20分)、②キーワードの解説 (45分)、③授業内レポート作成 (25分) です。
- 授業は、大学1年生を対象にしています。2年以上の参加者には、易しすぎる・もの足りないと思うかもしれませんが、趣旨をご理解の上、ご了承下さい。
- 授業は、全員が全ての回に出席することを前提に設計されています。欠席はご遠慮ください。また、定刻開始・定刻終了にご協力下さい。授業開始後15分以上の遅刻入室はご遠慮下さい。
- 座席は自由ですが、教室の最後列から3列には着席しないで下さい。後ろから3列空けて着席して下さい。
- この授業のオフイスアワーは、毎週火曜日の5限 (16:30~18:00) です。この時間以外でも、メール等で事前連絡をいただければ随時応じます。
- 授業中の飲食はご遠慮下さい。ただし、のど飴類とフタのできる飲料 (水筒・ペットボトルなど) についてはのみ、利用可とします。(本授業のみのルール)。
- 他の参加者の学習を妨げる行為、または、教室の学習環境を損なう行為等については、今後の授業への参加をお断りする場合があります。
- 毎回の出席はレポートで見ているのでICカードでの出席操作は必須ではありません。カード操作を忘れた場合でも、5回までは申告は不要です。
- 余った配布資料、不要な配布資料は、授業終了時に返却して下さい。
- 毎回のレポートで、返却を希望する方は、用紙表面のどこかに【返却希望】とわかりやすく書いておいて下さい。次回の授業でコメントを付けてお返しします。

- レポーター等において優れた文章は、次年度以降の授業の中で紹介する場合があります。その際にはクラス内で紹介してもらいますが、匿名を希望する方は用紙表面のどこかに【匿名希望】と書いておいて下さい。
- 授業に関するご要望やご意見があれば、連絡手段は問いませんが、ご遠慮なく担当教員へご相談下さい。

7. 授業で使用する道具について

この授業で配付する資料などは、「WebClass」に全て掲載します。欠席した授業で配布された資料などは、こちらから入手してください。

- WebClassは、次のアドレスへアクセスして使用します。
[http://\[redacted\]login.php](http://[redacted]login.php)
- WebClassの利用方法を知らない方は、次のアドレスにある案内を参照して下さい。
[http://\[redacted\]ass.html](http://[redacted]ass.html)
- その他WebClassに関する不明な点は、学内の情報センターへお尋ねください。
- WebClass内の後期金曜2限「2013 経済と社会」にアクセスするためには、パスワードが必要で、パスワードの入力を求められたら [redacted] と入れてください。
- その他WebClassに関する不明な点は、学内の情報センターへお尋ねください。

この授業は受講者数が多いため、手を上げて質問することが難しい場合は、オンラインで教員に伝えることができます。詳しくは下記を参照して下さい。

- 授業中に質問したいこと、授業へのコメントなどは、直接発言する以外に、授業用の掲示板でも伝えることができます。リアルタイムで見えていますので、手を挙げての質問が難しいと思う方は、掲示板をご利用下さい。
- 掲示板は手持ちのスマートフォン等で、ブラウザから次のアドレスにアクセスするか、次のQRコードを読み取ってアクセスして下さい。
[http://\[redacted\]](http://[redacted])
- 授業中に、教員からの質問に対して、いくつかの選択肢から選んで投票してもらった場合があります。その場合は、手持ちのスマートフォンや携帯電話に付属するブラウザから、次のアドレスを入力するかQRコードを読み取り、投票ページへアクセスして下さい。
[http://\[redacted\]](http://[redacted])



8. 期末レポート作成のヒント

記事について

- 新聞記事は図書館のデータベースを使って閲覧・検索して下さい。
[\(http://toshio.meijo-u.ac.jp/data/ へアクセス、画面の一番下\)](http://toshio.meijo-u.ac.jp/data/)
- このうち、日経新聞の記事をPDFで取得できるのでおすすめてです。また、大学内からであればどこからでもアクセスできます。情報処理教室でレポートを作成する上で便利です。
- しかし、朝日新聞と中日新聞は、図書館内の端末からしかアクセスできません。また、中日新聞は記事のPDF取得ができません。これらの記事を使う場合は、図書館内のプリンタで記事を紙に印刷して下さい。
- もちろん、自宅の新聞を切り抜いてもかまいません。
- 上の3や4の記事を使う場合は、(1) スキャナを使ってPDFに取り込む、(2) 解像度の高いデジタルカメラや携帯電話で紙の記事を撮影し、そのファイルをPCに転送することで、ワープロ内に貼り付けられるよう準備して下さい。
- ただし、スキャナが使える情報処理教室は限られています。(2) の方法がよいかもありません。
- データベースはメンテナンスのために、停止したりアクセスが制限されたりします。(例えれば、朝日新聞のデータベースは同時に2人以上アクセスできない。誰かが使っている間は、待たないといけません。) レポートの作成準備は、早めに始めることをおすすめします。

ワープロ操作について

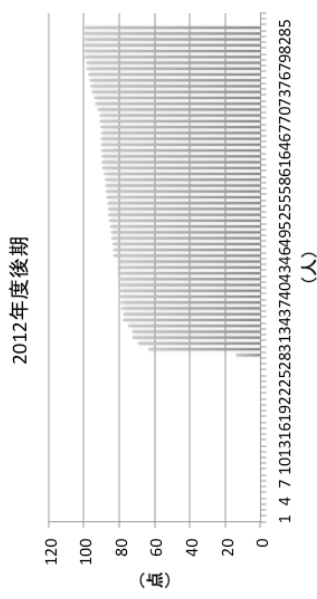
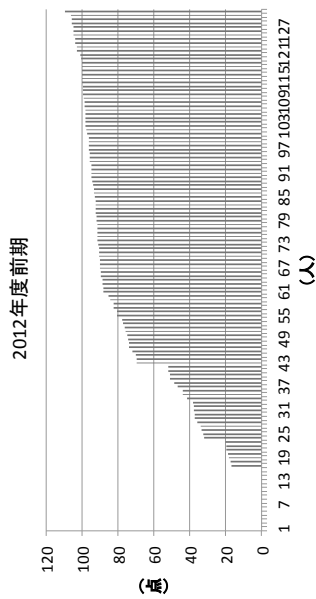
- 記事を貼り付ける時は、出所となった新聞名、日付、掲載面を明記して下さい。これがあれば、上記5の方法で貼り付けた記事が、多少読みにくくても追跡が可能になります。
- ワープロソフトでは、1ページにつき1つの記事を貼り付け、説明する文章を書いて下さい。よって、提出する際には3ページのファイルになるはずで、完成形のイメージは、この文書の3ページの通りです。
- レポートの1ページ目の冒頭に、学籍番号と氏名を明記して下さい。
- ワープロ内に画像ファイルを貼り付けたりする操作方法については、高校の情報科などで知っていると思いますが、わからない場合は学内で情報センターのサポートスタッフに聞くか、知り合いに教えてもらおう、文献などで調べるなどで学習して下さい。どうしてもうまくいかない場合は、教員に相談して下さい。

提出について

- 提出先は、WebClass内の「期末レポート提出場所」のリンク内にあります。3つのレポートを1つにまとめたファイルを用意し、「ファイルを選択」ボタンを押し、作成したファイルを指定した後、「レポート提出」ボタンを押しして下さい。
- ファイルサイズが10MBまでですので、これより大きい場合は、教員に相談して下さい。
- 提出期限内であれば、以前に出したレポートのファイルを何度でも書きできます。最後に提出したファイルのみが、評価の対象になります。

(参考) 過去の授業の得点分布

- 毎回授業に出られて、最終レポートを提出した方は、概ね 60 点以上になります。
- 毎回、頭を使って考えて書いてもらうので、それがつらくて途中でやめる方もいます。つらい方はやめる前に、一度教員に相談して下さい。支援の方法を考えます。
- 授業アンケートでは、学力中位～どちらかといえば下位にあわせてもらいたいと聞いているので、それにあわせた内容にする予定です。



第 5 回 FD 研究会

「発達障がい学生支援について
～成績評価に視点をおいて～」

開催日：2014年11月27日（水）16：10 ～

会場：佛教大学紫野キャンパス

常照ホール（成徳常照館5階）

発表者：渡邊 照美（教育学部 准教授）

参加者数：53名

＜シリーズ企画③＞
発達障がい学生支援について
～成績評価に視点をおいて～

これまで2回の研究会では、発達障がい学生の大学での困り感について、また授業設計・運営についてをお話してきました。
 今回のFD研究会は、発達障がい学生の単位修得をどのように支援していくのか、成績評価をどのように行うのかを中心に考えていきたいと思っております。
 みなさんが日頃悩んでおられる事柄を共有できればと考えています。

～ 概要 ～

日時	2014年11月27日（木） 16：10～17：40
会場	佛教大学紫野キャンパス 成徳常照館5階 常照ホール
アクセス	・阪急大宮駅、地下鉄北大路駅、JR二条駅よりバス ・京都市バスで、千本北大路、佛教大学前 下車すぐ
参加費	無料
申込み	下記内容を記入のうえfdoffice@bukkyo-u.ac.jp宛に、メールにてお申込みください。 件名：第5回FD研究会申込み 本文：氏名 ：所属 ：役職 ：緊急連絡先（携帯電話等） ：e-mailアドレス ※e-mailアドレスにつきましては、本会の事務連絡と開催後に行いますアンケートのご依頼に使用させていただきます。
プログラム	15：10 受付開始 16：10 開会挨拶 16：15 講演：「発達障がい学生支援について ～成績評価に視点をおいて～」 17：25 質疑応答 17：40 閉会

～講師のご紹介～



氏名 渡邊照美
 役職 教育学部 准教授
 専門 障害者心理学
 生涯発達心理学

＜キャンパスMAP＞



※駐車場がございませんので、
公共交通機関にてご来場ください。

2014年度 第5回佛教大学FD研究会

1. 開催概要

開催日：2014年11月27日（水）16：10～

テーマ：「発達障がい学生支援について ～成績評価に視点をおいて～」

会場：佛教大学紫野キャンパス 常照ホール（成徳常照館5階）

発表者：渡邊 照美（教育学部准教授）

司会進行：岡崎 祐司（教育推進機構長）

参加者数：53名

2. 発表

合理的配慮の考え方に基づいた支援

合理的配慮の考え方に基づいて支援を行なっていく上で重要なことは、学生本人が主体的な支援の利用者であるという意識を持つことであり、苦手意識を支援者が伝え、自己認識させることである。また、平等な機会が与えられたら自分自身で学ぶということが合理的配慮に基づいた学習支援の基本であり、支援を行なう以上は単位を修得させなければならないということではない。成績評価については、障がいの有無にかかわらず到達目標に達していなければ合格点は与えられないといった認識が必要である。

「障害者権利条約(第2条)」においても「過度な負担とならない形で社会的障壁を減らすこと」とある。前回の研修（第2回佛教大学FD研究会「発達障がい学生支援について～大学生活に視点をおいて～」）のアンケートで、アスペルガーの学生と毎日2時間対応しているという声があったが、教職員にとって毎日2時間の個別対応は過度な負担に該当すると思われ、合理的配慮の範疇を超えると考えられる。その線引きをどうするか、大学または学部学科で一度話し合うべきである。

学習の支援 試験・成績評価

試験・成績評価については、障がい学生の特性と困難の度合を理解し、医師や心理士などの助言も受けながらどのような配慮が妥当かケースバイケースで判断することが望ましい。また、その際に教員の過度な負担とならないように合理的配慮を心掛ける。学ぶべき内容を修得していることが単位認定の原則なので、安易に試験や課題を免除するといった対応は妥当ではない。

具体例① 試験方法について

定期試験時の対応については、入学試験と同様の配慮を行なうのが原則であると考えられる。例えば、①試験問題の書式の工夫、②試験時間の延長、③代読者の配置、④パソコンによる問題文の音声化、⑤パソコン筆記での解答、⑥筆記試験を口述試験に変更する等である。

具体例② 評価方法を多様化する

評価については複数の評価方法を組み合わせることが重要である。複数の評価方法を組み合わせることによって多面的な評価が可能となり、正当な評価に繋がると考える。ただし、大人数クラスの場合、評価方法を組み合わせるといった運用が厳しい場合もある。このような場合は、後述する試験問題の工夫によって対応していきたい。

障がい学生支援の対応について

表1は日本学生支援機構が発行している「教職員のための障害学生修学支援ガイド（平成23年度改訂版）」に記載されている対応基準である。

表1.

●	専門医を受診し、発達障害の診断を受け、障害であることの証明（療育手帳や精神障害者保健福祉手帳、あるいは医師からの診断書）がある場合には本人の必要に応じた支援を検討していただきたい事項（◎・△も含む）
◎	手帳や診断書などの公的な証明がなされていない場合でも、校医や学生相談室など学内の専門家の意見で発達障害の可能性がかなり高いと思われる場合に <u>支援が可能であると考えられる事項</u> （△も含む）
△	「普段の行動から発達障害の可能性が想定され本人や保護者が支援を求める場合」や「本人が障害を認識せず自主的な申し出がないが、周囲の人間がなんらかの困難を感じている場合」も <u>支援が可能であると考えられる事項</u>

また、この対応基準に基づいて、試験・成績評価における障がい学生支援内容が以下とおり整理されているので参考としていただきたい。

1. 文字を読むことが困難である場合
⇒ ● 試験をレポートに代替する
2. 文字を書くのが困難である
⇒ ● 口頭試問などへの解答手段変更
⇒ ● パソコン筆記での解答
3. 試験日時・会場・レポート提出日を間違える、指示を聞き間違える
⇒ △ 自己管理スキルの指導
⇒ ◎ 個別注意喚起・伝達
4. 期限までにレポートを提出できない
⇒ ● 提出期限の延長
⇒ △ 時間管理スキルの指導
5. （試験で）集中を維持するのが困難である
⇒ ● 別室受験

具体例③ 試験問題を見直す

試験問題について、まず出題範囲は事前に学生に告知することが望ましい。出題範囲をテキスト全体とした場合、テキストには記載されていても授業で全く扱っていない内容は出題しない方がよい。

また、学習した範囲の一部分だけ出題するのでは学生がどこを勉強してよいか分からなくなるので、全体をカバーするような問題を作るのが望ましい。授業の到達目標として定めた学習レベルを中心として、難易度の異なる問題を作成するのも有効である。その他には、到達目標のレベル次第ではあるが、客観試験（〇×式、多肢選択式）と論述試験を組み合わせることも有効である。論述試験の場合は、次の例1のような問題文にせず、例2のように設定するとよい。

例1：発達障害者支援法について述べよ。

例2：発達障害者支援法について、①制定された背景、②残された問題点について述べよ。

例2のように設定すると、客観的な事実と自分の意見も組み合わせながら記述することができる。さらに、授業で学習したことの振り返りにもなり、書き方のトレーニングにもなる。

また、これは発達障がい学生に対してのみではなく、全ての学生に対して有効である。試験問題の設定については教員負担も大きいことではあるが、一度見直しをしてみてもどうか。

学ぶべき内容・目的は何か

前回の研修のアンケートで、グループワークやプレゼンテーションなどが授業の中で必修化されているような授業における合理的配慮の線引きについて教えてほしいとの質問や意見が多数寄せられたが、そのような時は、学ぶべき内容と目的は何かを考えるようにしたい。例えば、その授業で実施するグループディスカッションは、グループの中で発言できる能力を測るのか、他者の意見を聞き、自身の考えを深めることが目的なのか。それによって、個別対応の検討をすると良い。プレゼンテーションの場合は、個人のプレゼン能力を測るのであれば個別課題を与えても構わないと思われるが、集団で何かを創り上げていく能力を測るのであれば個別課題を与えることは授業の目的に沿っていないので、個別対応すべきではないと考える。

なお、個別対応が教員によってバラつきがあると学生にとって不安材料となるため、特に必修化されている科目は、全学もしくは学部学科でコンセンサスを得ておくことが望ましい。

また、グループワークやプレゼンテーションに必要なスキルが段階的に獲得できるようなカリキュラム・シラバスになっているのかを再点検しておく必要があるが、教員間で歩調をあわせ、カリキュラムを全学で考えていくことは非常にハードルが高いことでもあるので、まずは同じ領域や系列を担当する教員間で情報を共有することから始めてみてはどうか。

授業に出席できない学生への配慮

同じく前回の研修のアンケートで、出席が3分の2以上でない成績をつけられない規程があり困っているという意見があった。その場合の対応例としては、まずは学生に自己管理スキルを養う指導を行ない、それでも出席できない場合は学生と一緒に原因を探る等してサポートするこ

とである。この際、教員の個別対応では限界があるので、学生同士のピアサポートを活用することも有効である。さらにそれでも出席できない場合に代替案を考えるとといった対応が良いと考える。

成績評価の方法 ルーブリック

ルーブリックは発達障がい学生に非常に有効である。ルーブリックとは、各々の学習成果における基本的な評価基準をはっきりと明示し、それに基づいて学習者の行動を評価することである。学習スキルに格差が大きい場合（多様な学生がいる場合）の評価は困難だが、ルーブリックを使用することで厳正な成績評価が可能となる。

表 2 は龍谷大学が提供するルーブリックの一部であるが、先行研究や問題設定といった項目を 5 レベルに分類している。

表 2. 卒業論文ルーブリック（龍谷大学）

項目	1	2	3	4	5
先行研究	国内の先行研究を把握できない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定	問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
考察	資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。

※龍谷大学文学部 2013 ルーブリック 朝日新聞・河合塾共同調査 学修成果の評価 Kawaijuku Guideline. 2013. 4・5 56-58

例えば、これを夏休み前に学生に配付し、夏休み中に草稿を作成させたうえで、ルーブリックの該当する評価に○を付けて自己評価させる。その後、草稿を読んだ指導教員が同じくルーブリックに○を付けて学生に返却することで相互の評価にズレがないかを確認する。こうすることによって、学生自身が学習の到達度が把握できる。

また、表 3 および表 4 の関西国際大学のコモンルーブリックでは、修得すべき能力（項目）とグレードが下位学年用と上位学年用で分かれている。

表 3. 関西国際大学コモンルーブリック（リサーチ） 1年生春学期～2年生春学期（下位学年用）

	3	2	1	0
テーマのたて方（調査目的の設定）	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目がたてられている。	テーマは設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。	テーマがはっきりしない。調査項目、および仮説が示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	複数の情報源からこれまでに明らかになった考え方や研究内容を示し整理している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、部分的であっても示している。	限られた情報源からであるが、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、何かしら紹介しているが、テーマとの関係が乏しい。	これまでの先行研究について示されていない。
研究方法と分析の視点	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントを捉えている。	研究方法と分析の視点について示されているが、必要なポイントが捉えられていない。	研究方法と分析の視点が示されていない。
分析	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何かしらの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることができている。	リサーチで得られた情報を列挙しているが、まとめることができている。	リサーチした内容をまとめられていない。
結論	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容とある程度関連付けて説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いて説明しようとしている。	リサーチから得られた情報についての記述はできているが、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いた説明はできていない。	リサーチから得られた情報の記述もできておらず、これまでに学んだ考え方や研究内容も用いられていない。

濱名 篤 2012 中央教育審議会高等学校教育部会 ルーブリックを活用したアセスメント

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryu/_icsFiles/afielddfile/2012/12/07/1328509_05.pdf

表 4. 関西国際大学コモンルーブリック（リサーチ） 2年生秋学期～（上位学年用）

	3	2	1	0
テーマのたて方（調査目的の設定）	独創的で、明確なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、部分的にしか示していない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究方法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究方法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識（自分の専門分野の概念や枠組み）を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについての記述しかできていない。

濱名 篤 2012 中央教育審議会高等学校教育部会 ルーブリックを活用したアセスメント

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryu/_icsFiles/afielddfile/2012/12/07/1328509_05.pdf

表 5 については東北福祉大学が HP にて公開しているルーブリックであるが、スポーツ（実技）科目についても具体的に項目が設定されており、発達障がいの学生にとってもそうでない学生にとっても非常に有意義である。

表 5. 東北福祉大学 スポーツ I（バレーボール）ルーブリック ※一部抜粋

大項目	中項目	基準	5	4	3	2	1
健康管理	体調管理	睡眠・食事をきちんと取り、積極的にスポーツに取り組む気力と体力があるか。	気力が充実し体調万全で受講している	体調を整えている	特に気をつけてはいない	気力が不十分であったり体調を崩しやすく見学することが多い	体調が悪く気力も無い状態で欠席することが多い
	怪我・病気の予防	準備体操や整理体操、水分補給等に気を使い体調を整えているか	しっかり取り組んでいる	概ね取り組んでいる	どちらともいえない	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない
運動技能 (基本技能)	オーバーハンドパス アンダーハンドパス	対人相手と連続してパスをおこなうことができるか	30 回以上連続したパスを正確におこなうことができる	20 回程度連続したパスができる	10 回程度なら連続したパスができる	パスはできるが続かない	パスが全くできない
	サーブ	相手コート内にサーブを打つことができるか	狙ったところに向けて打つことができる	ある程度の方は狙って打つことができる	相手コートに入ることができる	あまりサーブが入らない	全くサーブが入らない

東北福祉大学 HP (<http://www.tfu.ac.jp/campuslife/rubric.html>)

ルーブリック評価の利点

ルーブリック評価のメリットをまとめると次のようになる。

- ・学生自身がどの程度まで努力すればどのような評価がもらえるかを把握できる。
- ・教員による評価と学生による評価を行なうことでお互いの認識のズレに気付くことができる。
- ・異なる人が評価しても同じ結果が得られるので、科目担当者が複数いる場合に有効である。
- ・複数の観点から評価を行なうことで長所を伸ばし、短所をカバーできる。

デメリットについては、作成作業において非常に負担が大きいということがある。まずは学科や特定の科目を担当する教員で作成してみよう。

前回の研修のアンケートから

実習において利用者理解（相手の立場を理解すること）が困難なため不合格となり、大学としては免許を出せないと判断した。そのことを本人に伝えたところ、不合格の理由を理解してもらえない事例があり、本人が納得したうえで進路変更させることの難しさを感じた。といった意見があった。

現場ではこのようなケースが多くなってきていると感じている、その対策の一つにルーブリック評価が挙げられると思われるので、ルーブリックによって自己評価と他者評価をはっきりと示し、最終的に本人が納得できるようすすめていく、といった対応が必要である。加えて、免許・資格が卒業要件になっている場合は、こういったケースにおける対応が難しくなってくるので、大学入学以前の十分な検討が必要となるであろう。

その他、友人理解や自己理解を深める取り組みは健常者に対しても必要だと思われる。入学時のオリエンテーションで実施する弊害はあるかとの質問があったが、入学時のオリエンテーションでそのような取り組みを実施する弊害は全くないと考える。ただし、入学時のオリエンテーションや初年次教育の科目で実施されている大学も多いが、2年次以降継続的に実施しているところは多くないと感じているので、2年次以降のゼミ教育や卒論指導において、そのような観点をふまえた教育を行なっていくことが必要だと考える。友人理解や自己理解についての教育は、初等教育の段階から盛んに行なわれているので、高等教育においてもその流れを途切れてはいけな

いだろう。

周囲の学生が障がいのある学生の言動に驚き、時には蔑むようなこともある。このようなケースにおける周囲の学生への指導方法は何か。という質問があったが、その場合は周囲の学生に何に驚いたのかを聞き、そしてどのような状態であれば驚かないのかを具体的に書き出してもら

保護者支援

障がい学生の特長について家族も気づいていない、あるいは受容できていないケースがあり、ある大学では保護者向けのプログラム（講演会等）や面談等を実施されているところもある。面談の際には、単位が取れていない等の情報を伝えるのではなく、提出物やデータを示しながら、実態を理解してもら

うのが良いと思われる。

また、大学側に求められることとしては、保護者が何に困っているのか、本人が何に困っているのか、解決方法を共に探るといった教職員の姿勢が大事である。保護者との面談の際には、本人のできないことを伝えるだけでなく、本人の“頑張り”を具体的に伝え、そのうえで課題になっている部分を伝えるようにするといった段階的な対応が求められる。そして、保護者のアイデアも積極的に支援の中に取り入れ、支援をしてきた保護者をねぎらうことも重要である。

しかしながら、学生とその保護者の関係がうまくいっていないケースも多い。

学生の背後に家族がいること、そしてその家族との関係による影響が大きいことは事実であるが、教職員が家族との関係にどこまで踏み込むのかは難しい問題である。保護者との連携ができればベストであるが、あまり保護者との連携を重視しすぎることも学生の自立を考えた場合に好ましくはないので、連携が困難であれば学生自身と保護者を切り離し、双方への働きかけを根気強く続けるしかない。“教育”という立場からは教職員、“関係の修復”に対しては臨床心理士等の専門家といった具合に両面からサポートすることが大事であろう。

発達障がい学生

支援について

～成績評価に視点を置いて～

佛教大学教育学部
渡邊照美

1

アウトライン

1. 合理的配慮（前回の振り返り）
2. 学習の支援 試験・成績評価
3. 保護者の支援
4. 意見交換

2

合理的配慮の考え方に基づいた支援

- 学生本人が主体的な支援の利用者であるという意識を持つ。
- 平等な機会が与えられたら、学習するのは学生本人

* 障害者が他の者との平等を基礎として全ての人權及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。(障害者権利条約)

↓ つまり ↓

過度な負担とならない形で「社会的障壁」を減らすこと。

3

学習の支援 試験・成績評価

学生の特性と困難の程度を理解し、医師や心理士などの助言も受けながら、どのような配慮が妥当か、ケースバイケースで判断。

- 他の学生との公平性への考慮
- 教員に過度な負担がかからないように「合理的配慮」の枠組みを逸脱しないこと
- 「学ぶべき内容を修得している」ことが単位認定の原則（安易な、試験・課題の免除は妥当ではない）

4

具体例① 試験方法について

＜入学試験と同様の配慮を行う＞

- 試験問題の書式の工夫、拡大印刷
- 試験時間の延長
- 代読者の配置
- パソコンによる問題文の音声化
- パソコン筆記での解答
- 筆記試験を口述試験に変更

5

具体例② 評価方法を多様化する

＜複数の評価方法を組み合わせる＞

- 口頭発表、試験、レポートなど複数の評価方法を組み合わせる。
例：教室試験40%、口頭発表30%、レポート30%
- 発達障がいのない学生にとっても、得意・不得意はあるので、評価方法の多様化は正当な評価につながる。

6

独立行政法人日本学生支援機構「教職員のための 障害学生修学支援ガイド(平成23年度改訂版)」

●：専門医を受診し、発達障害の診断を受け、障害であることの証明(療育手帳や精神障害者保健福祉手帳、あるいは医師からの診断書)がある場合には本人の必要に応じた支援を検討していただきたい事項(◎・△も含む)

◎：手帳や診断書などの公的な証明がなされていない場合でも、校医や学生相談室など学内の専門家の意見で発達障害の可能性がかなり高いと思われる場合に支援が可能であると考えられる事項(△も含む)

△：「普段の行動から発達障害の可能性が想定され本人や保護者が支援を求める場合」や「本人が障害を認識せず自主的な申し出がないが、周囲の人間がなんらかの困難を感じている場合」も支援が可能であると考えられる事項

7

成績評価について

➢ 障がいがあることによつてうまく評価者に伝わらないというのであれば、評価者側が歩み寄ることも必要。

文字を読むのが困難である。

→ ● 試験をレポートに代替する。

文字を書くのが困難である。

→ ● 口頭試験などへの解答手段変更

→ ● パソコン筆記での解答

8

試験日時、会場、レポート提出日を間違える、指示を聞き間違える(聞き逃す)。

- △ 自己管理スキル指導
- ◎ 個別注意喚起・伝達

期限までにレポートを提出できない。

- ● 提出期限の延長
- △ 時間管理スキル指導

(試験で)集中を維持するのが困難である。

- ● 別室受験

9

具体例③ 試験方法・問題を見直す

- 出題範囲を事前に学生に告知する。
- 学習した範囲全体をカバーするよう問題を作る。
- 授業の到達目標としたレベルを中心として、難易度の異なる問題を作成する。
- 客観試験(○×式、多肢選択式問題)、論述試験を組み合わせる。
- 論述試験の場合、問題文は明確に。
例1: 発達障害者支援法について述べよ。
例2: 発達障害者支援法について、①制定された背景、②残された問題点について述べよ。

10

前回のご意見・ご質問から

- 本学はグループでのワークショップ形式、プレゼンなどの授業が必修化されていて、教員も支援学生も困ってしまうケースがしばしばある。教員によっては個人での作業を認めたり、授業時間外での個別発表、レポートなどで単位を認めるケースもあり、どこまでが合理的配慮かの線引きがあいまい。
- グループワークの代替課題の方法、個人での課題を行わせる、というようなことも良いのか。

11

学ぶべき内容・目的は何か？

- 例えば、グループディスカッション
- その場で発言する能力を測るのか。
 - 色々な意見を聞き、自分の意見を深めることが目的なのか。

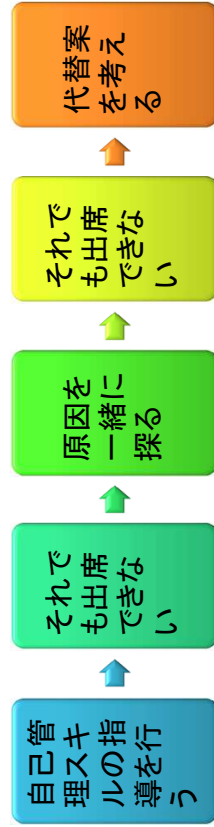
例えば、プレゼンテーション

- 個人行うプレゼンテーション能力を測るのか。
- 集団で行うプレゼンテーション能力を測るのか。

12

前回のご意見・ご質問から

- 授業に出席できない学生への配慮。出席が3分の2以上でないと成績をつけられない規程なので困っています。欠席分をレポート等で置き換えることは可能でしょうか？



13

成績評価の方法 ルーブリック

- ルーブリックは、各々の学習成果における基本的な評価基準をはっきりと明示するもの。
- いくつかの評価項目について、各グレードの典型となる言葉を評価基準として記述し、学習者の行動を評価する。
- 学習スキルに格差が大きく(多様な学生近大する場合)得点がつけにくい、ルーブリックによる、厳正な成績評価ができる。

14

卒業論文ルーブリックの一部(龍谷大学)

項目	1	2	3	4	5
先行研究	国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明できない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定	問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題ではない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、獨創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、獨創性がある。
考察	資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいておらず、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性を加えた考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性を加えた考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性を加えた考察を加えている。

龍谷大学文学部 2013 ルーブリック 朝日新聞・河合塾共同調査 学修成果の評価 Kawajijuku Guideline, 2013.4・5, 56-58.

15

ルーブリック評価の利点

- 学生自身が、どの程度まで努力すれば、どのような評価がもらえるか、明確である。
- 教員による評価と学生による評価を行うことで、そのズレに気づき、助言しやすい。
- 異なる人が評価しても同じ結果が得られる。
例：実習の場合、第三者にも同じ評価基準で評価してもらえらる。
- いくつかの観点から評価を行うので、得意な部分を発揮しやすく、苦手な部分がカバーできる。

16

前回のご意見・ご質問から

- 実習で利用者理解(相手の立場を理解する)が困難であるため不合格となり、大学としては免許を出せないと判断、本人に伝えるが不合格の理由が理解できない(振り返りを重ねても)事例がありました。本人が納得して進路変更できるための関わりの難しさを感じました。
 - ルーブリック評価の使用
 - 学外の第三者の介入
 - 大学入学以前の十分な検討

17

前回のご意見・ご質問から

- 自己理解という意味では健常な学生にもこうした情報を流し、友人理解や自己理解を深めさせる方法はどうでしょうか? 例えばこうした学びを学生の入学オリエンテーションで行うことの弊害はありませんでしょうか? セルフ・アドボカシー・スキルは健常学生にも必要では?
 - 弊害は全くないと思います。初年次教育で行われている大学もたくさんあると思います。
 - 継続的に深めるという点が大切

18

前回のご意見・ご質問から

- 障がいがある学生であると周囲が承知していても、なお、まわりの学生は本人の言動に驚きをかくさない。さげすむことも。周囲の学生への指導は? 何か参考になることをご提示下さい。
 - 周囲の学生が何に驚いているのかを聞く。
 - そしてどのような状態であれば、驚かないのか、何にひっかかっているのか具体的に書き出す。
 - 自分自身にも得意なこと、苦手なことがあるという理解を促す。

19

保護者支援

- **本人も家族も気づいていない・受容できていない**
 - 保護者向けのプログラムの実施
 - 保護者との面談
 - データや提出物を示しながら、実態を理解してもらおう。
- **共に支援方法を考える姿勢**
 - 保護者が何に困っているのか。
 - 大学の中で、本人が何に困っているのか。
 - 解決方法を共に探る。
 - 保護者のアイデアを支援の中に取り入れる。

20

＜学生とその保護者の関係がうまくいっていない＞

- 学生の背後に家族がいること、そしてその家族との関係が、学生に多分に影響を受けていることは事実であろう。
- ただし、家族との関係にどこまで踏み込むのかは難しい問題。
- 保護者との連携ができればベスト。
- ただし、それが難しい場合、学生自身への働きかけを根気強く続けていくしかない。
- 自分自身と保護者とを切り離して考える。

21

受容的アプローチと指示的アプローチの両立

＜A. 受容的アプローチ＞
ありのままに受け止めて、自己肯定感や自己効力感、自己評価を高め、育てていく立場

Aによって、信頼関係構築。しかし、単に話を聞いて受容するだけでは不十分で、Bによる説明、指示、助言、スキルの向上が必要。

＜B. 指示的アプローチ＞
問題行動を指摘して指示や助言によって是正する。
あるいは、他人とのコミュニケーションや社会的スキルを向上させるよう積極的に働きかける立場

22

【引用文献・参考文献】

- 日本学生支援機構 2012 教職員のための障害学生修学支援ガイド（平成23年度改訂版） http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/guide/top.html (2014/9/9取得)
- 福田真也 2010 Q & A 大学生のアスペルガー症候群—理解と支援を進めるためのガイドブック— 明石書店。
- 片岡美華 2012 青年期発達障害者のセルフ・アドボカシー・スキル獲得にむけた教育プログラム開発 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書
- 龍谷大学文学部 2013 ルーブリック 朝日新聞・河合塾共同調査 学修成果の評価 Kawajuku Guideline, 2013.4・5, 56-58.
- 高橋知音 2012 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 学研教育出版
- 東北福祉大学ホームページ ルーブリック評価 <http://www.tfu.ac.jp/campuslife/rubric.html> (2014/11/23取得)

23

2014 年度 FD 関連研究会
参加支援 報告書

2014年度 学外FD関連研修会参加支援一覧

開催日時	企画名称	主催	参加者所属
2014年4月26日(土)	「カリキュラムデザインを考える」東洋大学講演会	東洋大学カリキュラム委員会	教育学科
2014年5月29日(水)	京都産業大学平成26年度 第2回全学FD/SD研修会 「ユニバーサルデザイン講義とは」	障がい学生支援推進団体あすか	社会福祉学科
2014年8月28日(木)	学校と社会をつなぐ調査 第1回調査分析結果報告と シンポジウム	京都大学 河合塾	看護学科
2014年9月1日(月)	アカデミック・ライティングを指導する	東北大学教育支援センター	教育学科
2014年9月8日(月)	「低学力支援・メンタルケアと学習センター運営」オープ ンセミナー	大学教職員研修センター	教育学科
2014年12月13日(土)	平成26年度九州工業大学FDフォーラム	九州工業大学	教育学科
2014年12月12日(金)	平成26年度帝京大学FDフォーラム	帝京大学	教育学科
2015年2月29日(木)	大学教員のための協同学習ワークショップ	中部大学全学共通教育部 初年次教育課	教育学科
2015年2月24日(火)	反転授業はディープアクティブラーニングを促すか？	関西大学教育開発支援センター	教職支援センター
2015年3月4日(水)	なぜアクティブ・ラーニングか、アクティブ・ラーニングを 通して何をを目指すか？	金沢大学教育再生加速プログラム検討委員会	教職支援センター

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	東洋大学
企画名称・テーマ	カリキュラムデザインを考える ～カリキュラム・マップによる体系化の試み
開催日<会場>	平成 26 年 4 月 26 日(土)<東洋大学>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

大学教育にかかわる 3 つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の検証方法をはじめ、カリキュラム・マップ等のカリキュラム設計に係る手法やその意義など理解する。

2. 研修会の概要

(1) 3 つのポリシーの策定と一貫性構築の意義

→学生が何を学ぶのか？また、どのように評価するのか？学生中心の全学的なカリキュラム改革は、学問の改革でもある。3 つのポリシーの策定の取り組みは FD であり、組織学習の場である。

(2) 目指すべき人材像の作成(第 1 ステップ)

→時代を超えて普遍的に妥当する理性判断に基づくもの。建学の精神に示されている人材像。

(3) DP の策定(第 2 ステップ)

→教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を箇条書きで記述したもの。学生の将来像にも意識する。

(4) AP の策定(第 3 ステップ)

大学学生候補者に要求した各学科の入学基準を箇条書きで記述したもの。

→チェックポイント: 口意欲・関心に偏っていないか？ 口知識・理解が欠けていないか？ 口試験制度と対応しているか？(試験要項との関迎づけ) 口高校生(受験生)が持つ能力レベルとして適切か？ 口高校生(受験生)ならびに保護者が理解できる表現になっているか？

(5) CP の策定(第 4 ステップ)

AP で要求した能力を備えた学生に貯で示された能力を身につけるために、両者と整合性のある教育カリキュラムが構築されているもの。

→チェックポイント: 口 DP と対応しているか？ 口 DP との対応関係が効果的に表現されているか？ 口カリキュラムの構成原理が表現されているか？ 体系性: 順序(垂直的接続、sequence)、内容(水平的接続、scope) 口カリキュラムの特徴が効果的に表現されているか？(キーワードで表現 例「○○型」・「○○メソッド」・「○○システム」) 口大学生が理解できる表現になっているか？(メタ認知のツールとして) 口高校生(受験生)ならびに保護者が理解できる表現になっているか？(選択・判断資料として)

(6) カリキュラム評価手法の策定(第 5 ステップ)

→分かりやすさ 例:カリキュラムマップ AP→CP→DP の可視化したマップを保護者高校生にみせることで、彼らの反応が良くなった。

(7) 取組みの効果検証

口個別学問体系を再認識しているか 口カリキュラムの基本を認識しているか

3. 本学の FD 活動における検討課題

本学の印活動における検討課題 ディプロマポリシーを実現していくため①認知的領域(知識・理解 思考・判断) ②情意的領域(関心・意欲 態度) ③精神運動的領域(技能・表現)の観点で検討することは必要である。また、最終ゴールであるディプロマポリシー(DP)(総括的評価)を実現するために、出発点のアドミッションポリシー(AP)(事前評価)、中間地点のカリキュラムポリシー(形成的評価)がある。DP・AP・CPをぶつ切りで捉えるのではない。カリキュラムマップを可視化することで、DP・AP・CPがつながっていく。そして、保護者や高校生に可視化したAP・CP・DPのマップを見せながら大学案内をすると、保護者や高校生からの反応が良いという点にも着目したい。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	障害学生支援推進団体あすか
企画名称・テーマ	第2回全学FD/SD研修会 ユニバーサルデザインの講義とは
開催日<会場>	平成26年5月29日(水) <京都産業大学>
参加者所属	社会福祉学部 社会福祉学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

研修会は、京都産業大学の障がい学生と支援者が中心となり企画され、他大学の障がい学生に関わる教職員と共に、その取組を講師に示してもらい、その講義の特徴を(どういった点で配慮があるといえるのかなどについて)を講師が解説するという実践的なスタイルです。後半はグループワークを経て報告をおこなった。私たちのグループは発達障がい学生への支援を中心に話し合い、発表した。

2. 研修会の概要

およそ60~70名の参加者で、20名を超える現地スタッフを交えて約3時間半の取り組みがなされた。

3. 本学のFD活動における検討課題

- (1) こうした学習会に参加した経験を全学的に反映していこうという姿勢をまず持たなければと思う。
- (2) PCT(パソコンテーカー)を導入する。そのためには学生が所属する障がい学生支援サークルとも連携して、より積極的に育てていくことが必要である。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	京都大学/河合塾
企画名称・テーマ	学校と社会をつなぐ調査第1回調査分析結果報告とシンポジウム 社会につながる学びとは一今なぜトランジションなのか
開催日<会場>	平成26年8月28日(木) <大阪府庁 新庁舎>
参加者所属	保健医療技術学部 看護学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

京都大学と河合塾は、昨年度から高校2年生の成長を約10年間追跡し、結果を報告し、新しい時代における学校教育の社会的役割を教育現場の教員と共有し、教育実践を変えていくための示唆を提示する。

2. 本学のFD活動における検討課題

高校2年生から約10年間の追跡調査を行い、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討した。【高校からも堀川高校など4校が参加し、いずれも多くの検討を実施している高校であった。】

高校生（4万人以上の高校生を対象）は大きく分けて7つのタイプがあった。危機感を持たなければいけない学生は、主に読書傾向タイプ（1人でいることが多く、社会性が低い。）ゲームなどを中心に、友人関係を作る傾向タイプ。行事不参加タイプなどは、将来にたいしての見通しが立たない学生が多い。

このまま大学に入学すると、主に対人関係・自尊心感情・キャリア意識がきわめて薄いことがわかった。大学内で友達とはよくしゃべるが、公共的には例えば文章がまとまらない学生の中には、この3つのタイプに当てはまる学生が多い傾向であった。【高校時代の過ごし方・教育】

看護学科でも私個人が危惧する学生の中に、何となくそつなくいろいろの授業はこなしているが、1つ1つに深みがなく将来に対してもさほど真剣みがない学生がいる。本来どのように理解させて実施すべきか？考えることがある。高校時代は、何事も適当にそつなくこなし、読書傾向やゲームを中心に友人関係を作る傾向、行事にも不参加であった傾向もうかがえる。（もちろんこれだけではないとは思いますが・・・）

大学は、学生を受け入れた以上責任を課せられる。授業もできるだけ課題発見・解決能力・論理的思考力など育成し、教科書の枠を超えた横断的・総合的・探究的な学習など創意工夫をし、教育活動を行う必要性があると感じた。

高校生の現状をデータで示していただき、よく理解をすることができた。それらを踏まえ、今後は学習指導要領の「習得」「活用」「探究」の関係を相互に関連し合い、より探究的な学習を実施していくことが重要であると考えます。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	東北大学大学教育支援センター
企画名称・テーマ	アカデミック・ライティングを指導する
開催日<会場>	平成 26 年 9 月 1 日(月) <東北大学>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

大学生の「書く力」アカデミック・ライティングスキル育成への関心が高まりつつある。しかし、いざ文章指導をするとすると細かな文章表現から思考力につながる問題まで、扱うものは広範囲である。では、その中でも学生はどんなところでつまずきやすいのか？「アカデミック・ライティング」の指導として大事な点は何なのか？これらの問いを学生の実際の姿を踏まえながら考えていきたい。本セミナーでは、論文に触れる前段階である 1・2 回生へのレポート指導も視野に入れ、学生たちをアカデミック・ライティングの理論的見地と文系・理系両方のレポート指導の実践的見地から検討していく。

講演 1：アカデミック・ライティングとは？（井上千以子：桜美林大学）

講演 2：自然科学総合実験（授業）におけるレポート指導の取組み（関根勉：東北大学）

講演 3：龍谷大学ライティングセンターにおけるレポート論文指導の取組み（島村健司：龍谷大学）

質疑応答&パネルディスカッション

2. 本学の FD 活動における検討課題

井上氏（桜美林大学）は、ライティング指導について「知識の質」の観点から「発展的」と「基礎的」に分け、前者を「知識叙述型ライティング方略 (knowledge-telling strategy)」、後者を「知識変換型ライティング方略 (knowledge-transforming strategy)」に分類している。さらに、「知識の広がり」の観点から「一般性」と「専門性」に分類し、前者を「専門教養型」「学習技術型」に、後者を「専門基礎型」「研究論文型」に分類している。

アカデミック・ライティングの視点から本学の課題を考えると、まず卒業論文を課している学部・学科とそうでない学部・学科とでは事情が異なるものと考えられる。教育学部・教育学科は前者に該当し、そのライティング方略としての重点は「専門基礎型」及び「研究論文型」の獲得になってくると考えられる。しかしながら、教育学部・教育学科の学生のライティングスキルの現状、すなわち文章表現技法が十分身につけていないまま上回生になっている学生が増えてきていることを踏まえると「学習技術型」及び「専門教養型」方略の展開も大切になってくると考える。故に、初年次教育を中心に 2 回生頃にかけては「学習技術型」及び「専門教養型」の方略を展開し、学生のライティングスキルの基礎的能力をしっかりと高めることが求められるであろう。その上で 3 回生から始まるゼミ活動を通して「専門基礎型」から「研究論文型」へ、ライティングスキルを高めつつ移行していくことが望ましいと考える。

また、学習支援室長の立場からその現状をみると、現在定期的に行っている「自由学習ルーム」の取り組みに参加してくる学生のニーズは「レポートの書き方を教えてほしい」とするものが大部分を占めることから、「専門教養型」や「学習技術型」のライティング方略を中心に展開し、学生のライティングスキルを高めることが重要であると考え。そのためには、実際に指導を担当する教員（職員）の確保といった点が課題になってくる。今回、事例発表をされた東北大学や龍谷大学ではこうした人材が確保されており、今後本学においても検討すべき事案になってくると考える。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	大学教職員研修センター(NPO 法人 NEWVERY)
企画名称・テーマ	低学力支援・メンタルケアと学習センター運営
開催日<会場>	平成 26 年 9 月 8 日(月) <日本財団ビル>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

- 学習面・メンタル面に課題を抱える学生の支援の概要を知る
- 相談支援ができるようになる
- 学習センター運営に必要な知識を身につける
- 他校の運営事例からノウハウを学ぶ

2. 研修会の概要

9:35-12:00 低学力の学生への個別対応とは (NPO 法人キズキ 仁枝 幹大)

- 低学力の学生の支援には福祉的な視点が必要
- 支援は論理で考える。思い込みによる押し付けは絶対 NG
- 相談支援には「傾聴」と「共感」の姿勢が大切
- 希望をみせること・成功体験を積み重ねることで学生は変わる
- 勉強のやり方の指導や学習習慣が大切
- 学生のタイプに合せた支援が必要

13:30-17:00 学習支援センターの効果的な運営とは (NPO 法人キズキ 仁枝 幹大)

- 低学力支援は中退予防につながる
- 運営はビジネス的な視点をもって考える
- 学習支援センターでは「発見」・「誘導」が必要
- 定義のために居場所をつくる
- 知識よりも「やり方」を教える

3. 本学の FD 活動における検討課題

グループワークを通して、参加者間の共通問題として挙げられたのが、低学力の学生に対する支援を行ううえでの教職員個々の認識の温度差である。低学力の学生に対する支援だけではなく、どの課題であっても解決していくため、チームとしての協働が必要とされる。縦割りで仕事を進めるのではなく、ワンストップで教職員間ともに、所属している部署からどのようなことができるかをざっくばらんに話し合える環境づくりも必要であろう。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	九州工業大学
企画名称・テーマ	平成 26 年度九州工業大学 FD フォーラム 21 世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち
開催日<会場>	平成 26 年 12 月 13 日 (土) <九州工業大学>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

今日の知識社会においては、これまでにない生涯学習やイノベーションへのニーズが増加している。新しい知識やアイデアを創造する能力があるかどうかが生産性と成長に大きく関与することになる。このフォーラムでは、21 世紀型スキルとその評価について最新の事情を紹介された。そして具体的にどのように自分達の場面に活かすのか、理解を深めるためのグループワークを行った。

2. 研修会の概要

「21 世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち」(専修大学 望月俊男)

21 世紀型スキル (10 スキル) は、従来あったものを教育の中で、肯定的に体験させ将来有効に活用されることを狙いとしている。また、知識構築としてアクティブラーニングを行い、多様な考えの生成や考えの統合を目指す。自分たちの考えやその違いがどのように生まれたのか追求していき最終的には、そこから新しい考え方を自分たちで生み出していくことである。

「ICT 活用指導力の取り組み」(東京学芸大学 北澤武)

教職系の学部生に ICT 教材を提示し検討させ事例をグループワークで討議した。具体的には、太陽と月、地球の動きの ICT 活用指導力の取り組みの紹介があった。

3. 本学の FD 活動における検討課題

21 世紀型スキルには、「創造性とイノベーション、批判的思考問題解決意志決定、学ぶ方の学習とメタ認知、コミュニケーション、コラボレーション、情報リテラシー、ICT リテラシー、シチズンシップ、人生とキャリア教育、個人の責任と社会的責任」があげられる。これらを学校教育で肯定的に実践することで、学習者が社会に出ても活用することがねらいである。したがって、一人ひとりを理解し丁寧に支援し学習集団としてのまとまりを持たせることが重要であると思われる。現在、本学では 180 人の講義を行なっている。毎回、導入質問をし、グループワークと発表、授業の振り返りを提出させ、フィードバックを行っている。多様な意見を聞いて、仮説をたて自分の理論をまとめるというグループワークの意義を理解していない学生もいるが、丁寧に人間関係を作っていくことで意義を理解する。

したがって、21 世紀スキルをねらいとする授業をするためには、丁寧な実践やフィードバック、場合によっては人間関係も必要であると思われる。来年度は 100 人程度の授業時間になると思われるが、講義の中で適切な教材を検討しながら、批判的思考問題解決意志決定等の学習が進むよう検討していきたい。

ICT とは情報 (Information) 通信 (Communication) に関する技術 (Technology) ことである。リテラシーとは適切に理解・解釈し、分析し、また記述・表現する能力をさす。膨大な情報の中から、自ら情報を取捨選択し、本当に必要なデータを選別する能力を養うことが、情報教育の中でも大切な事なのではないかと思う。情報の教材開発は難しいが、「生徒指導」に関する文部科学省のデータ等、公のデータの紹介やその分析だけでも意義があると思われる。理解解釈分析表現は、アナログのデータでもできるので今後検討したい。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	帝京大学
企画名称・テーマ	アクティブで協力的な学習のための教室の改革
開催日<会場>	平成 26 年 12 月 12 日 (金) <帝京大学>
参加者所属	教育学部 教育学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

クィーンズ大学は、1841 年に創設されたオンタリオ州キングストンにあるカナダで最も歴史のある名門大学の一つであり、Sue Fostaty Young 博士・Andy Leger 博士が所属する教授・学習センターは、教育改善のための充実した各種 FD プログラムの紹介をおし、アクティブラーニングについて考察する。

2. 研修会の概要

Andy Leger 博士「アクティブで協力的な学習のための教室の改革」

従来の講義形式と比べ、アクティブラーニングが学生の学習成果、例えば知識習得量、批判的思考力、問題解決力、コミュニケーション力を伸ばすこと、さらに教員の教授戦略に変化を促すことが研究で明らかになってきている。そうしたアクティブラーニングの効果を高めるには教室空間の設計にも配慮することが必要である。従来の教室と 50 人規模・70 人規模・136 人規模の 3 つの教室を比較した。先生方の使用頻度も増え、学生より「学び方が変化した」「グループの中で助け合うことができた」「議論が進んだ」という意見が多数でたと報告された。

Sue Fostatyj 博士「ICE モデル～アクティブラーニングの教授法に役に立つ枠組み」

アクティブラーニングの定義についての説明の後、ICE モデルについて説明がなされた。

ICE とは、Ideas (考え)、Connections (つながり)、Extensions (応用) の 3 つを意味し、学習の基本はこの 3 つに集約される。まず事実、スキル、プロセスなどの基礎知識を学び考える。企業ではここから生まれたアイデアをつなげることで、新事業や新しい開発などのイノベーションへ応用させる。これまで、企業が求めるこうしたイノベーションを持つ人材養成方法について確立したものはなく、創造性のある新事業を創出する方法を教えることができなかったが、「ICE モデル」が普及することでこれらの問題が解決することが期待されると報告があった。

3. 本学の FD 活動における検討課題

溝上 (2007) は、学生の学習プロセスが教員の知識や考えの範囲を越える状況が大いに存在し、教員が学生に知識や解をはっきり示せない、あるいは学生からそれらを教えられることさえある、そうしたポストモダン教育を前提とした学習方法の一つにアクティブラーニングがあると述べている。筆者は、新任大学教員として 5 月にアクティブラーニングの動向を学び、本学においても、また京都教育大学大学院の講義においても実践した。本学においては、毎回導入質問を行い、学生に考えさせて行き、最後は同様にまとめの質問を行い、話し合わせ個々の理論の統合を行わせる。本学においては、1 クラス 180 人のクラスである。また、教職科目であるためシラバスの縛りもある。本学で実施する場合は、シラバスの遅れや個々の学生のフィードバックに膨大な時間がかかる等課題があげられる。一方京都教育大学大学院の授業では、1 クラス 30 人以下である。同様にフィードバックをしている。理論の検討および模擬授業等比較的アクティブラーニングが無理なく効果的に行われている。従って、全ての授業においてアクティブラーニングをすることは困難だと思われる。現在の状況を改善するには、アクティブラーニングのために教室の設計を変えなくても、クリッカー (選択ボタン) を取り入れるなどで前進すると思われる。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	中部大学全学共通教育部初年次教育科
企画名称・テーマ	初年次教育大学教員のための協同学習ワークショップ
開催日<会場>	平成 27 年 2 月 19 日 (木) <中部大学>
参加者所属	教育学部

参加報告

1. 研修会の趣旨

大学教育において主体的な学びを支える大きな要因として学習意欲が重視される傾向がある。特に学習意欲を高める場としての授業について、重視されつつある。具体的には協同の価値を意識化し、その効用を体験的に学ぶことが、学習意欲にどのような影響を与えるかワークショップを通して検討していく。

2. 研修会の概要

関田一彦氏（創価大学教育学部教授・教育学習支援センター長、日本協同教育学会会長）

学ぶということは、授業の中で得た知識や経験を、自分がすでに持っている知識と関連付けて、そのつど自分自身が新しい全体像を作りあげることである。そうやって得られた知識は、テストが終われば忘れてしまうような知識とは異なり、一生忘れず活用できる知識となる。そのことを、丸暗記と区別して「能動的学習 (Active Learning)」と言う。

Active Learning の中にはグループ学習や協同学習が含まれる。協同学習一般に言えることは、グループを使った協同作業を取り入れた学習活動を柱としていることである。その場合、グループのメンバーの間に、きちんとした相互交流が保障されねばならない。

次の条件を満たすクラスやグループによる学習は協同学習に該当する。①互惠的目標の設定、②個人責任の明確化、③促進的相互交流の活性化、④「協同」の体験的理解の促進、の4つの条件を満たしていれば、グループ内協同とグループ間競争を組み合わせた学習活動も広い意味で協同学習に含めることができる。また、教育理念を具現化した教授法(すなわち協同共育)としての協同学習を定義すれば、「協力して学び合うことで、学ぶ内容の理解と習得を目指すとともに、協同の意義に気づき、協同の技能を磨き、協同の価値を学び、内化することを促す共育活動」となる。

技法としては、ジグソー学習法、反転学習、ワールドカフェ等を学習した。いずれもグループ学習協同学習を行うにあたってのグループのリスクを少なくする方法である。共通することは、学習者の能力や実態にあわせ事前学習や負荷を考慮して、各人に責任を持たせ学習を行うようにすることである。

3. 本学の FD 活動における検討課題

重要なことは、平成 26 年 12 月 22 日付の中央教育審議会の高大接続を踏まえた大学教育の改革である。「主体性・協働性・多様性」の育成を目指した学習を行うためには、大学カリキュラム全体を検討しその中で、Active Learning を位置づけることである。さらに、評価の検討の必要だと考える。

グループ学習協同学習を行うにあたってのグループのリスクを少なくする方法を学び、少人数でなくても Active Learning を行なう手法を学んだ。まずは、私の派遣先である京都教育大学大学院の 60 名の院生で協同学習等 Active Learning を取り入れ試行錯誤し、佛教大学での多人数の授業で実践してみたい。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	関西大学教育開発支援センター
企画名称・テーマ	反転授業はディープアクティブラーニングを促すか？
開催日<会場>	平成 27 年 2 月 24 日(火) <関西大学>
参加者所属	教職支援センター

参加報告

1. 研修会の趣旨

学生の学びが二極化する中で、反転授業の方法と効果の検討とその普及や研究の推進をすすめるために研修を行う。

2. 研修会の概要

※事前・・・会場前にてポスターセッション開催・・・2 ブース見学

「反転学習を前提した対面授業デザインへ向けての授業観察からの示唆」

「スピーキングアウトプット活動に重視した反転授業研究」

(1) 講演Ⅰ：山内祐平「反転授業による高次能力の育成」

- 反転学習の出発は困難校クリントンデール高校での個別学習から生まれた。完全修得学習を目指し、10分程度のビデオ学習
- 反転学習+アクティブラーニングは大変困難である。

(2) 講演Ⅱ：溝上慎一「アクティブラーニングとしての反転授業」

①アクティブラーニングとしての反転授業

一斉講義からの脱却の発想からはじまるアクティブラーニング

②ディープ・アクティブラーニング

コンセプトマップの実践例

③トランディション課題として検証すべきアクティブラーナーとしての視点

学習を社会的なつながりの中で行う意味でのアクティブラーニング

※基本的に「おもしろい・成績につながる」でないと学生はやらない

(3) 基調講演：吉見俊哉「Attac Me!から Visualizing Postwar Tokyo まで」

- 反転授業の一例としての実践紹介
- 先行研究を批判する力をつける「Attac Me!」
- 教科書としてのMOOCの活用「Visualizing Postwar Tokyo」

(4) パネルディスカッション（吉見・山内・溝上・青田）「テーマに迫る」

- やってこなかった学生の取り扱い
- 予習だけではなく、復習的なこと（制作やフィールドワーク）も必要
- ディープラーニングとは、既習知識をできるだけ繋いで視覚化・言語化すること。「反転学習は大学教育を変えるか」

- 反転学習は MUST ではないが、今後も予習は必要であり、その効果・効率を考えたときに、このプロジェクトは必要である。
- 21 世紀は 16 世紀以来の変化の時代
- 東大・京大の学生だからできるのではない。能力の個人差はあるが、少しでも上を目指すために行うことが大切。
※反転授業が、ディープアクティブラーニングを促すという結論である。

3. 本学の FD 活動における検討課題

- 本学においても継続して進めるとともに、実践の集約も必要である。

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	金沢大学大学教育再生加速プログラム検討委員会
企画名称・テーマ	なぜアクティブラーニングか アクティブラーニングを通して何をを目指すのか？
開催日＜会場＞	平成 27 年 3 月 4 日(水) <金沢大学>
参加者所属	教職支援センター

参加報告

1. 研修会の趣旨

教育再生加速プログラムの採択を受け、今回の研修により、事業の意味やその進行に関わる検討を行うものである。

2. 研修会の概要

(1) 講演：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科）

「なぜアクティブラーニングか、アクティブラーニングを通して何をを目指すのか？」

- 寝ている学生を起こすような発想で、アクティブラーニングを考えると話しがややこしくなる。
- 社会に力強く送り出す意味での、大学教育としての役割（トラジッション）としてのアクティブラーニングを考えていく必要がある。
- 京大生と言うだけでは、就職できない。企業の面接で落ちる・・・ここにトラジッションの課題があり、アクティブ・ラーニングの意味がある。
- 知識の習得と活用をセットにして講義をしている欧米型の授業から、社会に出て人と繋がりながら仕事をする能力が育成される。これを積極的に進められるのが、アクティブ・ラーニングの意味である。
- 今改訂をされようとしている学習指導要領にもアクティブ・ラーニングの導入が盛り込まれているが、以前あった「言語活動の充実」の視点と何ら変わらない。
[つまり、知識の活用の視点と同じではないか]
- FD 授業のすぐれた例として、盛岡三校の歴史科の授業実践を紹介・・・知識を言葉にして、PairWork で説明するという実践例 [授業としての楽しさ・活気・学びの深さへの導き方等、参考になるところが多い。

(2) パネルディスカッション

①金沢大学 AP 事業概要・進行説明

②第 1～3 ワーキング進捗状況報告

a) アクティブ・ラーニング (AL) の深化・充実の現状

・授業カタログの構築 ・FD リーダーの育成 ・AL の全学的普及

b) 学修環境の設計整備

- ・ LA の設置と活用
- ・ AL 学修に適した学習空間の確保

C) 学修評価の定量的評価 (1R)

- ・ ポートフォリオの作成
- ・ アンケート調査の実施

③ 溝上慎一先生よりコメント

- ・ 3つのワーキングが整えば、日本の最先端の大学となり、期待する。

3. 本学の FD 活動における検討課題

- 本学の取組概要は不理解のままではあるが、金沢大学の 3つのワーキングの取組の設計は、大変網羅的であり参考になるところが多かった。特に、本学では、a) の部分が特に参考になるのではないかと思われた。

2013 年度・2014 年度「FD 研究会」

「FD 関連研修会 参加支援」報告書

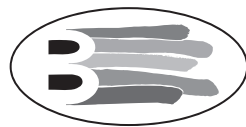
発行 日：平成 27 年 3 月 31 日

発行 者：佛教大学教育推進部教育推進課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96

T E L (075) 491-2141 (代)

U R L <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>



BUKKYO UNIVERSITY